公益社団法人 日本青年会議所
2022年度 事業報告書

Junior Chamber International Japan
Annual Report 2022

愛が、希望に変えていく。

公益社団法人日本青年会議所 2022年度スローガン

JCI Japan 公益社団法人 日本青年会議所

公益社団法人 日本青年会議所

2022年度 事業報告書

Junior Chamber International Japan
Annual Report 2022

JCI Japan 公益社団法人 日本青年会議所

公益社団法人 日本青年会議所 2022年度 組織図

- 会員会議所
  - 総会
    - 理事会
      - 会頭：中島士（大分）
        - 直前会頭：野並晃（横浜）
        - 顧問：青木孝太（半田）、佐藤友哉（新発田）、阿登靖紀（芦屋）
      - 監事：岡部栄一（立川OB）、竹田哲之助（大阪OB）、高橋良輔（原町）、長岡憲弘（八千代）、藤本俊（福山）
      - 内部会計監査人グループ：鈴木哲也（豊田）
      - 副会頭：麻生将豊（飯塚）
        - 常任理事会務担当
          - 共創グループ：酒井光博（七尾）
            - 理念共感拡大会議：柳田啓（京丹後）
            - 会員発掘会議：鈴木一成（浪江）
            - 組織改革委員会：高橋隆太（湯沢）
            - LOM支援委員会：佐藤邑紀（札幌）
            - アワード委員会：小林秀気（小諸）
            - 運動プラットフォーム構築委員会：小川貴広（府中）
            - JC教育委員会：淺田規文（三国・芦原・金津）
        - 常任理事地区担当
          - 東北地区協議会：阿部徹（一関）
            - 青森ブロック協議会：大山慎司（八戸）
            - 秋田ブロック協議会：貝森大樹（大館）
            - 岩手ブロック協議会：及川貴也（遠野）
            - 宮城ブロック協議会：尾形長治（気仙沼）
            - 山形ブロック協議会：岩田雄治（山形）
            - 福島ブロック協議会：斉藤和治（いわき）
          - 近畿地区協議会：中山吉典（東大阪）
            - 滋賀ブロック協議会：河村浩史（大津）
            - 京都ブロック協議会：中山良（京丹後）
            - 奈良ブロック協議会：亀井郷伸（法隆寺）
            - 大阪ブロック協議会：大西将人（茨木）
            - 兵庫ブロック協議会：野々村充教（神戸）
            - 和歌山ブロック協議会：坂本耕作（白浜・田辺）
          - 四国地区協議会：谷口雄紀（高松）
            - 香川ブロック協議会：中津亮太（坂出）
            - 愛媛ブロック協議会：飛鷹惣太郎（法皇）
            - 高知ブロック協議会：立田昌敬（宿毛）
            - 徳島ブロック協議会：音瀬直輝（徳島）
      - 副会頭：光田侑司（名古屋）
        - 常任理事会務担当
          - 経済グループ：三宅貴之（小田原）
            - 新たな資本主義創造会議：大石宗弘（豊川）
            - サマーコンファレンス特別委員会：山岸将幸（大阪）
            - グリーンエコノミー委員会：清水孝章（甲府）
            - 質的価値社会委員会：西村佳哲（三木）
            - ウェルビーイング経営委員会：小杉龍平（金沢）
            - ユニコーンビジネス委員会：原翼（福岡）
            - スポーツの力委員会：諏訪秀一（流山）
        - 常任理事地区担当
          - 北海道地区協議会：三澤計史（千歳）
            - 北海道ブロック協議会：玉田尚久（岩見沢）
          - 九州地区協議会：川越英和（宮崎）
            - 福岡ブロック協議会：眞弓祐太（大牟田）
            - 大分ブロック協議会：仲浩太郎（中津）
            - 佐賀ブロック協議会：馬渡洋平（武雄）
            - 長崎ブロック協議会：吉川航平（島原）
            - 熊本ブロック協議会：都登祐樹（ひとよし球磨）
            - 宮崎ブロック協議会：関谷祐作（宮崎）
            - 鹿児島ブロック協議会：和田真明（川内）
      - 副会頭：峰野雄生（明石）
        - 常任理事会務担当
          - 社会グループ：柴崎政俊（八代）
            - ビジョナリーシティ会議：花田将司（高岡）
            - 全国大会運営会議：小林有紀（宇都宮）
            - ベビーファースト委員会：新田洋太朗（富山）
            - インクルージョン推進委員会：竹腰正見（名古屋）
            - 国民の幸せを守る委員会：杉川綾（広島）
            - まちのレジリエンス確立委員会：三岡祥之（奈良）
            - TOYP委員会：吉井大樹（唐津）
        - 常任理事地区担当
          - 関東地区協議会：坂倉賢（横浜）
            - 栃木ブロック協議会：石倉大（佐野）
            - 茨城ブロック協議会：唐鎌正光（茨城南）
            - 群馬ブロック協議会：小林久峻（前橋）
            - 埼玉ブロック協議会：四ツ井裕明（深谷）
            - 千葉ブロック協議会：大川浩嗣（松戸）
            - 東京ブロック協議会：小美野義一（東久留米）
            - 山梨ブロック協議会：天野さやか（都留）
            - 神奈川ブロック協議会：常盤健嗣（平塚）
          - 中国地区協議会：澤田健吾（鳥取）
            - 岡山ブロック協議会：山本竜義（津山）
            - 広島ブロック協議会：山田章夫（東広島）
            - 山口ブロック協議会：松田年通（山口）
            - 島根ブロック協議会：山本学（益田）
            - 鳥取ブロック協議会：万木良平（米子）
          - 沖縄地区協議会：山内さとみ（宜野湾）
            - 沖縄ブロック協議会：平良寿成（島尻）
      - 副会頭：菅野譲（だて）
        - 常任理事会務担当
          - 国際グループ：星野健太（埼玉中央）
            - グローバルネットワーク創造会議：渡守紘宣（京都）
            - アジアアライアンス構築委員会：納谷政仁（堺高石）
            - コンベンション支援委員会：髙木隆太（東京）
            - 日ロパートナーシップ委員会：瀧雄一（千歳）
            - 持続可能な国際協力委員会：大久保惣太（水戸）
            - JCI関係委員会：林和哉（福井）
            - 国際アカデミー委員会：鍋田昌吾（静岡）
        - 常任理事地区担当
          - 東海地区協議会：新谷剛士（名張）
            - 静岡ブロック協議会：永田裕史（磐田）
            - 愛知ブロック協議会：野々山寿人（刈谷）
            - 岐阜ブロック協議会：金津誉（瑞浪）
            - 三重ブロック協議会：森田和樹（志摩）
          - 北陸信越地区協議会：渡部雄一郎（新潟）
            - 福井ブロック協議会：新谷大輔（若狭）
            - 石川ブロック協議会：稲垣健（輪島）
            - 富山ブロック協議会：松浦憲秀（富山）
            - 新潟ブロック協議会：椎谷亮（新発田）
            - 長野ブロック協議会：山下浩史（須坂）
      - 専務理事：村尾尚太郎（大阪）
        - 常任理事会務担当
          - 総務グループ：加藤大将（半田）
            - JCブランドマネジメント会議：松原直章（新潟）
            - 財務運営会議：内山瑛（浜松）
            - 財政審査会議：鈴木清実賢（川崎）
            - 規則審査会議：向井大輔（明石）
            - 組織愛向上委員会：山口大希（下田）
            - 渉外委員会：秦裕太郎（大分）
            - 総務委員会：菅原啓太（仙台）
        - 事務局

公益社団法人 日本青年会議所 2022年度年間公式スケジュール

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
正副会頭 ミーティング （月初）	6日　（木） （JC会館）	3日　（木） （JC会館） 24日　（木） （JC会館）	30日　（水） （大阪）		6日　（金） （明石）	2日　（木） （七尾） 30日　（木） （JC会館）			1日　（木） （福島） 22日　（木） （箱根）	27日　（木） （飯塚）		8日　（木） （JC会館）
ライン ミーティング （月中）	13日　（木） （JC会館）	10日　（木） （JC会館）	4日　（金） （JC会館）	8日　（金） （JC会館）	12日　（木） （JC会館）	9日　（木） （JC会館）	7日　（木） （JC会館）		8日　（木） （JC会館） 28日　（水） （JC会館）		9日　（水） （JC会館）	15日　（木） （JC会館）
常任理事会	14日　（金） （JC会館）	18日　（金） （JC会館）	10日　（木） （JC会館）	15日　（金） （JC会館）	20日　（金） （JC会館）	24日　（金） （JC会館）	14日　（木） （JC会館）		16日　（金） （JC会館）	5日　（水） （大分）	18日　（金） （JC会館）	16日　（金） （JC会館）
理事会	21日　（金） （京都）	19日　（土） （JC会館）	11日　（金） （JC会館）	16日　（土） （JC会館）	21日　（土） （JC会館）	25日　（土） （JC会館）	15日　（金） （横浜）		17日　（土） （JC会館）	7日　（金） （大分）	19日　（土） （JC会館）	17日　（土） （東京）
総会	22日　（土） （京都）		26日　（土） （横浜）							7日　（金） （大分）		
JC諸会議	JCI常任理事会/理事会 （JCI JEM/JBM） 13日　（木）				アメリカ地域会議 18日　（水） ～21日　（土） アジア・太平洋地域会議 26日　（木） ～29日　（日）	ヨーロッパ地域会議 8日　（水） ～11日　（土） アフリカ・中東地域会議 15日　（水） ～18日　（土）	JCI中間常任理事会 （JCI MYE） 21日　（木） 22日　（金）			JCI世界会議 （香港） 31日　（月）	JCI世界会議 （香港） ～4日　（金）	
NOM主要事業	京都会議 （京都） 20日　（木） ～23日　（日）						サマーコンファレンス （横浜） 16日　（土） ～17日　（日）		国際アカデミー （小田原） 19日　（月） ～23日　（金）	全国大会 （大分） 6日　（木） ～9日　（日）		
財政審査会議	18日　（火）	16日　（水）	8日　（火）	13日　（水）	18日　（水）	18日　（土）	12日　（火）		14日　（水）	4日　（火）	13日　（日）	13日　（火）
公益審査会議	18日　（火）	16日　（水）	8日　（火）	13日　（水）	18日　（水）	18日　（土）	12日　（火）		14日　（水）	4日　（火）	13日　（日）	13日　（火）
コンプライアンス 審査会議	18日　（火）	16日　（水）	8日　（火）	13日　（水）	18日　（水）	18日　（土）	12日　（火）		12日　（月）	4日　（火）	13日　（日）	13日　（火）
広報審査会議	18日　（火）	16日　（水）	8日　（火）	13日　（水）	18日　（水）	18日　（土）	12日　（火）		14日　（水）	4日　（火）	13日　（日）	13日　（火）
その他	JCI諸会議・大会　開催地 【JCI常任理事会/理事会】WEB【中間常任理事会】アメリカ（セントルイス） 【アフリカ・中東地域会議】チュニジア（ハンマメット）【アメリカ地域会議】キュラソー（ウィレムスタッド）【アジア・太平洋地域会議】日本（堺高石） 【ヨーロッパ地域会議】ベルギー（ブルージュ）【世界会議】香港											

目次

■基本計画・事業計画 …… 3

■役員報告 …… 7
会頭 中島 土 …… 8
副会頭 﨑野 雄生・副会頭 光田 侑司 …… 9
副会頭 菅野 譲・副会頭 麻生 将豊 …… 10
専務理事 村尾 尚太郎 …… 11
顧問 青木 孝太・顧問 佐藤 友哉・顧問 阿登 靖紀 …… 12

■内部評価 …… 13
監事 岡部 栄一・監事 竹田 哲之助・監事 高橋 良輔 …… 14
監事 長岡 憲弘・監事 藤本 俊 …… 15

■グループ・会議・委員会 …… 16
共創グループ …… 17
経済グループ …… 25
社会グループ …… 33
国際グループ …… 41
総務グループ …… 49

■地区協議会・ブロック協議会 …… 58
北海道地区協議会 …… 59
東北地区協議会 …… 60
関東地区協議会 …… 61
東海地区協議会 …… 62
北陸信越地区協議会 …… 63
近畿地区協議会 …… 64
中国地区協議会 …… 65
四国地区協議会 …… 66
九州地区協議会 …… 67
沖縄地区協議会 …… 68
北海道ブロック協議会 …… 69
青森ブロック協議会 …… 70
秋田ブロック協議会 …… 71
岩手ブロック協議会 …… 72
宮城ブロック協議会 …… 73
山形ブロック協議会 …… 74
福島ブロック協議会 …… 75
栃木ブロック協議会 …… 76
茨城ブロック協議会 …… 77
群馬ブロック協議会 …… 78

埼玉ブロック協議会 …… 79
千葉ブロック協議会 …… 80
東京ブロック協議会 …… 81
山梨ブロック協議会 …… 82
神奈川ブロック協議会 …… 83
静岡ブロック協議会 …… 84
愛知ブロック協議会 …… 85
岐阜ブロック協議会 …… 86
三重ブロック協議会 …… 87
福井ブロック協議会 …… 88
石川ブロック協議会 …… 89
富山ブロック協議会 …… 90
新潟ブロック協議会 …… 91
長野ブロック協議会 …… 92
滋賀ブロック協議会 …… 93
京都ブロック協議会 …… 94
奈良ブロック協議会 …… 95
大阪ブロック協議会 …… 96
兵庫ブロック協議会 …… 97
和歌山ブロック協議会 …… 98
岡山ブロック協議会 …… 99
広島ブロック協議会 …… 100
山口ブロック協議会 …… 101
島根ブロック協議会 …… 102
鳥取ブロック協議会 …… 103
香川ブロック協議会 …… 104
愛媛ブロック協議会 …… 105
高知ブロック協議会 …… 106
徳島ブロック協議会 …… 107
福岡ブロック協議会 …… 108
大分ブロック協議会 …… 109
佐賀ブロック協議会 …… 110
長崎ブロック協議会 …… 111
熊本ブロック協議会 …… 112
宮崎ブロック協議会 …… 113
鹿児島ブロック協議会 …… 114
沖縄ブロック協議会 …… 115

■付録 …… 117

■ 2022 年度諸会議報告 …… 124

基本計画・事業計画

基本理念

まちにより良い変化をもたらし
愛が溢れる国をつくる

基本方針

1. 世の中に最も必要とされる組織への進化
2. 青年経済人が主役となり経済をアップデートする
3. 多様性を取り入れたビジョナリーシティの実現
4. アフターコロナをリードする新たな国際ネットワークの構築
5. ブランド管理と盤石な組織運営によるJC運動の最大化

あなたとだから、できる。

日本青年会議所が実施するすべての事業は、
この国を良くするために存在します。
国とはまちの集合体、
つまり各地会員会議所との連携が欠かせません。
みなさんの力を結集して、
愛が溢れる国をともにつくりましょう。

公益社団法人日本青年会議所
2022年度 事業計画

JCI Japan

公益社団法人日本青年会議所 2022年度事業計画

1 日本青年会議所が主催し、各地会員会議所またはJCIと共に連携して行う運動・事業

1. 持続可能な地域への変革（SDGsの推進）

課題が山積する地域にひとつでも多くの持続可能な仕組みをつくることで、地域の未来が拓けます。
また、地域が持続可能になることは、国が、ひいては世界が持続可能になることでもあります。

2. 青年の視点を生かしたまちの中期ビジョン策定

私たちJAYCEEには、世界組織ならではの広い視野と、深い洞察力があります。その視点を生かし、多くの人が共感でき、参加したくなるビジョンを策定し、住んでいる人が幸せになるまちへと歩みを進めます。

１.まちの中期ビジョン策定の支援

3. 子育て世代が政治に参画する社会をつくる

次代の国を担う子供たちの親の意見や感覚は、未来につながっています。彼らの小さな声が政治に届くようにする新しい仕組みをつくり出します。

１.公開討論会に代わる若者の政治参画意識向上に関する事業の実施
２.子育て世代の投票率があがる選挙制度の調査・研究・提言

2 日本青年会議所が地区協議会と連携して行う事業

1. 共通プラットフォームを活用した役員向け地区アカデミーの実施
2. JCカップU-11少年少女サッカー全国大会予選大会の実施
3. 災害が起きた場合の迅速な支援の展開
4. JCI ASPAC堺高石大会への協力・参加推進・開催地支援

3 日本青年会議所がブロック協議会と連携して行う事業

1. 理念の共感拡大を行いグランドデザインを推進する
2. 共通プラットフォームを活用したブロックアカデミーの実施
3. LOMがつくるまちの中期ビジョン策定の支援

4 日本青年会議所が主催し、各地会員会議所またはJCIや各国青年会議所に対して、参加や参画など協力を依頼して行う事業

1. 京都会議【1月】
2. サマーコンファレンス【7月】
3. 全国大会おおいた大会【10月】
4. 国際アカデミー
5. TOYP大賞
6. 褒賞
7. 各種視察団・使節団の派遣
8. 国際協力

5 JCIが主催し、日本青年会議所が連携して行う運動・事業

1. JCI ASPAC（日本／堺高石）【5月】
2. JCI 世界会議（未定／未定）【11月】
3. JCI AWARDSへの申請【5月・10月】
4. JCI TOYPへの申請【5月】

役員報告

会頭
中島 土（大分）

私は、JCと、所属するメンバーの力を信じています。なぜなら、JCは、まちをつくる「運動」を、メンバー自身が起こせるようにすることを使命としているからです。また、JCは、まちや社会全体を青年の目線から幅広く捉え、問題のある仕組みを自ら見つけ、より良く変えていくことができます。ターゲットを絞った社会貢献活動ももちろん素晴らしいのですが、持続可能な地域をつくるために、多種多様な、幅広い社会課題解決へ果敢に挑戦することがJCの特筆すべき強みです。さらに、商売でつながり自社の利益を上げることを本質的な目的とするのではなく、メンバー一人ひとりが、できる範囲の中で社会へ無条件で奉仕をしようとする純粋な動機をもっていることも大きな特徴と言えるでしょう。

このような「無償の愛」が前提になっているからこそ、JCに所属する私たちは、まちや社会を具体的により良くし、幸せを生み出し続ける運動をつくることができるのです。その運動を起こすには、まちを形づくっている「仕組み」を変えていかなければなりません。JCは単年度制です。だからこそ、年度を超えた仕組みそのものに作用することで、地域は良くなり続け、社会は変わり続けることができます。

私は、そのような社会を変え続ける仕組みのことを「幸せを生み出し続ける装置」と呼んでいます。そのような、メンバーの手を離れても、駆動し続ける装置をJC運動によって生み出すことができれば、間違いなく、まちは、そしてまちの集合体である国はより良くなるでしょう。そこで、本年は、多くのメンバーと共に、年度を超え作用し続ける運動づくりにより重点を置いてきました。

その一方、2月24日、ロシアによるウクライナ侵攻によって世界は大きく変わりました。国連憲章を順守する大きな責任をもつロシアが力による現状変更に踏み切ったのです。この日から、今まで空気の様に、当たり前にそこにあると感じていた「自由」や「民主主義」という価値観が崩れてしまいました。

戦後ではない、戦時中を生きることになった私達JCメンバーにとって、成すべきことは何か。私自身迷いましたが、その答えは、私たちの価値観を示す「JCIクリード」に既に刻まれていたのです。それは「人類の同胞愛は国家による統治を超越する」、そして「人類への奉仕が人生最大の使命である」という言葉です。

国際組織であるJCに所属するメンバーは、自ら機会を掴もうと行動を起こせば、いつでも国際的ネットワークの中に身を置くことができます。国家や民族、性別といった自分ではコントロールできないものを超え、友情を育むことができます。そしてそれは、世界平和を築く人類の同胞愛の種となります。このような実感は、多くのメンバーが持つところでしょう。

しかし、「人類への奉仕」はどうでしょうか。言葉のスケール感があまりにも大きく、一人ひとりのメンバーが実感を得にくいのではないでしょうか。かくいう私も、意味は理解していましたが、JCがどのように人類へ奉仕すべきなのか、腹の底から理解することはできていませんでした。

しかし、コロナ禍も終息を迎え、世界各国を訪問させて頂くたびに「人類への奉仕」とは何か、少しずつわかるようになってきたのです。それは「自由な社会を守ること」です。今、失われつつある自由な社会を、そして人々の幸せを守る事こそが、JCがなすべきことだとようやく理解することができました。

思えば、JCIも第一次世界大戦の後に世界の平和へ貢献するためにその規模を拡大してきましたし、日本青年会議所も戦後復興を加速させ新しい日本をつくるために、青年が立ち上がりました。JCの原点、そして成すべきことは「自由な社会を守ること」なのです。

その様な尊い運動を起こすことができるのは、間違いなくローカルに根を張るLOMです。LOMのメンバーお一人おひとりが、自らのまちをより良くするために、無償の愛をもって運動を起こすことは、人々の幸せを守り、自由な社会をつくることに確実につながっています。

本年も、LOMが更に力をもつことができる様に、多くのメンバーと力を尽くしてきました。これからも、まちがLOMを起点としより良くなっていくことを願います。

JCなら、そしてJCメンバーなら必ずできます。

一年間、本当にありがとうございました。

副会頭
﨑野 雄生（明石）

まずは、本年度は副会頭として関東地区、中国地区、沖縄地区、社会グループを担当させていただきました。そこで、全国各地でメンバーの皆様と事業や会議などを通じて地域がより良くなるビジョンや運動の構築について多く語り合いました。そこで出会ったのは、青年会議所だからこそできる運動は何なのかを常日頃から全力で考えるメンバーの素晴らしい姿でした。しかし、たった一年で求める結果を残すことは本当に難しいと感じました。そこで、本年度は「まちのビジョン」を創る活動により単年度制のデメリットもある継続的な運動が青年会議所にも十分にできることを全国各地のメンバーにお伝えすることができました。そして「まちのビジョン」を創るに当たり重要なのは地域の声、現場の声を聞き地域にとって本当の社会問題は何なのかを知ることでした。青年会議所の価値は常に地域にあり、地域や現場の声を聞き地域独自の社会問題を我々の目線で探し出し青年会議所だからこそできる活動を広げ社会をより良く変えていってほしいと思います。

一年間本当にありがとうございました。

副会頭
光田 侑司（名古屋）

経済グループ、北海道地区、九州地区を担当させていただきました。

経済グループでは、「青年経済人が主役となり経済をアップデートする」を基本方針に掲げ、資本主義の負の側面である格差の拡大やあらゆるものの過度な一極集中を是正すべく活動いたしました。具体的には、政府の掲げる新しい資本主義を中小企業から実現すべく、ステークホルダー資本主義を中心に据え、あらゆるステークホルダーを大切にする社会を目指す事業を各会議委員会において開催いたしました。

また、北海道地区、九州地区では、会員との交流を通じ、ウィズコロナ時代であっても、我がまちをより良くしたい、またみんなの笑顔を取り戻したいという会員一人ひとりの想いと、「とにかく一歩を踏み出さなければならない」というJCの底力を感じることができました。

特筆すべきこととして、多くの皆様のご協力のおかげで、本年度は過去最大の登録率のサマーコンファレンスを開催することができました。

皆様の多大なるご協力に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

副会頭
菅野 譲（だて）

本年は、「アフターコロナをリードする新たな国際ネットワークの構築」をグループの基本方針としスタートしました。前半戦は、新型コロナウイルスの蔓延により、海外渡航が出来ませんでしたが、5月には、約2年以上ぶりとなる海外ミッションの渡航から始まり、ASPAC堺高石大会が国内開催され、国内外から9,500名を超える登録者のほか、現地にも複数の国から海外メンバーが来日をされ、ジャパンナイトでは盛大な盛り上がりを見せました。その後も、9月に国際アカデミーが開催され、約70ケ国から海外デリゲイツが来日され、3年ぶりとなる現地のみの国際アカデミーが開催されました。その他にも、ウクライナ支援事業の実施やアメリカ、台湾、タイ、モンゴルの他、様々な国に国際グループが渡航しミッションを行い、まさに「アフターコロナをリードする新たな国際ネットワークの構築」を果たすべく運動を展開しました。

副会頭
麻生 将豊（飯塚）

本年度は、東北地区、近畿地区、四国地区、共創グループを担当させていただきました。各地区におきましてはブロック訪問をさせていただき、各地会員会議所の皆様と本会の運動の方向性や、理事長の皆様からのご提案を含め、様々な議論をし、交流をさせていただきました。全国の会員数の減少は入会数の減少であるという間違った認識を解消し、退会者数の増加が問題の根本であり、理念共感拡大をしていただく事をお願いするなど本当に有意義な時間を過ごさせていただきました。

共創グループにおきましては、理念共感拡大をはじめ、DXなど例年にない新しい挑戦をさせていただきました。理念共感拡大プロモーターの育成や、委員会の承認システム導入を通じて事務局に新システムの導入を提案するなど、これからの青年会議所にとって意義のある提案ができたと確信しています。また、世界会議にて新たに採択された2023-2027 JCI Strategic Planの中にある、新しいJCI Mission及びJCI Visionに対しての意訳を作ることで、2023年から始まる新しいJAYCEEとしての心構えをお伝えすることが出来たと考えます。

2022年に関わっていただいた全ての皆様に感謝申し上げるとともに、今後も青年会議所を一緒に盛り立てていただけますことを心よりお願い申し上げます。

専務理事
村尾 尚太郎（大阪）

全国各地青年会議所の意見を総合調整し、還元することを通じて、約3万人の正会員の皆様に寄与するために、本年度は、新型コロナ感染症対策を徹底しながらも、地域と寄り添い、諸会議及び三大大会の3年ぶりの現地開催を実現し、日本国内でのASPACの開催他、WEBの活用をはじめ、様々な立場にある全国の正会員の皆様へ機会を拡げるための運営に妥協なく取り組んで参りました。また、すべての運動、すべての外部団体との連携において、公正な財政と、徹底したリスク管理を行い、盤石な運動とブランディングを図って参りました。

次年度におきましても、前例に囚われることなく、常に最良の運営を模索し続けていただき、全国各地の青年会議所運動がさらに飛躍されることを祈念しています。

顧　問
青木 孝太 (半田)

2022年度は、それぞれの役員の役割と責任をより明確にし、組織運営や会議の開催方法なども見直し、多くのことにチャレンジした1年であったと感じます。その中で、これまでの経験を活かし、顧問としての職責を全うすることができたと考えます。顧問として、意思決定を早める中での弊害を見逃さず、客観的に1つ1つの事象に対峙し、より良くなるためにはどのようなアドバイスをどのタイミングで行うべきなのか、相手と正対しながら徹底的に追求しました。

また、JCI中長期戦略委員会にも出向させていただき、変化が早く、世界中の国々が一丸となって解決すべき多くの課題が山積する中、JCIには何ができるのか。JCIメンバーはどうあるべきなのかを世界中のメンバーと考える機会となりました。

顧　問
佐藤 友哉 (新発田)

本年度は、会頭所信の実現のために生み出される様々な事業に対し、俯瞰的視点からアドバイス、意見等をさせていただきました。特に私が重要視してきたのは、以下の3つの視点です。

①その運動が「幸せを生み出し続ける装置」たるものかという視点
②対象とするものにとってどのように見えるのかという視点
③事業終了後に具体的にどのような効果を社会に与えたのかという視点

であります。私がこれらの視点を持ったことで目指していたのは、「JCごっこ」を徹底した排除です。全国のLOMの総合調整機関として、日本青年会議所が作り出すあらゆる運動はお手本とならなければならないと考えます。微力であったかもしれませんが、私のJC内外の経験すべてをもって「幸せを生み出し続ける装置」づくりに向き合わせていただきました。今年生まれた装置が来年以降も生き生きと稼働しつづけるとともに、これからも多くの装置が生まれ続けることを心から期待しています。

顧　問
阿登 靖紀 (芦屋)

日本青年会議所としては組織の在り方や会議の意思決定の方法の変更等、慣例にとらわれず非常に多くのことに対して変革を起こし、そして挑戦した一年となりました。その結果、議長委員長は当然のこととして副議長、副委員長も主体的に会議に参加することができより多くの機会を提供できたと感じています。また、個別の運動に関しては、顧問という立場として、心の底から議長委員長がやりたいことなのか、そしてそれは共感を得て広がっていく運動となっているのかという点において、客観的で広い視野を持ってアドバイスすることを心がけました。この一年を通じた大きなチャレンジが次の世代へと引き継がれ、より良い日本青年会議所、より良い社会を作っていくことを期待しています。

内部評価

監　事
岡部 栄一 (立川OB)

新型コロナウイルス蔓延が繰り返される中、JC運動にひたむきに向き合いながら社会情勢を鑑み、何ができるのかを考え行動している現役の皆さんにまずは敬意を表したい。加速度的に非常識が常識に変わっていく中で、JCI日本もスピーディに組織に変化をもたらさなければならない。何が必要で何が不必要なのかを、歴史を紐解きながら精査し実行していく決断力と実行力が必要である。

ESGの概念にもあるように、組織ガバナンスの重要性は社会的にも非常に重要なファクターとなっている。組織運営が、今までのやり方で本当にこれからの時代に合っているのか、今まで以上に外部の視点を取り入れなくていいのかなど、時代に即した組織ガバナンスの仕組みを引き続き考えていく必要がある。

自らが変わり続ける中で創始の精神はしっかりと受け継ぎ、先駆けて社会課題解決に取り組む魅力ある青年会議所であり続けなければならない。

監　事
竹田 哲之助 (大阪OB)

新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、ロシアによるウクライナ侵攻、それに伴う物価高騰や30年ぶりの円安水準など、平和や経済だけでなく事業活動や生活においても、2022年は歴史の分岐点となる年となりました。そんな中、まちにより良い変化をもたらすため、「ビジョン」と「装置」の必要性を追求し続けた本年の運動は、自由と愛が溢れる国をめざして戦後復興を成し遂げた先輩諸兄姉の志を体現されたと確信しております。

1951年に民間団体として先駆けて国際社会への復帰を果たした日本青年会議所。名もなき青年たちの一つの「夢」が実現した瞬間だったのではないだろうか。めざすべき平和とは豊かさとは何なのかを、改めて問われている現在だからこそ、未完成な青年らしく突き抜けた夢を描き、日本の底力で世界を席巻し、愛が溢れる国日本から、世界に冠たる日本へ。

たった一人の熱狂からすべてがはじまる 日本の青年会議所を次のステージへ

監　事
高橋 良輔 (原町)

今までの当り前が、当たり前ではなくなる。明日にでも状況が一変してしまう可能性がある時代。ここ数年でも新型コロナウイルス蔓延の影響、またウクライナ情勢など、我々が生きる現代は、まさに「激変」の時代であると言えるのではないでしょうか。このような状況だからこそ、青年会議所は幸せを生み出し続ける装置を構築し、変化に対応してアップデートを重ねていかなくてはなりません。JCIの使命とは、「青年が社会により良い変化をもたらすための発展と成長の機会を提供する」ことです。貪欲に機会を手にし、多くの人々の考えや行動が変わる仕掛け、どのような逆境にも負けない強くしなやかな軸で構築された仕組みを全国で機能させることができれば、やがて世界は希望に満ちるのです。本年、そのような運動を展開してきたJAYCEEの皆様に敬意を払うとともに、次年度以降の未来を背負う若者たちが日本、そして地域を変える運動を起こしていくことをご祈念申し上げます。

監　事
長岡 憲弘（八千代）

本年、日本青年会議所は「まちにより良い変化をもたらし愛が溢れる国をつくる」を基本理念とし活動をしてまいりました。新型コロナウィルス感染拡大の波は依然ありましたが、今までの経験を活かし、確りとした行動指針を立て多くの事業を実地開催された努力と決断に敬意を表します。

世の中に閉塞感が漂う時こそ青年会議所の真価が問われます。先駆者たる我々は決して諦めることなく英知と勇気と情熱をもって常に前に進んでいく使命があり、そのためには様々な経験に基づいたリーダシップが必要です。中島会頭は「幸せを生み出し続ける装置を作る」とお話しされていました。幸せを生み出し続ける装置とは、まさに夢を描き困難に立ち向うJAYCEEであると私は確信しております。本年もそんな素晴らしいJAYCEEが誕生しました。今後も青年会議所が明るく豊かな社会をつくるための愛ある活動に全身全霊をもって取り組んでいただけることをご祈念申し上げ、総括といたします。

監　事
藤本 俊（福山）

戦後初の総理経験者の暗殺、終息と再拡大を繰り返す新型コロナウイルス、そしてロシアのウクライナ侵攻と国内、世界中が多くの困難に見舞われる中、「まちにより良い変化をもたらし 愛が溢れる国をつくる」を基本理念に掲げ、伝統と歴史を重んじながら、組織として困難に対応し、新たな挑戦も実施できた一年になりました。

また、本会として多くのLOMやメンバーにビジョンの重要性、有用性を伝え、共感を生み出せたことは、LOM、協議会、本会で個々の運動が、自走していく仕組み作りに大きな役割を果たしたと考えております。

本年、組織の監視役である監事という役職をお預かりし、この青年会議所という組織が、まちに、国に、そして世界中に幸せを生み出し続ける装置であるということを実感することが出来ました。

今後も本会の生み出す運動が、社会を愛で包み、幸せを生み出し続ける装置となりますことをお祈り申し上げ、総括とさせていただきます。

グループ・会議・委員会

共創グループ

共創グループ総括

共創グループ担当常任理事 **酒井 光博**（七尾）

2022年度共創グループでは「世の中に最も必要とされる組織への進化」を基本方針に運動を展開して参りました。理念共感拡大グランドデザイン5か年計画において2年目となる本年度は、理念共感拡大の取り組みを進める「理念共感プロモーター（第1期生）」が誕生しました。理念共感の先導者として理念教育のためのセミナー実施やJCプログラムの企画・コーディネート、小規模LOMへの支援を通して、各地域において理念が波及しJCという組織に自然に共感と信頼が集まる組織へと進化していきます。また、運動を生み出す新たな内部装置としてグループ内にて承認フローのDX化の検証をし、さらに情報共有装置であるGianPocketを進化させ、均質化された運動プラットフォームを構築し、JCメンバーが成長できる仕組みづくりを実施しました。2023年度はこれらがしっかりと装置として自走し、幸せを生み出し続け社会を変え続ける仕組みとすることでJC運動の最大化が期待されます。

会議・委員会名	役職名	担当者名
理念共感拡大会議	議長	櫛田 啓（京丹後）

基本方針

理念共感拡大とは、「あなたと一緒に活動したい」という仲間を増やすこと。

総括

理念共感拡大会議の運動の根底となっている「理念共感拡大グランドデザイン」は、これまでの量的な拡大ではなく、理念共感による質的拡大を目指した5か年の計画です。2年目である2022年度は「理念浸透」をテーマに、JCの理念を理解し、共感したメンバーがJCとは何かを他者へ説明できるようになる状態を目指して運動を展開してきました。理念への共感を拡大するためには、自分自身が「なぜ、何のために、誰のためにJC活動を行うのか」ということを明確にし、個々の目的達成に向け邁進することが大切です。そして、そのストーリーに人々の共感が集まり、共に活動する仲間が増えていきます。2023年度は、理念に忠実な運動を展開することで更なる理念共感拡大に繋がるものと確信しております。

事業区分	事業名	事業内容
	理念共感拡大推進事業	「理念浸透」をテーマに理念の認知・理解、そして理念に共感したメンバーがJCとは何かを他者へ説明できる人財の育成を目指し運動を展開しました。また、全てのメンバーの個性が発揮できる多様性のある組織づくりについてセミナーやフォーラムを実施しました。
公2	京都会議フォーラム「JCってなんだ! 今こそ理念共感拡大の時」	理念浸透を一気に加速させる狙いのもと、工藤勇一氏を講師に招き、最上位目標をみんなが合意して設定することの重要性を講演いただきました。また、常に最上位の目的に立ち返って考えるべきことや理念浸透の具体的手法をテーマに対談を行いました。
他	第1期　理念共感プロモーター育成プログラム	理念浸透のスキルとノウハウを身に付けた人材を育成するために、各ブロックより拡大担当者をはじめとした参加希望者を募り、2泊3日の合宿研修を実施しました。また、理念共感プロモーターは各地で理念共感セミナーを実施して、理念共感拡大に貢献しました。
他	総会フォーラムI 「Leader's Actionフォーラム」	組織への理念浸透の重要性とそのノウハウを学び、各ブロック並びに各LOMにおいて理念共感拡大の具体的なアクションを強化するべく、アチーブメント株式会社の青木代表による講演、そして、青木代表と中島会頭による対談を行いました。
他	サマーコンファレンス2022 フォーラム「100人100通りの個性輝くJC～あなたはカオスを愛せますか?～」	各ブロック、各LOMにおいて多様性を認め合い理念共感の連鎖を生み出すために、青野慶久氏を講師に招き、多様性を認め合う文化の重要性を講演いただき、その後、JC活動にも関連付けながら各LOMがスモールステップを実践していくための対談を行いました。
他	サマコンウィーク2022「理念共感プロモーター育成セミナー」	理念共感プロモーターが全国各地にて行った理念共感セミナーや理念共感に基づく活動の中でも、特に目覚ましい成果を出された3名の理念共感プロモーターに活動内容及び成果について発表していただき、今後の理念共感についてトークセッションを行いました。
公2	第71回全国大会おおいた大会 フォーラム「あなたならできる～自分を信じた先にあるもの～」	今中博之氏様を講師にお招きして、なぜ「弱い」チームがうまくいくのか？そして、今中博之氏の考える次代のリーダー論について、またダイバーシティーを享受するために必要な「共感と共苦」について、櫛田議長との対談を行いました。
他	第2期　理念共感プロモーター育成プログラム	2023年の理念共感拡大のテーマである「理念に忠実な運動への共感拡大」を牽引する人財を育成するために、各地の拡大担当者をはじめとしたメンバーを対象に、共感の集まる運動の創り方と共感を拡大させるスキルとノウハウを提供する2日間の研修を実施しました。
	JAYCEE育成カリキュラムガイドラインの策定	どこの青年会議所に入会しても均質な学びを提供するため、そして近年入会者に対して育成カリキュラムを定めていないLOMを支援するために、ブロック協議会にてJCの理念を学ぶことができる4つの必須科目を行う育成カリキュラムの策定支援を実施しました。
	JCI MISSION並びにJCI VISIONに関する意訳の改定	2022世界会議香港大会の総会にて、JCIの沿革を物語る最も重要な手段であるJCI MissionとJCI Visionが改定されました。それに伴い、新しいJCI MissionとJCI Visionに合わせた日本語意訳を策定しました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
会員発掘会議	議長	鈴木 一成（浪江）

基本方針

理念共感を基軸とした拡大手法の提供・支援を通して、LOM規模や地域特性を踏まえた理念共感型拡大を持続的に行える、LOMや人財をより多く創出することを目的とします。

総括

「人を集める組織から人が集まる組織へ」を合言葉に、毎年の入会者数は卒業生より多いのにも関わらず、多くの退会者が出てしまうが故に純減し続けているという現実に対して、会員拡大は入会に導くことあるいは会員を増やすことが目的ではなく、組織を持続的に繁栄させていくための共感者を増やすことを最上位目的として、会員一人ひとりが組織に対して存在意義とやりがいを感じる組織であり続けることが最も重要であり、会員拡大の本来あるべき姿を見直す機会を創出しました。引き続き組織内の理念浸透を高めることによって、組織に対しての共感者を増やし、自然と人が集うLOMが全国各地に増えることを期待いたします。

事業区分	事業名	事業内容
他	2022年度会員数純増計画	94推薦LOMをはじめ、地区・ブロック協議会、各LOM において支援依頼があった地域に訪問し、組織環境に適した拡大手法や支援策を立案し、セミナーや相談会を通して持続的且つ効率的な会員拡大の在り方や考え方を全国に推進しました。
他	2022年度京都会議「拡大塾～拡大は驚くほど変わっている～」	第一部は、これまでの会員拡大の失敗事例から会員拡大を成功させるためには、新たな取り組みが必要であるという危機感を提示し、第二部では学習塾から学ぶ新たな会員拡大のあり方について提示し、第三部では会員発掘会議として全国のLOMに寄り添い会員拡大を成功へと導くことをお約束すると共に、明日から実践していただきたい三つのことを提示しました。
他	2022年度京都会議 「会員発掘公開アカデミー」	理念共感型の会員拡大の重要性と必要性をお伝えすると共に、全国各地の拡大運動を推進する人財育成として、公開アカデミーを開催しました。年当初に理念共型拡大の手法を習得していただいたうえで、地域特性に応じたより効率的かつ効果的な拡大論を発信しました。
他	サマーコンファレンス2022 「変革を恐れるな!」 ～集める組織から集まる組織へ～	全国のLOMに理念共感型拡大を推進するめに、サマーコンファレンスにおいて、JCI遠野の河野理事長とJCIとなみの杉木理事長を交え、LOMにおける理念共感による成功事例を踏まえたディスカッションを通して、理念共感による会員拡大の成果を発信しました。
他	第71回全国大会おおいた大会拡大セミナー「自然と人が集まる組織へ」	第69代石田歴代会頭と中島会頭、麻生次年度会頭予定者のトップ対談を通して、次年度の運動基盤ができるタイミングで「自然と人が集まる組織」の本質に触れ、次年度に向けた組織変革への足掛かりとしていただく機会としました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
組織改革委員会	委員長	高橋 隆太（湯沢）

基本方針

一人ひとりが時間の大切さを意識して家庭も仕事もJCも共に取り組める組織を目指し、時代に即した環境整備の推進。

総括

全国のキーLOMを通じLOMに寄り添った組織改革のサポートを実施いたしました。また、迅速な意思決定のために必要な申請、承認フローのDXを実現すべく、グループ内にて検証し、本会に提案いたしました。これにより今後さらなる作業の効率化が進むことが期待され、運動の最大化に向けた一助になることを期待しています。さらに、全国へ育LOMの推進、ランチミーティングの活用により、メンバー誰もが参加しやすい環境づくりを考えることを通じ、多様性を理解し、受け入れ、活用することの重要性を再認識してもらう機会となりました。そして、様々な個性を持つ人々との関わりを受入れ、社会との関わりを持っていくことの重要性を、広めることができました。

事業区分	事業名	事業内容
他	JC運動を最大化するための組織改革の推進	全国のキーLOMと共に、組織の抱える課題について考えショーケースの提案を行い、LOMに寄り添った支援を行いました。課題を掘り下げていくと意識低下が悩みのLOMが目立ち1on1ミーティングを通じた理念共感のコミュニケーション手法の提案が有効でした。
他	多様な人財が活躍できる環境整備の推進	出産や子育てなど、多様なライフステージにあるメンバー誰もが、家庭と仕事とJCのバランスを取り、人々が自然と集い誰もが活躍できる組織へと進化させました。さらに、育LOMで可視化することにより全メンバーの意識変革を起こしました。
他	2022年度京都会議 「多様な個性を理解しよう～多様性がイノベーションを生み出す～」	多様なライフステージにあるメンバー誰もが自身の能力を発揮できる環境が必要です。JC活動における多様性について3名の実例から意見交換を行い、誰もが活躍し、やりがいを感じる組織へ進化する場としました。
他	サマコンウィーク2022 「組織改革のすすめ～異彩が輝く社会、常識の先に待つもの～」	ヘラルボニー松田氏をお招きし多様な考え方や、常識を覆した組織運営への共感の広め方を学び、多様性の意識を醸成するセミナーを事前に配信し、サマーコンファレンス当日は、ブースにて組織改革の相談窓口を設置し、組織改革の取り組み事例を紹介しました。
他	JCI日本におけるグループウェアシステム導入	各種承認フローを一元管理し、高速PDCAサイクルを回しJC運動を最大化につなげるためJCI日本にグループウェアの導入を提案いたしました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
LOM支援委員会	委員長	佐藤 昂紀（札幌）

基本方針

LOMに寄り添った支援体制の確立。

総括

LOM支援委員会では、会員数20名以下のLOMの支援、LOM新設支援、リモートメンバー制度の推進、そして、持続可能なLOM支援体制の確立を目指して、ブロック協議会において各LOMの状況の把握とLOM支援体制の構築を行い、ブロックだからこそできるリアルな継続的支援と本会からのリモートによる継続的支援によってLOMの運動の最大化に向けて支援を行ってまいりました。また、支援LOMには心理的安全性の高い組織を共に創り、より良いJC運動を生み出す組織体制を整えてまいりました。今後は各ブロック協議会に少人数LOMがより良いJC運動を展開できるための支援体制が確立され、全てのLOMが持続可能に発展できる組織になることを期待しています。

事業区分	事業名	事業内容
他	LOMの発展のための情報収集・支援	会員数20名以下のLOMの調査を行い、各ブロックと情報共有し、発展の支援として組織改革、会員拡大、運動構築を行いました。また、持続可能なLOM支援体制の構築のため、ブロック協議会における少人数LOMの支援体制の構築を進めました。
他	LOMの新設のための情報収集・支援	47ブロックのLOM空白地とJC運動空白地を調査し、作成したマップを各ブロックと共有し、LOM新設における支援体制を構築してまいりました。また、新たに地域別委員会を推進し、JC運動が展開されていない地域に運動を生み出す新たな手法を展開してまいりました。
他	LOMに対するリモートメンバー制度の調査・分析・推進	少人数LOMの長期的支援として、リモートメンバー制度を支援LOMに導入していただき、少人数LOMの事業構築や組織改革をLOMの内側より支援し、JCI小松島では2年ぶりとなる大規模の対外事業を実施することができました。
他	2022年度京都会議「地域再興→LOM再興～何もないまちこそ　やんちゃしようぜ～」	何もないまちを個性と捉え、価値を生み出すことで、地方にも活性化のチャンスがあることを後藤健市先輩の経験よりお話いただき、何もないまちこそJCが必要であり、理念共感から地域を想う人財が集まり、LOMと地域と共に発展していくことをお話いただきました。
他	サマコンウィーク2022「理念共感型の会員拡大って何なんだ？～持続可能な組織へのための先行投資～」	JCの理念を具現化したものがJC運動であり、対外事業に入会候補者を巻き込むことでJCの理念が体感でき、会員拡大における最大の武器となることであることを伝え、また、アクティブな組織をつくるための心理的安全性についてセミナーを実施しました。
	サマーコンファレンス2022「JC運動を生みだせ！～持続可能に会員拡大ができる組織の在り方～」	新たなエリアから共感した若者を獲得する地域別委員会、JC運動を最大化させるリモートメンバー制度の導入事例を紹介し、運動を生みだし共感する若者を獲得できる持続可能なLOMの在り方を発信する場としてセミナーを実施しました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
アワード委員会	委員長	小林 秀気（小諸）

基本方針

各地で地域に素晴らしい運動を起こした青年会議所の事業を周知し、未来の運動につなげていきます。

総括

全国の LOM に対して良質な情報共有を推進する装置として GianPocket、AWARDS JAPAN、JCI AWARDS、外部アワード、ONE IMPACT SEMINARを展開して参りました。
アワードにエントリーしやすい環境を整え、自然と良い事業が集まるブランドを確立して、アワードの価値を全国のメンバーに浸透していくことができれば、JC が持つブランディングマネジメントが向上されます。
そして、地域社会と共につくりあげたロールモデルとなる装置は、一人ひとりがまちにより良い変化を与え、JC がより一層生産性を高めた運動を展開するために必要な装置と考えております。多くのメンバーが必要とする情報をスムーズに共有することは、メンバーの運動の向上にもつながると確信しています。

事業区分	事業名	事業内容
他	2022年度京都会議 AWARDS JAPAN2021セレモニー	京都会議「AWARDS JAPAN」を開催し、優れた事業やJC運動の功労者に全国各LOMの発展へつなげ、優れた政策立案を学ぶ契機から運動の発展へ導き、次代へ継承しました。またグランプリ、準グランプリLOMの事業を動画やGianPocketに議案を掲載するなど、広く発信しました。
他	2022年度京都会議 「ONE IMPACT SEMINAR」	動画配信にて、事業構築編、GianPocket編、AWARDS JAPAN編、JCI AWARDS編、外部アワード編、次年度準備編の6つの短編セミナーを行い、JCIの理念に基づいた事業構築の基礎を知ることや、昨年から生まれ変わったJAFを浸透させ、JC運動の最大化の一助となることを目指しました。
他	ONE IMPACT SEMINAR	JAF(JCIアクションフレームワーク)を基に、分析、展開、実行、検証を行い、ブロックアカデミーと並行してより地域ニーズに合った事業構築、運動展開ができるようにセミナーを開催して参りました。
他	GianPocketの推進	JC運動の共有推進のためGianPocketを全メンバーがいつでも、誰でも、どこでも、簡単に使いこなせるよう進化させました。ストーリー動画の作成をして認知の拡大とともに全メンバーがアクセスできるようになったことで、質の高い運動や事業を共有することができました。
他	外部アワードエントリー獲得の推進	JC運動の価値の向上として外部アワードにも積極的に参画し、3法人と14LOMの事業の応募をサポートし、日本DX大賞中小規模法人部門でJCI 佐久が第2位に入賞しました。
他	JCI 各種大会JCI AWARDSについて	JCI AWARDSへの事業エントリーを通じて、海外における事業構築の方法をエントリーLOMの皆様に伝えることができました。ジャッジの立場から、JCIにおける良い事業を考え、セミナーを通じてJCI AWARDSへエントリーするメリットも伝えることができました。
他	サマーコンファレンス2022 「GianPocketアワード」	アワード受賞事業の構築の仕方、事業後の反響や現状を知ることやGianPocketに登録されている、より良い事業構築の見本となる議案を全国LOMに展開し、本年度次年度へ向けて各地でより良い事業を展開していくための一助となりました。
	AWARDS JAPAN 2022 募集カテゴリー選定並びに募集方法	褒賞申請について全国各地のLOMに発信することで、多くの良い事業がエントリーされアワード委員会として全国のLOMに広く発信することで、地域社会にとってなくてはならない存在に各LOMがさらに発展することを目指しました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
運動プラットフォーム構築委員会	委員長	小川 貴広（府中）

基本方針

どこのLOMに所属をしていても、質の高い教育を受けることのできる環境を整え、各地域で人財教育プラットフォームを活用し教育体制を強化することを目指します。

総括

どこのLOMに所属していても、均質な教育を受けることができる環境を構築するため、当委員会において、協議会と連携し、全国においてアカデミー事業開催支援を行いました。また、理事長候補者を育成する日本アカデミーを主催いたしました。会員向けのサービスといたしまして、運動構築の情報共有や基礎教育動画などを視聴できるホームページを構築しました。在籍年数の短期化が進む中において、どこの地域の組織に入会しても均質な教育を受けることができる共通の教育土台を波及することができました。この内容は誰がいつでもどこでもHPで学ぶことができることから、これまで以上にJC活動・運動への理解が深まり、人財の発展と成長を図ることができることから日本全体により良いJC運動を展開していく幸せを生み出し続ける装置となったと考えます。

事業区分	事業名	事業内容
他	アカデミー開催支援	JC運動を学ぶプラットフォームを活用したアカデミーの支援を行うため、平均在籍年数が4年と短期化が進む中、目指す人財像を4年で縮図して、最低限の教育ラインを定めました。その指針に沿って、全国で行われるアカデミー事業の開催支援を行いました。
他	運動プラットフォーム構築事業	JC運動の土台となる運動プラットフォームを構築することで、所属するLOMや地域に関わらず均質に発展と成長の機会を得ることができ、更に運動を最大化する為に活用が当たり前になる運動プラットフォームを開設しました。
他	「第5回日本アカデミー」	次年度の本会と全国のLOMの連携を強化して、LOMの根幹をなすトップリーダーが持続的にJCの目的や理念を理解することや、各地域での運動の最大化を目的として6月～10月に事業を実施し理事長候補者として、必要な学びの機会を提供することができました。
他	2022年度京都会議 「運動プラットフォーム構築スタートアップセミナー」	年度のはじめとなる京都会議にて、当委員会がどのような活動・支援を行っていくのかを地区・ブロックアカデミー、日本アカデミー、運動プラットフォームとパートを分けて説明し、連携パートナーや全国のメンバーに知っていただくためのセミナーを実施いたしました。
他	「第5回日本アカデミー ～より良い未来に向かって～」	3名の講師のセミナー動画配信を行い、すべてのメンバーに幸せを生み出し続けられる装置を創ることができるリーダーに必要なJC運動理解力、社会地域課題解決力・ビジョン構築力を理解していただき、必要な考え方と知識を習得できる機会を提供いたしました。
他	「第5回日本アカデミー ～より良い未来に向かって～」	工藤勇一氏によるセミナーを行い、すべてのメンバーに幸せを生み出し続けられる装置を創ることができるリーダーとなるために必要な最上位目的達成力とは何かを理解していただくだけでなく必要な考え方と知識を習得できる機会を提供いたしました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
JC教育委員会	委員長	淺田 規文 (三国・芦原・金津)

基本方針

JC教育に特化した人財と連携し、会員の資質とLOMの組織力基盤を向上させ、JC運動の最大化につなげていく必要があります。

総括

JC教育委員会は、年間を通じて全国各地でJCプログラムを開催し、JCの根幹である理念や様々なスキルアップの学びを通して、リーダーシップトレーニングの機会を主に運動を推進して参りました。また、JCプログラムを担当するトレーナーを全国各地に輩出するため、WEB及び各地域でトレーナートレーニング(通称:トレトレ)を定期的に開催しました。さらに、京都会議やサマコンの諸大会において、JCI日本が推進する「理念共感」を軸に、JCに共感を抱くためのJC導入編となる新プログラム「Purpose」を新しく制作しました。JCプログラムは、地域をより良くする装置を生み出す上で、JC運動の本質について理解を深める最大の時間短縮ツールになると考えます。

事業区分	事業名	事業内容
他	JCIコース及びJCI日本公認プログラム導入推進計画	地域をよりよくする装置を生み出す上で、JC運動の本質について理解を深める理念共感に関連するプログラムを中心に推進を行いました。また、LOMが求める目的に合わせ、主催者に寄り添った形でプログラムを推進し会員の資質向上、組織力の基盤構築につなげました。
他	JCIコース及びJCI日本公認プログラムのトレーナー育成推進計画	全国各地、WEBにてトレトレを行い、多くのトレーナーを生み出す機会の提供を続けてきました。また、ATの伴走型支援を行うことにより、HTを目指すATが活動しやすい環境を作りました。各種大会ではトレーナーのPRブースを設け、情報提供を行いました。
他	2022年度京都会議「2022セミナーショーケース～君はヒーローになれる～」	JCプログラムに接したことがない方や、人財教育の新たな手法を探しているLOMに対してJCプログラム説明会、JCプログラムセミナーを開催し、京都会議以降の各LOMでの開催へつなげました。
他	「Purpose」JCI日本公認プログラム認定	理念共感プログラム「Purpose」を日本JC公認プログラムとして展開し、JCの本質について理解を深める理念共感を生み出すきっかけを作り、持続可能な地域を創る人財を生み出し続ける装置を生み出すことができました。
他	サマーコンファレンス2022「新プログラム公開セミナー」	京都会議でデモ公開した「Purpose」をJCI日本公認プログラムとして、全国的な展開のキックオフ事業としました。また、新設される「地域限定トレーナー(LT)」の説明会を開催し、地域で独自開催することでさらなるJCの理念の波及を行いました。
他	サマコンウィーク2022「JCI-Discover&Explore」～最新のJCI公式コースの学びをあなたに～	既存のJCプログラム(JCI-Discover、JCI-Explore)をZOOMにて実施することで、サマーコンファレンスに対する関心を惹き、公開するプログラムへの参加者を増やし、理念の波及を行いました。

経済グループ

経済グループ総括

経済グループ担当常任理事 **三宅 貴之**（小田原）

経済グループは、「青年経済人が主役となり経済をアップデートする」を基本方針とし、脱炭素社会に向けた中小企業のアクション、ウェルビーイングへの企業や行政の取組みやアニマルウェルフェアの認知度向上など企業を取り巻く環境へ配慮した行動を促してきました。成果として、中小企業が持続的に成長をしていくための行うべき分配案を政策提言にまとめ、サマーコンファレンスにおいて岸田総理大臣に提出しました。また、京丹後市がウェルビーイング宣言を行い、その他5つの市が宣言に向けて検討をしています。コロナ禍から始まった2022年度でしたが次第にコロナとの併存が社会的に容認され、サマーコンファレンスにおいては、約40%もの全国のメンバーから登録をいただき5,000名を超えるメンバーが開催地である横浜の地に集まりました。そしてJCカップにおいても3年ぶりに全国10地区で地区予選大会が開催され、12チームでの全国大会を福島にて実施いたしました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
新たな資本主義創造会議	議長	大石 宗弘（豊川）

基本方針

自社と社会の利益を両立し、企業が関わる全てのステークホルダーとの調和を図りながら成長と分配によって、経済が持続的に好循環する社会を目指します。

総括

「ステークホルダー資本主義」、そして岸田政権が掲げる「新しい資本主義」は、日本のみならず世界的な資本主義の大変革期の始まりを意味します。全企業の99.7%を占める中小企業がこの大きな波に乗らなければ、わが国に新しい資本主義は決して実現されません。新しい資本主義時代は、「自社の利益だけを考える時代」から「社会の利益も両立する時代」へとシフトし、関わる全てのステークホルダーを大切にする経営をしていくことが当たり前の時代になると確信しております。日本中の中小企業が変われば、日本の経済が変わる。そのためにも引き続き、新しい資本主義実現にむけてJCが先頭に立って旗を振り続けていくことを期待しています。

事業区分	事業名	事業内容
公2	2022年度京都会議「経済フォーラム」	JCメンバーに「ステークホルダー資本主義」への転換する必要性を認識し、自社の経営に取り入れてもらうために、助言者として株式会社eumo新井和宏氏からの講演、実践者である京都信用金庫 榊田隆之理事長をお招きし大石議長がファシリテーターとなり鼎談を行いました。
他	ステークホルダー資本主義に関する社会実験事業（八方よし経営塾）	「ステークホルダー資本主義」への関心と実践への意欲を高め、成長と分配によって生まれる好循環を中小企業へ実装させる方法を構築させる為、株式会社eumo新井和宏氏をトータルコーディネーターに迎え、全4回の「八方よし経営塾」を全国のJCメンバー塾生として募り開催いたしました。
他	ステークホルダー資本主義に関する社会実験事業（車座対話）	中小企業が事業の付加価値や新たなビジネスを生み出すことで成長と分配の好循環を実現するための課題抽出を行うべく、新しい資本主義に造詣が深い、岸田文雄内閣総理大臣（JCI広島OB）をはじめ5名の大臣や国会議員をお招きし、全5回に渡る車座対話を実施いたしました。
公5	サマーコンファレンス2022 フォーラム「新しい資本主義実現フォーラム～中小企業が変われば日本が変わる！～」	中小企業版の新しい資本主義実現に向けて作成した政策提言を中島土会頭から岸田文雄内閣総理大臣に手交し、それを元に対談を行いました。その中で政府が進める新しい資本主義の実現に向けた各種取り組みをご紹介いただきました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
サマーコンファレンス特別委員会	委員長	山岸 将幸（大阪）

基本方針

「しくみの数だけ幸せがある」をテーマとした、日本の地域を良くするプロジェクトの大見本市サマーコンファレンス2022。

総括

新型コロナウイルスの混乱から落ち着きを取り戻しつつある昨今、本年のサマーコンファレンス2022は、昨年同様ハイブリッド形式の開催となりました。事業日前に実施した連日のWebセミナー「サマコンウィーク」に始まり、事業日当日の「オープニング」から「クロージング」フォーラム、さらには年末までのアーカイブ配信に至るまで、計32のセミナー・フォーラムを実施し、様々な課題に対し、解決のしくみを共有する大見本市として開催しました。結果、現地参加・Web参加を含め延べ合計10,300名ほどの参加動員を達成し、参加者がそれぞれの実情に合った課題解決のしくみを持ち帰り実践するための場を提供できました。

事業区分	事 業 名	事 業 内 容
公5	サマーコンファレンス2022	「幸せを生み出し続ける装置の大見本市」として、HP開発による広報、登録システムによるメンバー登録に始まり、サマコンウィーク中のWebセミナー、事業日当日のファンクションなど、計32のセミナー・フォーラムをハイブリッド形式で実施しました。

「サマーコンファレンス2022」開催

公益社団法人日本青年会議所が毎年7月に開催している、地域を良くする学びの祭典「サマーコンファレンス」が今年も横浜で開催されます。今年は「地域を良くするプロジェクトの大見本市」をテーマに、全国68Aの地域にある青年会議所が実際に地域を活性化したプロジェクトを展示・紹介致します。実際に実施したプロジェクトに触れて頂くことで、リアリティーのある学びになります。その他にも様々な分野の専門家による講演やセミナーも多数用意しております。一人でも多くの方にこの機会に触れていただくために、バーチャル・オンライン環境もご用意しておりますので、ぜひこの機会をお見逃しなく。

サマーコンファレンス2022 / 7.16(土)・17(日)

お問い合わせ先
公益社団法人日本青年会議所
経済グループ サマーコンファレンス特別委員会
E-Mail:jcs.summerconference@gmail.com

サマーコンファレンス2022の参加申し込みはこちら

会議・委員会名	役職名	担当者名
グリーンエコノミー委員会	委員長	清水 孝章（甲府）

基本方針

脱炭素社会実現に向け、中小企業の温室効果ガス排出抑止及び食品ロス削減、健全な森林形成を促すために行動します。

総括

2050年の脱炭素社会実現に向けて、温室効果ガスの排出を抑止していくことと二酸化炭素の吸収を高めることの両輪で考えていかなければなりません。そのために行政や大企業だけでなく、中小企業や家庭による温室効果ガス排出削減における行動は必須となります。中小企業や個人にとって他人事に捉えられがちなことに対して取り組む必要性とどう行動すべきかを周知することができました。企業活動を行っていく上で、脱炭素経営はすぐにできることではなく、一歩一歩着実に実践していくことが大切です。今から始める一人ひとりの意識が変わり行動することが、大切な子ども達が住み続ける地球環境を守ることにつながります。

事業区分	事業名	事業内容
他	温室効果ガス排出削減推進	中小企業に脱炭素経営宣言していただき、自社の温室効果ガス排出量算定から削減するための取り組み計画を立てていただきました。また二酸化炭素の効率的な吸収ができる森林形成のために国産木材の活用を促しました。
他	食品ロス削減推進	飲食店や食品加工業者、農家、幼稚園と連携し、堆肥と野菜、食品が循環できる仕組みを構築したコンポストトレードを実施しました。また、各地の会員会議所でフードドライブの実施を依頼、実践していただきました。
公3	2022年度京都会議「森の循環から考える脱炭素と地域経済活性化セミナー」	林業における好循環を生み出すための経済システムを確立させ、地域環境の改善から温室効果ガス削減への取り組み、さらには地域の発展につなげた実例を学び、各地域に展開していくためのセミナーを行いました。
公3	サマーコンファレンス2022「ぼくらが導くカーボンニュートラル～2050年に向けてLet's Take Action!～」	脱炭素社会の展望と必要性を見据え、脱炭素経営に取り組む中小企業が増えていくうねりを創出するため、環境大臣山口壮氏による講演とパネルディスカッションを行いました。
他	カーボンニュ ートラルアドバイザー育成研修	中小企業で温室効果ガス排出量算定から削減するための取り組み計画を立て実施していく過程において、企業での実務担当者や支援者となる人材を育成するための研修を開催しました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
質的価値社会委員会	委員長	西村 佳哲（三木）

基本方針

全国各地の地域資源に焦点を当てると共に、地域の中小企業を発展させ、持続可能な地域の創造へと繋げます。

総括

持続可能な地域の創造に向け、 各地の地域資源や地域課題の解決に繋がるビジネスの支援を実施するため、 京都会議において「質的価値」という概念に興味関心のあるメンバー向けにグループディスカッションを中心としたワークショップを開催したのを皮切りに、様々なロールモデルを独自ホームページ「企業支援プラットフォーム」において発信しました。また並行して各地の課題解決に繋がり、ロールモデルとなるビジネスを発掘する第6回価値デザインコンテストを開催、 最終審査をサマーコンファレンスにおいて実施しました。新規事業やまちづくり事業等、地域の課題解決に繋がるビジネスや事業の自走化へと繋げることができました。

事業区分	事業名	事業内容
公5	2022年京都会議「質的価値実践ワークショップ～質的価値に磨きをかけ質的価値社会を創出しよう～」	前年度より浸透を図ってきた「質的価値」という概念をさらに広めるために、参加者が持ちあわせる商品やサービス、まちづくり事業などのアイデアに対して、新たな価値を抽出するための手法を学ぶ機会としてワークショップを開催しました。
公2	第6回価値デザインコンテスト～質的価値社会創出プロジェクト～募集	各地方に眠る地域課題解決を目的とした新しいサービスの発掘と、新たな質的価値を創造することを目的に第6回価値デザインコンテストエントリーの応募PRを実施しました。
公2	サマーコンファレンス2022「第６回価値デザインコンテスト～質的価値社会創出プロジェクト～」	ビジネスコンテストの機会を提供し、価値デザインの概念へとつながる各地方に眠る地域課題解決を目的とした新しいサービスを発掘すると共に、そのビジネスやサービスをロールモデルとして各地メンバーへ発信しました。
公5	企業支援プラットフォーム構築事業	地域から質的価値に着目した事業や取り組みが創出されるためのプラットフォームを構築し、人財や企業、団体の有益な情報取得及び活用を促進しました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
ウェルビーイング経営委員会	委員長	小杉 龍平（金沢）

基本方針

ウェルビーイングに取り組む企業が増え、その地域で働く市民が持続可能なまちづくりに取り組む一例を全国に推進しました。

総括

本年度サマーコンファレンスにて、岸田内閣総理大臣へ政策提言書を提出したことにより2023年版の骨太の方針に盛り込まれる可能性が出てきました。これは、我々の事業計画にもある、【ウェルビーイングシティー構想の柱①】重点地域各地において自治体の方向性調査及びウェルビーイング宣言、【ウェルビーイングシティ ー構想の柱②】重点地域各地においてメンバー企業へウェルビーイング経営実装に向けた調査、分析、支援、【ウェルビーイングシティー構想の柱③】全国で健康経営を切り口にウェルビーイング経営推進を進めたことで、ウェルビーイングの重要性を理解していただいたと共に各地LOMで次年度の活動に取り入れるケースが増えました。

事業区分	事 業 名	事 業 内 容
他	重点地域各地において自治体の方向性調査及びウェルビーイング宣言	重点地域各地に設定したブロック協議会との連携のもと、ウェルビーイング宣言に有力なLOMを選定し、自治体がウェルビーイング宣言を展開できるようサポートし、それぞれのまちに即した魅力ある活動を推進することでウェルビーイング経営の機運を高めました。
公5	重点地域各地においてメンバー企業へウェルビーイング経営実装に向けた調査、分析、支援	当委員会サポートのもと、働きがいのある会社としての認定を推進し、従業員がより働きやすい環境であり尚且つ、やりがいに満ち溢れた職場へと変革させ、重点地域各地のメンバー企業及び中小零細企業へウェルビーイングを経営に取り入れました。
他	全国で健康経営を切り口にウェルビーイング経営推進	健康経営セミナー、勉強会を開催すると共に健康経営を推進しました。各地LOMに健康経営に取り組む重要性を理解していただくと共に、健康経営からウェルビーイングへの付随効果を図りました。
公5	2022年度京都会議 「ウェルトーク！あなたの会社は大丈夫??～幸せな会社の作り方～」	「幸せの価値」を経営に取り入れるにはどうすればよいか。我々中小零細企業はどうやってウェルビーイング経営を取り入れることができるのか、導入のメリットは何か、必要性や今後の方向性等についてパネルディスカッションで考えました。
公5	JCI ASPACフォーラム 「日本型Well-being経営が実装する働きがいのある会社を目指して」	メンバー企業がウェルビーイング経営を実装につなげていくために、どのようなことに隔たりを感じているのかを分析し、知識、企業、コロナ禍、手法という4つの課題を掘り下げると共に、世界でも上位に位置している国との比較や事例を踏まえながら発信いたしました。
公5	サマーコンファレンス2022 「幸せを指標の一つとして持続可能な豊かさの実現へ」～次代の経営Well-being～	ウェルビーイング経営委員会として取り組んできた推進活動の報告を、パネルディスカッション形式で発表しウェルビーイングのもたらすメリットを認識し、そのうえでこれからのウェルビーイング経営について考えました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
ユニコーンビジネス委員会	委員長	原 翼（福岡）

基本方針

アニマルウェルフェアなどのビジネス新トレンドを情報収集し、時代の新潮流に取り残されない企業を誕生させます。

総括

アニマルウェルフェアを推進するべく立ち上げた【ラシクラブ】は畜産農家からも「今までの取り組みが評価、注目され広まっていくことが嬉しい」との言葉や、農業協同組合新聞にも記事にしていただきました。このことから国民の9割が知らなかった、アニマルウェルフェアの推進につながったと考えます。また、新ビジネス関連事業では14名の傑出したリーダーにインタビューし、全国のメンバーへ情報発信しました。サマコンではそのリーダーが新ビジネスのピッチ形式のプレゼンを行い、立ち見が出るほどの皆様にご参加いただきました。その結果、10件の新ビジネスが誕生しました。今後もビジネスの機会を逃さない青年会議所であってほしいと願います。

事業区分	事業名	事業内容
公6	2022年度京都会議「新トレンド発掘セミナー」事業	日本国内で数少ない本物のユニコーン企業である株式会社TBM代表取締役CEO山﨑敦義様にインタビューさせていただき、ユニコーン企業になるまでのプロセスや、これからの時代を生き抜くビジネスヒントをお話していただき、動画にて配信しました。
公6	アニマルウェルフェアフード推進オーナー制度「ラシクラブ」事業	国民の9割が知らないアニマルウェルフェアを推進するべく、ポータルサイト【ラシクラブ】を立ち上げ、アニマルウェルフェアに取り組む畜産農家を紹介するとともに、もっと身近にアニマルウェルフェア商品を購入できるサイトを創りました。
公2	ビジネスの新潮流を乗りこなせ～新トレンドを掴んだリーダーたち～事業	14名の傑出したビジネスリーダーの方々にインタビューをし、今後外せないビジネストレンドや最新情報、ビジネスにおいての注意点や成功の秘訣などをお話しいただき、動画にて全国のメンバーへ情報発信を行いました。その結果10件の新ビジネスが誕生しました。
公2	ビジネスの新潮流を乗りこなせ「WIN8」事業	全国からビジネスマッチングに興味のある起業家やJCメンバーを募り、東京・大阪・福岡で3回に分けてビジネスマッチング事業を行いました。現役メンバーの皆様からも想像以上に出場希望の声をいただき、実際に商談が始まっている案件もあります。
公2	サマーコンファレンス2022「ビジネスの新潮流を乗りこなせ『NEXTトレンドピッチ』」事業	インタビュー事業に出演して頂いた方々の中から特に素晴らしい5名のビジネスリーダーにピッチ形式でプレゼンをしていただき、その後は参加されたJCメンバーと名刺交換や意見交換をしていただきました。当日は立ち見客がでるほどの大盛況となりました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
スポーツの力委員会	委員長	諏訪 秀一（流山）

基本方針

スポーツから、社会的包摂の考えを身に着け、双方に尊重し合うことができる社会実現とスポーツから学ぶ機会を企業に推進します。

総括

JCカップU-11少年少女サッカー大会（予選・全国大会）の実施と、本年は新たに人材マッチングサービスと、地域スポーツクラブファンディングの2つの新しい取り組みに挑戦しました。第8回を数える継続事業を担当させていただくにあたり、数年ぶりに全ての予選大会を開催することができ、2年ぶりに全国全ての代表チームが全国大会の地に集結し開催することができました。特に今回は、開催地でもある福島ブロックと連携事業を開催することで、会場に1,000人近いお客様を集めることができ、JCカップに新たな可能性を加えることができました。今回の挑戦が、次年度以降の更なる飛躍になることを祈念し、私の総括にさせていただきます。

事業区分	事業名	事業内容
公2	アスリート人材マッチングサービス推進事業	アスリート人材のセカンドキャリア支援プラットフォームサイト内で登録をして頂いた企業にアスリート求職者情報を配信させていただき、就職の接点を作る事業を行いました。スポーツの力が企業の経営資源として活用できる好循環が生まれました。
公1	第8回JCカップU-11 少年少女サッカー大会予選大会	各地区にてサッカー大会の予選大会を実施し、グッドルーザー精神の醸成、社会的包摂など他社を尊重する考えを身に着けていただきました。10地区全てで予選大会を開催でき全国大会に全地区からご参加いただくことができました。
公1	第8回JCカップU-11 少年少女サッカー大会全国大会	サッカー大会の全国大会を開催しました。今年は、開催地である福島ブロックと連携して大会と同時に街づくり事業を行い、来場者1,000人を集めることができ、青少年育成とグッドルーザー精神に加えて、地域の魅了を発信できました。

JC杯U11全国サッカーが開幕 Jヴィレッジ

バンディッツいわき
全国の強豪と熱戦

【FCヴォルティーダ沖縄ジュニア―バンディッツいわきジュニア】気迫のこもったプレーを展開する選手

第8回JCカップU-11少年少女サッカー全国大会は18日、Jヴィレッジ（楢葉・広野町）で開幕した。初日は予選リーグと準決勝を行った。

日本青年会議所、日本サッカー名誉会の主催。全国の地区大会などを勝ち抜いた、11歳以下で構成する12チームが出場し、熱戦を繰り広げている。

試合に先立ち開会式が行われ、バンディッツいわきジュニアの佐佐木主将が「選ばれしい舞台で試合ができる喜びをかみしめながらプレーする」と選手宣誓した。

リーグ戦終了後、特別企画としてJヴィレッジ内の全天候型練習場でeスポーツ全国大会が行われ、全国から集まった4チームが勝ち抜いた。

最終日の19日に決勝と3位決定戦を行う。

〈予選リーグ結果〉

フォルツ8－0バンディッツいわきジュニア（長野）

FCヴォ1－0バンディッツいわきジュニア（アルティー・ダ神奈川）

佐佐木主将「やり切れた」

○…バンディッツいわきジュニアの主将でMFの佐佐木二千翔は「最後まで全員で声を掛け合ってやり切れた」と振り返った。チームとして得点は生まれなかったが、佐佐木は2試合で計5本のシュートを放つ粘りを見せた。全国の強豪との試合を糧に「シュートの成功率を高められるように練習を重ねたい」と成長を誓った。

ご当地グルメやお笑いライブ

全天候型練習場

第8回JCカップU-11少年少女サッカー全国大会に合わせて「福島のおもてなしプロジェクト」が18日、Jヴィレッジの全天候型練習場で開かれた。本県のご当地グルメと特産品が並ぶマルシェや、ご当地アイドルグループなどによるステージ発表が催された。

県電算地域振興財団の主催。東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの復興を後押ししようと企画。お笑いコンビのパチッコリンやシンガー・ソングライターの菊地章夫さんら本県にゆかりのある出演者がパフォーマンスを披露し、会場を盛り上げた。

マルシェでは浪江町のなみえ焼そばや葛尾村産羊肉を使用したジンギスカンなどが販売された。

ライブでお笑いを披露するパチッコリン

社会グループ

社会グループ総括

社会グループ担当常任理事 **柴﨑 政俊**（八代）

本年度は多様性を取り入れたビジョナリーシティの実現を基本方針とし、各地でステークホルダーとともにまちのビジョンを作ることを核とし運動を展開しました。JCが率先して動き、持続可能で多様性を包摂した社会を実現するため、昨年より開始したベビーファースト運動のさらなる推進、経営者のジェンダー意識改革のための情報発信、全国のLOMと協働した献血運動、中学校の部活動地域移行に関する模擬国民投票、国土強靭化に関する意識醸成、中小企業の宇宙ビジネスへの挑戦のための土台作り、各地のLOMと社会福祉協議会を軸とした災害ネットワーク推進、そして傑出した若者をたたえるTOYP事業など、様々な取り組みを行いました。そして、第71回全国大会おおいた大会はコロナ禍以降ではじめて制限のない大会となり、全国各地より多くのメンバーにお越しいただき1年間の運動の集大成の場となると同時に、次年度への確かな承継の場となりました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
ビジョナリーシティ会議	議長	花田 将司（高岡）

基本方針

時代と地域の独自性に沿った、あるべき姿「まちのビジョン」を生み出す運動発信と策定フォロー並びに国家ビジョンの策定を行う。

総括

様々な社会問題や社会不安が増える中、行動力や情熱をもってJCが若い世代を巻き込み、誰もがその未来（ビジョン）に向かいたいと願う社会の姿を目指し事業を構築し取り組んできました。京都会議・サマーコンファレンス・全国大会と主要大会のメインフォーラムを通し、専門家、行政、起業家、様々なジャンルの講師の皆様をお招きすることで「まちのビジョン」をステークホルダーと共に創ることの重要性、実働させることの必要性を発信し全国各地でも運動を行いました。実際に多くのLOMの皆様にまちのビジョンを策定、次年度以降の策定の意識の醸成に成功することができました。これらが実働しまちの「幸せを生み出す装置」となることを確信しております。

事業区分	事業名	事業内容
公5	2022年度京都会議 メインフォーラム「ビジョンが織りなす未来共創フォーラム」の実施	地域ビジョンの必要性と実働する為の手法について講師の枝廣淳子氏をお招きして基調講演を行い、直前開催のセミナー「イチから始める中期ビジョン策定への道筋」では枝廣氏に加え小林理事長（JCI高山）をお迎えしパネルディスカッションを行いました。
他	総会フォーラムⅡ「ビジョンアップデートフォーラム」の実施	総会フォーラムでは、地域のビジョンが生み出す「共感」で行政、市民が輪となり一緒に実働させていくことの重要性を「よんなな会」の脇雅昭氏に講演いただき、中国地区協議会澤田会長にはJCI鳥取のビジョンの具体例と策定プロセスを共有していただきました。
公5	サマーコンファレンス2022 メインフォーラム「ビジョンは掲げて終わりじゃない！～JCが本当に必要とされる組織か否かの差はどこに？～」の実施	運動が社会を巻き込む大きな運動へと発展するための「官民連携」のあるべき仕組みについて、福岡市長の高島宗一郎市長をお招きし対談を行いました。ブース出展では既存のまちの中期ビジョンの「絵」を展示し、ビジョン構築手順のパンフレットを配布しました。
公5	第71回全国大会おおいた大会メインフォーラム「ビジョナリージャパン～日本を変えるのはあなたのまちへの愛～」の実施	株式会社ビジョン代表取締役兼CEO佐野健一様をお招きし、 未来を見据え企業がビジョンを掲げる重要性についてお話いただきました。2部では、佐野社長との対談を行いLOMで掲げたビジョン事例を交え社業を通じ青年経済人としてできることについて対談を行いました。
他	愛する未来を描く地域ビジョン再建プロジェクト推進事業の実施	全国のLOMに対し、ビジョンの策定方法をアドバイザーの枝廣講師と共にZOOMと現地にて「ONEforJAPANカリキュラム」を開催し各LOMに対し策定のフォローを展開していきました。「GianPocket」内で完成したビジョンを共有することで地域のビジョンを策定する際の土台の構築を行いました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
全国大会運営会議	議長	小林 有紀（宇都宮）

基本方針

全国大会という運動が地域社会の魅力や経済の発展に必要な装置として不可欠となり、市民に開催地域の魅力と可能性を再認識させ、自らが地域活性化の担い手であるという意識を高揚します。1年間のJC活動で作り上げた実績とネットワークを継承し、次年度の方針を共有することでJCメンバーの意識を高揚させることを目指します。

総括

第71回全国大会おおいた大会は「愛を抱いて進め、JAYCEE!」をテーマとして、一年間の運動で作り上げた理念や政策、ビジョンを全国のJCメンバーと共有することで、地域に必要とされる組織となり、次年度へもつながる意識高揚を図りました。全国大会においてJCI日本は、地域を想い、地域に無償で貢献できる愛ある青年経済人を産み出し、これからの日本社会をより良い変化をもたらすためにも、発展と成長の機会である装置として稼働することができました。71回の大会は、先人達が築き上げてきた歴史を承継しながらも多様性を取り入れ、その精神性を今一度再確認できたと同時に、愛が人々をつなぎ幸せを生み出し続ける装置として、この先も続くJCの向かうべき姿を発信できました。

事業区分	事業名	事業内容
公5	第71回全国大会おおいた大会開催事業	一年間の活動で作り上げた実績とネットワークと人材を次年度以降に継承すること、そして誰もが危機感を持ち能動的に行動するサイクルを強固にすることで、JCが社会に持続的なインパクトを与えるようになり、誰もが挑戦することができる社会を実現できる事業を構築しました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
ベビーファースト委員会	委員長	新田 洋太朗（富山）

基本方針

国民が子供を産み育てたくなる社会環境の実現と、子育て世代の声がより政治に届く仕組みの構築を目指します。

総括

2021年度から開始した「ベビーファースト運動」を全国各地で自走する仕組みへと進化させるために、行政、民間企業・団体、JCメンバー、メディアという全方位に向けた運動拡大に注力しました。都道府県をはじめとする自治体の参画や、大手企業をはじめとする多くの民間企業の参画により、全国各地で子供と親にやさしい具体的なアクションが数多く生まれました。さらには、ブロック協議会やLOMが、独自で参画パートナーを開拓するなど、ローカルのレベルで確実に自走化に繋げることができました。「ベビーファースト運動」を、官民が連携して子育て環境を増進していくプラットフォームに近づけることができたと考えています。

事業区分	事業名	事業内容
他	「ベビーファースト運動」の推進	全国知事会との「ベビーファースト共同宣言」にもとづき、全国47都道府県知事による「ベビーファースト活動宣言」を実施したほか、民間企業や、全国のブロック協議会・LOMと連携し、各地域で子供と子育て世代にやさしい具体的な取り組みを生み出しました。
公5	サマーコンファレンス2022 「社会を動かすベビーファーストセミナー」	2年目を迎えた「ベビーファースト運動」が、これまでに日本の子育て環境をどう変えたのかを振り返るとともに、企業経営や国民生活の視点から、今後「ベビーファースト運動」がどのように仕組みとして根付き、広がっていくかの展望を発信しました。
公4	「子育ての困りごとを政治に届けようプロジェクト」	投票率の低い若者、子育て世代の政治参画を促すべく、地方議会議員、地方行政職員と子育て市民とのオンライン座談会を開催しました。全国5ブロックと共同開催し、子育て世代の率直な声を行政の場に届ける機会を創出しました。

子育てしやすいまちへ連携

宇佐市など3者

【宇佐】宇佐市と宇佐商工会議所、日本青年会議所九州地区大分ブロック協議会は11日、「ベビーファースト」のまちづくりを推進する包括連携協定を結んだ。市内で子育てしやすい環境整備、子ども連れで利用しやすい店舗の設置やPRなどに力を合わせる。3者による協定は全国的にも珍しいという。

市は昨年、妊婦や乳幼児、子育て世代が優遇されやすい社会風土の醸成を図ろうと、日本青年会議所が掲げるベビーファースト運動に参画する宣言をした。実効性を高めるため、3者で協議を重ね、協定を結ぶことにした。

協定は、連携して市内で出産や子育てがしやすいまちづくりを推進することなどを盛り込んだ。3者は妊婦や3歳までの子ども連れが行きやすい飲食店の認証やグルメサイトへの掲載、男性の育児休暇取得率の向上などに取り組む。

締結式に先立ち、宇佐商工会議所もベビーファースト宣言をした。

式は市役所であり、関係者約20人が出席。是永修治市長、商議所の渡辺幹雄会頭（74）、協議会の仲地太郎会長（36）がそれぞれ協定書に署名した。3人は「子育てに寄り添い、いろんな境遇の市民に優しいまちづくりにつなげたい」と話した。（藤本益早）

会議・委員会名	役職名	担当者名
インクルージョン推進委員会	委員長	竹腰 正見（名古屋）

基本方針

包括する社会を実現するため、誰もが持つ内なる偏見を認識し、健全な視線で身近な問題を取り上げて運動をおこしました。

総括

誰もが生きたいように生きられる社会を実現するため、企業内に存在するジェンダーギャップの解消を推進するため、お茶出し業務に着目して、身近な問題からをクローズアップした「ジェンダー茶レンジ」動画を作成して多くの方に視聴していただきました。献血活動においては日赤と提携を組み、各LOM、各ブロック、各地区にて献血活動の実施をすることによって、日本を救う大きなムーブメントを作ることができました。またPR TIMESを活用することによって多くの方々に青年会議所の献血活動を広く知れ渡らせることができました。また愛知ブロック協議会と血液センターが協定を結ぶことで献血事業が持続可能な地域に繋がると確信しております。

事業区分	事業名	事業内容
公6	相互理解を実現する事業の実施について	お茶出しという日常にある風景に着目し、お茶出しという業務に潜むアンコンシャスバイアス（無意識の偏見）に気付いてもらうための動画を作成しました。また、その動画を広く見てもらうことで、多くの人に男女による性差別に気付いてもらいました。
公6	2023年度京都会議「ダイバーシティ経営があなたの会社を救う!!」	ジェンダーギャップ指数が低い日本においてインクルージョンを推進するためには何が必要かを荒金講師に説明していただき、「誰もが生きたい様に生きるため」には、まずアンコンシャス・バイアスの存在を知り自分の中の偏見と向き合うことが重要だと発信しました。
公6	共感による献血活動がLOMを輝かせる推進計画	地域の血液の不足量を見える化し、不足している地区への献血等事業を展開しました。そして、各LOMと共に行った献血事業を単年度事業から継続事業にしました。結果として、我々の献血等活動に共感し、来年以降も世界献血者デーで一斉献血等の自走する装置となりました。
公6	サマーコンファレンス2022「ジェンダーギャップから運動をつくる」事業計画	大手企業で行った女性活躍を事例として取り上げ、 男女平等の観点から企業としてできる取り組みや解決するメリットを提示することによって、ダイバーシティ経営を行うことにより、自身の会社が持続可能なものへとなっていくということを理解していただきました。

GENDER 茶レンジ!

GENDER 茶レンジ!

会議・委員会名	役職名	担当者名
国民の幸せを守る委員会	委員長	杉川 綾（広島）

基本方針

主権者教育を通じて国民一人ひとりが国のことを自分事として捉え、あらゆる国民が幸せのために行動する社会の創造を目指します。

総括

新型コロナウィルスの世界的流行、 ロシアのウクライナ侵攻といった社会情勢が混迷を極める中、 日本に住む多くの国民一人ひとりが、自身の幸せを守るためには、国のことを他人事ではなく自分事として捉え、議論することが必要となります。本年度は、全国模擬国民投票を行い、自身の行動が直接的に政治に届くことを実感してもらうことで、より多くの国民に政治を身近に感じてもらうよう運動を展開しました。日本が、誰もが幸せに暮らせる国であり続けられるよう、今後も私たち青年会議所が率先して、政治について発信し続けることの重要性を実感することのできた1年となりました。

事業区分	事 業 名	事 業 内 容
公4	2022年度京都会議 「Everyone Politics～政治を全ての人に届ける～セミナー」	国民一人ひとりが国のことを自分事として考えられるようになるために、ソーシャルイノベーターの株式会社POTETO Media 代表取締役 古井 康介様に企業経験も含め、青年がリーダーシップをとって政治に参画する必要性を伝えていただきました。
公4	みんなで決めよう、こくみん総選挙	政治が他人事になっている大きな要因は、自身の政治活動が成果として見えにくいところにあります。JCI日本が全国で模擬国民投票を行い、その結果を通じて意見書の作成につなげることで、成果を見える形にし、政治参画の実感を持っていただきました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
まちのレジリエンス確立委員会	委員長	三岡 祥之（奈良）

基本方針

近年増加する災害に対し、リスク予見や回避が困難な状況を踏まえた迅速かつ円滑に復旧復興を担うための連携構築を目的とします。

総括

突発的に起こる災害に対して、ハード面（国家全体のレジリエンスを向上させるハードインフラ投資の推進）、ソフト面（有事に備えた関係諸団体との連携による防災ネットワーク構築推進）だけでなく、新たな産業の可能性の模索（宇宙の可能性を利活用する中小企業ビジネスの推進）を行いながら、地域のレジリエンス（回復力、弾性力）向上を推進する事業を全国各地にて展開させていただきました。数年内に起こり得る激甚災害に対する備えだけでなく、近年の局地的な災害に我々青年会議所が当事者意識を持って対応するためにも地域でのレジリエンス意識や能力の向上を今後も図るため多角的な視野を持ち取り組んでいただけることを期待しております。

事業区分	事業名	事業内容
公6	国家全体のレジリエンスを向上させるハードインフラ投資の推進	各地域において自然災害におけるリダンダンシーの効果を担うとともに観光、地域活性化などの観点から、今後必要とされるハードインフラの検討を行い、 豊予海峡ルート推進における民間と行政の連動をモデルとした地域のハードインフラ投資の推進を行いました。
公4	宇宙の可能性を利活用する中小企業ビジネスの推進	新たな産業となる宇宙ビジネスのカテゴリーに対して、既存の団体や実際にアイディアを展開している企業と連携することにより、各企業、地域単位で宇宙を利活用することのメリットや可能性に対する興味・周知の機会を提供し、情報を共有することができました。
公6	有事に備えた関係諸団体との連携による防災ネットワーク構築推進	遠くない未来に起こり得る激甚災害だけでなく、近年多発する局地的な災害に対して、地域のリーダーである青年会議所が関係諸団体とともに迅速かつ的確に対処し地域の未来に寄与できるレジリエンス力向上を図る地域内ネットワークの構築推進事業を行いました。
公6	災害が起きた場合の迅速な支援の展開	被災された地域に対してLOM、ブロック協議会、地区協議会と連動した災害対策本部を設置し、被災地の情報収集に努めるとともに、人的、物的、金銭支援体制の提案及び相談、他団体との関係構築の提案を行い、ネットワークを活かした迅速な支援展開を行いました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
TOYP委員会	委員長	吉井 大樹（唐津）

基本方針

TOYPという幸せを生み出す装置の価値を高め、より地域に好循環をもたらす傑出した若者の選出と活躍する社会基盤を構築します。

総括

本年度は、大きく2つのことに力を入れて取り組んで参りました。1つ目は、エントリー数の向上です。Googleフォームを利用し、手続きを簡素化しました。結果、各地青年会議所以外のエントリー数も増加し、363名もの方にエントリーをしていただくことができました。2つ目は、自治体の表敬訪問を行ったことです。受賞者がお住まいの自治体を訪問し、皆様の取り組みついてお伝えいたしました。また、表敬訪問の様子を地元メディアに多数取り上げていただくことで、受賞者の活動を地域へ広く発信しました。褒賞をきっかけとし、受賞者と地域、社会とのつながりを生み出すことで、より幸せを生み出し続ける装置としての価値を向上することができると考えます。

事業区分	事業名	事業内容
公2	JCI JAPAN TOYP 2022 エントリー募集	全国には新しい価値を生むことのできる、地域に好循環を起こす若者が多く存在しています。そこで、様々な地域より、まだ見ぬ傑出した若者の発掘するため、全国の各地青年会議所に加え、自己推薦、他団体からの推薦により363名のエントリー者を集めました。
公2	JCI JAPAN TOYP 2022 各種選考会	エントリー者を、書類選考による1次選考とWEB投票による2次選考、プレゼンテーションと面接による最終選考を行い選定しました。また、最終選考では、青年会議所メンバーの他、各界で活躍する外部の選考委員を加えて選考委員会にて行い、JCI JAPAN TOYP 2022 受賞者を選定しました。
公2	JCI JAPAN TOYP 2022 授賞式典	日本全国から集まったエントリー者の中から最終選考まで残ったファイナリストにスポットを当て、お披露目する授賞式典を開催し、授賞式の様子をLIVE配信及びアーカイブ配信いたしました。

公益社団法人日本青年会議所「JCI JAPAN TOYP 2022（青年版国民栄誉賞）」準グランプリ受賞者による知事表敬

栃木県内で唯一入賞　「社会に好循環」顕彰のJCコン　小山の村田さん

【小山】市のブランド豚「おとん」を使った加工食品や結城紬（つむぎ）のリメークを手がける会社「小山自慢」代表の村田玲子（むらたれいこ）さん（37）がこのほど、社会に好循環を起こす若者を顕彰するコンテスト「JCI JAPAN TOYP」（日本青年会議所主催）で会頭特別賞を受賞した。同コンテストでの入賞は市内で初めて。今回県内で唯一の受賞者にもなり、村田さんは「受賞には驚いたが、やってきたことが評価されてうれしい」と話す。

国際グループ

国際グループ総括

国際グループ担当常任理事 **星野 健太**（埼玉中央）

2022年度の国際グループは「アフターコロナをリードする新たな国際ネットワークの構築」を基本方針としてオンラインを中心に事業構築を行い、後半渡航して現地での国際交流やネットワーク構築ができることを信じて活動を行いました。結果的に5月以降海外渡航における水際対策も緩和する方向に向かい、各会議・委員会が構築した海外事業をすべて現地確認することができました。また、今年度はASPACが堺・高石の地で開催され国内7,507名、海外合計9,849名の登録があり、ハイブリッドで開催することでコロナ禍における新たなコンベンションの形を世界に向けて発信することができました。そしてヨーロッパエリア会議の参加、アメリカセントルイスJCI本部への訪問、各国式典の参加など積極的な行動が評価され、世界会議の総会において特別会頭賞をJCI日本が受賞することができ、1年間を通じて自由・平和・クリードの価値を世界のJCメンバーと深めることができました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
グローバルネットワーク創造会議	議長	渡守 紘宜（京都）

基本方針

アフターコロナの社会を見据え、JCIのネットワークを活用した新たなグローバルネットワークを構築する。

総括

本年度は、3つの事業を行いました。第一に、民主主義の普遍的価値を深める事業。民主主義は1日にしてならずという大テーマのもと、1年間を通じて国内外のメンバーを対象に事業を行いました。（第1回世界青年サミット／京都会議／ASPAC／サマーコンファレンス／第2回世界青年サミット）第二に、誰しもが自由に繋がれるアプリ、JCI GOの開発および普及です。アプリを通じた交流の輪が広がり、多くのところで交流が確認されました。第三に、姉妹LOM締結調査とサポートです。姉妹LOM締結をしている全てのLOMを取材し、その活動をデータベース化。また、2022年内に国内4LOMで海外LOMと姉妹締結を終了することができました。

事業区分	事業名	事業内容
公7	今、世界は揺らいでいる!1/3の幸せの形（京都会議2022）	講師にウスビ・サコ氏、ゲストに富津愈氏を迎え、民主主義というテーマについてはもとより、講師とゲストの経験に基づいた国と国の価値観の違い、そして、文化と文化の融合により新しい価値が生み出される新時代＝マルチフレーム時代につき議論を展開しました。
公7	JCI ASPACフォーラム「アジア太平洋自由と平和サミット」	講師およびディスカッションコーディネーターに国連事務総長特別顧問高須幸雄氏を招き、 世界の現状とアジア太平洋の青年会議所のメンバーが現在の世界情勢の中で自由と平和を守るためにどんな行動をとるべきか講演を聞きディスカッションを行いました。
公7	Democracy for Tomorrow ～幸せは"あなたの声"からはじまる～（サマーコンファレンス2022）	講師に成田悠輔氏を迎え、民主主義の歴史や問題点、その土台となる価値観や「しくみ」を今後どのように形成していくべきかを講演いただき、民主主義は現在も未来も完璧ではなく、時代や環境に応じて進化していく必要があることを考えるきっかけを提供しました。
公7	コンテンツを活用した民間外交アプリケーション「JCI GO」展開事業計画	アプリにメンバーの持つ魅力的なコンテンツを掲載し、簡単に国内外の仲間の情報を得られる環境を整備しました。メンバー同士がより気軽かつ簡便に、これまで以上につながることができ、民間外交を促進する仕組みを構築しました。
他	GENERAL TRADING COMPANY OF LOVE ～世界とつながる、愛でつながる、永遠に～	海外の姉妹LOMとの交流と新たな締結支援として、全国の交流情報を調査、データベース開設と情報掲載、質問に応じるオンラインセミナーの開催、ASPACと世界会議における姉妹締結式のサポート、メンバー同士が姉妹締結のもとにつながれる場づくりを行いました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
アジアアライアンス構築委員会	委員長	納谷 政仁（堺高石）

基本方針

アジア太平洋地域のより良い関係性の構築に向けて、国家の主権を超越した信頼関係をもとに、恒久的な世界平和を目指します。

総括

アジア太平洋諸国NOMとの友好関係構築及びJCI APDC・合同常任理事会のサポートを行い、アジア太平洋地域における国際交流と恒久的平和の確立を行う委員会です。アジア太平洋地域の各NOMとカーボンニュートラル社会の実現に向けて、パートナーシップでの目標を達成する装置を確立することを目的として、2度のサミットを実施しました。アジア太平洋地域カーボンニュートラル共同推進宣言のもと、JCI日本としては、2023年度からJCIインド、JCIベトナムと共同プロジェクトを実施していくことが決まりました。また、年の後半から4回に渡って会頭と共に海外ミッションを実施し、友好NOMの皆様とフィジカルで友情を深めることができました。

事業区分	事業名	事業内容
他	アジア太平洋地域での経済交流推進事業	姉妹LOM交流の一環に相互の会員同士による経済交流がスムーズになるようなモデル事業を構築し、発信することで、経済連携による新たな民間外交の架け橋となる関係性を築くと共に、相互のLOMと地域の発展につなげていくモデル事業を推進しました。
公7	日中経済交流推進事業	ゼロコロナ政策が続く中国において、日本企業の中国へのビジネス進出の足掛かりをつくるために、WEBを活用したビジネス交流会とビジネスマッチングを実施し、経済交流の機会を創出し、日中間の経済連携による新たな民間外交の架け橋となる関係性を築きました。
公7	アジアグローバルソリューションサミット事業	アジア各国における共通課題であるカーボンニュートラル社会に向けて、国際会議において、アジア太平洋地域における19NOMとカーボンニュートラルの取り組みを確認し、解決に向けての対話の場としてアジアグローバルソリューションサミットを開催しました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
コンベンション支援委員会	委員長	髙木 隆太（東京）

基本方針

2022 JCI ASPAC 堺高石大会の参加動員促進、開催地支援の実施。また諸会議における海外メンバーとの交流の機会を構築等。

総括

ハイブリッド形式で開催のJCI ASPAC堺高石大会の運営、実施を支援し、JCI日本として、大会実行委員会と共に多くの課題を乗り越え、全国のメンバーに国際の機会を提供しました。例年を大きく上回り国内登録人数が7,761名を記録し、多数の現地参加者にご参画いただき、昨今の自由と民主主義の根幹を揺るがすような事態が頻発する世界情勢においても、アジア太平洋地域から平和を訴求するメッセージを世界に広めました。
また各種諸会議における海外メンバーとの交流の場としてインターナショナルナイトを開催し、世界との友情を深める機会となりました。

事業区分	事業名	事業内容
公7	JCI ASPAC堺高石大会対応事業	4年ぶりの国内開催となるJCI ASPAC堺高石大会の実施・参加促進・広報等の協力を行いました。初のハイブリットでのASPACを開催し、新たな挑戦となる大会となりました。開催地LOMの皆様の多大なる努力の結果、アジア中の多くのメンバーにとって実り多き大会となりました。
公7	JCI世界会議ジャパンフォーラム「COTEN流"歴史思考"で世界を俯瞰せよ」	JCI世界会議香港大会では、今後の国際交流の促進を図るため、国や民族によって異なる宗教や思想、文化等の"違い"を理解することの重要性を知り、歴史を足掛かりに相互理解を深めることを目的としたジャパンフォーラムを開催しました。
他	インターナショナルナイトの開催	各種諸会議における海外メンバーとの交流の場としてインターナショナルナイトを開催しました。多くの情報交換やお土産交換など通して、世界との友情を更に深める機会となりました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
日ロパートナーシップ委員会	委員長	瀧 雄一（千歳）

基本方針

日ロ両国の発展のため民間外交を積極的に推し進め両国の信頼をより強固にし、平和と安定に向かう未来志向の関係を目指します。

総括

2月24日のロシア軍によるウクライナへの侵攻の背景もあり、今年度予定していた事業は中止を余儀なくされましたが、サマーコンファレンスでの国際平和に向けたフォーラムや、ウクライナ支援のプロジェクトを実施させていただけることとなり、世界全体を視野に入れた国際平和につながる活動の重要性を痛感しました。ロシアとの民間外交を推し進めることはもちろんのこと、今後においては次世代の担い手となる現代の若者が国際平和に向けた行動ができるような方向性を示し導いていくことが必要となってくると考えています。また、ウクライナ支援事業を通し多くの感謝のお言葉をいただけたので、世界平和の一助になるプロジェクトは今後も継続が必要だと考えています。

事業区分	事業名	事業内容
他	在日ロシアコミュニティとの交流事業	日ロ友好の架け橋へとつなげるべく互いの国に関心がある人を募集した交流の場を設ける予定でした。今年度は、2月24日のロシア軍によるウクライナ侵攻の背景もあり、3月4日の第3回ラインミーティングにおいて事業中止となってしまいました。
公7	2022年度京都会議 「Make progress～日本とロシアを愛するために～」	日ロ両国の歴史や文化、現代における関係性を知ることで、互いの国に生じている認識の違いの解消へとつながり、具体的なアクションを示すことで、新たな日ロ友好の形をイメージできるように、30分枠のトークセッション形式で実施をしました。
他	日ロ文化交流実践プロジェクトチーム 「日ロパートナーズ」	日ロの文化交流の有効な手段の一つである観光にスポットをあて、もう一度観光を盛り上げる予定でした。今年度は2月24日のロシア軍によるウクライナ侵攻の背景もあり、3月4日の第3回ラインミーティングにおいて事業中止となってしまいました。
公7	2022年度ロシアミッション学生交流事業	1995年以来継続しているロシアミッション学生交流事業の2022年度事業でした。今年度は、2月24日のロシア軍によるウクライナ侵攻の背景もあり、3月4日の第3回ラインミーティングにおいて事業中止となってしまいました。
公7	サマーコンファレンス2022 「WORLD PEACE SUMMIT～世界をつなぐメッセージ」	次世代がつくる国際平和のために今できることは何かを考え、世界中の子供達の国際交流や人財育成の事業を提言するフォーラムとしました。
公7	JCI JAPANウクライナ支援プロジェクト 「Next Generations× Love Dream&Happiness」	ウクライナ避難民の方を講師としてお招きし、侵攻の背景やウクライナの歴史や文化をはじめ、リアリティある講演を、政治的な発言や過激的な表現に注意しながら行い、学生たちにこれからできることを考えていただけるように8地区延べ13回開催しました。

ウクライナで支援続ける中條さん

戦地の子どもの窮状語る

千歳・勇舞中で講演会

高齢世帯などに2万円

千歳恵庭

会議・委員会名	役職名	担当者名
持続可能な国際協力委員会	委員長	大久保 惣太（水戸）

基本方針

過去の支援事業を検証しビジネスを通じた持続可能で自走できる仕組みを構築します。また、地域と国際社会を結びつける人財を育成する事業を開催します。

総括

緊急事態宣言下での事業構築となりましたが、ベトナム、インドネシア、ウガンダ共和国、カンボジアと全ての事業で渡航することができました。SMILE by WATER事業、SMILE by EDUCATION事業では現地の協力企業と共に持続可能な国際協力の形を構築することができました。
また、グローバルユース国連大使育成事業では全国より選抜した高校生22名が海外の高校生とお互いの国の課題をSDGsを絡めてディスカッションを行い大きく成長することができました。
ここ近年コロナ禍で国際協力について考える機会が減少していた中でLOMや個人でできる国際協力とは何かを伝えるフォーラムも開催させていただきました。今後益々日本から世界へ貢献できる人財が増えることを期待しています。

事業区分	事業名	事業内容
他	2022年度京都会議「ビジネスを通じた持続可能な国際協力」	講師に寺尾忍先輩をお招きし持続可能な国際協力とは何か。SDGsとビジネスをつなぎ、社会課題を解決するモデル、LOMや個人でできる国際協力とは何かを動画にて配信いたしました。
公7	SMILE by EDUCATION2022	ベトナム社会主義共和国、フエ市にて就労意欲のあるベトナム人を募集し、現地パートナーと共にIT技術と日本語の教育支援を行い、高度人財としてベトナムの日系企業や、日本への就職に繋げ紹介料を次年度の事業費とし持続可能な支援の形を構築しました。
公7	JCI JAPAMグローバルユース国連大使育成事業	全国より高校生22名を選抜し外務省やUnitar、インターステラテクノロジズ株式会社の方を講師に迎え事前研修会を開催した後にインドネシアへ海外研修を行いました。大使に任命された参加者は各地でSDGsの啓発活動を行いました。
公3	CREATE THE NEXT ACTION ～SMILE by WATER in Cambodia～	カンボジア、シェムリアップの地で新型コロナウィルス感染症の感染拡大をうけて衛生面の解決をするために現地のマーケットに手洗い場を設置し現地協力企業と共に手洗いの啓発活動を行い衛生面の向上に繋げました。
公3	CHANGE THE WORLD ～SMILE by WATER in Uganda～	クラウドファンディングも活用して資金を集め、90基の井戸にIoTを活かした井戸管理システムを導入し住民が手間と不安なく継続的に井戸を利用できる仕組みを構築しました。
公7	JCI世界会議ジャパンフォーラム「Spread Around the World～支援のカタチ」	「Spread Around the World～支援のカタチ」と題し、SMILE by WATER in Uganda事業でのパートナーであります坪井彩様、 ウクライナ支援事業でのパートナーであります中條秀人先輩をお呼びしてこれからの時代に必要な持続可能な国際協力の在り方についてお話いただきました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
JCI関係委員会	委員長	林 和哉（福井）

基本方針

アジア太平洋地域以外のNOMへの渉外活動全般、相互理解の促進およびJCIとの連携および情報発信。

総括

今年度は感染症対策をしながら対面での事業構築ができるという幸せな年でした。しかし、海外との交流という意味ではまだ十分とは言えない状況でした。ジャパンナイトにおいて各ブースをLIVE配信で魅力発信をしたことや、地域の魅力発信動画を作成し、海外の方に発信したことは高評価されました。また、6月以降対面で交流できるようになり、積極的に渡航し相互理解の促進をすることができました。会員数においてNo1を誇るJCI日本がリーディングNOMとなって世界で存在感を高めるために、次年度以降も海外との積極的な交流や質の高い事業の構築をしていただきたい。そのためにもJCI RISEについて見識を深め広く発信していただきたい。

事業区分	事業名	事業内容
他	JCI ASPAC「ジャパンナイト」開催	JCIメンバーが今後の活力を得られるようにすること、今後の国際的なコンベンションに参加したくなるメンバーを増やすこと、海外メンバーに対し堺高石や日本各地の魅力を発信すること、自由と平和に関するメッセージを発信することを目的に開催しました。
公7	JCI世界会議香港大会対応計画	各フォーラムを通じアフターコロナ時代に対応した国際の機会を提供し、海外メンバーとの交流を通じて、相互の諸問題やその解決策を認識、理解し、国際協調への関心を高め、信頼関係を構築すべく開催しました。
他	JCI世界会議「ジャパンナイト」	ブース出展や各ファンクションを通じてJCIに係るメンバーとJCI日本のメンバーが今後も継続的な成長を実現できるよう信頼関係を再構築し、平和の架け橋となるよう国際協調への求心力を高めるべく開催しました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
国際アカデミー委員会	委員長	鍋田 昌吾（静岡）

基本方針

次世代のリーダーたちが、未来のために積極的に行動する精神を学び、彼らが国境を越えた友情を育む、成長の機会を提供します。

総括

第35回国際アカデミーin小田原/箱根を開催させていただきました。実に3年ぶりの現地開催となった本事業には、69名の海外デリゲイツと95名の国内デリゲイツが参加し、リーダーとしての素養を学び、国境を越えた友情を育みました。不安定な世界の情勢に突入した2022年度だからこそ、次の世代を想い、行動を起こしていく「Pay it Forward～恩贈り～」というテーマは、時代に相応しい考え方であったと感じております。国際アカデミーの魅力は、事業に参加して卒業したグローバルネットワーカー達が、それぞれの国や地域でリーダーとして活躍していくビジョンにあります。次年度にもその魅力を伝え、日本青年会議所最高の事業を未来へつなげてまいります。

事業区分	事業名	事業内容
公7	第35回国際アカデミーin小田原/箱根	小田原・箱根の地にて、「Pay it Forward～恩贈り～」の精神を学び、世界の平和に貢献するグローバルネットワーカーを輩出する国際アカデミーを開催しました。コロナの影響により3年ぶりの現地開催となった国際アカデミーは大いに盛り上がりました。
他	第35回国際アカデミーに伴うプレ国際アカデミー	歴代JCI会頭である原田憲太郎先輩を講師にお迎えし、国際の魅力や国際アカデミーで得られる経験についてお話をいただきました。コースリーダーとしてオンラインでパスカル先輩にもご参加をいただき、国際アカデミーの本番の雰囲気を感じることができました。
他	JCI ASPACセミナー「グローバルネットワーカーが語る Think Globally, Act Locally」	参議院議員滝波宏文様、JCI直前会頭小嶋隆文先輩を講師にお迎えし、世界から学び地域のために行動していく、JCの国際ならではの考え方を学びました。またパネリストとしてJCIマレーシアのエレン会頭にもオンラインでご出演いただき、意見交換を行いました。

総務グループ

総務グループ総括

総務グループ担当常任理事 **加藤 大将**（半田）

総務グループでは、「ブランド管理と盤石な組織運営によるJC運動の最大化」の基本方針のもと運営を行って参りました。運動の起点となる京都会議では「その不安を、希望に変える」のテーマのもと、運動方針の発信に留まらず、全国のそれぞれの地域の課題を抽出し、その解決策のヒントを提示するとともに、2022年度、全国各地でまちのビジョンが策定され、その総体として、国のより良き姿を描く運動を展開することを示しました。そして、JC運動を最大化するための広報戦略を立案し、組織として統一的な情報発信を行い、既存のブランドを守り毀損しない方針のもと、組織の存在価値の向上を図りました。また、時代に即した規則の見直しの観点から新設規程及び細則の策定と会員資格規則の一部改正を行い、誰もが活躍できる組織運営の仕組みを構築しました。さらに、JCI日本の運動が円滑に遂行されるよう、会頭及び役員の活動の支援、また、各協議会との連携を通じて、社会をより良くするための運動を生み出し続ける組織としての盤石な運営体制を確立しました。

ブランド管理と盤石な組織運営により、従来からの、社会をより良くする団体としての評価を守り抜き、多様性や持続可能性を充分に担保した新たな組織の姿を描くことで、JCI日本に限らず、全国のLOMに対して新たな組織のあり方を提示し、JC運動の最大化に寄与出来たと考えます。

会議・委員会名	役職名	担当者名
JCブランドマネジメント会議	議長	松原 直章（新潟）

基本方針

社会課題を解決し幸せを生み出し続ける団体としてのイメージを獲得し、共感や信頼を抱いてもらえる組織の姿を目指します。

総括

2022年度JCブランドマネジメント会議は、JCブランド≒「既に確立されたまちをより良くする団体としての記号」をマネジメントすることを最上位の目的に据え、主にSNSの発信管理、報道対応、プレスリリースの発出等、運動と団体そのもののブランディングを中心に活動して参りました。ブランドを強固にすることとは、ルールによる管理を示す場合もありますが、さらにその上位には、情報の受け手側の「興味・関心」といった情緒をしっかりと刺激し、気になる、携わりたい、参画したい、と思わせる、「社会とのコミュニケーション」が重要との観点から、自由度を担保しつつも、厳格さを失わない方針で、会議委員会の情報発信の下支えを行いました。

事業区分	事業名	事業内容
他	各種広報媒体の発信/管理	各種広報媒体の発信及び管理を行い、JCI日本に対する愛着、共感、信頼を築くような方向性でインナー/アウターブランディングを行いました。また、各会議委員会へ各種広報媒体の数値を開示し、効果的に広めるための分析材料を提示しました。
他	広報マニュアルとルールの精査刷新	広報発信手続きの精査刷新を行いました。広報審査でターゲット、広報媒体、スケジュール、KPIを確認したのち、発信内容については配信10日前までに確定としました。これにより、各会議委員会がより柔軟に発信内容を考案できるようになりました。
他	広報審査会の実施	JCブランドを毀損することなく広報発信を行うべく、広報審査を実施し、発信の事前管理を行いました。また、単年度での広報効果の検証に留まらず、次年度以降の運動にもつながるよう、事業実施後の広報検証を実施しました。
他	諸大会に関する広報発信	諸大会におけるプレスリリース及びメディア訪問、記者会見を行い、メディアをはじめ市民に対して団体の認知度向上に寄与しました。また、事後広報を重点的に行い、諸大会実施後のアーカイブ誘導を行いました。
他	2022年度京都会議「狙って広める運動のつくり方セミナー ～ストーリーのある運動は自走する～」	本セミナーでは、事業の構築段階から市民の共感を集め、信頼を構築できる広報戦略（PR=Pablic Relations→社会と運動、事業とのかかわり）を導入することの意義と、その具体的手法についての講演を行いました。
他	YouTubeコンテンツの強化による運動の発信と共感の拡大	動画企画「JCジャーナル」と題して、第一弾にて会員拡大成功LOMを取り上げ、第二弾では、議案のつくり方を外部アドバイザーから講演いただき、第三弾では、自由と民主主義のためにJCができることについて、ウクライナ情勢の現状を扱いました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
財務運営会議	議長	内山 瑛（浜松）

基本方針

外部資金の調達と長期的な財政計画によって安定的な財務基盤を確立し、JC運動の最大化ができる強固な組織基盤を構築します。

総括

本年度は、基本計画に掲げた方針達成のために、新規賛助企業の獲得・クラウドファンディングの推進・附帯収益の管理運営・JC会館建替準備会議の運営を主軸に運営して参りました。まず、賛助企業の支援・獲得については、コロナ禍後の動員が不確定ななかではありましたが、4社の新規契約締結となりました。また、クラウドファンディングでは、CAMPFIREとの連携を実施し、14件のプロジェクトで900万円を超える額の寄付をいただきました。そして、附帯収益の管理運営として、新商品の開発や附帯収益の商品拡充を行い、収益の最大化に努めました。さらに、JC会館建替準備会議の議論を支援し、青年会議所建替に関する基本計画を策定しました。

事業区分	事業名	事業内容
他	JCI日本の財源の確立及び新規賛助企業の拡大	新規賛助企業の獲得を目指しました。コロナ禍明けということで各種大会の動員に不透明さが残るなか、4社の新規賛助企業を獲得しました。
他	賛助企業との連携・管理及び賛助企業ブースの設営・対応・推進	京都会議、サマーコンファレンス、全国大会開催時に賛助企業と相互のメリットを検討し、ブースを出展していただき、各賛助企業の周知を行いました。
収2	JCI日本及び各協議会の収益部門の検証・管理	附帯収益の内容や結果を検証し、理事会に報告するとともに、対象商品の拡充を行いました。
収1	青年会議所会館の管理・運用	建て替えが検討されている青年会議所会館において、必要な修繕を取捨選別し、持続的な使用を担保するための運用を行いました。
他	JCI日本中長期財政ビジョン及び青年会議所会館の未来計画、JCI日本の財務戦略の検討	JC会館建替準備会議を設置し、青年会議所会館の建て替えに関する基本計画を策定しました。基本計画の策定にあたっては、建設内容とともに、継続的な使用を担保するための収支計画の立案に特に注力しました。
公6	災害時における資金管理マニュアルの更新・検証	災害時における資金管理マニュアルのブラッシュアップを行いました。
他	生産性向上と高速PDCAサイクルにつながるDXの運営・管理・検証	組織改革委員会の導入したDXに関して、運営を行いました。
収2	必携品の活用方法の改善	株式会社和光様と連携し、必携品の改善に努めました。BIBLE OF JAYCEEやNEW JAYCEEの電子化や、副委員長・副議長バッジの製作を実施しました。
他	相互メリットのある企業や団体との連携	JCI日本として、相互メリットのある企業や団体を検討し、連携を模索しました。
他	クラウドファンディング及び助成金の研究・実施	CAMPFIREとの連携（手数料の優遇）を実施し、2022年度は14件のプロジェクトが登録され900万円を超える額の寄付を頂きました。
他	LOMの支援をする賛助企業の紹介、協賛金の獲得支援窓口	各LOMからの協賛企業の獲得に向けた問合せや手法に関しての質問などに対応させていただきました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
財政審査会議	議長	鈴木 清実賢（川崎）

基本方針

費用対効果や選定企業に問題がないかを一般的な所見も踏まえてチェックし、適正な予算執行を遂行し、健全な組織運営へ繋ぎます。

総括

財政審査会議は事業費が適正かを見定め、指導させていただく立場ですが、単に指摘・指導をするだけではなく、議案担当者に寄り添い円滑に進められることを意識し活動してきました。
諸大会議案については、本体・子議案で数字が整合せず担当委員会は苦戦を強いられた中、審査会現地へご足労いただくことで担当委員会と協働して取り組む血の通った会議としてのあり方にも努めました。
また、昨今協議会口座の開設が難しくなってきていることから、地区担当常任理事名義にて協議会の口座を開設し、年度ごとに名義変更で使用していける持続可能な仕組みを作ると共に、理事会で協議会の議案についても報告される仕組みを次年度から実施できるようにいたしました。

事業区分	事業名	事業内容
他	予算案及び決算書の精査	「公益目的事業比率」50%以上を満たすために、諸事業費及び一般管理費を精査し、各会議・委員会と予算折衝を行い、2022年度予算案を作成しました。
他	諸事業の予算及び決算の精査	予算においては、事業における費用対効果と相対支出が徹底されているか、様式がきちんと作成されているか精査しました。決算においては、予算が適切に執行され財政面からの事業検証が十分に行われているか精査しました。
他	会議、委員会会計の指導、支援	各会議・委員会に対し、会計帳簿の作成や証憑の管理、見積書、請求書、領収書発行の注意事項等の指導・支援を行いました。
他	諸事業の支払申請	2022年度より、支払申請をより高度に仕組み化し、適切かつ確実に事業予算の支払を行いました。
他	各協議会事業の予算、 決算審査及び月次決算の指導	各協議会の財政・公益に関する相談窓口として、各副議長が担当地区を持ち指導・支援しました。
他	理事会後の勉強会における会計セミナーと協議会口座について	会計処理に関するセミナーを実施し、協議会の口座開設における課題をシェアしアンケートを実施しました。
他	監事、内部会計監査人グループとの連携、調整	判断に迷う事項、発生したトラブルについて、監事・内部会計監査人グループと連絡調整を行い、対処しました。
他	諸事業の公益目的の管理	各事業が、JCI日本が内閣府へ申請している9つの公益目的事業と合致しているか管理しました。
他	各協議会事業の公益目的に関する指導、支援	各協議会に対して、事業が公益目的に合致しているか、会計支援を通じて指導・支援を行いました。
他	協議会会計に関する相談窓口	各協議会に対して、年間を通じて会計支援を行いました。
他	各地会員会議所会計に関する相談窓口	各地会員会議所に対して、年間を通じて会計支援を行いました。
他	協議会口座の運用改定に伴う口座開設について	昨今の協議会における任意団体の口座開設ならびに同一団体による複数口座の開設が困難になってきていることを解決すべく、法人格のついた口座をJCI日本として開設し、協議会の口座運用について持続可能な仕組み化を行いました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
規則審査会議	議長	向井 大輔（明石）

基本方針

適正手続きに基づく規律正しい運営と、公益法人格の利点を活かし、JC運動の効果を最大化させるとともに、すべての規定と手続きを、JC運動最大化という目的に立ち返り、時代に即して検証します。

総括

社会及び青年会議所を取り巻く情勢が日々変化する中において、法令を遵守することは当然とし、それを越えて公益法人としてあるべき姿、団体のブランディングを企図したルールの在り方を模索し続けた1年でした。毎月行われるコンプライアンス審査会議は、従前の方法を見直し、各会議委員会、各協議会における運動の効果が最大化するための運用、書式を整備しました。また、諸規程を含むすべてのルール、運営の在り方も、従前の方法を盲目的に踏襲するのではなく運動の最大化及びLOM支援の充実を目的として再構築しました。様々な指摘に真摯にご対応くださり、コンプライアンス遵守にご協力いただきましたすべての皆様に感謝申し上げます。

事業区分	事業名	事業内容
他	コンプライアンスに基づく各会議・委員会の諸事業及び議案の審査	すべての議案に対し毎月コンプライアンス審査会議を実施するとともに、すべての外部広報内容について確認と審査を実施しました。
他	知的財産の保護とコーポレートアイデンティティに関する指導	JCIマークガイドラインを国際基準に準拠した内容へと改訂し、各協議会及び各地青年会議所へ周知しました。
他	外部アドバイザーとの連携	統一感のあるブランディングを確立する観点から、年間通じてアドバイスをいただくための包括的な外部アドバイザーとの業務委託契約を締結しました。
他	LOMの新設・名称変更等に関する支援	3つの各地青年会議所の名称変更の手続き補助と共に、現地またはWEBによる個別面談を実施し、理事会での変更認証証の授与に至るまで支援しました。
他	時代に即した規則の見直し	以下3点の諸規則の新設を行いました。 ①誰もが活躍できる青年会議所活動の基準規程の新設 ②LOMにおける休会制度利用者に対する会費負担免除規程の新設 ③WEB会議の運用に関する細則の新設
他	公益法人制度に即した定款並びに諸規則及び諸規程の把握・変更・管理	コロナウイルス感染防止対策を講じながらの会議運用について、社会情勢に応じて都度の設計をしました。また、入会可能年齢の引き下げに関して、国際基準及び各地青年会議所のニーズ等を調査しました。
他	各協議会規則の調査・支援に関する相談窓口	全地区・全ブロック協議会と連携し、規則担当者からの各事業、運営、コンプライアンスの在り方に関する質問へ対応を行いました。
他	LOM規則・コンプライアンスに関する相談窓口	各地青年会議所からのコンプライアンスに関する質問へ都度対応を行いました。
他	法人格変更に関する支援	各地青年会議所の法人格変更の要望及び質問に対し、個別対応やセミナーを開催して支援をしました。
他	業種別部会との連携及び管理・情報共有の窓口	業種別部会及び支援団体の書類窓口及び名称使用等に関する指導、助言を行いました。また、将来的な相互の関係性の構築に向けた調査を行いました。
他	会館建替準備会議への参画	青年会議所会館建て替えに関する準備会議の委員として参画し、コンストラクションマネジメント契約等の契約書類を確認、変更対応を行いました。
他	JCI日本が外部団体や企業と締結する契約書類の調査・作成・確認業務	各事業のほか、運営上必要な契約書類、賛助企業との契約等について、作成、確認、コンプライアンスの指導業務を行いました。
他	会頭署名押印の申請に対する窓口業務	対外的に発信する会頭の署名押印が必要なすべての書類について、その体裁及びコンプライアンスを確認した上で、決裁窓口としての業務を行いました。
他	監査対応業務	内部会計監査人グループ及び外部監査人の指示及び質問への回答を行いました。
他	アニュアルレポートの取り纏め及び作成業務	アニュアルレポートを各担当者から取り纏めて作成業務を行いました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
組織愛向上委員会	委員長	山口 大希（下田）

基本方針

組織内に効果的な発信することで組織愛を高め、JC運動に対する共感とメンバー同士の有機的なつながりの構築をします。

総括

メンバーが愛という前提を受け継ぎ、地域、人を巻き込んで無条件で奉仕ができる社会を構築するため、そして全国のメンバーが社会課題に挑戦し続けられるように発信を続けました。2022年は新たに公式LINEアカウントを立ち上げ、LINEメッセージ、LINEVOOMから多くの情報を発信できました。また画像の質を高め、集合写真ではなく、多くの活動の画像を発信することで運動が伝わるようにいたしました。そしてWeBelieveではビジョン、装置を始め、1つでも多くの事例を紹介し、それが社会課題解決のヒントとなりえるよう工夫いたしました。SNSも機関紙もURL、QRコードを可能な限り添付し、その記事の先への誘導を心がけました。

事業区分	事業名	事業内容
収3	組織愛が向上する機関紙WeBelieveの作成・発刊	やりました、というような集合写真を極力減らし、やるぞ!という雰囲気が伝わる発信を心がけました。記事にQRコードを添付し、記事の詳細につなげられるような掲載にこだわりました。人（メンバー）にターゲットをあて、親近感がより湧く記事にこだわりました。
他	メールマガジン及びメンバー向けSNSを用いた有益な情報の発信	記事にURLを添付することで、HPや動画への誘導を心がけました。2022年は公式LINEアカウントを新たに立ち上げ、有益な情報の発信をしました。内容をより伝えるため、画像を可能な限り多く添付しました。
他	JCアプリ利用促進への仕掛けを構築及び管理運営	3大大会への登録をJCアプリからの誘導とし、参加するファンクションもそのページから選択できるようにいたしました。その結果インストール数が大幅に増えました。アプリ内ボタンも定期的に刷新し、飽きのないアプリを心がけました。
他	JC運動を最大化させるためのメンバー同士の交流と広報戦略会議に参加	組織として、統一性のある広報発信とするため、またどのSNSで発信することが最も効果的なのか担当委員会と議論ができました。LINEという新たなツールも増えた中で、発信方法、発信ルールに関しても情報を交換することができました。
他	JCCSを活用した対内意識調査及び検証	2022年はJCCSとGoogleアンケートを同時展開し、より多くの回答が頂けるよう案内を続けました。また賛助企業からのアンケートも例年より多く実施することができました。
他	各協議会・各地会員会議所との情報受発信による情交換促進	各協議会、広報担当者とLINEグループを作成し、情報を受発信いたしました。会頭公式訪問、JCI日本役員名鑑・全国理事長名鑑の作成に関してもそのグループを活用することで合理的に進めることができました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
渉外委員会	委員長	秦 裕太郎（大分）

基本方針

JCI日本の運動が円滑に遂行されるために各会議・委員会・協議会と連絡調整を行い、LOMとの連携を強化していくことを目的とし活動いたします。

総括

日本青年会議所の運動を円滑に遂行するべくコロナの影響を鑑み、ウィズコロナを意識した設営を心掛けてまいりました。換気・消毒と感染対策に最大限の注意を払った中で前へと進むために対面で事業を行うための準備を行うことで諸会議・ 諸大会はどのような局面でも対応できる体制をとり、会頭公式訪問では47ブロックを周り各地のメンバーと直接的な交流を図ることができ、会頭を始めとした役員の皆様と近い距離で接し、直接話をさせていただいた経験はメンバーにとって得難い貴重な経験となっています。

事業区分	事 業 名	事 業 内 容
他	各会議・委員会・協議会との連絡調整	各会議・委員会・協議会と連携を取り密に連絡調整を行うことでJCI日本の運動を円滑に推進することができました。
他	会頭並びに役員の国際会議並びに諸大会参加の支援	会頭並びに役員の皆様が万全の体制で国際会議・諸大会に臨むことができるように関係各所と連携を取り参加への支援を行いました。
他	会頭並びに役員の各地訪問における運動発信の支援	会頭並びに役員の皆様が国内各地を訪問する際にJCI日本の運動が円滑に発信できるようにするため関係各所と連絡調整を行いました。
他	JCI日本役員LOM訪問及び講師派遣の対応	JCI日本の役員の皆様がLOMに訪問する際や講師派遣の依頼を受けた際に円滑に進むための支援を行いました。
他	会頭公式訪問開催の支援	コロナの影響を鑑みながらブロック協議会・関係する会議・委員会と連携をとり全てのブロックを訪問し、各地のメンバーと交流と意見交換を行いました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
総務委員会	委員長	菅原 啓太（仙台）

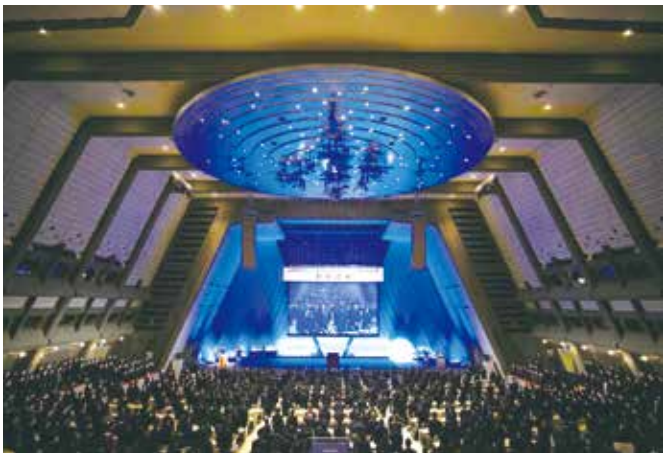
基本方針

統率された会議運営から、議論の活性化と運動効果の最大化を狙い、事業を円滑に実施できる盤石な組織体制の構築を目指します。

総括

総務委員会の成すことすべてが、スタンダードになる。そのような意識を持ち、各職務を遂行しました。様々なルール策定に始まり、当該年度として初めての事業となるスタートアップセッション、年明け最初の事業となる京都会議など、運動構築の土台づくりは総務委員会が担います。各会議委員会、各協議会の運動が、より効果を発揮するためにはどのようにすべきかといった、俯瞰的視点が重要です。また、本年度は総会の委任状並びに議決権行使書の電子化にも取り組みました。各地会員会議所でも導入でき、日本各地の運動効果が最大化するような会議の仕組みを、先進的に実施していくことも、JCI日本総務委員会の重要な役割であると考えます。

事業区分	事業名	事業内容
他	JCI日本の総会及び諸会議の設営	定時総会を1回、臨時総会を2回開催し、委任状並びに議決権行使書の電子化にも取り組みました。各協議会や各地会員会議所にも応用できると考えます。また、諸会議においては、議案上程システムの特性を活かし、上程スケジュールの改定を行いました。
他	各会議・委員会の議案の上程期限と内容の精査	各副委員長に担当グループを任せ、1年間同じグループの上程管理及び議案精査を行いました。また、各グループ室幹事にも議案確認のご協力いただくと共に、各会議委員会との連絡網を構築することによって、議案内容の精度向上に努めました。
他	JCI日本の議案上程システムの普及	本議案上程システム導入を希望している各地会員会議所に対し、個別に対応いたしました。また、本年度より本システム上での意見回答機能が付与されました。本機能の普及に際し、各協議会への説明を、必要に応じて行いました。
他	統一基本運営マニュアルの内容精査と改訂	各会議委員会及び協議会が運営を行うにあたり、会計、コンプライアンス、広報、上程マニュアル等のルールについて更新を行い、製本し配布しました。各マニュアルについては、当年度中も随時アップデートを行い、議案上程システムにアップいたしました。
他	理事長予定者セミナーの企画	2022年度は、スタートアップセッションとしました。中島会頭から、JCが社会に幸せを生み出し続ける装置をつくることを通じて、JCI Missionを果たすには何を大切にすべきなのか、ご講話いただきました。他セミナーも含め、JCI日本に対する協働意識を高める機会としました。
公5	京都会議の開催	JCI日本の運動方針発信はもちろんのこと、テーマにある通り、京都会議に参加された皆様の不安（＝課題）を、希望（＝課題解決）に変えるファンクションを多数実施しました。その目的としては、参加された皆様が希望を持ち帰り、各地域におけるビジョン策定や、まちをより良くする運動構築に取り組んでいただくことにあります。



会議・委員会名	役職名	担当者名
内部会計監査人グループ	代表	鈴木 哲也（豊田）

基本方針

公益社団法人日本青年会議所の会計監査の適正化を図るため、監事を補助します。

総括

本年度は新型コロナウイルス感染症からの影響から徐々に回復し、本会及び協議会では新たな生活様式と今までの仕組みを合わせた新たな運営が定着しつつも、口座新規ルールの開始やマニュアルの変更、次年度から始まるインボイス制度の準備など混乱や準備の年となりました。
内部会計監査人グループとしても前々年度より確立したZOOMによるWEB監査を緊急時の対応策ではなく時間や場所の効率化の手段として採用し、一部では対面監査も併用しこれまでと変わらぬ質を保ち監査を行うことができました。
本年度も公益社団法人日本青年会議所の会計監査の適正化を図るために、監事を補助するという目的を達成できたと確信しています。

事業区分	事業名	事業内容
他	中間監査の実施	上半期の議案書、財務諸表、計算書類の内容が適正か監査しました。
他	決算直前監査の実施	下半期の議案書、財務諸表、計算書類の内容が適正か監査しました。
他	決算監査の実施	1年間の議案書、財務諸表、計算書類の内容が適正か監査しました。

地区協議会・ブロック協議会

地区協議会名	役職名	担当者名
北海道地区協議会	会長	三澤 計史（千歳）

基本方針

世の中をより良くする人財の育成と、経済・社会・国際に関する課題解決に向けた運動から、誰もがあこがれる北海道を創造する。

総括

これまで多くの活動を制限してきた新型コロナウイルス感染症の影響も、本年こそは収束に向かうと期待を抱いて一年がスタートしました。結果的として世の中の不安は解消されておりませんが、厳しい情勢下においても過去から学び得た経験も交えて事業を実施する逞しさを感じることができました。また、北海道ではこれまでロシアとの民間外交と北方領土問題の解決という両局面から平和な国際社会の実現を目指して来ましたが、国際情勢の悪化から民間外交を取りやめる結果となりました。しかし、人類の同胞愛を尊重する理念のもと、今後も発展的で平和な国際社会の実現に向けた運動の重要性をより強く実感したことを次代に引き継いでまいります。

事業区分	事業名	事業内容
公5	JCフェスティバル2022	北海道をより良くする運動を発信するプラットフォームとして、産官学民の各分野から、持続可能な社会の実現に向けた知見を共有するフォーラムの実施と、感染症まん延の影響で活躍の機会を失った子供達にダンスパフォーマンス等の発表機会を提供しました。
公5	JCフェスティバル2022事業後動画配信「WITH HOKKAIDO～共創社会にむけて～」	JCフェスティバルを準備段階の様子や当日参加者の方のインタビューも組み込み、ドキュメンタリー風に編集した動画にて配信することで、事業のキーアイディアとなる「共創社会に向けた運動」の効果を高めることが出来ました。
他	第72回JCIアジア太平洋エリア会議（ASPAC）堺高石大会「ジャパンナイト」ブース出展	JCI ASPAC堺高石大会ジャパンナイトにて、北海道民のソウルフードであるジンギスカンを試食提供するとともに、全道44LOMが属している各地域の情報を募り、その情報が記載されたチラシ作成・配布することで、北海道地区が一丸となって北海道ブランドをPRしました。
公1	第8回JCカップ北海道地区予選大会	JCカップ全国大会の北海道地区予選大会を実施しました。 結果として1チームが北海道代表チームとして選出されましたが、未来を担う子供達にサッカーを通じて、チームワークやグッドルーザー精神の大切さを学んでいただきました。
公4	第53次北方領土返還要求現地視察大会	初日は国民一人ひとりが国際社会について学び考えるべく、 専門家による講演と様々な世代の登壇者による領土問題に関するトークセッションを実施し、翌日には北方領土返還要求運動の原点の地である根室市の納沙布岬にて大会式典を開催しました。
公5	第71回北海道地区大会南空知いわみざわ大会	大会テーマを「ONLY ONE かけがえのない繋がり」とし、北海道の地方都市が抱える課題を広域連携によって解決する運動モデルを構築すべく、主管したJCI岩見沢の近隣LOMと地域の皆様とともに、地域に幸せを生み出す仕組みとしての地区大会を開催しました。
公5	第71回北海道地区大会 南空知いわみざわ大会 SOUTH SORACHI TOURS	岩見沢市、美唄市、夕張市、栗山町を舞台とする「南空知まちあそび人生ゲーム」では、参加者が各地域の魅力を体験することに加えて、行政や企業、関係諸団体、小学生が自治体の枠を越えて地域をより良くする運動を共に創る新たな事例を示すことが出来ました。
他	JCI世界会議香港大会inハイブリッド沖縄 北海道ブース出展	北海道民が魅力を伝えながら提供するジンギスカンと、近年日本国内有数のワイン産地として成長している余市町産のブドウや北海道特産果実ハスカップを使用したワインを紹介することで、北海道が誇る食の魅力を発信することが出来ました。
公6	防災協定締結の推進	災害発生時に、市町村や社会福祉協議会の協力要請のもと、各地青年会議所が早期復興に向けた支援活動を行えるように、市町村または社会福祉協議会との間において防災協定を結ぶ支援を行いました。本年度は新たに6LOMと他団体の間に協定が結ばれました。
公5	公益社団法人日本青年会議所 北海道地区協議会 2022年度 広報戦略	青年会議所の価値を高め、より社会に必要とされる組織として認知されるべく、YouTubeやSNSを用いた広報を年間通して行いました。また、各事業が社会との接点をもち、事業そのものに広報の効果が内包されていくように各委員会と調整を行いました。

地区協議会名	役職名	担当者名
東北地区協議会	会長	阿部 徹（一関）

基本方針

東北の資源を活かした新たな価値創造による愛が溢れる東北を実現します。

総括

2022年度の東北地区協議会は、「東北の資源を活かした新たな価値創造による愛が溢れる東北の実現」を基本理念に掲げ、価値デザインや脱炭素の考え方、手法を取り入れ、東北の地域とLOMに強みを創ることに重点を置き運動を展開してきました。さらに、東北地区協議会の最大の目的である「LOM支援」も次世代の東北のリーダーの育成や各ブロック協議会と連携をして、LOMの課題把握や日本本会の事業や政策推進に地区の組織の機動力をもって尽力してきました。2022年の東北地区協議会の運動が、これからの日本を牽引する自立した地域を多く創り出し、東北の明るい未来を切り開いていく一助になれば幸いであります。

事業区分	事業名	事業内容
他	地域と企業の強みをつくる ESG･CSR基礎講座	(株)このほし小原祥高様にESGについて基礎、時代の潮流や今後の展望を学ぶセミナーと実際の参加者の会社での取り組みを考えるワークをWEB開催しました。
他	地域と企業の強みをつくる 価値デザイン基礎講座	講師に佐藤大介様をお呼びし、価値デザインについて基本的な考え方から、実際の事例を用いた活用方法まで講演いただきました。講演及びワークの2部構成で「価値デザインとはなにか」「実際にどのような行動をとることができるのか」という部分まで深掘りすることができました。
公5	質的カフェ～Enjoy Stay to TOHOKU～	東北青年フォーラムにて料理や食品などの価値デザイン事例を試食できるブースを設えました。試食いただいた方にその食品に関する動画を見ていただくことで価値デザインの考え方と行動のイメージを付けていただく事業としました。
公5	東北青年フォーラムメインフォーラム これからの日本は東北が引っ張る! ～カーボンニュートラル時代の地域資源活用法～	東北青年フォーラムにて講師に元宮崎県知事東国原英夫様と東北大学大学院工学研究科教授中田俊彦様をお迎えし、地域資源に価値を見出していき自立した地域を作り上げていく方法として、価値デザインとカーボンニュートラルの理解を深めるとともに今後、東北の地域や企業が持続可能な発展を続けるために、この2つをどのように組み合わせていけば良いかを考えるフォーラムを開催しました。
公3	脱炭素への取り組み、再生可能エネルギーの利活用に関する動画配信事業	カーボンニュートラルについて動画として配信することで、一人ひとりが知識を深め、会社や個人で実際に取り組むきっかけを作るために全3回動画配信を行いました。
公3	東北青年フォーラムにおけるカーボンニュートラルへの理解を深める事業	東北青年フォーラムにて東北各地で行われているカーボンニュートラルの取り組みを実際に会場で体験することで、カーボンニュートラルへの興味と理解を深め、地域企業の行動のきっかけとなる機会を作りました。
公3	SDGs推進セミナー～SDGs 1.0～	東北青年フォーラムにてSDGsに関する基本的な説明から始まり、SDGsを導入する方法や東北企業の活動事例紹介を講師の橋本長武様よりワークを交えて説明いただきました。また、会場内にスマイルパイウォーターに関する募金箱を設置し、集まったお金でウガンダに給水設備を1台設置することができました。
公4	若年層の政治参画について本気で考えるセミナー ～不安を感じるな、危機感を感じろ～	東北青年フォーラムにて若年層の政治参画についてデータやエビデンスに基づき、イェール大学助教授成田悠輔様と東北地区担当常任理事阿部徹君の対談を行いました。
公1	第8回 JCカップ U-11少年少女サッカー大会 東北地区予選大会	参加者に「グッドルーザーの精神」が定着することを目的とし、JCカップの東北地区予選大会を開催しました。
他	2022年度 東北青年フォーラム主催主管締結式	2022年東北青年フォーラム開催にあたり、東北地区協議会並びに主管青年会議所の連携を強化し、東北地区75LOMの意識を統一するために、主催主管締結式で調印式を行いました。
公5	2022年度 東北青年フォーラム 1次対外対内広報	クリエイティブディレクターと共に、東北青年フォーラムin栗原の広報を展開、東北青年フォーラムin栗原のメンバー・市民への参加促進と、共創企業様への東北青年フォーラムin栗原の周知を行いました。
他	2022年度 東北青年フォーラム 2次対外対内広報	東北地区協議会の運動や理念、過去の大会を紹介し、東北地区協議会へのご理解をいただいた上で、共に東北青年フォーラムを共創していただけるパートナー企業を募りました。
公5	2022年度 東北青年フォーラム 第3次対外対内広報	主管LOMとの連携で広報物の作成配布及びHP、SNSでの告知、地元メディアでのPR、新聞折込などの広報を行いました。
他	2022年度 東北青年フォーラム オープニングセレモニー	東北青年フォーラム開催理念への共感を生むために、連綿と受け継がれてきた大会への思いや大会理念、本大会の概要を本大会の主催者並びに主管LOMである栗原青年会議所理事長から発信しました。また、東北青年フォーラム各種ファンクションへの期待感を高めることを目的とし、各ファンクション紹介のPRを行いました。
他	2022年度 東北青年フォーラム クロージングセレモニー	東北青年フォーラムのまとめと次年度への参加意欲向上のために、総括、次年度会長候補者発表、2023年度開催地の紹介及び大会の鍵の伝達、会長メッセージを伝えました。
他	会員拡大成功LOMに学ぶ! 即実践会員拡大フォーラム2022!	東北青年フォーラムにてAWARDS TOHOKU 2022規模別拡大LOM賞の受賞LOMの理事長及び公益社団法人仙台青年会議所理事長にパネルディスカッションで成功事例を交えた会員拡大について語っていただきました。
公5	2022年度 東北青年フォーラム大会運営	「次代の新潮流を掴め!共に駆け出そう!東北の資源を活かした新たな価値の創造へ」のスローガンのもと、東北地区協議会最大の運動の発信の場として東北青年フォーラムを開催しました。
他	2022年度次世代東北アカデミー JCプログラムセミナー開催事業	アカデミー生を対象とし、JCの理念を共有し、各LOMを牽引するリーダーを育成するため、Achieve、Admin、Impact、CCの全4回のWEBセミナーを開催しました。
他	JCI ASPAC堺高石大会への参加促進計画	本年堺高石で開催されるASPACへの参加促進のために、国際の機会を知るためのWEBセミナー、JCIウランバートルとの国際交流体験の2つの事業を実施しました。
他	2022年度次世代東北アカデミー 合宿開催	JC運動を作れる人財を育成するために、インフィニティ国際学院学長大谷真樹様、鎌田長明先輩、三井陽一郎先輩、アイリスオーヤマ株式会社代表取締役会長大山健太郎様など2日間で総勢8名の講師による講演会を合宿会式にて行いました。
他	2022年度次世代東北アカデミー 事業構想発表会並びに閉校式	東北青年フォーラムにてアカデミー生による一年間の研修を踏まえた事業構築の発表と表彰式を行いました。
公5	JCI ASPAC堺高石市 ジャパンナイトブース出展事業	大阪堺高石市にて行われたJCIASPAC堺高石大会のジャパンナイトへ東北地区として「Will Last Forever TOHOKU」をテーマに、食と文化の体験ブースを出展いたしました。
他	公益社団法人日本青年会議所東北地区協議会2022年度 ～AWARDS TOHOKU 2022～褒賞事業	東北青年フォーラムにて東北地区内の事業及び会員拡大についての褒賞を行いました。本年度は、事業褒賞の最終プレゼン及び最終審査を当日会場にて行いました。
他	サマーコンファレンス2022 ブース出展 ～しくみ×波紋～事業	サマーコンファレンス2022にて東北地区のブース出展を行いました。ブース内ではコンセプトや本会のテーマに即し東北地区協議会の行うカーボンニュートラルに対するワークや発信を行うとともに、来場者へ東北の名産品を持ち帰っていただくことで活動発信に対する波紋を広げました。
他	有用な情報支援ツールの再構築	収集したアンケートの結果となるLOMの声を基軸として、東北地区アプリが利用者にとって負担とならないようなプラットフォームとして、情報発信ツールへ改修し確立いたしました。

地区協議会名	役職名	担当者名
関東地区協議会	会長	坂倉 賢（横浜）

基本方針

地域経済が好循環する首都圏の確立を目的に、多子社会の実現、国際感覚と地元愛に満ちた青少年育成、地域企業の共創の実施。

総括

2022年は、新型コロナウイルスが与えた市民の意識変革によって、長年の首都圏の課題である広域経済圏の構築を目指す絶好の機会と捉え、地域経済が好循環する首都圏の確立のために各種事業を実施いたしました。首都圏内の民間企業のイノベーションを促進する仕掛けづくりや、多子社会の実現を目的とした結婚促進事業の実施、長期的な地域活性化につながる関東地区大会の実施など、多くの外部スポンサーや協力団体と密接な関係性の上で実施してまいりました。企業版ふるさと納税を活用し、関東地区大会主管LOMの地域で何年間も規模拡大しながら実施可能な賑わい創出事業の実現や、協議会の財務状況の健全化につながりました。

事業区分	事業名	事業内容
公1	有事に備えた防災ネットワーク構築の推進計画	関係諸団体とのネットワーク構築を行い、平時より関係諸団体との連携を強固にし、発災時に即時対応できることを目的に事業を実施いたしました。
他	私たちを救う災害支援プラットフォーム構築	LINE WORKSによるプラットフォーム運用訓練を継続的に実施することで、運用の精度を向上させることを目的に、防災訓練の実施及び災害発生時にはプラットフォームを活用し、被害状況の迅速な情報収集を図りました。
公5	持続可能な雇用創出セミナー	過重労働解消を含めた職場環境改善の必要性、労働時間に関する実態調査、過重労働が企業経営に与える影響について学び、ウェルビーイング経営に必要な知識付与の一助となりました。
公5	GO!LO活！オンライン合同企業説明会	VRプラットフォームを活用した合同企業説明会を実施いたしました。VRプラットフォームにアバター登録後ログインし、関東地区の企業40社、各自治体8都県、大学生100名、一般就職志望者30名による合同企業説明会を実施いたしました。
他	0から始める会員交流 ～わかる！つくれる！メタバース交流会～	メタバースを知っていただくことを念頭に置き、初心者でも分かり易くメタバースを理解出来るために、過去のイベントの実例動画を取り入れながら重要点や、これからの現実空間とデジタル空間の融合の可能性を講演いただきました。
公2	健康経営による生産性向上セミナー	健康経営を推進することの必要性を理解いただき、実践を促すことで企業の生産性が向上するため、健康経営に取り組む企業を増やすことを目的として開催いたしました。
公2	ビジネスコンテストfor Kanto District	ビジネスコンテストの手法を用い、青年会議所メンバーのみでは解決出来ない関東地区内に存在する社会課題を解決するために開催いたしました。企業のイノベーションに関する特別セミナーも併せて実施いたしました。
公5	結～自分なりの農STYLE～	農業の抱えている課題を背景に、AIやIOTを活用した次世代型農業や6次産業についてのパネルディスカッションを実施し、学生のみならず参加者に未来の農業への可能性を見出す契機としていただくことを目的として実施いたしました。
公5	第70回関東地区大会韮崎北杜大会	目まぐるしく変化する社会に対して、多様性を矜持するために進化を掴み、新たな手法によって学びと交流の機会を提供し、教育、地域経済、新たなライフスタイルにフォーカスした各種フォーラムを実施いたしました。
公2	硫黄島渡島事業	学ぶ（事前研修・硫黄島VR作成）、体感する（硫黄島渡島）、伝わる（小冊子作成、各種メディア報道、参加者のSNS発信）を目的に事業を実施いたしました。子どもが参加出来るよう、参加者枠として確保いたしました。
公5	結～少子化問題 Let's do it together～	若者同士の出会いの機会を提供し、結婚に関わる事業を実施いたしました。関東地区内157LOMから参加者を募り、青年会議所の新たなメンバー益の構築と共に、若者の結婚や出産に関する事業のモデルケースとなることを目的といたしました。
公1	KANTO BOUSAI SUMMIT 2022	学生の防災教育を面的に広げるために、他の地域の取組について学び、自身の地域の課題や特徴を知る機会にすることを目的として、関東地区内から高校生を集め、サミットを実施いたしました。

地区協議会名	役職名	担当者名
東海地区協議会	**会長**	**新谷 剛士**（名張）

基本方針

東海地区協議会すべての会員に対して均等に機会を提供し、各地域が行っている運動を地域に広めていくことが必要である。

総括

本年度は「東海地区は大丈夫！」をスローガンに、地区協議会はLOM支援を中心に運動を展開いたしました。東海地区内の例会・事業を登録さえすれば一般市民でもeラーニングで受講可能なKIZUNAネットの運用を始め、LOM情報の発信を積極的に行えるようにしました。LOM間の防災ネットワークの連携強化をはじめ災害時の支援体制の構築を推進し、株式会社バローホールディングスとの災害時協定はコンプライアンスも含めて精査をして再締結も行いました。東海フォーラム2022では集大成として古坂大魔王を招いての新たな視点、思考をまちづくりに生かすフォーラムを開催しました。環境整備と挑戦の一年でしたが、これからも東海地区は大丈夫！と実感しております。

事業区分	事業名	事業内容
公1	JCカップ U-11少年少女サッカー全国地区予選大会の実施	7月24日（日）三重県伊賀市内どんぐりパークこどもスタジアムにてJCカップU-11少年少女サッカー東海地区予選大会を各ブロック代表4チームにて開催し、三重県代表が東海地区代表として選出されました。日本本会特別枠として愛知県代表が選出されました。
公5	東海フォーラム2022 全体事業	Go Action TOKAI!～ 鳥羽からつながる 東海のWA ～をテーマに東海地区協議会の最大の運動の発信の場として東海地区メンバーが一堂に会する東海フォーラム2022を開催しました。
公5	東海フォーラム2022メインフォーラム	東海フォーラム2022のメインフォーラムとして講師に古坂大魔王を迎え、個性派芸人としてマルチに活躍する古坂氏の経験談や考え方から新たな視点、思考学んでいただき、行動に移すことの重要性を理解していただく事業を開催しました。
公5	東海フォーラム2022 屋外事業	東海フォーラム2022の屋外事業として、「WAらう東海には福来るフェス」を開催しました。東海4県のグルメや体験ブース、ステージ演出を行い、東海地区の魅力、開催地である鳥羽市の魅力を発信し来場者の方々に体感していただきました。
公5	東海フォーラム2022 対外PR	東海フォーラム2022開催に向け、チラシ、ポスターの配布、フリーペーパー広告掲載、SNS及びホームページでの情報発信を実施し、魅力ある情報を発信することで東海地区協議会の運動に興味を持ち参加していただく対外的な広報活動を実施しました。
公5	東海ネットワークサイト構築	WEBシステム「KIZUNAネット」により、東海地区の市民やメンバーに対してJC運動を発信する環境を構築しました。各LOMにより事業動画が投稿され、eラーニングを通して各地の例会・事業にオンラインで参加できる仕組みを東海地区内に周知することができました。
他	東海アカデミー事業	積極的に地域貢献することや問題点を追及することの意義を明確にできた機会を提供できました。理事予定者や経験の浅いメンバーの満足度も高い評価を得られ、LOMに落とし込んでもらい今後のJC運動の参考にしていただける結果になったと思います。
他	防災協定締結式	局地的な災害時に支えあえる関係を構築すべくLOMの規模が近く、地理的特徴の違った、かつ距離が一定以上離れたLOM同士でマッチングを行い防災協定締結式を開催しました。
他	ASPACジャパンナイトにおけるブース出展の企画・実施	ASPACジャパンナイトにておもちゃの弓矢を使った的あてゲームを出展し、同時に事前に制作した観光動画を流しました。東海地区の魅力を他地区に向けて発信し、また東海地区内でも魅力を再認識することで国内の一体感を強めることができました。
他	東海フォーラム2022 式典	東海フォーラム2022内において、東海地区協議会の運動発信を最大化するために各委員会の活動内容を知り共感を得ていただき、東海地区協議会の運動に共感し理解を深めていただくための報告と、次年度地区会長候補者の発表を行う式典を開催しました。
他	東海フォーラム2022 対内広報	東海フォーラム2022を開催するにあたり、より多くのメンバーに参加いただくために東海地区各会員会議所会場においてPRキャラバンを実施しました。また、SNSにて東海地区各地理事長と東海地区協議会役員によるカウントダウン投稿を実施しました。
他	ブランディング及び魅力の発信	青年会議所の運動に理解と共感を得ることで会員拡大に繋げるための動画を作成しYouTube配信を実施しました。また、LOM支援として会員拡大ツールとして使用していただくために、東海地区協議会各地青年会議所への動画の配布を実施しました。

伊勢、犬山両JC
災害時支援で協定

伊勢市の伊勢青年会議所（JC）と愛知県犬山市の犬山JCが二十日、災害時の支援で協力することを定めた協定を結んだ。同様の協定を結ぶのは、双方とも初めて。

協定では、災害時に人員や物資の支援をするほか、募金活動などについても協力することが定められている。沿岸部の伊勢市と内陸の犬山市は、東海地方で近くにありながら同じ災害で被害を受けにくい地域ということで協定締結を決めた。

同日、伊勢市防災センターで、協定書の調印式があった。伊勢JCの間宮玲央理事長（[illegible]）は「困っている時に互いに助けに行けるとても力強い仲間ができる」と喜び、犬山JCの藤田一平理事長（[illegible]）は「協定では交流についても定められている。末永く交流し、互いの町づくりの糧にしていきたい」と意気込んだ。

（高橋信）

協定書への調印を終えた間宮理事長㊨と藤田理事長＝伊勢市楠部町の市防災センターで

地区協議会名	役職名	担当者名
北陸信越地区協議会	会長	渡部 雄一郎（新潟）

基本方針

魅力溢れる地域の安定経済と、高度な防災・減災力を兼ね揃えた、愛と笑顔が溢れる“HOKUSHIN”を実現する。

総括

地区の一体感を高めて組織力の強化を図るために、地区内全67LOMへと訪問をし、様々なメンバーと地域の未来について話し合いました。地区アカデミーにおいても、学びだけではなくメンバー間の交流を兼ねてサウナ施設での開催をしたことで、メンバーに実りあるアカデミーの機会を提供できました。また、北陸信越地区の特性を活かしたビジネスマッチング事業によって、複数社のマッチングが実現し、北陸信越と世界をつなぐ一歩となりました。そして、時代の変化の中で持続可能性の高い地域となるべく、地区フォーラムを開催したことで、地域の魅力を発信し、絆を深めることの必要性を伝えたことで、より良い変化へ向けた一年となりました。

事業区分	事業名	事業内容
他	第64回地区フォーラムin金沢 オープニング・式典	結ぼう「絆」照らそう「未来」～今こそ魅せる北陸信越！～とテーマを掲げ、北陸信越地区メンバーに、絆を深め、各地区の魅力を共有することで北陸信越地区が経済圏として今後確立していくことが出来ることを理解してもらう機会としました。
公5	第64回地区フォーラムin金沢 メインフォーラム	様々な地域おこしの事業を手掛けている面白法人カヤックの代表取締役CEOの柳澤大輔氏をお呼びして、地域の魅力発信方法や見せ方等を講演していただき、自身の地域や会社に持ち帰って、魅力発信のヒントを得る機会としました。
他	北陸信越地区 地区アカデミー 「ととのってアカデミー」	通常のアカデミーとは違い、サウナの聖地である「The Sauna」でサウナに入浴をしてから近くの研修施設でアカデミーを行いました。サウナとアカデミーを掛け合わせることで、受講者にとって有意義な時間を提供することができました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー北陸信越地区予選大会	地区内5ブロックより代表10チームによる北陸信越地区予選大会を実施し、大会を通じて勝負に拘らず相手を称え思いやることができる心と強靭な精神力を持ったグッドルーザー精神の育成を行いました。
他	北陸信越PRIDE事業	人的関係を深め情報共有を図ることを目的に、共通目標や一体感を持ち活動できるツールとして、拡大目標マグネットを配布しながら、地区内5ブロック67LOM各拠点を回りました。
公3	地域にサーキュラーエコノミーを推進する事業の創出	地区フォーラムと同時開催とし、サーキュラーエコノミーへの取組について講師を招き今後北陸信越地区が目指すべき循環型社会とはどのようなものか。サーキュラーエコノミーに対して、どう一歩目を踏み込むべきなのかを対談していただきました。
他	北陸信越地区とアジア地域でのビジネスマッチング推進事業	北陸信越地区のエリア特性を生かしアジアの玄関窓口として海外進出に意欲的な会員に参画していただきディスカッション形式にて開催しました。最先端でご活躍なさっている講師や、JETROさんなどにもご参加いただき、より身近に感じていただける事業となりました。

地区協議会名	役職名	担当者名
近畿地区協議会	会長	中山 吉典（東大阪）

基本方針

課題解決の運動が市民からの共感と賛同を得るために、JCの認知度向上を図り、さらにまちから必要とされるLOM支援を行い、LOMに寄り添う協議会を目指します。

総括

近畿地区協議会では、Re Design 未来への共感が織りなす愛と情熱溢れる幸せな近畿をスローガンに掲げ、理念共感型拡大グランドデザインの推進をはじめとする、LOM支援につながる取り組みや、中小企業から社会包摂の実現に向けたソーシャルファ ームの推進等の、地域社会の課題解決の取り組みを進めました。近畿地区大会高槻大会では3年ぶりにフェスを含めたフルサイズの大会を開催し、私たちの取り組んできた運動や理念を地区内メンバーに共有できたことを大変嬉しく思います。また、JCI ASPAC 堺高石大会では準備から関わることができ、近畿地区として貴重な国際の機会を得ることができました。全国各地からの来場をいただいたことに深く感謝を申し上げます。

事業区分	事業名	事業内容
他	JCI日本が推進する人財育成運動およびJC理念を伝播するリーダー育成の推進事業	アクティブシチズンの思想を広く浸透させ、持続可能な運動展開を継承するために、理念を伝播するリーダーが必要です。当事業では各ブロックと連携をとりながら、JCI AchieveやJCI Impactの受講者数向上と受講後の変化を分析しHTを目指す人財の発掘・育成を行いました。
他	組織改革を軸とした会員拡大の支援及び推進	会員数20人以下のLOMに対して意識調査アンケートを行い、会員拡大支援を希望するLOMに支援を実施しました。また、相談窓口を設置し具体的な拡大の手法の共有と、悩みや問題点の解決を手伝いました。そして会員拡大ができる組織へと変化していただきました。
他	地区アカデミー事業	JCI Impactセミナー及びロールゲームディスカッションを行い社会課題の解決のためのリーダー育成を行いました。
公2	近畿地区大会における理念共感型社会創造フォーラム	株式会社アワーズ代表取締役山本雅史様、社会学者の古市憲寿様をファシリテーターとして木戸信幸様をお迎えし、理念共感・浸透の必要性や理念が浸透した組織とは、その組織の中の個人の行動はどう変わるかについて講演やパネルディスカッションを行いました。
公5	中小企業から進める社会包摂の実現に向けたソーシャルファームの推進	インクルージョンに関する知識を得られるセミナー構築をおこない、事前調査で肯定的な意見のLOMを対象にセミナーを開催し、当事者意識を持てるよう、多様性な個性を持つ方との交流や企業、団体の推進活動事例を共有し、共生社会実現を目指しました。
公2	ICTを活用した持続可能な地域教育の推進	プログラミング技能を習得することと、思考する能力を高めることを目的とし、継続的にICTを活用した地域教育をLOM単位で実践するためのモデル事業を構築することで、各地域において思考力を備えたイノベーションを生み出す人材を輩出することを目指しました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー近畿地区大会予選大会 JCカップU-11少年少女サッカー全国大会	スポーツを通じて、相手を思いやれる強い精神力が必要となるグッドルーザーの精神と、全ての人々を孤独や孤立から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげ、未来を担う青少年と大人たちにソーシャルインクルージョンを醸成することを目指しました。
公2	近畿地区大会における誰もが活躍できる共生社会実現フォーラム	障害者のリアルについて知り、「障害」とは何か、「共生社会」とは何かを考え、様々な個性を持った方によるパネルディスカッションを通して、人を想うことを前提とした当たり前を変える小さな行動につながるヒントを引き出しました。
他	2022年度 JCI ASPAC 堺高石大会に向けた支援	ASPAC参加の意義や利点を発信するために、国際経験が豊富なメンバーやCOCメンバーを講師として、国際交流への意識向上につながるセミナーをおこないました。また、動員が困難なLOMへの動員支援を行いました。
他	海外LOMとの姉妹締結の推進	未締結LOMへの個別支援アンケート結果を踏まえ、ASPAC堺高石大会における姉妹締結式の参加促進を行いました。海外LOMとの姉妹締結を検討しているLOM、または興味を持っているLOMに対して、姉妹締結に向けての機運を高めるための支援を行い、締結に向けて具体的なプランを提案しました。
公7	地域と世界を結ぶビジネスプランの発掘事業の実施	地区内と海外メンバーでチームになり、国際的な視点で地域をアップデートするビジネスプランを構築し、相互理解を深める事業を実施しました。ASPAC中にはWEBで交流を深め、補助金申請の手助けや、専門家の助言による実現へのサポートをいたしました。
公7	2022年度 JCI ASPAC 堺高石大会におけるブース出展の実施	ASPAC期間中、大浜アリーナ前にて、アジアの魅力を発信するブースを出展と全体の設営を行いました。調理ブースをレンタルし、共にアジアンフードフェスに出展いただけるブロックやLOMのサポートを行いました。
公7	2022年度 ASPAC堺高石大会ジャパンナイトにおけるブース出展の実施	大浜アリーナ屋外にて、近畿地区の魅力を発信するブースを出展しました。ジャパンナイトではJCI関係委員会の設営のもと、海外メンバーにWEBを通じて海外メンバーにPRを行い世界に近畿の魅力を発信いたしました。
公7	近畿地区大会における地域と世界を結ぶ国際連携ビジネスコンテストの実施	地区内メンバーと海外LOMメンバーで編成したチームで、グローカルビジネスをテーマとしたビジネスプランを発表するビジネスコンテストを開催しました。企業をお呼びし、コンテストに参加いただくことで、地域の魅力、世界の魅力を知っていただきました。
公2	近畿地区大会におけるグローバルダイバーシティフォーラム「国際社会における共生」	外国人と日本人がお互いの価値観を理解し合い、争いではなく共に笑い合える関係を築くことをテーマにご講演いただきました。多様性を理解していただき、双方が接点をもって共に行動することが重要であり、協働で地域発展へ導く方向性について確認できました。
公7	GTS（グローバルトレーニングスクール）研修事業	参加メンバーが留学生と共にグループに分かれて、地域課題の解決手法について討議する過程で学び体験し、多種多様な価値観や文化的背景を持つ外国人と相互理解を深めることでグローバル人財へと成長する機会を提供しました。
公5	近畿地区大会 高槻大会 「BEYOND EXPERIENCE ～経験を超えていけ JCI EXPO2022 in KINKI～」	大阪・関西万博を見据えた事業構築を行い、万博が掲げる持続可能な社会を醸成する事業を開催しました。また各地LOMから地域の魅力を発信するブース出展や高槻市周辺の飲食ブース、大阪関西万博を見据えたブース出展を行いました。
他	I Believe～近畿の個性溢れる魅力～	地域の魅力を集約し、地域に貢献する青年会議所の運動を知っていただき共感を得るため、近畿地区内各ブロックと各LOMが行う運動の理念や思いを分かりやすく発信する媒体として、2ヶ月に1度Web広報としてI Believe～近畿の個性溢れる魅力～を発刊しました。

地区協議会名	役職名	担当者名
中国地区協議会	会長	澤田 健吾（鳥取）

基本方針

感謝でつながるまちをつくり愛で溢れる中国の実現。JC運動を最大化できる組織運営の構築、LOMを強くするブロック協議会との連携、持続可能なまちの構築に向けた取り組み、これからのLOMの在り方を考えることのできるリーダーの育成、相互理解によるニューノーマルな地域間交流。

総括

本年度、中国地区協議会では「来い！より恋！」のスローガンのもと、自ら学び成長する為に中国地区協議会にかかわりたいと思ってもらえる協議会を目指し、本質とあり方を明確にした中国地区協議会独自の運動を行うことでLOM支援を念頭に活動して参りました。更に、LOMが抱える課題を中国地区協議会の事業を通して、見識を広げることで、成長したメンバーがそれぞれの地域で課題に挑戦していけるスキルを身に付ける場所になったと考えます。今後、課題意識をもった若者たちが積極的に地域の課題に関わる地域となっていけると信じ、一年間の総括とさせていただきます。

事業区分	事業名	事業内容
公1	JCカップ U-11少年少女サッカー全国大会予選大会の実施	スポーツを通じて、子供たちの心身の健全な発達を促し、スポーツマンシップやグッドルーザー精神を養うことで他人を思いやる心と自らを律する気持ちを持つことを目的とし、試合後にアフターマッチミーティング、またファジアーノのコーチ陣3名をお招きして、子供たちにサッカー教室を実施しました。
公5	誰もが楽しめるニューノーマルな中国地区コンファレンス	中国地区コンファレンスをoViceとハイブリット開催し、中国地区内でJC運動を推進、各フォーラム・大会式典・褒賞事業・たからいちを通じ、中国地区内1,088名に登録・参加していただきました。また大会開催によるメンバー益・主管益・開催地益を通し、全てのLOM・まちで開催できる共感される大会になりました。
公6	まちのレジリエンスにつながる地域コミュニティの強化とネットワークの構築	地区内の災害支援フローを明確化するとともに、支援に関わる支援活動に対する共通認識を持つため、まちのレジリエンス確立委員会、秋冨慎司氏、業種別部会災害対策システム担当者と共に、各ブロックとの意見交換、また39LOMの理事長ならびに防災担当者の方に参加いただきました。
公6	地域コミュニティの協働による防災力を向上させる事業の実施	災害支援活動の幅を広げ防災力が向上することを目的とし、中国地区コンファレンス内のフォーラムで、秋冨慎司氏をお招きした講演、また講師に加え行政・防災担当者と理事長を交えたパネルディスカッションを実施し、多くの人に拝聴いただきました。
他	JCI ASPAC 堺高石大会の協力・参加促進・開催地支援	中国地区内の53LOMに対して公募を行い3LOMから出展いただき、準備から出展時の応援等多くのメンバーに参加してもらうことで、国際意識の向上や活動に興味関心を抱き、協力し達成することで得られる感動や出向でしか味わえない魅力を実感していただきました。
他	事業構築においての認識の統一と持続可能な事業構築の推進	目指したい姿に向かって力強く自走する内発的動機にあふれた組織の仕組みを学ぶため、中国地区コンファレンス内のフォーラムで、福谷 彰鴻氏をお迎えした講演、澤田会長と福谷氏とのトークディスカッションを行い、ビジョンについて理解を深めました。
他	時代に合わせた組織をつくれる人財を育成する地区アカデミーの開催	多様化し変化する時代の中で、自ら目標を定め、その達成に向け努力し、自らを変革していける組織運営者を育成するため、oViceにてウスビ・サコ氏をお迎えした型を破り固定観念から脱却するモジュール、福谷彰鴻氏をお迎えした知性を磨き知識や思考力を高めるモジュール、本間 玲子氏をお迎えした信念を持ちこれからの行動を変えるモジュールと計3回実施し本年度理事を含む理事以上経験者60名に参加いただきました。
他	中国地区コンファレンス（式典）	地区内の各地会員会議所が昨今の社会情勢を経ても衰退することなく運動が推進されていくために、地区協議会の運動の発信、過去への感謝、パートナーシップ構築、運動の継承を主とした式典を行っていくことを目的に、各LOMの紹介並びに中国地区協議会が開催する事業を発信、知事や市長をはじめとした来賓の方々に中国地区協議会の青年会議所の式典を見ていただきました。
他	地区褒賞事業の企画・実施	中国地区協議会内で行われている優れた事業について褒賞することを通じて事業の社会的影響を広げるきっかけとするとともに情報共有を行うことで各地会員会議所のJC運動を支援することを目的とし、地区内21LOMよりエントリーいただき、本審査会、HPでの発信を通じて情報共有を行いました。
公5	誰もが楽しめるニューノーマルな中国地区コンファレンス（たからいち）	地域住民が、共同作業を通じて自分たち自身について理解を深めることで、他者理解を促進することを目的とし、松江市内各地で地域活性化に取り組む市民や事業者、地元商店街と一緒に事業を開催し、参加者に松江文化の発信を行いました。
公5	誰もが楽しめるニューノーマルな中国地区コンファレンス（広報）	参加対象者の参加意欲を高めるため、WEB交流会「うぇぶこん」を開催し交流を通じて、大会への参加意欲の醸成を図りました。
公5	誰もが楽しめるニューノーマルな中国地区コンファレンス（フォーラム）	中国地区コンファレンス内で、中国地区内各LOMより登壇者を選定したディスカッションを行い、お互いの知見を交換することで、思い込みや価値観の刷新する機会を提供しました。

地区協議会名	役職名	担当者名
四国地区協議会	会長	谷口 雄紀（高松）

基本方針

「4つの愛が1つの未来に向かう幸せな四国」を目指す社会の姿として、各ブロック協議会と各LOMと連携し運動を展開します。

総括

四国内の4つの県がともに1つのビジョンを持ち、幸福が溢れる未来に向けて躍進するための運動を展開しました。新しいビジネスが生まれる四国の創出、強靭なインフラ整備、心の健康の促進、人財の育成という4つの観点から事業を展開しました。幸せを生み出し続ける装置を1つでも多く生み出すため、毎年人々が四国の未来を考える記念日の制定、多くのパートナーと連携したインフラ整備推進、企業と個人がメンタルヘルスへのリテラシーを実装するスキームなどを構築することができました。結果として、次年度に継承できる新たな四国の可能性を生み出すことができ、すべての人々が幸せに生きる未来という1つのビジョンを得ることもできました。

事業区分	事業名	事業内容
公1	JCカップU11少年少女サッカー予選大会	四国内四県の小学生サッカーチームを対象に各県を勝ち抜いたチームに出場してもらいサッカー大会を実施しました。勝者・敗者ともにグッドルーザー精神を学び、監督への感謝を伝えるアトラクションも設けました。
他	新トレンドビジネスの舞台として選ばれる四国の発信事業『スピーチコンテスト』	四国内4県から「四国いいかもと思える〇〇の日」をテーマに発信するスピーチコンテストを開催。最終選考に残った10名がZOOM上にて決勝戦を行いました。4月29日を「四国・幸福の日」として高知県の木下浩滋さんが受賞され、この日を記念日として登録しました。
他	企業向けヘルスリテラシー講演事業	「健康経営におけるメンタルヘルス対策について」というテーマにて大塚製薬（株）の岡田邦夫先生を講師に呼び、四国内の27LOMの理事長を中心に講演を行いました。その結果、5LOMが「青年会議所のための健康経営取り組みセミナー」を開催しました。
公5	四国地区大会記念事業『ツナガルフェスin小松島』	徳島県小松島市で四国地区大会記念事業を開催しました。メインホールではSDGsやカーボンニュートラルに関する講演で学びを、外ではキッチンカーなどで小松島の食材を生かした食事の提供を行いました。家族やお子様が楽しめるファミリーフォトやドローン体験ブースも行い、1,000人以上の来場者がいらっしゃいました。
公5	年会議所が目指す"四国ビジョン"の策定及び発信事業	スピーチコンテストで決まった「四国・幸福の日」のポスターやカレンダーを作成し、男女問わず言葉を定義した子育て世代の四国ファンが活躍できる社会へ向けて意識高揚できるビジョンの策定と、それらを効果的に継続発信していきました。
公5	青年会議所が目指す"四国ビジョン"を発信するためのサマーコンファレンスブース出展事業	サマーコンファレンス2022にて、スピーチコンテストで決まった「四国・幸福の日」をPRし、ブース来場者への声掛けで四国ファンを増やすとともに、後日のメール等で四国の魅力をより発信できる拠点を創りました。
公5	COME ON SHIKOKU 新幹線 ～さぁ、次は四国の番だ！～	四国に新幹線は必要なのか？という議題をもとにシンポジウムを開催しました。学生や一般市民にもご登壇いただき、新幹線の有効活用の方法に対して議論しました。当日の様子はYahooニュースにもなり、5万人近い方にこの議題を知っていただく機会を醸成しました。
公6	みんなで助け合える四国！ 情報集約システム『みんたす』ブラッシュアップ事業	2021年から始まった災害時の情報集約システム『みんたす』をアカウント登録しなくても閲覧可能な形にブラッシュアップしました。四国内の27LOMの防災関係者とLINEで結びつけ、緊急時に対応できるグループを作成しました。
公6	個人向けヘルスリテラシー事業	「メンタルヘルスポット」という気持ちをリフレッシュする場所をヒアリングし、まとめたGoogle Mapを展開しました。コロナ禍においてメンタルの不調者に向けた気持ちの改善に一役買う事業の展開となりました。
他	ASPACブース出展事業	ASPACにて四国の名産品を出店するブースを展開しました。JCI高松の焼うどん、JCI坂出の骨付き鳥を食事でき、行列が出来るブースの展開を行うことができました。
他	四国地区大会記念式典事業	四国地区にて初めての家族参加型の記念式典を開催しました。数多くの家族が参加するとともに、次年度の会長及び開催地LOMの発表も行い、厳粛な式典を開催することが出来ました。

地区協議会名	役職名	担当者名
九州地区協議会	会長	川越 英和（宮崎）

基本方針

次代のためにより良い変化を起こし、愛が溢れる九州をつくる。

総括

2022年度は「九州連携」という言葉をキーワードに、様々な事業運動を展開してまいりました。九州コンファレンス2022 in 糸島では3年ぶりの実地開催となり、3つのフォーラムやAWARDS、大懇親会、大会式典を開催し九州地区内の多くのメンバーにご参加いただくことができました。また、全国大会おおいた大会の全面的な支援や各種大会においてのブース出展など九州の魅力を全国に発信しました。さらに、今までは3者による防災締結を結んでおりましたが、今年度は沖縄地区協議会を加えて4者協定を締結するなど地区の垣根を超えた防災連携強化を図りました。様々な事業運動を通じて、今後も持続可能な九州の発展に寄与することができたと確信しております。

事業区分	事業名	事業内容
他	九州コンファレンス2022 in 糸島 大会式典	3年ぶりの実地開催となった九州コンファレンスでしたが、これまでの開催方法を生かしての実施とWEBでの開催となりました。アーカイブ配信も取り入れ、時代にそぐった大会式典となり多くのメンバーに運動を発信することができました。
公5	九州コンファレンス2022 in 糸島 未来のために ～One step tomorrow～	本フォーラムは、今後DXに対しての意識を高め九州地区内の企業でDXを推進するために、ダイヤ精機株式会社の諏訪社長、都城市デジタル統括課の佐藤氏をお招きし、民間企業や行政のDXの取り組みをクロストークにておこないました。
公5	九州コンファレンス2022 in 糸島 ～新しいまちづくりのカタチ～	講師に、衆議院議員 石破 茂氏、元衆議院議員 杉村 太蔵氏、歴代会頭 鎌田 長明氏をお招きし、持続可能な循環型社会（まちづくり）の実現に向けたディスカッションをしていただき、今後の地域の在り方について発信しました。
公5	九州コンファレンス2022 in 糸島 九州の未来予想図！ ～レジリエンスフォーラム～	講師に、アパホテル株式会社 取締役社長 元谷 芙美子氏、コーディネーターとしてフリーアナウンサーの斉藤 ふみ氏をお招きして多角的な視点からレジリエンスについてご講演いただき、市民の皆様も巻き込んでの事業となりました。
他	九州コンファレンス2022 in 糸島 AWARDS KYUSHU 2022	九州78LOMから2021年に実施した40の事業をエントリーいただき、4つの部門と会員拡大部門から最も優れたと判断しました事業に対して表彰をおこないました。
公1	JCカップ U-11少年少女サッカー大会 九州地区予選大会	参加者のコミュニティの活性化と健全な身体と豊かな精神を育む運動を展開するために、例年の1日開催から1泊2日開催に変更して実施しました。また、日本サッカー名蹴会や日本ろう者サッカー協会に協力していただきサッカースクールも開催しました。
公5	九州防災連携ネットワーク確立	いつ起こるか分からない災害に対して迅速な対応ができるよう、九州地区協議会、九州社会福祉協議会連合会、九州防災減災対策協議会に加えて、沖縄地区協議会とも連携し4社協定を締結しました。
他	九州地区アカデミーの開催	九州地区内のメンバーを対象に「愛と希望をカケル！」のスローガンのもと、阿蘇の地で2日間に渡るアカデミーを開催し、JCI公式プログラムの受講や、株式会社エンカレッジの森本様を講師としてお迎えし、体を使った問題解決の方法を学びました。
他	JCI ASPACジャパンナイトブース出展	九州の魅力発信のために推進しているSMILE by KYUSHUプロジェクトの周知拡散をおこなうとともに、九州が誇る、宮崎牛、鹿児島黒牛のふるまいをおこない九州の魅力発信を実施しました。
他	第71回全国大会おおいた大会 ブース出展	大分宇宙港をはじめ、九州各地で宇宙産業創出に向けた動きが高まっており、宇宙産業を九州の新たな魅力として発信するために、宇宙食用に開発されたフリーズドライ工法で生まれた、たこ焼きとアイスクリームのふるまいをおこないました。
他	JCI 世界会議 ジャパンナイト ブース出展	九州の郷土料理や特産品を飲食していただき、食文化を体感していただくために、からし蓮根と、九州7県の焼酎を集めふるまいをおこないました。
他	第71回全国大会おおいた大会への参加促進	全国大会おおいた大会に多くの動員を図るために九州地区協議会のネットワークと発信力を最大限活用し、 各地キャラバンや地区内の動画作成を実施し、発信をおこないました。

地区協議会名	役職名	担当者名
沖縄地区協議会	会長	山内 さとみ（宜野湾）

基本方針

個が輝き愛と笑顔が溢れる沖縄の実現を基本理念とし、スローガンに「For One Vision ～愛と笑顔が溢れる沖縄～」を掲げ、事業運動を行いました。

総括

今年度はまちのビジョンの策定推進を沖縄ブロック協議会と共に行い、全LOMビジョンの策定が実現いたしました。さらに策定したビジョンを地区大会にて会員で共有したことにより、より地域に根差した運動を生み出し続けることができるようになったと確信しています。また、本年は本土復帰50周年という節目の年にあたり、現在の沖縄が抱える課題解決を中心とした事業を複数実施いたしました。未来の沖縄は地域のために今、活動をしている私たち行動により創られていくという認識をメンバーで共有し、本年1年間どの事業に対してもどのような沖縄にしたいのかを常に意識して取り組み、地域に良い影響を与える事業を行うことができました。

事業区分	事業名	事業内容
公2	人を豊かにするいい企業とは？ ～本土復帰５０周年記念！多角的視点で沖縄の未来をリードしよう～	本年5月に本土復帰50年という節目の年を迎え、今後さらなる沖縄県の発展を目指すためパネリストを招き、沖縄県の現状把握及び課題分析し、経済人が行うことができる課題解決策について来場者と共に考える機会の創出を行いました。
他	地区アカデミー ～ニーズを捉えて地域で輝くリーダーとなろう！～	各LOMの正副役員を参加対象とし、JCI Impactを活用して役員相互の交流を図りながら、沖縄地区に存在する実際の地域課題をもとに原因分析を行い、LOMの事業として何をするのが最もインパクトを与えることができるか議論を行いました。
公1	みんなたのしくボッチャ大会 ～障がいのある人もない人も共に暮らしやすい社会を～	沖縄の未来を担う子どもたちが内なる偏見をもたないように、本事業では参加対象者を小学生とし、互いの個性を認め尊重しあう関係を構築することを目的に健常者と障がい者が同チームとなってボッチャゲームを行いました。
他	2022 JCI ASPAC 堺高石大会 ジャパンナイト 地区ブース出展	大会参加者に沖縄の魅力を発信するため、沖縄の伝統的な食の一つである沖縄そばや、これから沖縄の新たな県産品として注目されているパタフライピーティーの提供を行いました。
公5	２０２２年度沖縄地区大会第１部パネルディスカッション「地域活性化の鍵＃ミライに届けたい明るい沖縄」	沖縄県における諸問題解決、経済格差解決のために著名な経済人を招き、地方ならではの強み、地方創生の成功モデル、実績、地方から創る日本、中期ビジョン等についての講話、「沖縄における現状把握」のできるパネルディスカッションを行いました。
公5	2022年度沖縄地区大会 「和睦郷里～あなたが想う沖縄の未来、あなたが創る新しい沖縄～」	本大会で学び得た情報をもとに今後の沖縄・地域の未来ビジョンについてより深く考え、より良い方向へ運動を進めていくための起点の場として地区大会を開催いたしました。
他	まちの輝くビジョン発表会 ～まち×JCI と共に未来を描こう～	各地域のニーズや課題を把握し、県内各LOMと地域連携を図り、よりよい未来を目指す姿を明確化し地域によりコミットしたJC運動を続けていく装置の役割として、まちの輝くビジョンを地区大会にて発信を行いました。
公1	JCカップ U-11少年少女サッカー大会沖縄地区予選大会	子どもたちにグッドルーザー精神を育むことを目的にJCカップU-11少年少女サッカー大会沖縄地区予選大会を実施いたしました。
他	意外に身近？「難病」を知って支援しよう	沖縄の経済をこれからけん引していくであろう青年会議所の会員が、内なる偏見を解消し、難病に対する認知や理解を高めるため、企業・事業者の立場から行うことができる難病患者の自立支援についての勉強会を実施いたしました。
他	地区アカデミーリーダー育成虎の巻	次年度理事長や副理事長、委員長予定者等を参加対象者とし、JCI Exploreを活用して、JCIやLOMの組織構造、単年度制組織における引き継ぎの重要性等について学んでいただきました。
公5	JCプラットフォーム ラブ×PAY	県内（外）の青年会議所に所属している企業と繋ぎ、それぞれ課題解決の情報交換やビジネスニーズを可視化する、沖縄県循環型経済に特化したプラットフォームを構築いたしました。
他	JCI世界会議ジャパンナイト ブース出展	「ジャパンナイト」という対内事業を利用し、日本全国から集まるこれからの各地域を担う青年経済人の方々に、沖縄県の食文化として琉球王朝の時代から続いてきた泡盛の試飲会を実施いたしました。
他	2022年度沖縄地区協議会・沖縄ブロック協議会総括発信・褒章授与式並びに合同卒業式	沖縄地区協議会及び沖縄ブロック協議会が本年実施した各事業を総括し、発信するとともに、各地青年会議所が実施した事業・運動に対して褒章授与を行いました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
北海道ブロック協議会	会長	玉田 尚久（岩見沢）

基本方針

理念共感拡大グランドデザイン推進のもと、会員拡大・組織改革・人財育成の点で、各LOMと情報交換し、総合的な支援に資する。

総括

「JCとは何か」を教示できるメンバーが少ない現状において、2月の各4エリアにおけるウィンターコンファレンスを皮切りに、JCIアチーブを基本とした理念教育に力を注ぎ、北海道第1号の理念共感プロモーターが誕生してからは、実に37回の理念教育セミナーを全道各地で実施しました。また、各LOMが抱える課題の1つに会員減少が挙げられますが、北海道地区大会を主管したLOMのメンバー数が増加していることからも、高い壁への挑戦を通じてギラギラと輝いているメンバーの姿に地域の若者は魅了されます。そして、JCで得られる真の達成感は挑戦の先にしか生まれません。次年度以降も40歳までという限られた発展と成長の機会の活用を期待します。

事業区分	事業名	事業内容
他	道南エリアウィンターコンファレンス並びにアカデミー研修塾開校式	2022年度のJC運動の方向性を道南エリア12LOMのメンバーに共有するとともにアカデミー研修塾生を対象に理念教育の浸透を図った。また、メンバー間の交流を通じて、道南エリアの合言葉である「結束の精神」を確認した。
他	道央エリアウィンターコンファレンス並びにアカデミー研修塾開校式	2022年度のJC運動の方向性を道央エリア15LOMのメンバーに共有するとともに理念教育の浸透を図った。また、アカデミー研修塾生を対象にオリエンテーションを実施し、1年間の個別目標を設定することで、行動意識喚起を行った。
他	道北エリア大雪会議並びにアカデミー研修塾開校式	2022年度のJC運動の方向性を道北エリア9LOMのメンバーに共有するとともに理念教育の浸透を図った。また、メンバー間の交流を通じて、道北エリアの合言葉である「道北はひとつ」というLOM間の連携強化と仲間意識の向上を確認した。
他	道東エリアウィンターコンファレンス並びにアカデミー研修塾開校式	2022年度のJC運動の方向性を道東エリア8LOMのメンバーに共有するとともに理念教育の浸透を図った。また、アカデミー研修塾生を対象に道東エリアの歴史や各LOMの伝統や魅力を伝えることで、地域を担うリーダーの当事者意識の醸成を行った。
他	全道アカデミー	公益社団法人日本青年会議所北海道地区協議会2018年度会長の中村圭先輩の自らの経験を基にしたご講演から、やる氣スイッチがもたらす変化や効果をアカデミー研修塾生に伝えていただき、JC活動や運動への挑戦意欲を高めた。
他	道南エリア大会並びにアカデミー研修塾開校式	各LOMの活動や運動の集大成を発表し、地域課題の解決手法を共有することで、地域の垣根を超えた情報交換の場とした。また、スピーチコンテストにおいて、アカデミー研修塾生が1年間で得た経験を発表することで、JCで得られる成長を実感していただいた。
他	道央エリア大会並びにアカデミー研修塾開校式	各LOMの活動や運動の集大成を発表し、地域の垣根を超えた意識共有事業を行った。また。アカデミー研修塾生が第2回研修塾で自ら設定した目標に対して、1年間でどこまで達成できたかを確認するとともに次年度以降の目標を発表する場を設けた。
他	道北エリア大会並びにアカデミー研修塾開校式	コミュニケーションプログラムにより、人に「伝える」ではなく、「伝わる」コミュニケーションについて学ぶ場とした。また、アカデミー研修塾生には、1年間の事業構築の大変さや楽しさの振り返りをしてもらうことで、次年度以降の活動意欲の向上につなげた。
他	道東エリア大会並びにアカデミー研修塾開校式	各LOMの活動や運動の集大成を動画にて発表した後、クロストークを行い、地域の垣根を超えた意識共有事業を行った。また。アカデミー研修塾が1年間で得た出会いや学びを発表することで、次年度以降の参画意識を高めた。
他	理念共感拡大グランドデザインの周知及び組織運営支援	2022北海道BC拡大担当者連絡網を活用し、会員発掘会議の拡大セミナー（6回）やショーケース、育LOMガイドブックなどを共有した。また、支援メニューにない会員拡大に関する課題が生じた場合、地域の実情に即した解決方法を調査研究し、共に解決へと導いた。
他	理念共感から拡がる会員拡大	各LOMにおいて、理念共感プロモーターによる理念共感セミナーを37回実施した。入会者を増やし、人を入れる組織づくりから、退会者を減らし、地域の青年が自ら入りたいと思われる組織づくりの一助とした。
他	LOMがつくるまちの中期ビジョン策定の支援推進	各LOMにヒアリングを行い、中期ビジョン策定に意欲的な23LOMとグループを作成し、ONE FOR JAPANカリキュラムの開催に際し、参加動員を行った。また、中期ビジョンを新たに策定したJCI網走、JCI砂川、JCI美唄にご協力いただき、ビジョナリシティ会議に提出した。
他	北海道地区アカデミー	入会年度が浅いメンバーが運動をつくり出せないという多くの声をもとに、各エリア・各LOMにおいて、JCI Impactを実施した。本会運動プラットフォーム構築委員会と連携し、少数LOMでも講師による費用負担が生じないようにWEB開催でも対応し、好評を博した。
公2	若者世代の政治参画を考える～未来を変えるために2022～	若者世代の政治参加をもっと身近なものにすることを目指し活動されている団体と北海道の大学生にパートナーとしてご参加いただき、WEB上でのディスカッション形式で動画を作成し、選挙が行われる7月10日から執行日までの期間にアーカイブ配信を実施した。
公5	ベビーファースト運動	子どもを産み育てやすい環境や社会をつくり出すため、北海道知事や関係行政首脳陣と対談し、「"子どもが主役 地域で支える北海道"子育て世代のトップランナーを目指します！」との鈴木直道北海道知事によるベビーファースト宣言を実施した。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
青森ブロック協議会	会長	大山 慎司 (八戸)

基本方針

ブロック内各地会員会議所の支援を念頭に活動をし、会員、市民と共に自信と誇りを胸に抱き笑顔と愛が溢れる青森を創造します。

総括

まずは本年、青森ブロック協議会へブロック内各地会員会議所より出向していただいたメンバー、そしてブロック協議会の運動へご理解、ご支援を頂いた全ての皆様に心より感謝申し上げます。本年、青森ブロック協議会は協議会として各会員会議所へ支援を行う団体と捉え事業を展開させていただきました。コロナウイルス感染拡大の期間から2年が経過した今だからこそできることを考え、各会員会議所へ優良な情報の提供と見本となることができる団体を目指し2022年度をスタートさせました。各委員会が協議会の目的を理解し、一年間しっかりと活動を行ってくれたと考えます。協議会として各地会員会議所へどこまで支援ができたのか、寄り添うことができたのか不安なところはございますが、本年の活動を検証し、2023年度に引継ぎ、青森の明るい未来への一助を担うことができているのであれば幸いと考えます。

事業区分	事業名	事業内容
他	アカデミー大学開校式及び第一講座	青森市にて二日間にわたり開催し、1日目まちの魅力に触れ合い、体験や講話をもとに、まちの現状や課題を調査分析する力を養いました。二日目はJCカードを用いて、JC活動を模擬体験することで新しい「気付き」を得ることができたと考えます。
他	アカデミー大学第二講座	三沢市にて二日間にわたり開催し、一日目はまちの魅力に触れながら、塾長が講師となり、塾生同士でワークショップを行い企画・立案する力を養っていただきました。二日目は、一日目に模擬理事会にて、一日目に企画立案したものを上程する経験をしていただきました。
公4	センキョノススメ	政策に対して、次代を担う若年層の意見が反映され、若年層が行動を起こしたいと思える社会を目指し、事業を開催しました。学生団体リンディールをパートナーとして、主に高校生に選挙の重要性や参加する意義を説明しました。
公5	アオモリサマーサミット メインフォーラム	講師にゴルゴ松本様をお招きし、講和内容を「命の授業～笑顔と愛が溢れる青森へ～」というタイトルで講演していただきました。今一度自分と向き合うきっかけとなり、県民一人一人が未来へ向けて希望を持つことで、笑顔と愛が溢れる青森に成長に繋がるものであったと考えます。
他	アオモリサマーサミット 大会式典	青森ブロック協議会次年度へ向けた青年会議所への帰属意識が高まる場を目的とし、開催しました。青森ブロック協議会各地会員会議所会員をはじめ、来賓の皆様で、青森にかける思いと、アオモリサマーサミットin MISAWAの実施に至る青森ブロック協議会役員が一丸となったと考えます。
他	アカデミー大学第三講座	塾生が第二講座で考案した企画を第三講座では事業として開催しました。むつ市にて、渓流シャワーウォークを人と人とのつながりの重要性を理解し、運動を起こす人財を育成することを目的とし開催しました。
公1	JCカップ	青少年がスポーツを通じて、グッドルーザーの精神に基づき、互いに競い合いながら心身の成長を図り、関わる全ての人々に対して、青少年育成の当事者である意識の高揚を目的とし開催しました。
他	アカデミー大学第四講座	第四講座では「検証」をテーマに講義やグループワーク形式で検証の仕方や重要性について学びを深めていただきました。事業を検証するにあたって大切な事をアカデミー大学で用意した事業素材をもとに理解を深めていただきながら、実際に行われた事業を検証しました。
公5	SDGsクリニック	SDGs認知度と関心度向上の為の手法として、県内企業のSDGsを紹介する動画を撮影し、配信しました。ターゲットを県内の高校生に絞り視聴していただき、拡散をしていただくことで、SDGsの認知度や意識変化を促しました。また、視聴していただいた高校生の意識変化をアンケートを用いて集計しました。
他	アカデミー大学閉校式	これからのLOMでの運動や活動への意識高揚を図ることを目的とし、閉校式を開催しました。閉校式にて、最優秀塾生、優秀塾生を発表しました。また、大山会長から激励のお言葉を頂戴し、次年度以降の活動に対する意識の高揚を図りました。
他	輝く青森事業アワード2022	県内各地の素晴らしい事業を共有し、新たな手法などを各LOMに持ち帰っていただき、県内各LOMの発展に繋げていただくことを目的とし、開催しました。コンテストの審査を2部門(青少年・まちの魅力)に設定し、会長、各ロム理事長から採点をいただき表彰しました。
他	輝く青森拡大アワード2022	拡大を褒賞の対象とすることで、各LOMの拡大・組織運営に対するモチベーションの向上を目的とし、開催しました。各ロムから本年度の拡大率を算出していただき、拡大率が高いロムに賞状と景品を差し上げました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
秋田ブロック協議会	会長	貝森 大樹（大館）

基本方針

自分が自分らしく、あなたがあなたらしく輝き続けられる個人、組織、運動を生み出すべく理念の共感拡大を推進してまいりました。

総括

2020年から続くコロナ禍での運動や活動の在り方を求められる2022年度となりました。今年は事業を延期するなど徹底してリアル開催にこだわり、鈍かった現地参加者も事業を重ねるごとに増えていきました。特に、秋田で脱炭素社会を実現するために開催したメインフォーラムでは、事前にYouTube等で告知と事前学習を兼ねた情報を配信し、事業当日は参加者262名を対象に、脱炭素社会に向けて日ごろから取り組める内容を多くの市民の皆様と学ぶことができました。また、理念共感を軸として、JCI公式セミナーや座談会などを複数回実施し、JCや会員一人ひとりの理念について理解を深め、共有できる時間を取ることで、会員の資質向上にも役立てることができました。

事業区分	事業名	事業内容
公1	わんぱく相撲全国大会出場サポート	自らの目標に向かって努力する気持ちと、礼儀礼節の大切さ、他を慮る精神の養成の涵養を目的とし、JCI東京主催のわんぱく相撲全国大会に出場する小学4年生・5年生・6年生男女別に対して引率等の支援を行う事業。
公1	JCカップサッカーU-11 少年少女サッカー大会	参加する選手の協調性や連帯感を育み、相手を讃え合う精神と助け合う心の育成を目的とし、JCI日本が主催する全国大会に合わせて開催された秋田予選大会。12チーム参加。
公4	選挙における各種討論会の実施	秋田県民の政治参画意識が向上することを目的とし、第26回参議院議員通常選挙に合わせて秋田選挙区の立候補予定者の方々から政策について討論いただく事業。立候補予定者6名中3名、参加者29名にて実施。
公5	秋田ブロック大会メインフォーラム	カーボンニュートラルの実現に向けた意識を醸成し、一人ひとりが行動するきっかけとなることを目的とし、一般社団法人あきた地球環境会議や芸能人の方々を招いて開催されたフォーラム。参加者262名にて実施。
他	合同懇談会	各LOM、ブロックの運動の方針にメンバーから理解と共感を得ることを目的とし、秋田ブロック協議会役員、各地会員会議所理事長よりそれぞれ2022年度基本針及び事業計画についてご説明いただきました。メンバー72名参加。
他	秋田ブロック大会	秋田県内各地域から運動や理念に共感を得ることを目的とし、 セレモニーや次年度の会長候補者やブロック大会開催地などを発表しました。会員100名、来賓38名参加。
他	ブロック内褒賞事業	メンバーの意識向上、地域の方々に運動やその理念を知っていただくことを目的とし、県内各LOMの事業を発表し褒賞したもの。審査員4名、メンバー94名参加。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
岩手ブロック協議会	会長	及川 貴也（遠野）

基本方針

心の豊かさ溢れ、岩手の風土と地域資源を活かした価値創造から、まちにより良い変化をもたらし愛が溢れる岩手の実現。

総括

本年度は理念共感を基軸に、アカデミー事業では理念を行動化できる人財の育成や理念を浸透させるべく、JCI公式コース、JCI日本公認プログラムを活用した事業を行ってきました。また、ブロック大会では豊かな地域資源を活かした質的価値社会フォーラムや個人レベルでも取り組んでいかなければならない脱炭素社会の実現に向けた環境フォーラム、企業やメンバーブース出店など、様々な情報発信により、幸せを生み出し続ける装置として市民の意識向上、持続可能な地域の実現に寄与できたと考えます。その他にも、いわて高校生政策甲子園や交流会の実施など、岩手県内により良い変化をもたらす運動を推進できたと確信しております。

事業区分	事業名	事業内容
他	第39期いわてJAYCEEアカデミー（開校式、第1～第4講座、閉校式）	年間の運動を通じて仲間づくりの起点とし、本質を見極め方、能動的に運動する必要性の理解、自身の考えを他者に伝えることの重要性を学び、事業を通じて得た経験や仲間とのつながりを活かして、地域の課題解決へ向けて率先して取り組む意識を高め合いました。
他	理念共感拡大事業「IWATE Growing Seminar」（第1～第4講座、成果報告会）	組織の基盤強化とJCの理念を理解した能動的なリーダーが生まれ、社会を変え続けることを目的とし、JCI公式5コース、JCI日本公認プログラムを開催しました。成果報告会では、地域、LOMに必要な要素は何かを分析しこれから自身がどのように行動するか発表しました。
他	多様性のある組織に向けた交流会の実施並びに組織強化に向けた調査・研究	メンバーが多様な価値観や考えに触れ、自身の成長に繋げてもらうことを目的とした交流会を実施し、年間を通して各LOMと連携し、メンバーがより活躍しやすい環境の整備に向けた支援を実施しました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー予選大会	次代を担う子供たちに、多様性、参加の喜び、相互理解を理解していただくために、勝負に負けても相手を称えることができる心豊かな道徳心の育成を目的とし実施しました。
公5	第51回岩手ブロック大会inみやこ	岩手ブロック協議会最大の運動発信の場として、まちにインパクトを与え、新たな価値の創造から会員並びに一般参加者の意識向上や意識変革を図るとともに個人のみならず企業、団体との連携により心の豊かさ溢れた岩手の創造を目的に実施しました。
公5	質的価値社会フォーラム～自立した地域の創造～	持続可能な地域を創り出す意識の向上、地域内経済循環を見据えた質的価値を広めることを目的とし実施しました。
公5	教えて！天津木村先生！～気候変動×エコアクション～	脱炭素社会への理解を深め、地球環境の問題解決に向けて行動する意識の向上を目的とし実施しました。
公5	いわてJAYCEEアカデミー「とおの体験パーク2022」	地域のポテンシャルを引き出し、より良い地域の実現には周囲を巻き込み、自らが率先してアクションを起こすこと、対外には交流人口増加に向けて、地域の食・伝統芸能・文化などへの興味関心を高めてもらうことを目的とし実施しました。
公2	いわて高校生政策甲子園	多角的な視点から地域を見直すきっかけとしてもらうとともに、高校生が身近な地域課題について考え、郷土愛を育むことで、政治参画意識の向上を目的とし実施しました。
他	特別対談「Let's try 出向 ～成長の機会を掴み取ろう！～」	出向を通じて、LOMとは違った事業の規模感、全国に広がる青年会議所のスケールメリットを活かした事業構築等、自身の成長に繋がる機会を得るとともに、地域でより良い運動を展開していくためにも、各LOMのメンバーが出向の魅力や価値を知るため実施しました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
宮城ブロック協議会	会長	尾形 長治（気仙沼）

基本方針

「誰もが希望を描ける愛が溢れる宮城の実現に向かって」をスローガンに運動を展開し、県内11のLOMに11通りの支援を行うこと。

総括

各地域の発展と各LOMの運動推進力を高めるために、運動論を突き詰めた運動の展開と、人材育成と組織力向上を軸に運動を展開しました。なお、新型コロナウイルスの対応は、この2年間の知見を活かし、全事業を完全実地開催としました。そして、運動推進を通じ、各LOMにおいてJCの理念の醸成、青少年育成と防災意識・当事者意識の向上を県民に図りました。また、当協議会の使命である県内のLOMに対しての支援は、例会や事業への訪問のみならず理事会や委員会へ参加し、様々な対話と訪問を通じて得た情報を基に実情に合わせた支援を展開しました。本年の運動が、より良い地域社会の実現、各LOMの運動推進に繋がるものと確信しています。

事業区分	事業名	事業内容
他	みやぎJCアカデミー委員会開校式	入会3年未満の会員を対象にした1年間のプログラムであるみやぎJCアカデミー委員会の開校式では、年間活動計画の共有とともに、東北地区協議会歴代会長2名から、JC活動と運動の意義を伝えていただき、インパクトを起こせるリーダーを目指す意欲を高めました。
他	理念共感拡大事業	日本青年会議所理念共感拡大会議より副議長２名とブロック会長によるクロストーク、　並びに拡大担当者によるワークショップを行い、その後各々のアクション宣言を行いました。JCの理念の理解を深め、理念を基に行動する人財としての契機となりました。
他	みやぎJCアカデミー委員会3月事業「Make it better!～リーダーへの一歩を踏み出そう～」	第1部でJCI Discoverを受講し、第2部ではACFを活用した課題のディスカッションを行いました。JCの使命と存在意義を理解した上で、地域の課題を解決へと導く運動を考えアウトプットしたことで、地域課題を解決するリーダーとしての資質を高めました。
他	みやぎJCアカデミー委員会4月事業「未来へつなぐ 防災プロジェクト」	第1部では2019年の豪雨災害を経験した宮城ブロック歴代会長の講演、第2部では企業・社会福祉・学生の3つの観点から防災減災の課題をパネルディスカッションし、潜在化した課題の認識と、課題解決に向けてのパートナーシップの重要性を認識しました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー全国大会宮城県予選大会	宮城ブロックでは初開催となるJCカップは、県内12チームにご参加いただきグッドルーザーの精神を通じて子供たちの社会性を養いました。また、会場をJCI気仙沼が住民と共につくったグラウンドを使用したことで、LOMの運動を昇華することにも繋がりました。
公4	第26回参議院議員通常選挙に伴うネット討論会～未来をつくる子供のために～	第26回参議院議員通常選挙宮城選挙区。YouTubeにて配信しました。当日に急遽都合がつかなくなった1名を除く4名の参加によって討論が行われ、子育て世代の声を集めたアンケート結果を基にした討論が行われ、立候補予定者の政策を周知することへ繋げました。
公5	第52回宮城ブロック大会in泉 イロトリドリ～多様な価値の源泉となれ～	JCI泉主管による第52回宮城ブロック大会はメインファンクションや各種フォーラム、地域の魅力の発信を通じて、多様化する現代において、まちづくりへの当事者意識を高め、独自性を活かしたまちづくりを推進する契機となる大会になりました。
他	みやぎJCアカデミー委員会8月事業「進もう！変わりゆく未来へ!!」	JCI Adminを受講しJCの組織の在り方を理解した上で、それぞれの所属LOMがどのようにあるべきかをディスカッションしたことで、組織の中で自身の今後のビジョンを持ちLOMの組織力をさらに向上させる意識を高めることができました。
他	ブロックアカデミー事業	県内の入会3年未満の会員を対象にJCの理念とプロトコルを基礎編としてブロック会長が講演し、アワード委員会副委員長によるJAFを活用するONE IMPACT SEMINARを実施し、JCの理念や運動構築の方法を学び、理解を深めることができました。
他	宮城JCアカデミー委員会閉校式	JCI塩釜OBである宮城県多賀城市長深谷様をお迎えし、変容する時代の中での事業構築の手法や志についてご講演いただき、アカデミー生がこれまでの学びの集大成として模擬議案を発表し、今後の地域に影響を与えるJAYCEEとしての覚悟をもつ機会となりました。
他	ベビーファースト運動推進事業	宮城県内自治体や企業に向けてベビーファースト宣言の推進を図りました。結果として宮城県の宣言を皮切りに利府町、仙台市、気仙沼市、白石市の5自治体と約80の企業と団体に宣言を頂き、子供を産み育てやすい社会に向けての1歩を進めることができました。
他	中期ビジョン策定支援計画事業	各LOMにビジョンの必要性を伝え、作成・改定の意志ある宮城県内全てのLOMの担当者にビジョナリーシティ会議のビジョン策定カリキュラムにご参加いただき、JCIおおさきがビジョンを策定、他LOMに関しても今後のビジョン策定・改定に向けての契機となりました。
公6	MIYAGI BOSAI STATION 2022事業	防災・減災のレジリエンスを高め、持続可能な連携体制の構築を目的に、2020年度に立ち上げた防災・減災プラットフォームを、県民にとってさらに有益なものにリニューアルするとともに、16社からの協賛を頂いたことで持続的な運営に向けての1歩となりました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
山形ブロック協議会	会長	岩田 雄治（山形）

基本方針

JCの理念を共感拡大させ、各LOMに対し的確かつ効果的なLOM支援体制を構築し持続可能なブロック協議会を形成します。

総括

本年は、LOMに的確かつ各LOMに求められる支援体制の構築を念頭に、年間通して支援を行ってまいりました。LOMによって求めている支援は様々であり事業の運営やコーディネーターの要請など大小問わず求められる支援を行ってまいりました。また、防災支援としまして、7月に発災しました県内各地を襲った豪雨災害の被災地へ延べ約100名のメンバーで支援行うと同時に協議会で管理している災害用備品を活用し迅速な災害支援を行いました。そして、ベビーファースト関連のメインフォーラムを柱に2大会ぶりの現地集合形式をメインとしたブロック大会では県内各地のメンバーとの交流からコロナ禍でやや低下していた活動意欲も高揚し実地開催の意味を再確認した大会でした。かけがえのない仲間と共に様々な事に挑戦し続けた1年になりました。

事業区分	事業名	事業内容
公1	第8回JCカップU-11 少年少女サッカー大会の企画・実施	スポーツを通してグッドルーザーの精神を養い、他者を包摂できる青少年育成を目的とし、公益社団法人日本青年会議所東北地区山形ブロック協議会は第8回JCカップU-11少年少女サッカー山形県予選大会を開催いたしました。
公4	国政選挙の公開討論会に代わる若年層に向けた政治の理解を深める事業	山形大学の川村一義准教授をお招きし、ドットジェイピー山形支部の方をコーディネーターに迎え、政治の必要性を学ぶ機会、政治参加の大切さをご教示いただき、投票促進と当事者意識の向上を図るフォーラムを開催しました。
公5	第55回山形ブロック大会酒田大会事業計画	山形ブロック大会酒田大会を7月9日に酒田市希望ホール・日和山公園を会場にブロック協議会内全メンバーよりご登録いただき2大会ぶりの集合形式をメインとした大会を開催しました。
公5	第55回山形ブロック大会酒田大会主観地域の魅力を発信する事業画・運営	食・伝統・学・体験と多角的な視点から地域活性化事業を開催しました。県民の皆様大勢の方にご来場いただき、自らの地域に置き換えて地域発展に向けた当事者意識を喚起する事業を行いました。
公5	第55回山形ブロック大会酒田大会広報の企画・運営	第55回山形ブロック大会酒田大会に向けて対外広報として、山形を代表するインフルエンサー「山形のオネーサン」と連携を図りSNSをもちいて幅広く大会の周知・集客に繋げる広報を実施しました。
公5	ベビーファースト運動に向けたメインフォーラムの企画・実施	県民の皆様に、子供を産み育てやすい社会の環境整備の重要性を理解していただき、ベビーファースト運動の推進を行い学びと気付きの場を提供し、個人のみならず民間企業や自治体へベビーファースト運動の推進を行いました。
他	アカデミー委員会第1回プログラム及び開校式の企画・実施	JCIの理念を共感していただくために理念共感型セミナーを実施しました。また、自己分析シートを用いて自身の今後のヴィジョンを描き、自身の夢や情熱度、目指す伝説を発表していただきました。
他	アカデミー委員会第2回プログラムの企画・実施	JC歴の浅いメンバーにとって、JCの理念は普段の生活で身近なものとして捉えにくいため意識しづらいものとなっています。これからを担うアカデミー生が理念を理解すべく歴代会長よりご講演を賜り、夢をもって情熱を注ぐことの重要性を理解いただけるセミナーを開催しました。
他	アカデミー委員会第3回プログラムの企画・実施	ブロック大会開催地である酒田を視察し、塾ごとにテーマを決めて更に酒田の魅力を発信して「益」を出すためには何をしたらよいか広報戦略案を発表いただきました。
他	アカデミー委員会第4回プログラム及び閉校式の企画・実施	第3回プログラムで最優秀賞となった広報戦略を議案化し、本会で推奨する模擬理事会を参考に仮想の理事会を行いました。議案上程し議論を交わすことで、青年会議所運動のリーダーとなるスキルを身に付けました。
他	理念共感拡大グランドデザインLOMの基盤を強化するプログラムの企画・実施	理念共感拡大セミナーを開催し、理念共感拡大会議櫛田議長を講師として『理念共感拡大』『理念教育システムの構築』『多様性ある組織作りの推進』についてご講演を頂きました。
他	理念共感拡大グランドデザインによる多様性のある組織確立の推進	4エリアに分かれて、会場をWEBで繋ぎ多様性の観点からLOMの現状確認と分析を行い、これからのLOMの方向性を共に考え共有するワークショップ事業を実施しました。
他	理念共感による拡大を行える人財の育成推進	JCI泉が2021年度に理念共感に基づく拡大を実践されていたことから、JCI泉の拡大活動にご尽力されたメンバーの皆様から「想いを言葉に、想いを行動に」をテーマにセミナーを事前収録動画配信にて開催しました。
他	災害時における救護体制の連携強化	ウェザーハート災害福祉事務所より千川原公彦様をお招きしていつ起こるかわからない災害に備え、実際に発生してしまった際、迅速に的確な行動ができるようにするためにご講演、防災ゲームクロスロードを行いました。
他	第55回山形ブロック大会酒田大会式典の企画・実施	山形県知事を初め多くのご来賓の皆様をお招きし第55回山形ブロック大会酒田大会式典を開催しました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
福島ブロック協議会	会長	斉藤 和治（いわき）

基本方針

19LOMの人財育成と未来志向の経済再生を軸に、19LOM全ての会員の想いをカタチにすることで、愛と希望に満ち溢れる新しい福島を創造します。

総括

本年はこれからの「想い溢れるJC運動による愛と希望に満ち溢れた新しい福島の創造」を基本理念に、人財育成、未来志向の経済再生を中心に運動を展開しました。人財育成においては、アカデミー委員会を中心に、新しい試みとして、オンラインサロンの実施など、これからの地域を担う人財を育成しました。また、福島県内で調査・研究をされている先進技術を用いて、これからの産業や生活を支える新しい技術を体験していただき、未来志向の経済再生を目指し、県民の皆様に広く発信することができました。未だ道半ばである東日本大震災からの復旧・復興、そして新型コロナウイルスのまん延など、暗い話題が先行する中、明るい未来を描くために一石を投じ、新しい福島を創造する起点になったと確信しております。

事業区分	事業名	事業内容
公1	JCカップU-11少年少女サッカー全国大会福島県予選大会	本大会のメインテーマであるグッドルーザー精神を学ぶ機会を子供たちと共に保護者や指導者の方々にも提供することで、持続的に子供たちのより良い教育環境をつくっていくことが求められていると考え、事業を開催しました。
公5	JCカップ全国大会におけるふくしまの魅力発信・体験事業	東京電力福島第一原発事故から11年が経過し、被災地の復興は着実に進んでいますが、福島県に対する風評被害はいまだ根強く残っており、農産物や海産物の消費量の落ち込み、観光業の不振などの課題があると考え、全国大会で風評払拭のために事業を開催しました。
公2	ニコニコ共和国模擬大統領選挙	ブロック大会開催地の二本松で、過去にあったニコニコ共和国をブロック大会に合わせて復活させ、大統領を決定する選挙を開催し、立候補した中高生に対して投票を行い、大統領を決定することで、政治参画意識の醸成を目的に事業を開催しました。
公3	楽しく学ぼう！防災、減災スタンプラリー！	災害の数、被害が増加傾向にある中で、有事の際にどう対応するかリスクを減らしていかなければいけないのか、子どものうちから自然災害から人々を守る活動について、学習の場を作り、災害に備え、災害に対する正しい知識、対応力を学ぶ場を創出しました。
公5	地域益増進発展事業	福島県内で様々な先進技術の研究開発がなされているのに利活用できていない現状があり、Withコロナの時代に突入し、技術が急激に進歩していく時代において、先進技術に触れる機会の創出が必要であると考え、事業を開催しました。
公5	第52回福島ブロック大会in二本松 広報事業	ブロック協議会の運動の最大の発信の場であるブロック大会を開催するにあたり、 趣旨や内容を多くの県民に発信し、ブロック大会への参加促進のために実施しました。
他	第１回～第６回ブロックアカデミー委員会　未来を巻き込む即戦力となる人財育成事業	入会歴の浅い会員に、JCの理念を学ぶ場の創出、まちづくりに対するビジョンを描き、LOMで即戦力となる人財を育成するために事業を開催しました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
栃木ブロック協議会	会長	石倉 大（佐野）

基本方針

誰もが幸せを実感できる栃木を創造すると共に理念に共感した同志が集う、組織効率の高い組織の確立。

総括

新型コロナウイルス感染症の影響が残る中でのスタートとなった2022年度ではありましたが、感染状況などを考慮しリアル開催、Web開催を選択し、制限がある中でも様々な運動を展開することができました。拡大人育成セミナーや理念共感拡大の各種セミナーを通したメンバー育成においては今後のLOMや地域を牽引するリーダーを育成することができました。また、とちぎフォーラムにおいては参加者分散の観点から2日間開催にすることで、感染リスクを軽減したうえで各種事業を行うことができました。また、ウェルビーイングを中心にしたまちづくりを広く発信しこれから目指すべき栃木の形を地域に示すことができました。

事業区分	事業名	事業内容
他	第一回全体会議	年初の事業として第一回全体会議を開催し基本方針、各委員会の事業計画をブロック協議会内のメンバーにお伝えし本年の運動の方向性を共有しました。
他	第二回全体会議	最終事業として第二回全体会議を開催し、各種褒賞、本年度の報告、次年度への引継ぎを行いました。
他	拡大人育成事業 理念浸透がもたらす組織強化 ～達成型組織のつくり方～	アチーブメント株式会社 高木謙治様をお招きし、組織における理念浸透の重要性をご講演いただきました。また、グループワークを通して学びのアウトプットを行いメンバー間で深く共有しました。
他	とちぎフォーラム事業 大会式典	各地会員会議所理事長はじめメンバーの皆様、栃木ブロック歴代会長、ご来賓の皆様にご参加いただき大会式典を実施しました。大会式典を通して、とちぎフォーラム開催意義を共有すると共に、基本理念の更なる浸透を図りました。
公1	第8回 JCカップU-11少年少女サッカー全国大会栃木県予選大会	サッカーを通してグッドルーザーの精神を学び相手を称え、思いやる心を養う機会を創出しました。また、大会を通して地域間交流促進の機会としました。
公5	「リレーディベート」 ～未来のバトンにつながる交流	コロナウイルスの影響により、人と人のつながり、特に世代間のつながりが希薄になる中、ディベートを手法とし地域の共通課題を議論することで世代間の交流を行うと共にZ世代に地域課題を考える機会を提供しました。
公5	とちぎフォーラム事業 ウェルビーイングトークショー＆青空YOGA	武田静加氏をお招きし、ウェルビーイングを通して前向きになれるトークショーを行いました。また、河川敷において青空YOGAを行い健康の視点からウェルビーイングを感じていただく機会を創出しました。
公5	とちぎフォーラム事業 新時代のインフルエンサーがSNSから見出す栃木の魅力	ティックトッカーぷりんさんのご協力を頂き、TikTokを活用した各地域の魅力発信を行いました。また、フォーラム当日にはぷりんさんのトークショー＆ライブ配信を行い情報発信の重要性をお話しいただきました。
公5	とちぎフォーラム事業 主役は君だ！もっと楽しめJC道！	アカデミーメンバーを対象に年間３回の事業を行いアカデミーメンバーが実体験をもってJCを好きになる機会を創出しました。また、フォーラム当日にはバーチャル委員会で事業を構築し福祉事業者と協働で物販も行いました。
公6	とちぎフォーラム事業 帰宅困難サバイバル～日頃の備えがウェルビーイングに繋がる～	自助、公助、共助について学び、防災意識を高める講演会を行いました。屋外では企業ブースを設け防災グッズの紹介を行いました。また、体育館をお借りし一泊二日の避難所体験を行いました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
茨城ブロック協議会	会長	唐鎌 正光（茨城南）

基本方針

各地会員会議所の運動を最大化させるために人財育成、研修事業をブロック協議会が行い、茨城全体の活性化につなげていきます。

総括

LOMの皆さんを多く巻き込んでこそのブロック協議会である為、LOMの事業と同じようなものではいけないという想いがありました。LOMの力になる事業を行う為、拡大や育成についてはそれぞれの状況に合わせた目線でLOMによって違った活動を行いブロックのスケールメリットを活かして取り組むと共に、対外への運動は今後のLOMの参考となる事業を行うことに明確にこだわって1年を過ごしてきました。様々な仕組みを作る上で我々の理想を形とするには多くの時間を必要としてしまいますが、次年度以降へと続いていける仕組みの土台を作れたことは51年目となる茨城ブロック協議会にとって50年の節目を超えて新時代の幕開けを行ったと実感できる1年となりました。

事業区分	事業名	事業内容
他	ALL茨城地域活性サミット ～すべては地域から始まる～	LOMの共通課題やエリアの地域特性を活かした事業が各地で展開するために、クロストークを実施して課題を抽出、開示いただいた課題を議題に会議を行い、さらに、エリア会議で討議することにより、エリアの連携を促進し地域活性につながる地盤を構築することを目指しました。
他	第51回茨城ブロック大会下館大会 ～強固な繋がりで未来に新たな価値を創ろう～ the session 2022 革新の核となれ	各エリアの共通課題を認識し、エリア代表者にディスカッションしていただき、LOM、エリア、茨城ブロック協議会がどのような連携を図り地域活性に向けた事業に繋げることが可能となるのかを検討し、次年度以降に事業開催に繋げることを目指しました。
公1	JCカップU-11少年少女予選大会の実施 第8回JCカップ 少年少女サッカー茨城予選大会	茨城県内の11歳対象にしたサッカーチーム16チームを対象としたJCカップに加え、ブラインドサッカーという視覚が乏しい人たちと同条件においてプレイするスポーツで原体験として学び参加者全体で意見交換をするブラインドサッカーの体験会を取り入れた事業です。
公1	地域の課題や魅力を再認識するハイスクール議会等の政治系事業 いばらきハイスクール議会2022	政治を身近に感じられるいばらきハイスクール議会を開催し、あらゆる課題について生徒自らが考え意見交換し、また議会場での模擬議会などの機会を通して、高校生が政治への理解を深め、主体的に地域の未来のために活動するための事業です。
公5	SDGsを地域企業等に普及・推進させる事業 気付いた時からSDGs	持続可能な地域社会での活動が継承できる環境を次世代へ引継ぐため、SDGsという世界的目標と併せた活動をする企業や団体の体験報告をすることにより、世界共通の開発目標である概念の可能性やこれからの地域社会のことを考える機会となる事業です。
公2	ベンチャー発掘や需要と供給のマッチング事業	事業者がマーケット開拓や集客において、どのような経営判断をしたら良いのか、その判断材料となる機会を提供できました。また、茨城ブロック協議会公式HP上に特設ページを作成し、ビジネスマッチングのページを作成いたしました。
他	業種別部会運用事業	各業種別部会を促進させるために各LOM宛にご案内、また茨城ブロック協議会公式HP上でご案内をさせていただき、部会の会員同士のお仕事を共有できる組織の確立へと結びつけることができました。
公6	補助金や助成金活用を視野に入れたDX並びに ICT活用への取り組みの推進事業	私たちの身近なものであるgoogleを通じDXやICTを身近に感じていただくセミナーをZOOM開にて開催しました。基礎を理解していただき、自社でも簡単に活用できると感じていただき、導入を促すきっかけとなりました。
公5	諸会議・諸大会に於けるブース出展	全国大会大分大会にて茨城県の魅力を伝えるトマトハイボールを提供いたしました。観光いばらきのホームページをアンケートのページにてご覧いただき、多くの方に茨城県の魅力を伝播し、実際に茨城県へ足を運んでみたいと思っていただける事業を行いました。
公7	第51回茨城ブロック大会下館大会 ～強固な繋がりで未来に新たな価値を創ろう～ 「国際交流の意識向上セミナー」	日本のクラフトビール輸出の大部分を占める木内酒造株式会社様に、これまでの海外市場挑戦における経験談や考え方をベースに、世界進出へのマインド面のお話しをしていただきました。後半ではJETRO茨城様に世界市場の動向や、支援内容などの説明をいただきました。
他	壁をぶち破れ！アカデミー本気合宿	県内各LOMのアカデミー会員に効果的にJCの理念や運動の知識を学び、青年会議所の三信条が体験できる機会を提供するため、JCの基礎から事業構築の流れを学べる1泊2日の研修合宿を開催いたしました。
他	組織をつなげ！組織革新プログラム	LOMの理事会員として活躍するメンバーを対象に、JCプログラム「Admin」と茨城ブロック協議会役員による講演会を開催し、各役職の担いや、LOMの運営、LOMのビジョンについて学んでいただきました。
公2	スタッフがイキイキ輝く！ ディズニー流リーダーシップ	9割がアルバイトでも最高の顧客満足を維持する東京ディズニーリゾート。この東京ディズニーリゾートで店舗運営、接客業務に従事した経歴をもつ沖口直子氏に、人間力そのものを磨くディズニー流のリーダーシップについてご講演をいただきました。
公5	第51回茨城ブロック大会下館大会記念事業 ゼロカーボンシティ in 筑西桜川	行政に先駆けてゼロカーボンをテーマとした事業をしたことで、市民へゼロカーボンを推進し、行政に対し、事業への協力をお願いする中で、ゼロカーボンを促すことができました。本事業で、ゼロカーボンへと動き始めることが期待できます。
公5	第51回ブロック大会下館大会メインフォーラム 「デジタル時代到来！いばらきの未来」	参加者が各々の抱える実情に適した解決のしくみを持ち帰り、地域でアレンジを加えながら実践ししくみ化することによって、地域やLOM等にとって継続して明るい豊かな社会への運動展開ができるようになることを目指しました。
他	HP運用とSNSの効果的発信 マルっと解決広報戦略！～メディア利活用術～	新聞・テレビと報道の王道に必ずあるキャッチーなタイトルは見ている者の興味を引きつけることから、HPやSNSでも活用できるキャッチコピーの付け方や、プレスリリースを作成する際に必要な技術や記者の目に止まる見せ方などを学ぶための事業です。
他	ブランド価値を高める人財育成 誰でも楽しいJC運動！ ～あなたと高めるJCブランド～	価値（人）の魅力を高めるための事業を開催。全員が違う見方や考えを持っている中、どのように理解し、その人を活かせばいいのか、そんな人の隠れた才能を引き出し活かす術を学び、青年会議所をしてどの様に進化するのかを学び感じてもらうための事業です。
他	会員拡大成功事例の継承 拡大こそ青年会議所1丁目1番地	茨城ブロック全23LOMの拡大を持続可能な運動へするための事業を開催。近年の拡大成功への秘訣を明確に示し、それを成功に導くための手法を紹介するとともに、フレッシュなアカデミー時代から拡大を意識してもらうためのトークショーも開催し、ベテランメンバーとの相互理解を育む事業です。

高校生が県政の課題解決を考える「いばらきハイスクール議会」（日本青年会議所関東地区茨城ブロック協議会主催）が11、12の両日、県議会議事堂で開かれ、教育、医療福祉など五つのテーマに沿って議論した。生徒は専門のアドバイスを受けながら、若い柔軟な発想を生かした提言書をまとめて発表した。

同イベントは高校生に政治への興味を深めてもらい、地域に貢献できる人材を育成することが目的。県内8校の生徒21人が①教育改革②経営戦略③医療福祉④観光物産⑤企業間交流推進 の各委員会に分かれて意見を交わした。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
群馬ブロック協議会	会長	小林 久峻（前橋）

基本方針

青年会議所は無限の可能性を秘めている。
大いに夢を語り合い、新しい時代に挑戦しよう!!

総括

コロナによる行動制限が緩和される中、単純に過去に戻すのではなく、これからの未来に対して先手が打てるような組織運営・事業構築を心がけました。特に、若手メンバーが過半数になり、平均の在籍年数が少ない中、早期に成長を行えるようなアカデミー事業や教育プラットフォーム作りを行ったり、コロナによるブランクを解消するために、交流を図れる事業・仕掛けを多く開催しました。また、群馬県の地域性をより高めるために、行政や地域の様々な団体と連携を図ったり、メンバー間のビジネス連携の推進も行いました。様々なことに勇気を持って挑戦することで、小さくても確実な一歩が踏み出せたと考えています。

事業区分	事業名	事業内容
他	第1回全体会議	2022年度の群馬ブロック協議会の基本方針、事業計画等を説明していただき、各委員長より委員会の方針を説明いただきました。
公6	第1回ビジネス連携セミナー ～SDGs編～	ブロック内にビジネス連携を推進するために開催しました。 各グループは新たなビジネスプランを創造する会議を重ね10月に発表を行います。当日はSDGsをテーマにビジネスへの有効性とリスクなどを講演いただき、課題を与え後日グループ会議を開催しました。
公1	第8回JCカップU-11 少年少女サッカー全国大会 関東地区予選大会群馬県大会	大会褒賞を群馬ブロック協議会が準備し健闘を称えるとともに、青年会議所を知っていただきました。また、全体で写真撮影を行い、JCマークの入ったフォトフレームと共に配布することで数年にわたって青年会議所をアピールしました。
他	2022年度 アカデミー基礎講演事業 ～これがJCのリアル～	セレモニー内容の基礎講演とJCプロトコルの講演を行いました。第2部ではグループワークを行い、JCの魅力や価値を感じていただけるよう、事業構築、JC運動をどう引き継いでいくかを考えていただき、アカデミー生に構築した事業を発表していただきました。
公6	第52回群馬ブロック大会 DXのその先へ	DXの理解を深めるとともに企業や個人が問題点を見つめるために、 岸博幸氏の講演や㈱クライムの金井修氏とターサ・エデュケーションの市村君に自社でのDXの取組事例を発表いただき、DX推進への課題を具体的にイメージしていただきました。
公6	第52回群馬ブロック大会 DX体感ブース	DXに関する講話を通じて知識を高め、その後参加者がデジタル化の未来を身近に感じてもらうために、デジタル機器を持つ企業にご協力いただき、機器を会場に配備してデジタル体感、また体験をしていただきました。
公5	YATTEMIYOU～地域コラボ体験～	群馬県内で過去に行われた産官学連携の取組を伝え、産官学連携の有益性を認識してもらい、地域社会で様々な可能性を生み出せることを考える場としました。また、新たな魅力の見つけ方や、どのように自ら発信して拡げていくことを学んでいただきました。
他	群馬ブロック大会 式典	群馬ブロック協議会の活動紹介をPR動画にて行い、会長挨拶、開催地理事長挨拶を行いました。ご来賓2名よりご挨拶をいただいた後、来賓紹介、各地会員会議所理事長並びにメンバー紹介、歴代ブロック会長紹介を行い、歴代ブロック会長挨拶をいただきました。
他	群馬ブロック大運動会	コロナの影響でリアルでの交流が制限される中、WEB交流以外にも改めてリアルでの交流の場として運動会を開催しました。多くのメンバーを巻き込んでいくためにも県内12LOMでの人間関係の絆を深めることを目的に、様々な競技を実施しました。
他	第2回全体会議	本年の活動の振り返りのため、各委員会報告と会長挨拶を行いました。また、次年度会長や、次年度ブロック大会主管LOMの理事長予定者からの挨拶、次年度体制の紹介も実施しました。2部では卒業式として、先輩からのメッセージ投影や送辞答辞を実施しました。

「遅れ取り戻すチャンス」

経済デジタル化 岸さんが訴える

伊勢崎

日本青年会議所の関東地区群馬ブロック協議会（小林久峻会長）は、伊勢崎市民体育館で「群馬ブロック大会」を開いた。「DXのその先へ」をテーマに元経産相の岸博幸さんが講演し、経済のデジタル化の重要性を強調した。

写真

岸さんは冒頭、30年にわたり低迷が続く日本経済について説明。1990年代に起きた世界的なデジタル化の潮流に企業が乗り遅れ、生産性が低下した点を主な原因に挙げた。

その上で、新型コロナの影響による現代の社会構造の変化を強調。「過去30年くらいの遅れを取り戻す絶好のチャンスがある」とデジタル化の促進を呼びかけていた。（中里圭亮）

ブロック協議会名	役職名	担当者名
埼玉ブロック協議会	会長	四ツ井 裕明（深谷）

基本方針

限界を超えろ～一人ひとりの成長が持続可能な埼玉を創る～のもと、常に「ガンガンいこうぜ」の精神を持ち一年間邁進しました。

総括

圧倒的な想像力と行動力と兼ね備えた人財育成をするべく一年間を邁進しました。どんな困難でも決して諦めることなく、楽しみながら前例にとらわれないことも埼玉ブロック協議会内の30LOMにも伝えていきました。その結果2023年度期首メンバーは純増という形でスタートできることとなりました。JCは人と人との密接に関わることで地域のより良い循環がうまれます。LOMで行えないことを事業として行うのもブロック協議会の役割です。様々なことにガンガン挑戦していく大切さも伝え、次年度以降も30LOMがインパクトのある、そして元気よくJC運動を行ってくれることでしょう。

事業区分	事業名	事業内容
他	スタートアップ埼玉ブロック2022 ～ガンガン行こうぜ～	2022年度の埼玉ブロック協議会の基本方針および各委員会活動内容、そして県内30LOMの理事長のスローガンと運動展開を発信し、埼玉ブロック協議会内で意識共有するために事業を開催しました。
他	JAYCEEのためのビジネスセミナー	ビジネスがより良くなるための知識や気付きを得るためにビジネスセミナーを3回に分けて開催。「自社を取り巻く環境を理解する」「自社の中のことを見直す」「これからの未来を考える」をテーマに、それぞれの学びにつながる内容。
他	熱戦必至！自らの手で掴み取れ、至高の役職	「JC版人生ゲーム」とも呼ばれ、ゲームを進めていく過程を楽しみながら最後に理事長を目指すことができる体験プログラムです。入会→副委員長→委員長→副理事長→理事長の順番で役職を体験でき、制限時間内に理事長になることを目標としました。
他	拡大褒章	各LOMの拡大成功事例を30LOMで共有し、更に拡大担当者同士の情報共有の場を作り、拡大に対する意識を30LOM全体で高めていく必要があります。その中で、高い成果や数多くの行動をしたLOMを表彰することで、拡大意識の向上を図りました。
他	2022年度JCI日本会頭訪問事業 「理事長の声を伝えよう！」	日本青年会議所第71代会頭中島土君の基調講演。会頭より県内各地会員会議所理事長の声を拝聴したいとご要望がありましたので、事前質問の形でアンケートにて会頭に聞きたいことを集計し、その内容に解答いただきました。
公5	第52回埼玉ブロック大会メインフォーラム事業 ～時代の変化に対応し、ビジネスで成功を掴み取れ！～	杉村太蔵氏をお招きし、自身のこれまでの経験やそれから学んだこと、価値観などを話しながら、これからのビジネスで成功するためには、「変化に対応し生き抜く力」をもつことの必要性などお話いただき、その後四ツ井会長とのクロストークを実施しました。
公1	第08回JCカップU-11 少年少女サッカー大会埼玉県予選大会	本大会は尊重し称え合う心を育めるような事業を目指しました。埼玉県の代表チームを選出し、代表チームには、関東地区内予選大会（相模原ギオンスタジアム）にご参加いただき、全国大会（J-VILLEGE）への切符に挑戦していただきました。
公5	第52回埼玉ブロック大会久喜大会【本体】	メタバース、久喜フェス、わんこうどん大会、最先端技術のお絵描き、らき☆すた神輿、テクノロジー（Society5.0）要素を取り入れたスポーツ、子ども食堂フェスタ、バブルでGO!を開催しました。
他	第52回埼玉ブロック大会久喜大会 【対外向け広報の推進】	各種SNS、久喜市内へのポスター貼り、プレスリリース、LCOM出演、広報誌掲載、宣伝カーを活用した広報など、大々的なPRを行いました。
他	第52回埼玉ブロック大会久喜大会【大会式典】	埼玉ブロックはこれまで多くの方々のご理解とご協力の基に成り立ってきました。埼玉ブロック協議会、最大の運動の発信の場である埼玉ブロック大会久喜大会にて、日頃の感謝を皆様にお伝えし更なる強固な関係を築きました
他	とどけ元気玉！つなげSAITAMA!	アカデミー委員会出向者と30LOMの2021年入会メンバーで協力し、縦1.8メートル×横2.7メートル×高さ1.8メートルのスペースを利用したピタゴラ装置を作成しました。3つのエリアでそれぞれ作成し3つの装置を作成しました。
公2	ビジネスプランコンテスト ～社会課題に立ち向かえ！in埼玉～	スタートアップセミナー、プラッシュアップミーティング①・②、プレゼンコンテスト、ビジネスコンテスト受賞者プレゼン表彰と長期間参加者にコミットしていただき、社会課題を解決するビジネスを考えていただき、表彰を行いました。
公4	2022年度参議院選挙に伴う立候補予定者WEB公開討論会「国会議員の考える未来」の開催	参議院議員選挙の立候補予定者をお招きし、コーディネーターを介して立候補予定者WEB公開討論会を行う。（公示前・観覧者観客なし）その立候補予定者WEB公開討論会の様子を後日WEBで配信しました。（YouTubeにて配信）
他	What is JC!? JCって何だろう？	JCI Achieveは、メンバーとして最も重要なJCの理念、目的、存在意義を理解できるプログラムです。理念を知り、意味を解釈することでメンバーがJC活動に能動的に取り組むことができました。
他	限界突破！富士山合宿！ 見せろ、アカデミー生の本気！	日本一高い山の頂を目指すことは、他の何にも代え難い挑戦となります。限界を超えた挑戦、苦楽を共にして感動を共有する体験はアカデミー生がLOMを牽引していく中心的な存在になるために必要です。
他	事業構築虎の巻 !!	ONE IMPACT SEMINARの実施とアカデミーメンバーが地域の課題を探り議案を作成し、ブロック役員との模擬理事会を開催しました。
他	LOMを超え、埼玉を繋ぐ！秋の大運動会！	運動会として開催し、さまざまな競技を通じて会員同士の交流を図り、LOMを超えたつながりを創ることで、ブロック事業のスケールを活かした楽しさを伝えました。埼玉県内LOMを超えた交流、同世代間の交流を図るために実施しました。
他	さよならブロック2022	拡大褒章、LOM事業褒章、委員会事業報告、会長総括、2023年度引継ぎ式、2023年度役員紹介、答辞、と一連の流れから卒業を祝い、想いを引き継ぐ式典を行いました。
他	対外向けWEBの推進	HPでは主に対内外の来訪者に対して提供、また30LOM内での情報循環、本会およびブロック全体の情報を継続して掲載しました。SNSでは主に広報活動を目的とし、対外に向けてブロックおよび各LOMの活動情報を都度発信し、HPを見ていただきました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
千葉ブロック協議会	会長	大川 浩嗣（松戸）

基本方針

共に手を携え　共に栄える　共栄の千葉の創造

総括

千葉県内のメンバーに強く発信してきたことは、以下の2点です。1点目はコロナ禍での人と人のつながりを強化するために、コロナ対策は万全にしつつも対面での現地開催による事業構築をしました。ご参加いただいた理事長からは、LOMで現地開催をするための指標になったとの声を頂戴しました。また、私は「出向は最高のアカデミー」であるという認識を持っており、社会により良い変化をもたらすためには、まずは変化に富んだ環境に身を置く必要があり、役割、仲間、地域が毎年大きく変わる出向を活用すべきと発信しました。以上2点に共感を頂き、実行することで効果が表れ、県内LOMと共に栄える共栄の千葉を創造することができたと確信しています。

事業区分	事業名	事業内容
他	千葉ブロック協議会 2022年度 賀詞交歓会	事業方針、事業計画を千葉県知事、関東地区協議会会長、県内25LOMの皆様へ発信し、県内より一層の理解と協力を得られるように努めました。また、当日は新型コロナウイルス感染症対策を万全に行い、今年度は対面での開催にこだわる旨を発信しました。
他	組織拡大事業「0と1からの組織拡大」【ブロ連】	JCを求めている人のリストアップの仕方や何をJCに求め、何をJCでの成果とし、人生への活かし方を明確にする事業を開催しました。また、災禍でも組織拡大をする意識を高め、入会後の退会も防ぐべくJCの理念に共感できる拡大手法を展開しました。
他	JAYCEEとしてのリーダー育成事業 「魁!!JC塾」【ブロ連】	JCプロトコルや理念を理解できる共通のPPTを使用して副会長が講演し、入会歴が浅いメンバーに対して、JCの魅力を感じてもらいました。また運動編と題して、ONE IMPACT SEMINARの講演及び模擬理事会を実施しました。
他	2022年度JCI日本会頭公式訪問「中島会頭が千葉の地へ！共に築こうJCの魅力を」	第1部として公益社団法人日本青年会議所2022年度第71代会頭中島土君をお招きし、 拡大成功に向けてメンバー全員でJCの魅力を今一度考えてもらい、拡大の目標達成につなげることを目的とした会頭基調講演を開催しました。
公2	成果を出し続ける青年経済人育成事業／ 人脈を増やし続ける出向アカデミー事業 「出向こそ最高のアカデミー!!」	出向を促し、積極的な参加へとつなげることで、JC運動としての質を向上させる事業となりました。講師に日本JCシニア・クラブ年度別世話人岡村徳久先輩や様々な出向経験を持つ先輩や現役をお迎えし、出向によって広がる可能性についてご講演をしていただきました。
公4	2022年度 第26回参議院議員通常選挙 公開討論会『未来予想図』	第26回参議院議員通常選挙の実施に先立ち、若年層を対象に千葉県民の有権者の政治参画意欲向上に繋げるために、公開討論会を開催しました。各政党の考えや政策に気軽に触れる機会の提供としてYouTubeにその動画を公開しました。
公1	第8回JCカップU-11 少年少女サッカー全国大会千葉県予選大会	試合の勝敗に関わらず相手を讃えることの大切さを説くグッドルーザーの精神や、対面でのコミュニケーションの大切さを参加選手に伝えるべく開催したサッカー大会となりました。
公5	第55回千葉ブロック大会・習志野大会 式典 第55回千葉ブロック大会・習志野大会 市民参加型事業「MUSIC&DISCOVERY in NARASHINO」 第55回千葉ブロック大会・習志野大会 LOMがつくるまちの中期ビジョン策定支援とフォローアップ「未来会議～まちのみらいを考えよう～」【ブロ連】 第55回千葉ブロック大会・習志野大会「ちばSDGs ACTION」～企業経営にSDGsを～ 第55回千葉ブロック大会・習志野大会 企業における防災・減災～備えは裏切らない!!～ 第55回千葉ブロック大会・習志野大会「繰り返し選ばれる国際観光県CHIBA」を推進する事業～千葉魅力発見伝#Tourismpromotion#千葉っていいね～	「ちばの魅力を再発見！～明日へ繋げる共栄のハーモニー～」をテーマに開催しました。老若男女問わず楽しめる大会とし、音楽と体験、さらに千葉県の魅力を強く発信することにより、県民としての帰属意識を高め、アクティブシチズンを生み出しました。
他	組織拡大ITツールの制作	拡大対象者用のデジタル閲覧可能な資料を作成しました。バナーをHPに掲載するだけではなく、拡大対象者にデジタルリーフレットとして活用していただきました。メールやSNSでも拡大対象者に発信することができ、より効果的な拡大活動となりました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
東京ブロック協議会	会長	小美野 義一 (東久留米)

基本方針

VISION: 人々が夢や希望を抱き、愛が溢れる社会の創造
MISSION: 社会にイノベーションを起す、プロフェッショナルな人材を育成します。そして自らが変化の原動力となり、地域社会を変え、日本を変えていく。

総括

2022年度はWithコロナからポストコロナへの時代の転換期であり、先行きの見えない経済社会だからこそ、人々の夢や希望は明るい豊かな社会を描く、原動力となることを信じ、「人々が夢や希望を抱き、愛が溢れる社会」の実現に向けて運動展開してまいりました。またブロックはLOMと本会の連絡調整機関としての担いだけでなく、東京の課題解決に向けた広域的な運動体としても活動してまいりました。2022年度は運動を通じて育った人材が社会にイノベーションを起こす、プロフェッショナルとして地域やLOMを変えることができる変化の原動力になり、これからの東京ブロック協議会も東京から日本を変える行動を起こしてまいります。

事業区分	事業名	事業内容
他	東京ブロック協議会2022年度合同公式訪問	2022年度の東京ブロック協議会全体の基本方針や意気込みをお伝えしました。その後、ブロック各委員会・局・会議の委員長陣から、各員会が計画する事業や効果についてプレゼンしました。ブロック内各LOM理事長より抱負や意気込みを頂戴しました。
他	JCDAYS2022正常性バイアスとは ～命を左右する災害心理学～	正常性バイアスを理解し、緊急時にどのような行動をとればよいのかを学んでいくため、災害・リスク心理学の専門である、広瀬弘忠氏に正常性バイアスとはなにか、災害時にどのような行動をとれば適切だったのかを講演いただきました。
他	JCDAYS2022「地域一体化事業の構築」	講師にJCI静岡 水野弘道君をお招きし、地域社会に共感を得られる魅力ある事業の構築することの必要性についてご講演いただきました。地域を巻き込み課題解決に向けて運動発信し共感を得る事こそ、青年会議所運動に必要であるという気づきを与える機会となりました。
他	JCDAYS2022「10年後あなたの会社なくなりますよ? ～デジタル化周回遅れの恐怖～」	DXを理解していただくために、様々な企業、業態、企業規模においてもDXに取り組んできたユニアデックス株式会社の高橋 優亮様をお招きし、DXの考え方を「IT漫談」によって楽しく学びつつ、事例紹介や対話するパネルディスカッションを行いました。
他	投票率向上のための課題調査と支援策 ～インターネット投票の今～	主権者教育アドバイザーである林大介氏をメイン講師として、投票率がなぜ低いのか、投票率向上のためには主権者教育が必要であることについて講演していただきました。また、インターネット投票導入を推進する中谷一馬氏にも講演していただきました。
他	東京ブロックeスポーツ大会	基本無料のスマートフォン対応ゲーム「PUGB MOBILE」を使用してオンライン上で東京ブロックeスポーツ大会と銘打った大会を開催しました。24LOM+担当委員会の対戦を実施しました。
他	東京ブロック野球大会	東京ブロックの交流事業として野球大会を開催しました。LOM単独チーム、複数LOM連動チームが参加し、全体で16LOM、9チームが出場し選手以外にも応援やオブザーバー等に広くご参加いただきました。
他	「新しい組織のカタチ」	本事業では、パーパス(存在意義)の意味を改めて再認識し、時代に適応するあり方を学ぶことの重要性について、小杉俊哉氏よりご講演いただきました。各地会員会議所メンバーがパーパスを学ぶことで、参加者1人1人にパーパスの重要性を考えてもらう機会となりました。
他	「全国拡大成功事例」の共有	本事業は2020年、2021年に拡大成功をしたLOMの代表者にインタビューを行い、拡大方法事例、女性会員の成功事例、30代以下の拡大成功事例を収集し、会員会議所メンバーが気軽に拡大手法を学べる動画コンテンツを制作しYouTube(限定配信)にて配信いたしました。
他	2022年度「TBC版LOMデータベースの調査研究、配布」	本事業は各地会員会議所に事業構築や会員拡大をする上で参考となる、「TBC版拡大データベース」と題して、会員拡大において重要視していることや、反響のあった事業の調査を行い、運営専務から各地会員会議所理事長・専務の皆様にメールにて配布しました。
他	アカデミー研修委員会 第1回全体委員会	第1回の全体委員会「開校式」を実施しました。塾長におけるトークなどを実施し、アカデミー生に具体的な成長などを伝え、アカデミーへの参加意欲を高め、アカデミー生が、今まで知らなかったこと、感じなかったこと、考えていなかったことを持ち帰ることで、今後のアカデミー研修委員会への参加意欲を高めてもらうことができました。
他	アカデミー研修委員会 第2回全体委員会	第2回の全体委員会を実施しました。JCの課題抽出方法を学ぶかたちとして、持続的なインパクトを生み出すにはどうすればよいかを考え、青年会議所とは何か、青年会議所の存在する理由などの理解を深めました。
他	アカデミー研修委員会 第3回全体委員会	第3回の全体委員会を実施しました。これからの時代に求められるリーダーの条件としての「ビジョン」の意義や考え方を習得することを目的として、青年会議所とは何か、青年会議所の存在する理由などの理解を深めました。
他	アカデミー研修委員会 第4回全体委員会	第4回の全体委員会を実施しました。これからの時代に求められるリーダーの条件としての「志」の意義や考え方を習得することを目的として、青年会議所とは何か、青年会議所の存在する理由などの理解を深めました。
他	アカデミー研修委員会 第5回全体委員会	JCに対する知識を得て、理解しているだけでは、仮に本人が行動に移せたとしても運動へと繋げることはできません。アカデミー時代より青年会議所の理念をともに学びながら議論を交わす機会を第5回の全体委員会で実施しました。
他	アカデミー研修委員会 第6回全体委員会	社会課題の抽出をし、解決方法を検討するなかで、他者に対して適切な方法で伝えられるようになることが求められます。アカデミー時代より青年会議所の理念をともに学びながら議論を交わす機会として第6回の全体委員会を実施しました。
他	アカデミー研修委員会 第7回全体委員会	各地会員会議所からお預かりしたアカデミー生が、この1年間の研修で得た知識や友情を忘れずに、これからJAYCEEとして活躍する決意をすることと、温かく送り出して頂いた理事長をはじめとする各地会員会議所メンバーの皆様に改めて感謝の気持ちを伝える場として第7回の全体委員会を実施しました。
他	第51回東京ブロック大会武蔵野大会式典	スローガンをINNOVATIONと掲げたIMPACT FES IN MUSASHINOの最終事業とし大会式典を行いました。式典にストーリー性を持たせると共に、演出に注力することで参加者に感動を与える式典となりました。
公5	第51回東京ブロック大会武蔵野大会	新たな情報発信、人との繋がりにフューチャーしたブロック大会を実施しイノベーションを巻き起こすため、「TOKYO武蔵野学園祭」と称し武蔵野市全域でのモバイルスタンプラリーとメインステージでのゲスト斉藤佑樹氏による講演を手法として行いました。
公5	第51回東京ブロック大会武蔵野大会 「広げよう多様性社会の輪」	本事業は各地会員会議所メンバーが多様性社会で起こっている課題を学び、活すことについてご講演いただきました。参加者1人1人が多様性社会の重要性を考えてもらう機会を山口哲平氏、乾菜月氏、須藤玲奈氏、池村祐美氏(司会)の参加型トークセッションにて提供しました。
公5	第51回東京ブロック大会武蔵野大会 「経済ゼミ DXだよ!全員集合!!～あなたの商店街からはじまるイノベーション～」	性別年齢判定カメラによるAI感情認識ゲーム体験ブースを設置し、経済産業大臣 萩生田光一様 基調講演ではDXの将来性について講演を行いました。また「商店街」をテーマに、デジタル化とその先にあるDXについてパネルディスカッションを行いました。
公5	第51回東京ブロック大会武蔵野大会「投票中」INハンター村 ～ハンター村の村長を決めろ～	ブロック大会の開催地である武蔵野市に実際にある課題をもとに、課題を象徴する場所にスポットを配置し、一般参加者に実際の課題に触れていただき、課題の解決方法を考え、自分の考えに近い立候補者に投票をしていただく模擬投票を実施いたしました。
公6	第51回東京ブロック大会武蔵野大会　防災リスクサーベイゲーム～君は正常性バイアスに打ち勝てるのか～	当事業は、防災リスクサーベイゲームというセミナー形式と、VR防災体験車という体験式アトラクションにて、災害時には行動をしないという、既成概念を破り、災害時に率先した行動を行うという新たな可能性に挑戦した事業となりました。
公5	第51回東京ブロック大会武蔵野大会 広報	第51回東京ブロック大会武蔵野大会の開催告知ならびに当日の参加動員を図る上での対外広報を担い、HP、各種SNS、チラシ、ポスター掲載などの手法を用いて、情報発信を行いました。また「伝えるプロ」であるマスメディアとの連携を図り、情報の拡散を狙いました。
公2	YouTube番組企画	各種SNSの中でも老若男女問わず視聴回数、利用者数の圧倒的一位はYouTubeです。そのYouTubeの登録者数を増やす目的で、本年は2021年度に褒賞を受賞したLOM・個人を取材させていただき、その時の思いや、熱量などをお話いただきました。
公1	JCカップ U-11 少年少女全国大会 第5回東京都大会	11歳以下(小学校5年生を主体として構成された単一のチーム)による8人制サッカーの大会を開催しました。対戦相手への感謝やリスペクトする気持ちを育むグループワーク(GW)を行い、第一から第五試合までを2面同時に総当たり戦で試合を行いました。
公5	選挙はお祭り!!家族みんなで投票に行こう	「選挙はお祭り!!」をテーマに、投票に行くと得をする選挙割を実施し、親子で投票を促すキャンペーンを実施しました。親子で投票に行った写真を送っていただけた方から抽選で当該店舗を利用できる無料チケットを抽選で配布しました。
公5	まちの中期ビジョン検証プロジェクト	世代の抱える悩みや不満を調査した統計を元に、まちの中期ビジョンが若い世代の求める内容となっているか検証し、検証結果を提言書として作成しました。検証対象は、検証プロジェクトのモデルケースを作るべく、武蔵野市、小金井市の2市のビジョン検証を行いました。
他	2023年度東京ブロック協議会説明会	2023年度の東京ブロック協議会の概要や指針、想いの説明、日本青年会議所の仕組みや各セクションや事業本部への連絡方法、年間スケジュールの概要など、2023年度の活動を早期にイメージできるよう、運営に活きる説明を行いました。
公5	東京ブロック協議会×JCI東京共同フォーラム	各地会員会議所メンバーが「全国大会とは何かこの共同フォーラムによって学びを得る機会としました。全国大会トークセッションの開催、全国大会ブースにて質問コーナーの設置、全国大会動画の上映の三点です。
公6	東京ブロック協議会×JCI東京共同フォーラム「経済」	今年1年間の経済再生委員会の事業について参加者に報告するとともに、ユニアデックス社が今年1年なぜ、JCに協力し続けてくださったかを対談しました。またグランドデザインの描き方アドバイス、自社にもどんなデジタル化をできるかを相談できる窓口を作りました。
公5	東京ブロック協議会×JCI東京共同フォーラム「政治」	事業フォーラムでは、これまでの運動を報告し、参加者に東京ブロック協議会の運動を知ってもらい、今後各地で主権者教育運動が行われるように訴えかけました。ブースでは、体験アトラクションとして、逆転投票シミュレーションゲーム、悪い政治家を見抜くゲームを行いました。
公5	東京ブロック協議会×JCI東京共同フォーラム 「防災街づくり」	NPO法人日本エコロジーアップサイクル協会理事長木村俊平氏をお呼びして、アップサイクルを体験できるワークショップを行いました。また、カーボンニュートラルに関わる身近で具体的な行動を体験してもらう形式で協力団体と合同でブース出展を行いました。
公5	東京ブロック協議会×JCI東京 共同フォーラム 広報	2023年度第73回全国大会東京大会を成功に導くべくために開催された当フォーラムのスケールの大きさを対外に示し、拡大対象者を動員に繋げ、入会者数を増やし、第73回全国大会東京大会を成功に導くべく、対外発信を行いました。
他	東京ブロック協議会さよならブロック2022	2部制での開催とし、第1部式典では動画でブロックの年間事業報告・総括を行い、褒賞式を執り行いました。その後、次年度会長予定者を紹介、挨拶を頂き終了しました。第2部卒業式では各LOM卒業生のメンバーが登壇したうえで、代表送辞・代表答辞を行い終了しました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
山梨ブロック協議会	会長	天野 さやか（都留）

基本方針

愛～多様性で輝く愛の溢れる山梨の創造～

総括

今年度山梨ブロック協議会では、「愛」をテーマに掲げ、多様性で輝く愛の溢れる山梨の創造を基本理念とし活動を展開してまいりました。メンバー一人ひとりが主体性を持ち輝ける組織を目指し、様々な機会の提供を行ってまいりました。また、人財育成や広報、拡大支援など様々な事業を通してLOMを超えたつながりを強化し、メンバー数では小さな山梨ブロック協議会ですが、全LOMの力を集結することにより力強いブロックとなりました。移住をテーマとして開催したブロック大会では、産官学民の連携を強化することができました。困難な時代だからこそ互いを尊重し合い力を集結し、愛の溢れる山梨を創造できたと確信しております。

事業区分	事業名	事業内容
他	賀詞交歓会の実施	ハイブリット開催となりましたが、山梨ブロック協議会及び各地会員会議所の2022年度の運動方針に理解を深めていただき、団結と協力関係を強固にすることができました。委員会紹介をインタビュー形式にするなど、出向の楽しさを伝えることもできました。
他	SNSセミナーの実施	戦略的にSNSを活用することが効果的であること、どの媒体がどの年代や顧客層に有効的かなど、専門的な知識を学ぶことができました。「思いを乗せるシェア活動」について周知しSNS上での応援し合う文化やシェアし合う文化なども進めることができました。
他	人財育成研修の開催	私たちの活動がどのように地域において意義を果たすことができるのか、外部講師を招いて地域とJC両方の観点から考える事業を開催いたしました。第二部では地域で活躍する若い世代の考えも学ぶことができ、新たな時代のJCを考えるきっかけとなりました。
公1	JCカップU-11 少年少女サッカー全国大会山梨予選大会の実施	元プロサッカー選手の前園氏の講演を設営し、グッドルーザーの精神や諦めない心などを子供たちに伝えることができました。勝っても負けても、相手のことを思ってどんな立ち振る舞いができるか、子供たちの表情から真剣に考えている様子が伝わってきました。
公4	参議院議員選挙公開討論会の実施	コロナ禍で判断が難しい部分もありましたが、対面開催にこだわり無事に開催することができました。政党や派閥に関わらず、政策本位の政治選択や若者世代の投票率の向上などのため、次年度以降へと継続してこの責任をつないでいきたいと思います。
公5	山梨ブロック大会の実施	JCI甲州を主管としたブロック大会は、移住・定住をテーマに、山梨に移住し活躍する方々のパネルディスカッション、就活情報、2拠点居住の住まい相談まで、生活全般の支援ブースを出展しました。公開収録では山梨の魅力について発信することができました。
他	アカデミー研修事業の実施	ONEIMPACTセミナーを開催しました。次年度が決まる10月に開催することで、よりイメージしながら受けていただくことができました。歴代の会長や、外部講師による講演も設え、入会間もないメンバーなど様々なメンバーに学びの多い事業となりました。
他	褒賞アワードの実施	1年間の各LOMの事業を共有し、より優れた事業を称え合うことにより、運動への意識の向上を図ることができました。また、より多くのメンバーを称えるために例年より多くのMVP賞を設け表彰しました。様々な立場の方に審査員としてご協力いただきました。
他	ありがとうブロックの実施	今年度の運動の集大成として、会長報告や委員会報告、褒賞アワードの表彰などを行うことができました。各LOMの協力への感謝を伝え、次年度へと想いを伝えることができました。また卒業生の功績を称えるとともに感謝を伝えることができました。
他	LOMへの拡大支援	定期的な拡大セミナーや交流会などを開催し、拡大の支援を行ってまいりました。今年度新たな取り組みとして、全てのLOMで共有したブロック内拡大候補者情報は次年度へと引き継ぎ、継続した拡大候補者へのアプローチを行い、拡大へとつなげてまいります。
他	まちの中期ビジョン策定支援	策定済みのLOMは少なかったものの、ほとんどのLOMが関心があるとのことで、JCI都留主催の中期ビジョン策定セミナーに他LOMメンバーも多く参加し、中期ビジョン策定の意義を学ぶことができました。策定に向けて準備を始めるLOMが増えました。
公6	防災における事前対策強化の実施	山梨ブロック協議会では、地震や水害などの際の防災マニュアルが存在していませんでした。そこで、事前対策マニュアルの作成を会員や専門家からアドバイスを頂き作成しました。次年度に引き継ぎ、有事の際の対応に役立てます。
他	愛でつながる広報の実施	「想いを乗せるシェア活動」とし、全メンバーが主体性をもって発信を行うとともに、他LOMやメンバーの発信も積極的にいいね！やシェアをし合い応援する文化を推進しました。これまでSNSを活用しなかった方々の行動を促すことができました。

立候補予定３氏が公開討論会
物価高、安保で持論

ブロック協議会名	役職名	担当者名
神奈川ブロック協議会	会長	常盤 健嗣（平塚）

基本方針

不確実な時代だからこそ歩みを止めることなく、明るい未来を想像し、主体的に自らの色で未来を描けるメンバーと地域住民の創出。

総括

2022年、スローガンを「Walk On」とし、神奈川の夢と未来を県内21会員会議所の色で描き出すという理念のもと、どのような状況にあっても歩みを止めないという信念を以って活動してまいりました。県内21会員会議所と神奈川ブロック協議会が運動、活動における相互補完を行い、それぞれの特色を認め合い運動を行ってまいりました。明るい豊かな未来を、メンバー、そして県内地域住民が想像していただくことを目指し、集大成である神奈川ブロック大会平塚大会で示す事ができたと思います。これまでもこれからも、協議会として付託と信頼をより強固なものとし、社会状況に左右されない、主語を県内21会員会議所とした運動を引き続き展開してまいります。

事業区分	事業名	事業内容
公1	かながわハイスクール議会2022	17回目の開催を行ったかながわハイスクール議会では3日間のカリキュラムの中、県議会にて議員それぞれが所属する各委員会に120名の高校生議員が配属され、大学生と共に政策を作成し県知事へ議場にて提言を行いました。本年はろう学校の生徒も参加いたしました。
公1	JCカップU-11 少年少女サッカー神奈川ブロック予選大会	グッドルーザーの精神を養い、勝つことも負けることも誇りに思える人格形成を行う方針にて開催をいたしました。元日本代表選手によるサッカークリニックでは、この貴重な機会を掴もうとする少年少女の意欲的な参加姿勢が印象的でした。
公4	みらいく事業	選挙権、そして成人年齢が18歳に引き下げられる中、未来の地域や国に対してより主体的且つ自主的に政治参画意識を養うべく政治参画意識向上プログラム「みらいく」を神奈川県内高等学校を対象に行いました。
公5	第50回神奈川ブロック大会平塚大会プレ事業	神奈川ブロック大会開催に先立ち、平塚市、大磯町、二宮町を舞台としたデジタルスタンプラリーを開催いたしました。1市2町の名跡や観光資源にポイントを設け、地域の魅力に直接触れていただき参加者には間伐材で作った湘南スターコインを進呈いたしました。
公5	第50回神奈川ブロック大会平塚大会 「あなたの手が未来を描く～共生社会実現フォーラム～」	手話パフォーマンスグループHAND SIGNを招き、第一部として手話と音楽、ダンスを融合した楽曲で会場を巻き込み披露していただきました。第二部ではHAND SIGNが手話に触れた映像を交えたエピソードと共に、共生社会についてのディスカッションを行いました。
公5	第５０回神奈川ブロック大会平塚大会メインフォーラム「平塚に魔王襲来!?～Imagine 感謝を繋ぎ、未来を描く～」	平塚市の課題を会場参加者、YouTubeLive視聴参加者とともにクイズ形式で抽出し、有識者やスポーツ選手を交えたパネリストとディスカッションを行いました。特にゴミ問題については深掘りし、参加者が自発的に行動できる未来を描く事業を行いました。
他	第50回神奈川ブロック大会平塚大会 歴史発信事業	第50回目という節目の大会開催にあたり、第10回、20回、30回、40回開催の際のブロック会長へインタビューを行い式典で参加者皆様の前で披露しました。また、第1回開催からの社会背景とブロック大会テーマを並列にした年表を作成し掲出いたしました。
他	第50回神奈川ブロック大会平塚大会式典	本年は、感染症対策、また今後に運動を残し連続性を担保するために、オンライン配信を行いYouTubeでのアーカイブを残すことで継続的かつ広く大会の開催意義を示しました。また開催地である平塚市の代名詞である七夕をモチーフに演出をいたしました。
他	神奈川塾の開催	神奈川ブロック協議会の伝統的研修事業である神奈川塾において、入会3年未満を対象として県内メンバーを対象に3回の神奈川塾を経て根拠の作り方、運動の作り方、事業の作り方を経て、実際に議案化した事業を実行いたしました。
他	2022年度褒賞	拡大褒賞、新入会員事業褒賞を執り行いました。拡大率の上位LOMに賞状と副賞を授与し、神奈川県内メンバーの純増に寄与いたしました。新入会員事業褒賞においては、実際に議案で作成をした事業を行政と共に行い、経験の底上げを行いました。
他	災害時研修事業	東京ブロック協議会、山梨ブロック協議会、静岡ブロック協議会との協働のもと、富士山噴火による災害についての学びを有識者の講演等を富士山現地、山梨県富士山科学研究所にて行いました。災害時の担当レベルでの顔の見える連携を目指しました。
他	県内会員会議所予定者理事長・専務理事訪問	予定者の段階にて県内会員会議所理事長・専務理事を訪問し、ブロックとしての意思とLOMとして目指すものの意見交換をおこないました。これによりブロックとLOMの距離を縮まり、相互補完をより具体的に行うことができました。
他	神奈川ブロック協議会全体会議	年初に第一回全体会議をメタバース空間「Door」を用いて開催いたしました。緊急事態宣言下にあっても効果を落とすことなく、新たな可能性を示すことのできる出向者全体での会議になりました。第二回は東海大学で開催し、産官学民の協働姿勢を体現いたしました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
静岡ブロック協議会	会長	永田 裕史（磐田）

基本方針

前年度の運動を踏襲しつつ、会員の成長と人口流出解決に訴求した各LOMの会員拡大を支援とする事業展開をする。

総括

会員拡大をLOM支援とした場合に、過去と現在の違いを考察する必要があります。単純に人口流出による拡大対象者数が少なくなったと考えるのではなく、静岡県で働く県民が真に輝き郷土への愛を持って居続けてもらう、就学などの理由で県外に出ても戻ってきてもらう環境を構築しました。また、会員にとっても地域課題を通し静岡で運動ができることへの意味・意義に訴求しました。特に会員は一人ひとりが拡大できる人財に成長するように構築しました。各種事業アンケートの内容は、肯定的な回答が8〜9割となりました。会員の成長は、例年よりも委員会・事業において100%出席者数が多かったことからも、より学びを求めて参画できたと思います。

事業区分	事業名	事業内容
他	アカデミー委員会2月事業 「Whyの先へ進め！～持続的な解決策を導くために～」	Active Citizen Frameworkを活用した実践型の研修を実施することで、メンバーが地域課題の持続的な解決策としてActive Citizen Frameworkを理解し、JC運動の本質を理解することを目的としました。
公3	ESG委員会3月事業 「世界を救え!!～ESG経営で学ぶ持続可能な社会づくり～」	第1部でESG経営に関する知識とメリットや必要性を知っていただき、2部で架空の自社に所属した参加者が、どういったことを行えば環境に配慮し利益の取れる企業となるのか展開し、ESG経営の手段や方法を考える意識をつけることを目的としました。
公2	デジタル委員会3月事業 「デジタルトランスフォーメーションで作ろう、これからの社会に必要な会社」	デジタルトランスフォーメーション（以下、DX）について、講師の方から学びを提供していただき、理解を深めた後に、参加者でのワークを行い、自社でのDXについて考えることで、DXを推進することができる人財の育成を行いました。
公6	ビジネス委員会3月事業 「ビジネスモデルにイノベーションを起こせ！～企業価値を高めるために～」	生産性を上げ新たなイノベーションを生み出すにはどうすれば良いのか？その仕組みを講師から学び、話し合いや発表を通して企業価値を高める為の生産性向上の仕組みを理解し、新たなイノベーションを生み出す必要性を認識することを目的としました。
公5	魅力溢れる静岡創造委員会4月事業 「若手の人財不足解消へ！若手人財から選ばれる企業になるために」	時代に合わせた人財育成戦略や若者の価値観を理解することにより、新たな視点を取り入れることの重要性を認識し、また具体例的な実践方法を聞く事により、自社の仕事の魅力を効果的に発信し、若い人財を継続的に惹きつける企業の増加を目的としました。
他	アカデミー委員会5月事業「静岡ブロックアカデミー★ルーキースクール」	公益社団法人日本青年会議所運動プラットフォーム構築委員会の推進するブロックアカデミーを実施することで、JCの共通の理念を理解し他者に正しく伝え、率先して地域に運動を創ることができるリーダーの育成を目的としました。
公2	ESG委員会6月事業「様々な目線から学ぶサステナビリティ経営」	ESG経営についての今後の展望や助成金、金融サポート等の講義を行い、その上で行政・金融・企業の視点からの理解を深めてもらう為、三者でクロストークを行い、ESGのメリットや展望を理解し持続可能な経営戦略を描く事を目的としました。
公2	ビジネス委員会6月事業 「楽しく政治を理解しよう！～これからの未来を創っていくのはあなたです～」	若年層が政治への理解を深める為に、若年層が政治に関心が高い国は、どのようにして関わりを持っているのかを講師からの講演を聞き、政治に興味、関心持ってもらい自身が参画することで、考えや主張が届くことを理解し政治への意識向上を目的としました。
公2	デジタル委員会6月事業「スマートシティひろがるビジネス」	スマートシティについて、学術の専門家、行政の専門家をお呼びし、講演を行っていただき、また参加者にワークを行っていただくことで、スマートシティへの理解を深め、ご自身のビジネスを変革していける人財を育成しました。
公5	第55回静岡ブロック大会運営	タイムスケジュールを管理して、大会内の各事業が地域を想い行動する若者の増加に向けてその運動の効果を最大限発揮するためには、本大会を円滑に運営する必要がありました。
他	第55回静岡ブロック大会式典	式典内で鍵の伝達式をして、全LOMがブロック大会の成功に向けて一致団結し、ブロック大会を次代へ繋げる意識を高めました。
公2	アカデミー委員会第55回ブロック大会 「Whyに心が動く！～採用戦略に学ぶ組織拡大～」	良い人財を採用する戦略を通じて、JCや各企業の価値観に対して共感と共鳴ができる採用のプロセスを会員拡大に当てはめて考えることができる講演を通じて、他者を巻きこみ仲間を増やして強固な組織を創ることができる人財の育成を目的としました。
公3	ESG委員会第55回ブロック大会「The road to a sustainable society 僕らが本気で考える持続可能な社会への道」	架空の中小企業をモデルケースとしESG経営を取り入れたビジネスモデルを大学生が主体として作成し発表しました。参加者がESGに配慮した行動を行う事で利益を得る事が可能だと認知し、ESGを取り入れた行動をする契機となることを目的としました。
公2	魅力溢れる静岡創造委員会第55回ブロック大会 「変えよう！このまちの未来！～若者が描く魅力あるまちおこし～」	パネルディスカッションと各地域のまちおこし事業のパネル展示を通じて、個人、企業、行政がそれぞれの立場でできるまちおこしについて成功事例の中から学び、まちおこしを通じて若者をはじめとした多くの人を巻き込むことができる人財の育成を目的としました。
公6	ビジネス委員会第55回ブロック大会 「ウェルビーイングが「しあわせ」をつくる～私と会社の健幸経営～」	働くことで身体的にも精神的にも健康になる活動を取り入れるために、どのようにしたらいいのかを講師から講演を聞いて、ウェルビーイングの必要性を認識してもらい、企業や自分自身に、反映させることができる人財の育成を目的としました。
公6	デジタル委員会第55回ブロック大会 「災害に強いまちへ！デジタル技術を学び、体験しよう！」	被災時の体験を共有し、デジタル技術の専門家による講演を行いました。また実際にデジタル技術に触れる機会として、ドローン体験を提供しました。これらにより、災害時にデジタル技術を用い、レジリエンスの向上を推進する人財を育成しました。
他	拡大オンラインサロン	各LOM拡大担当者が、LOMの拡大に対する悩みや成功体験を共有したり、講師講演から拡大手法を学ぶ機会をつくることで、会員拡大に対する意識高揚と、当事者意識の醸成を目的としました。
他	事業のサブスクリプション化	日本・地区・ブロックの事業、各LOMの事業の動画のまとめページを作成することで、会員拡大、資質向上の一助としました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
愛知ブロック協議会	会長	野々山 寿人 (刈谷)

基本方針

未来都市愛知の創造、持続的な国際協力、未来への投資、地域とより近い存在であるために。

総括

2022年度、愛知ブロック協議会は7つの委員会を設置し、「革新から飛躍へ 33の灯火によるドラマチックな愛知を共創」をスローガンに掲げ様々な運動を展開して参りました。2020年に起きた、新型コロナウイルス感染症を起因とするパンデミックにより、社会のあらゆる階層で分断が広がりつつある今の時代を悲観する事無く、前向きに運動を行う事で愛知により良い影響を与える事ができたと確信しております。

事業区分	事業名	事業内容
公2	2022年度名古屋会議メインフォーラム	自ら学び生きる力をもつ「未来都市愛知」を担う「人財」の必要性を理解していただくことを目的とし、愛知県教育委員会、株式会社steAmの協力の元、フォーラムを開催しました。
公7	適応ビジネスと国際的なパートナーシップ活用推進事業	愛知の技術を活かした、適応ビジネスを推進し、愛知の企業が海外展開することを目的とし、JCI日本、33LOM、一般社団法人海外環境協力センター（環境省）、JICA、国立環境研究所 気候変動適応センター、株式会社日本開発サービスの協力の元、適応ビジネス推進セミナーを実施しました。
公7	国際的な疾病対策の協働事業	日本文化の特性を活かした疾病対策の取り組みやおもてなしの心を世界に向けて発信し、心と体の健康を増進するためにも手指の衛生管理として、おしぼりの文化を世界に向けて発信しました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー愛知県大会実施	少年少女達に、多様性、参加の喜び、相互理解の重要性を理解していただくために、スポーツを通じて体を丈夫にするだけではなく、目標に向かって努力する意欲を培い、仲間意識や責任感、犠牲的精神、リーダーシップ、感謝の心、社会性といったものを育む機会を提供することで、少年少女達に、勝ち負け以上に大切なグッドルーザー精神を伝える事を目的に実施しました。
公7	持続的な国際協力を推進する事業	愛知から開発途上国へ、国際機関、民間企業などの多様な関係者と連携し、支援活動を展開する事を目的にバングラデシュ人民共和国 シェクナガル・プライマリー小学校にて水の衛生に関する教育支援を行いました。
他	第55回愛知ブロック大会メインフォーラム	創造力を育んだ子どもたちの未来は最新テクノロジーが掛け合わさることで無限の可能性を感じていただくことを目的とし、愛知県教育委員会、一般社団法人暁号資産ビジネス協会の協力の元、NFTを題材としたメインフォーラムを開催しました。
他	第55回愛知ブロック大会サブフォーラム	宇宙産業を学ぶことにより、デジタルの活用や補助金・助成金、SDGsビジネスモデルについての理解を深めることで、愛知の経済成長を促すことを目的としたフォーラムを開催しました。
公5	第55回愛知ブロック大会広報事業	県民に対して、第55回愛知ブロック大会を広くPRし、参加意欲を醸成することでより多くの参加を促すことを目的とし、豊川市・愛知県・JAひまわり・社会福祉法人 豊川市社会福祉協議会・公益財団法人豊川市国際交流協会の後援の元、大会の広報を行いました。
公5	第55回愛知ブロック大会開催	本協議会の活動を通じ、一般市民の皆様に運動を伝えることを目的とし、豊川稲荷を会場とした愛知ブロック大会を開催しました。
他	第71回全国大会おおいた大会ブース出展	愛知県の魅力である歴史・食文化・観光名所に興味を持っていただき、愛知県に訪れたくなる人が増えることで愛知の経済成長に資することを目的とし、第71回全国大会おおいた大会にて愛知ブロック協議会のブースを出展しました。
公7	世界会議ブース出展	愛知の魅力や文化を伝え、国外及び国内での知名度を向上させるために、国外及び国内の交流に積極的な人々が集まる世界会議ジャパンナイトにて愛知県の知名度向上を図るブースを出展しました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
岐阜ブロック協議会	会長	金津 誉（瑞浪）

基本方針

岐阜の魅力を発信し、後世に伝え、また岐阜をつなぐ鎹であり続けるため、持続可能な組織運営への移行を目指します。

総括

2022年度、岐阜ブロック協議会では、ここ数年コロナ禍の中リアル開催ができていなかった多くの事業を可能な限り、また、時勢に配慮したうえで対面にこだわり開催することができました。オンライン開催の事業や委員会、会議続きで希薄になりかけていた岐阜ブロック内の繋がりの大切さを改めて実感していただくことができました。また、LOMでは行いにくい次年度に向けての会員拡大のセミナーを予定者のスタート段階で開催させていただき、47ブロックで1番初めに2023年度の拡大に向けた取り組みをスタートさせることができました。また、組織内の改革もコロナ禍を機に進める事も叶いました。未来につながる装置の大きな歯車を回すことができました。

事業区分	事業名	事業内容
他	選挙における各種討論会の支援（組織連携推進会議）	若年層の政治に対する関心を高め、投票率の向上を目指し、選挙があるLOMには開催ツールを提供し、選挙がないLOMには公開討論会に関する情報提供を行い支援しました。第26回参議院議員通常選挙に関して、有権者の政治への参画意識を高める為にこと立候補者の主張を動画配信しました。
他	岐阜会議の開催（組織連携推進会議）	ブロックとして行う運動について共有を図る為に、県内の理事長が一堂に会する場において情報発信する事業を実施しました。具体的には①まちの中期ビジョン策定に向けたセミナー開催、②JC岐阜ブロック災害支援ネットワーク調印、③会員拡大セミナー開催、④理事長によるLOM方針発表、を実施しました。
他	岐阜ブロック防災・疾病ネットワークの構築（組織連携推進会議）	有事の際に地域のリーダーとして迅速かつ総合的な支援活動を行う為に、関係諸団体と連携を強化し、防災・疾病ネットワークの構築を推進しました。①県内全LOMによる調印、②LOMへの情報発信、③自治体及び社会福祉協議会との協定締結の働き掛け及び情報交換、を実施しました。
他	LOM重点依頼運動の推進（組織連携推進会議）	LOMそれぞれのまちの中期ビジョン策定に向けた活動を支援しました。将来的なビジョン策定の準備として、ストラテジックマップの作成を各LOMに依頼し、支援しました。また、岐阜県が定める中長期ビジョンを学ぶ機会を設け、検討から策定までの流れや手順を学んでもらいました。
他	会員拡大の推進及び支援（アカデミー委員会）	以下の内容で各LOMの会員拡大の推進・支援を行いました。①各LOMの現状把握・拡大計画の確認②会員拡大データバンク開設と共有③拡大情報共有ミーティングの開催④会員拡大ツール作成⑤会員拡大セミナーの実施⑥会員拡大アワード表彰⑦会員拡大アンケートBOXの設置⑧共感拡大マンダラシート
他	第1回会員拡大セミナー	岐阜会議のなかで、2021年度日本青年会議所 組織グループ 会員拡大委員会 副委員長であり、八幡浜青年会議所の理事長でもある鈴木裕子君をお招きし、「多様性のある組織の確立」とのテーマでご講演いただきました。
公1	第8回JCカップ U-11 少年少女サッカー全国大会岐阜ブロック予選大会	第8回JCカップ全国大会の岐阜ブロック予選大会を開催しました。グッドルーザーの精神について学ぶため、保護者もグリーンカードを提示し、試合終了後にアフターマッチミーティングを行い、その内容をグリーンカード絵馬に記入し、展示するなどしました。
他	岐阜ブロックアカデミー2022	「JCアカデミア開校 ～謎の組織編～」とのテーマで岐阜ブロックアカデミー2022を開催しました。①開校式会長講演（共通PPT）②ONEIMPACTセミナー③模擬委員会④郡上おどり
他	第2回会員拡大セミナー	岐阜ブロック大会2022のなかで、日本JCシニア・クラブ拡大支援委員会 委員長である鈴木篤先輩をお招きし、「次年度につなぐ会員拡大」とのテーマでご講演いただきました。
他	JCプログラムセミナー	アカデミー生を対象に、JCI Achieve、JCI DiscoverのJCプログラムを計8回開催しました。【JCI Achieve】①6月7日（火）、②6月21日（火）、③7月12日（火）、④8月18日（木）【JCI Discover】⑤6月14日（火）、⑥6月22日（火）、⑦7月28日（木）、⑧8月25日（木）
他	地域のたからの発掘及び発信事業 （ブロック大会2022実行委員会）	岐阜県民の郷土愛を高めるために、岐阜県民に岐阜県各地の魅力を認知していただくことを目的とし、岐阜県各地の魅力である「地域のたから」を発掘し、写真とPRを併せてInstagramにて発信しました。
他	活動方針の理解共有のための事業 （ブロック大会2022実行委員会）	岐阜ブロック協議会が有益な活動を展開していくために、岐阜ブロック協議会メンバーが2022年度の活動方針を理解共有することを目的とし、岐阜会議及びYouTubeにてブロック会長、各会議・委員会、岐阜県内各LOMの活動方針を配信しました。
公5	岐阜ブロック大会2022 （公益事業）（ブロック大会2022実行委員会）	岐阜県民が岐阜県に興味を持っていただくために、岐阜県各地の新しい魅力を知っていただくことを目的とし、新しい魅力の情報が載ったパンフレットを配布するとともに、岐阜県各地の魅力をあつめた「たからいち」を展開しました。
他	岐阜ブロック大会2022 （共益事業）（ブロック大会2022実行委員会）	岐阜ブロック協議会が今後もより良い運動を展開していくために、歴史と伝統を引き継ぐことを目的とし、本次年度の理事長・役員紹介や岐阜ブロック大会の「大会の鍵」の伝承式、岐阜ブロック協議会の事業報告と卒業式を展開しました。
他	HP、SNSの管理・運営（事務局）	ホームページ、Facebook、Instagramを活用して、岐阜ブロック協議会及び各LOMの活動内容や地域のたからの情報発信をしました。
他	JCI日本、東海DCとの諸事業の推進（事務局）	京都会議、全国大会、世界会議、東海フォーラムの事業において、岐阜ブロック協議会として各LOMに推進をしました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
三重ブロック協議会	会長	森田 和樹（志摩）

基本方針

地域の方々と共に笑顔を創り出すために愛のある行動で自身が成長し愛が溢れる三重を実現する。

総括

本年度の三重ブロック協議会では、自己満足のやりたいことをやるのではなく、正しい問題を見定め、目的設置を明確にし、できない理由を探すのではなく、できる理由を探し解決に結びつける。その中で、心から幸せになれる方法を見つけ出し、地域との連携の中で生まれた信用を信頼に変えていき、地域が良くなり続ける運動を発信してきました。挑戦を繰り返す中で、共に悩み、考え、喜び、笑う時間を共有し、共に学ぶことで絆を育み仲間になるだけでなく、個々が成長する機会となりました。また、地域の問題解決に向けて他者への感謝の気持ちと仲間を思いやる気持ちが育まれたからこそ、愛が溢れる三重の実現に繋がったと考えます。

事業区分	事業名	事業内容
公1	JCカップU-11 少年少女サッカー三重県予選大会	JCカップU-11少年少女サッカー東海地区予選に向けて、県内から6チームから出場いただき三重県代表チームを決定しました。次代を担う子どもたちにお互いを思いやる気持ちに気付き、グッドルーザーの精神を育むことを目的とした大会を開催しました。
公5	第52回三重ブロック大会 地域力開発事業	県内各地の食・物産・体験ブースを集めることで、三重県内の多様な魅力を見つめ直し、三重県内の活性化への意欲を向上するとともに、県内の魅力を知り、住まう地域と三重県に対する愛着を深めていただくことを目的とし事業を開催しました。
他	第52回三重ブロック大会 式典・卒業式	三重ブロック協議会の運動と成果を共有し、賛同を得るとともに、これまでのJC活動に尽力されてこられた方々のおもいに触れ、脈々と受け継がれてきた伝統を引き継ぎ、更なる運動の飛躍へ繋げていくことを目的とし事業を開催しました。
他	全国共通のプラットフォーム推進による JCプログラム実施事業	地域の問題解決に対して率先して行動するためには、豊富なアイデアを連続して湧き出し、思考を練り上げ、自身の考えを整理し、 発言していくことが本セミナーで学ぶことができると考えマインドマッピングセミナーを行いました。
他	ブロックアカデミー事業	三重県内各地会員会議所の入会後3年未満のアカデミー対象者が集まり、JCの共通の理念のもと交流を深め、切磋琢磨することで県内各LOMの垣根を越えて多くの人を巻き込める人財へと成長するため、事業を開催しました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
福井ブロック協議会	会長	新谷 大輔（若狭）

基本方針

2022年度はGive It Together～愛で拡がるFUKUIの共創～をテーマとして、福井ブロック協議会に所属するメンバーが地域や経済に愛を与えることで、地域、経済により良い相乗効果を得られるようにしました。

総括

本年度は公益事業を3本、その他対内事業を5本展開させていただきました。運動面においては自身が参加した近年の事業に比べ多くの方のご賛同とご参画を得ることができ、次代につながる内容となりました。運営面においても素晴らしい連携を図ることができ、チーム福井として過去最高のエンゲージメントを感じる事ができました。 すべての事業において県内の市民並びに会員が新たなステージを体感していただける素晴らしい内容になったと思います。多くの方がJCの根幹と地域愛の何たるかを感じて頂けたと思います。本年度の経験や体験がベースとなりこれからも素晴らしい福井になる事を心より期待して２０２２年度福井ブロック協議会の会長総括とさせていただきます。

事業区分	事業名	事業内容
公4	A or B会議（参議院選挙における各種討論会に順じた事業）	高校生と参議院選挙立候補予定者を対象に、事前に用意した質問に対してそれぞれ意思表明(A or B)をしてもらい、各自の主張を発表してもらうことで、若者の政治に対する関心を高めました。また、各高校をWebでつなぐことで100名を超える高校生に参加してもらいました。
公5	高速交通体系シンポジウム	北陸新幹線に対する県民の意識のバラツキを統一するために、まず関心が低い方に向けて講演会を行いました。奥越地域ではあまりメリットを感じていないという考えの方も、事業後には北陸新幹線ができると少なからずメリットがあることを知り、今後、京都のことを調べてみるなどアクションを起こす人が増えました。
公7	International Festival ～坂井から広がる国際の協奏～	JCメンバーも国際の機会を得ておらず、各LOMの事業でも、国際に関する事業が行えていない為、まずは国際的な視野を広げるという目的で、お祭り形式で事業を開催しました。JCメンバー、一般参加者共に、国際的な視野が広がった事業となりました。
他	新入会員オリエンテーション	新入会員を対象に「JCの理念に共感し、自ら行動ができる人財を育成する」ことを目的に掲げ、4つの講演を行いました。まず「開校式講演」でJCの魅力やスケールメリットを感じ、「理念共感セミナー」でJCの理念を知り、目標を達成するための第一歩を考えました。そして「JCゲーム」で時間の有限性を学び、「JCの活かし方を知れ!!君は最高のリーダーだ!」をテーマに、菅野副会頭にご講演をしていただきました。
他	ブロック大会	関係者に感謝を伝え、次年度への引継ぎを行う式典を開催し、県内メンバーの心理的距離を縮めるために名刺交換を行いました。ネットワークが広まり今後の福井ブロック協議会が益々強くなっていく姿を見ることができました。
他	出向者ミーティング	福井ブロック協議会の出向メンバーを対象に、ブロック及び各委員会の一年間の方向性を伝えるとともに、出向者同士の顔合わせを行いました。その結果、出向者が抱える不安や疑問を解消し、ブロックの事業並びに各委員会に参加しやすい環境を作りました。
他	ブロック全体会議	福井県内10LOMにおけるそれぞれの運動の特性の理解及び想いを共有するために褒章事業「AWARDS FUKUI 2022」を開催しました。また、クイズ形式でブロック協議会の事業報告を行いました。そして引き継ぎ式では次年度会長予定者ならびに役員予定者の紹介を行いました。
他	開発と連帯の発行	各地会員会議所のJC活動における想いや事業内容を共有し、各事業の担当者を明確にすることで、他LOMからでも連絡を取りやすい環境を整え、事業構築や、地域課題解決に取り組む際には、LOMの垣根を越えて連携、協力できるようになりました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
石川ブロック協議会	会長	稲垣 健（輪島）

基本方針

地域間の交流や連携を促進し、相補的な関係を作ることで持続可能な石川を創造します。また、LOMの組織力を強化することで、地域のために活動し続けることができる多様性のある組織を構築します。

総括

石川ブロック協議会のメンバーへJCの理念について理解を広げ、JC運動を最大化できるよう理念共感プロモーターを輩出しました。今後も理念共感を拡大させていく上で、石川県内各LOMへの理念共感が加速すると考えます。また、地域課題を解決し、地域の魅力をより向上させるために、各地域の連携体制を強化できるよう広域連携推進会議を実施しました。石川県内の各地域、そして各LOMが衰退傾向にある今、各々で課題解決に取り組むのではなく、お互いに強みを生かし、お互いの弱みを共有するという連携体制が必要です。本事業を実施したことにより、今後の各課題解決に向け、各LOM間の連携体制が強化されるきっかけになったと確信しております。

事業区分	事業名	事業内容
他	理念共感拡大グランドデザイン事業	理念教育システムの再構築・理念共感プロモーター輩出と、県内各LOMアシスタントを選出しました。また、ブロックアカデミー内にて理念についての講義の実施・アシスタントを通して各LOMへ各種大会の理念共感セミナーへの参加推進を行いました。
他	JCクエストアカデミー	第一章ではJCについての再認識・新たな知識と、パーパス講座では自分を見つめ直す機会としました。第二章では今後の自分が行う行動について学んでもらいました。第三章、最終章で各チームに分かれ議案構築を行い、模擬理事会にて発表しました。
他	第52回いしかわコンファレンスin白山 式典事業	オープニング動画、会長挨拶、来賓祝辞、石川ブロック協議会の事業説明、一般社団法人七尾青年会議所による中期ビジョン作成状況報告を行い、本年度の石川ブロック協議会の運動を発信しました。また次年度の石川ブロック協議会の会長候補者を発表しました。
公5	地域の課題解決フォーラム	ボーダレスジャパン社の鈴木氏による講演で、どのように企業として地域課題を解決しているかを具体的な事例を学びました。また、地域の課題解決に取り組む企業とのトークセッションを聞き具体的な活動をしることで次のアクションを起こす一助としました。
公5	白山手取川ジオパークARスタンプラリー	日本で唯一のジオパーク内にあるイオンモール白山でARを活用したスタンプラリーを行い、ジオパークについて体験してもらいました。ARを用いて地域資源の一端に触れることで、地域資源の魅力を感じてもらいました。
公5	わがまちビジョン策定支援事業	わがまちビジョン策定会議を開催し、各LOMからメンバーを集め、全3回でわがまちビジョン（中期ビジョン）策定の必要性及び策定時期の設定を目指しました。各LOMにビジョンの必要性を感じてもらい、策定までの計画を考えてもらいました。
公4	石川県知事選挙公開討論会	石川県知事選挙において県民一人ひとりが当事者意識を持ち、候補者の主張・政策を正しく理解し、投票の判断材料となる情報を獲得すると共に政治への参加意欲を高めることを目的とし、石川県知事選挙立候補予定者による公開討論会を開催しました。
公5	広域連携推進事業	県や市町村のベビーファースト運動活動宣言を推進しました。また石川ブロックとして各地域の子育てに対するテーマを共有し連携体制を促進するための広域連携推進会議も合わせて実施しました。
公5	子育ての不安をあなたのまちに届けようプロジェクト ～パパママ意見交換会～	県内のより多くの子育て世代が政治に参画し、声を届けるべく行動に移していただくことを目的とし、オンライン意見交換会を開催しました。その意見を集約し市町村に届けることで子育て世代の声が行政に届く仕組みを確立しました。
公1	第8回JCカップU-11少年少女サッカー全国大会 石川予選大会	第8回JCカップU-11少年少女サッカー全国大会石川予選大会の開催とグッドルーザー精神を育むためのミニゲームやアフターマッチミーティングの実施を行いました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
富山ブロック協議会	会長	松浦 憲秀（富山）

基本方針

『Well-Being 幸せが溢れる 富山の創造』県民一人ひとりが自身の生活に合わせてWell-Beingを実現することで幸せが溢れる富山が創造されます。

総括

Well-Beingの定義を身体的・ 精神的・ 社会的に良好な状態とし、Well-Beingを実現するために参加者にPERMA『P:（Positive emotion）E:（Engagement）R:（Relationship）M:（Meaning）A:（Accomplishment）』の大切さを実感してもらう事業を展開しました。お金や持ち家等を指標化したような外面的な幸せではなく、一人ひとりが自身の幸せに気付いてもらう内面的な幸せを追求するために、多くの機会を創出しました。また、1年を通じて多くの外部団体や協力者と関わる事業を構築することで、それぞれが持つ長所を掛け合わせることができ、スケールメリットを活かして多くの県民に幸せを届けることができました。

事業区分	事業名	事業内容
公1	革新企業訪問事業	県内の大学生を対象にチャレンジ精神を育むことを目的とし、先進的・革新的な考えを持ちチャレンジし続けている企業を訪問し、経営者からの講演、企業訪問をさせていただきました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー全国大会予選大会	日本青年会議所の趣旨目的に則り開催し、富山ブロックにて8チームが参加しその内2チームを選出いたしました。グッドルーザー精神を体感してもらう具体的手法としてアフターマッチミーティングを行い選手や保護者にその精神を学んでいただきました。
公1	みらいの起業家マインド育成塾	主体性をもって行動する子どもが溢れることにより、前向きになり、新たなチャレンジが新たな価値を生み出す地域を目指して開催しました。自分のことをより深く知ることを目的とし、県内中学・小学校6年生60人を対象にカードゲーム、起業家による講演を行いました。
公2	理念共感事業（2月）	青年会議所の理念を共有し、共感した人財による持続可能な組織を目指し9LOMのメンバーが、JCの理念を理解し共感できる人財となることを目的とし、参加者にはJCIプログラムの受講と第50代ブロック会長の大西先輩の講演を聞いていただきました。
公2	理念共感事業（8月）	JC運動や活動の意義を理解し、主体的に活動できる人財となることを目的とし、各地青年会議所理事長と松浦会長に参加していただきディスカッション形式で、具体的な経験をお話していただきました。参加者のJC運動や活動に対する意欲が高まったかと思います。
公4	参議院議員選挙立候補予定者公開討論会	参議院議員選挙立候補予定者5名に参加していただき、有権者に対し自身の政策（マニフェスト）を提示し、各立候補予定者と具体的な政策論議を行いました。
公5	PERMA実感ブロック大会事業	自身の幸せについて向き合いウェルビーイングを目指す事を目的とし富山県総合運動公園内にPERMAを感じるブースを20、飲食出展を30店していただきました。また県知事新田八朗氏、予防医学者石川喜樹氏をお迎えしパネルディスカッションも同日に開催いたしました。
他	富山ブロックアカデミー事業	青年会議所の理念を共有しLOMの垣根を超えた仲間との友情と絆を深めることを目的とし入会4年未満の会員を対象にフラッグハントを行いました。また終了後には懇親会と居酒屋の青春にて理事長たちと話をする機会を作りました。
他	第1回ブロック全体会議の開催	協議会と県内9LOMの運動方針を知り、活動への意欲向上と結束を強めることを目的としました。県行政をはじめとする各関係諸団体の皆様に、運動に対するご理解をいただくことを目的としました。来賓をお呼びし、役員紹介、委員会活動内容を発表しました。
他	第2回ブロック全体会議の開催	次年度以降の活動に向けて結束を強めることを目的とし、ご来賓にお越しいただき、今年度の富山ブロック協議会の活動の成果を知っていただきました。また次年度役員を紹介し運動活動が継続されていくことを広くアピールする場となりました。
他	PERMA実感スポーツ事業	PERMAを実感し、幸せが溢れる社会を目指し身近にある心が沸き立つ機会に気づくことを目的としました。（株）カターレ富山と連携し、プロサッカー選手をLOMに派遣したり、市町村サンクスDAYに各LOMから動員し試合観戦をしました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
新潟ブロック協議会	会長	椎谷 亮（新発田）

基本方針

一人でも多くの地域住民が自分達の住み暮らす地域への関心に溢れ、より良い未来を描き、能動的に暮らすことのできる社会を目指す。

総括

JCの本質である青年に成長と発展の機会を提供することと、社会の課題を解決することで持続可能な地域を創ることを追求することで、地域の青年組織としてのJCの存在意義を確立し、理念に共感した人財が自然と集う純増体質を実現するとともに、各LOMやブロック協議会がJC運動プラットフォームを確立し、JCの運動が地域社会に幸せを生み出し続ける装置となり、地域が向かうべき未来を確かに見定め、地域に関心を持ち、より良い未来に向かって行動することのできる能動的人財を育みました。

事業区分	事業名	事業内容
公1	U-11少年少女 サッカー大会の実施	本大会を開催することにより、チームワークを通じ協調性や連帯感を育み、地域間交流により、多様性の相互理解の意識の育成ならびに、勝ち負け以上に大切なグッドルーザー精神を理解することで、将来愛溢れる新潟県に近づけることを目的としました。
公4	政治参画意識向上事業の実施・推進・支援	多くのメディアに取り上げられ、全国的にも主権者教育の実績がある工藤勇一氏による講演を行うことで今回の事業が新潟県から日本全国へと繋がる教育改革への一助になればと思い今回の事業を開催いたしました。
公6	防災・疫病ネットワークの構築	自助、共助、公助という被災時の三原則があり、自助ができなければ、他者を助けることはできません。まずは自ら生き抜くことが大事です。近年トレンドになっているアウトドアを利用し、発災した際に個人が自ら対応できるようになることを目的としました。
公5	ブロック大会メインフォーラムの実施	そして、本年度の活動の集大成として、新潟県内30市町村長によるベビーファースト活動一斉宣言を行いました。また、受付にて会場に来場された方全員にベビーファーストロゴステッカーを配布し、そのロゴを見ることによって興味を持ち、運動が広がりました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
長野ブロック協議会	会長	山下 浩史（須坂）

基本方針

未来を見据えた運動がまちと人財により良い変化をもたらし、地域を共創する心が通う、愛溢れる持続可能な信州を実現します。

総括

本年の取り組みとして、まずは理念教育と理念浸透において委員会や各LOMの会員拡大担当者をはじめ、活動歴の浅い会員を対象とした事業においても理念教育を重点的に取り入れることで理念共感拡大グランドデザインを推進すると共に、中期ビジョンを策定できる人財育成を行ったことで、地域や組織の向かうべき未来に確信をもつことで、より主体的な行動と共感できる動機を共有できる組織となることが期待できます。さらには青少年育成において協調性だけではなく多様性を受け入れる広く柔軟な心も育み、地域活性においては県内の魅力を強く発信し、地域の人々に活力を得ていただき、全体をとおして人財のさらなる成長に寄与した一年となりました。

事業区分	事業名	事業内容
他	理念共感拡大グランドデザイン事業	理念共感拡大会議の櫛田議長による理念共感拡大グランドデザインの説明と理念が持つ影響力について櫛田議長の体験をもとに講演を行っていただき、理念共感拡大グランドデザインを推進する委員会に思考の共有と各LOMの情報を交換しました。
他	2022ブロックアカデミー事業	理念教育の事前配信と理念共感のためにブロック会長の体験談をスピーチで実施し、運動構築の基礎を学ぶためワンインパクトセミナーをアワード委員会の協力のもと実施しました。会員同士の交流と経験のための模擬理事会も行いました。
公5	長野ブロック大会フォーラムⅡ 「年輪経営～理念が浸透した、いい組織」	理念が人にどのような影響を与えてくれるのかを会員及び一般参加者に向けて講演会を行いました。より自身に落とし込みやすくするために会社経営の観点をテーマとし、講師として伊那食品工業の塚越社長に協力をいただきました。
他	未来を見据えた中期ビジョンを策定できるようになる事業	県内の各LOMにおいてビジョンの策定をできる人財の育成としてビジョナリーシティ会議の「ONE FOR JAPAN」カリキュラムを全て受講してもらい、修了者を中期ビジョン策定プランナーとして承認しました。
公1	第8回JCカップU-11 少年少女サッカー大会長野県予選大会	子供たちに、スポーツを通じて協調性を育み、勝敗の結果によらず自身の感情をコントロールできる素養を高めると共に、ブラインドサッカーを体験してもらうことで、様々な立場の人に必要なことを考え、助け合う大切さを学んでいただきました。
公5	長野ブロック大会フォーラムⅠ ゼロから始めるラウンドテーブル	世界にある多様な文化や思想を「食」という視点から共通点や相違点を理解することで、多様性を認め合える社会の推進を図りました。またフードブースを設けヴィーガン食材の試食も行い実体験も積んでいただきました。
公5	第53回長野ブロック大会たから市事業	長野県内の各地にある「粉物」をテーマとして飲食ブースをテント販売またはキッチンカーにて出店していただき、県内のおいしい食べ物の魅力を発信しました。
他	第53回長野ブロック大会式典の部	次年度ブロック会長の紹介と次回ブロック大会開催地を周知することで、次年度への活動意識を高めていただくとともに、卒業生への感謝を伝えることで、現役会員のさらなるリーダーシップの意識も改めて固めていただきました。
公5	第53回長野ブロック大会in御代田軽井沢 結の心～人とまちと未来と～	長野ブロック協議会集大成の場所として人財育成フォーラムとブース出店による情報発信を開催地青年会議所と協働して開催し、県内各地よりご参加いただいた方々に学びと郷土の魅力に触れていただきました。
公5	第53回長野ブロック大会in御代田軽井沢 結の心～人とまちと未来と～テーマ及び会場	テーマを決めることで長野ブロック協議会全体の一体感を高めながらイメージを共有しました。また、安心安全な大会を開催することを掲げ、配信の他にサテライト会場を確保し感染予防や子供連れでも気軽に参加できる環境を創りました。

東信
北信

ブロック協議会名	役職名	担当者名
滋賀ブロック協議会	会長	河村 浩史（大津）

基本方針

滋賀により良い変化をもたらし　愛が溢れる湖国をつくる。

総括

2022年度、長引くコロナの中であっても、多くの事業において計画通りに開催することができたのは2020年度以降の情報の蓄積のおかげだと思います。滋賀ブロック協議会においては、県内11青年会議所メンバーの協力のもとで、3年ぶりに、ブロック大会を開催することができました。また、GianPocketの活用や、新たな情報発信の仕組みづくり等、時代にあった取り組みができたのは、創意工夫をしながら、なんとか乗り越えてこられたコロナ禍での過去2年のメンバーの経験と熱い想いのおかげであり、コロナ前の事業と比べても、決して遜色なく、むしろ、今の時代に適した、素晴らしい事業を開催することができたことに対し、心より深く感謝いたします。

事業区分	事業名	事業内容
他	2022年度滋賀ブロック協議会褒賞事業	本事業を通じて、コロナ禍における他LOMの事業内容や事業目的に触れていただき、青年会議所活動の事業における知見を深めることにより、今後の自LOMでの活動をより有意義なものにブラッシュアップすることで、更により良い事業の構築に繋がりました。
他	滋賀ブロックオールスター感謝祭!!	JCI Creed、JCI Mission、JCI Vision、JC宣言、綱領の理念に関わる内容を二人三脚や綱引きなどの競技を取り入れ、楽しみながら学べる形式で事業を開催しました。理念に共感し発信できる人材育成の一助となりました。
公5	近畿地区大会高槻大会ブース出展	近畿地区大会の中で、滋賀ならではの名産品や特産品をPRし、地域の魅力を発信することで、自らのまちや地域への愛を醸成し、それによって今後の青年会議所活動の糧となり、「滋賀により良い変化をもたらし愛が溢れる湖国」の実現へと繋がりました。
他	多様性のある組織としてのLOMへの拡大支援事業	他LOMの活動内容や多様な価値観に触れ、理念共感拡大デザインの理解を深め、滋賀ブロック協議会の理念共感拡大グランドデザインの重点項目「多様性のある組織」のアップデートを目的とする事業を開催いたしました。
公5	第52回滋賀ブロック大会野洲大会	滋賀ブロック協議会の取り組みや想いを参加者に理解していただき、行政や他団体との関係を強固なものにし、滋賀の文化の魅力を知ることで、メンバーそれぞれの感性を醸成する事業を行い、青年会議所活動の多様性や活性化につなげました。
他	ASPAC堺高石大会開催支援、フードフェスタブース出展	国際的な交流や運動の機会であるASPACに対する開催支援として、県内11LOMへの参加推進を行いました。また近畿地区を中心としたJCメンバーに対して、韓国料理のキンパを滋賀県産の食材を用いて作成し、県内外の方々に滋賀の魅力を感じていただきました。
他	2022年度リレードセレモニー	円滑な組織運営のために、今年度を締めくくるとともに、次年度役員並びに県内11LOMメンバーへ、協議会運営について周知をし、2022年度の経験や成果を2023年度へとつなぐことで、次年度の滋賀ブロック協議会が力強く踏み出していく機会となりました。
公4	政治参画意識向上に関する事業	若い世代が、当事者意識を持ち、政治や社会への関心を高めることを目的とし、社会や政治について考えるための漫画を作成し、動画としてYouTubeに配信しました。また、漫画を冊子化し、高校生へ配布することで政治参画意識の向上に繋げました。
公6	スポーツを通した、健康寿命を延伸する事業の実施に関する事業計画	滋賀県で実施されている「健康しが」の取り組みをさらに効果的なものへと導き、県民の方々の健康意識が向上することを目指し、県内各種企業、行政、子どもたちと共同のもとで「健康寿命延伸ダンス」を作成し、県民に周知をしました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
京都ブロック協議会	会長	中山 良（京丹後）

基本方針

・理念浸透と人財育成　・ブロックの運動発信　・JC運動推進と機会の提供　・財務管理とレジリエンス機能の拡充　・ガバナンス維持管理

総括

オンライン参加の事業が主になっていた過去2年とは異なり、リアル開催とのベストミックスを探りながら2022年度の京都ブロック協議会の運動を進めてまいりました。その中で感じられたのは、当日までの準備不足やシミュレーション不足といった不備が散見され、京都府内各地メンバーのリアルでの事業実施における経験不足を感じました。しかし、理念浸透をはじめ運動を推進し、様々な場所でリアルのコミュニケーションを図り、機会を得たメンバーの視座の変化を感じることができました。単発の事業ではなく、単年度を最大限に活用する推進計画を実施したことで様々な成果を生み出し、その一つ一つにスローガンに掲げた通りストーリーが生まれました。

事業区分	事業名	事業内容
公4	京都府知事選挙に伴う市民参画意識の醸成	京都府知事選挙の公開討論会を実施しました。討論会や投票の告知をSNSやYouTube及びe-みらせんにて配信する方法で、選挙について目にする機会を創出しました。今回の選挙は、期日前の投票者数が4年前に比べ20%増加し、投票率も前回の35.17%より2.41%上昇し37.58%となりました。
公5	第50回京都ブロック大会の実施（フォーラム）	フォーラムとしてひろゆき氏とひげおやじ氏にご協力いただき、ハイブリッド開催でひげおやじ氏を現地にお招きすることで円滑に進行していただきました。Twitterから両名の発信のおかげで、YouTubeの視聴回数は16,910回（9月6日時点）と多くの方に視聴していただきました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー全国大会京都予選大会	コロナ感染者が出てしまう等、全LOMのチームが揃うということは達成できませんでした。しかし、子供達にとっては地域外の子供達との試合経験が得られ、保護者からもこういった大会は、非常に有難く引き続き開催して欲しいとのお声をいただくことができました。
公4	参議院議員選挙に伴う市民参画意識の醸成	(1)意見交換会の開催 国政政党の代表者にテーマに対する説明をいただき、(一社)日本若者協議会メンバー、YouTube視聴者の質問に対する回答をいただきました。(2)公開討論会の開催 現地開催の他、YouTubeでライブ・アーカイブ配信及びe-みらせんで動画配信を行いました。
公5	第50回京都ブロック大会記念事業の実施	京都の魅力を発信する京ONE FESTAを開催しました。京都グルメエリアとして12LOMの各地域から飲食店の出店、遊び広場として、いくらサーカスによる演目やサーカス体験、INOCHI献血ゾーンとして献血ブースの設置と主管地域をはじめとする市民も参加する事業を行いました。
他	2022年度理念浸透の推進	ミッションリーダー会議という委員会とは別の組織で、各LOMからメンバー輩出してもらいました。能動的にメンバーを導ける人財の育成を目指し、各LOMでインプットしたことをアウトプットし、今後の活動意欲はもちろん、人に伝える喜びや経験の機会としました。
他	ブロックアカデミー JAYCEE格付けチェック ～普段のJCなんとなくやってない？	ブロックアカデミーとして、理念に基づく会長講演、アチーブメント㈱のセミナー、JAYCEE共通テストの実施、JAYCEE格付けチェック、理念浸透サロンと様々なファンクションを開催しました。JC活動について意見交換し、非常に有意義な時間になったとの感想がありました。
他	本会と連携した中期ビジョン策定における策定支援	JCI船井、JCI宮津の2LOMの中期ビジョンの策定につながりました。また、4月のオープン委員会で全LOMを対象とした中期ビジョンの浸透を図る機会を提供しました。メンバーへの情報共有、中期ビジョン達成の運動展開等を考えていただける機会につながったと考えます。
他	FAQツールの構築	京都ブロック協議会のホームページを活用し、会員から寄せられた質問に対して簡潔な答えを集めたデータ、各LOMの会員数の状況データや、ブロックに関連するスケジュールをFAQページに公開することによって、情報取得を円滑にできるようにする一助になりました。
他	GianPocketを利用した情報共有の推進	一定程度議案をアップできたことによって、議案作成の際のヒントを、より手に入れ易い状態に一歩でも近づけることができました。GianPocketの実績として、JCI福知山の福知山イル未来と2020～明かき光～という事業に、JCI鳴門坂野から問い合わせがあったとの報告があります。
他	強靭なまちのレジリエンスを高める機能研究	防災協定への提言、そして締結に向けての取り組みを各地域の社会福祉協議会と連携できていないLOMを中心に実施しました。地域の特性等を理解することにも繋がり、連携によるメリットと重要性を共有することで、スピード感ある無駄のない関係性を確立しました。
他	DX推進事業	コロナ禍対策としてテレワークの導入等、今まで疑問を持たなかった文化に対し、改革に踏み込まざるを得ないタイミングになりました。京都ブロック協議会もメンバーにDX推進を行うべく、セミナーを段階的に3回実施し、DX推進に向けた波及を与えたと考えます。
他	JCにおけるさらなる女性活躍のためのネットワークの構築	ブロック内の女性メンバーでミーティングを3回開催し、女性ならではの視点で多くの意見をいただき、それを事務局にて検証し、まとめました。提言として各LOMへお示しすることで今後もより女性メンバーが生き生きと活動できる環境づくりへの起点となりました。
他	デジタル広報による情報の発信	各事業の開催前には事業の担当委員会と連携し、SNS投稿やストーリーズ投稿を積極的に行いました。その結果活動内容の認知につながる広報ができました。また府内各地青年会議所よりシェアをいただく等のご協力があり、多くの方に見ていただくことができました。
他	JCメンバーによる健康と幸福度向上推進計画	本会と連携し、メンバー企業（自社）のアンケート方式によるウェルビーイング調査の実施をしました。また、メンバー企業へのウェルビーイング推進企業（健康経営優良法人認定）についての情報提供を行いました。そして企業のみならず、個人向けに取り組みやすいウェルビーイング活動の提案を実施しました。
他	本次年度合同会議・委員会報告会	3年ぶりとなるリアル開催となった報告会ですが、第1部では2022年度が無事に終えられる事への御礼と、次年度への伝達式を行い、第2部で各委員会より1年間のストーリーを個性豊かなプレゼンにて参加者へ報告し、出向の魅力を感じていただくことができました。
他	近畿地区大会高槻大会ブース出展	投扇興で、まずは「京都らしさ」を感じていただきました。景品に用いた御城印では、知名度の高いお城だけでなく、府内各地の様々なお城の御城印を用意したことに加え、パンフレットなども手渡したことにより、来場者の興味や関心を惹く機会を創出しました。
他	褒賞授与式	第50回京都ブロック大会乙訓大会にて、2022年度内に実施された府内各LOMの事業を対象に事前に行った褒賞審査会にて、審査委員の評価の高かった事業を称え表彰しました。また、受賞したそれぞれの事業のポイントを共有し、府内各LOMが参考にできるようにしました。
他	褒賞審査会	ブロック内各LOMから、地域の特徴を活かし実施された事業の中から、今後のJC運動の模範となる事業を選考することを目的に褒賞審査会を実施し、事業を選考しました。2022年に新たに取り組まれた事業を特別賞として、146名のメンバーからの投票にて選出されました。
他	JCI　ASPAC堺高石大会への協力・参加推進・開催地支援	各LOMへPRのために訪問し参加促進を図るとともにFacebook等のSNSを通じて、JCI ASPAC堺高石大会やジャパンナイト、ASPACフードフェスタの日程等を発信しました。また、ASPACフードフェスタのブース出展として、京都ブロック協議会ではインド料理サモサ・ラッシーを提供しました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
奈良ブロック協議会	会長	亀井 郷伸（法隆寺）

基本方針

共鳴～未来への贈り物～
内外から多くの共感と愛着を持ってもらうことで、会員一人ひとりが地域や組織をアピールする。

総括

会員数の減少や在籍年数の低下による組織力の低下といった課題に対し、理念共感拡大グランドデザインをもとに本会と連携し、会員研修や組織改革など、LOM支援を中心に運動を展開することで、多くのメンバーにJCの理念に共感し、共鳴していく同志を作ることができました。また、組織やまちの魅力を広く発信することで、それぞれがもつ価値を高めること、愛する気持ちを持ち、共感者を増やしていくことの必要性を理解してもらうことができました。 これまでの手法に捉われることなく各委員会で自由に事業を計画することで、伸び伸びと活動する姿は、LOMメンバーの目にも誇り高く映ったことと実感しております。

事業区分	事業名	事業内容
公1	JCカップU-11少年少女サッカー大会奈良県代表チーム選出	奈良県内代表チームを選出し、「JCカップ近畿地区大会」へ送迎し、試合会場へ引率しました。
公4	参議院議員選挙に伴う県民参画意識の醸成～いまこそGoTo選挙～	若者を中心とした奈良県民の政治参加意欲を高め投票率を上げるため、県内大学生と共に立候補者にインタビューを行い、その様子をYouTubeにて配信し、選挙に興味を持つ機会を提供しました。
公2	奈良ブロック大会天理大会メインフォーラム～大和の戦国時代から奈良の未来へ～	天理大学 天野忠幸准教授による講演にて、奈良県の歴史から魅力や価値といったものをどのようにして活かし、まちの未来を築くのか、未来志向の歴史文化研究を積極的に学び、将来へ活かすことを県民共に学びました。
公5	第50回ブロック大会 記念事業1「出張！なんでも鑑定団 in 天理 」 記念事業2 天理マルシェ！ならの食「肉＆麺」、ならの文化「体験ワークショップ」	記念事業1「開運なんでも鑑定団」の収録を行うことで、来場者や視聴者へ奈良の秘めたる魅力や郷土愛に気づくきっかけとなりました。 記念事業2地場産業の体験や食など、まちの魅力を体験することで、まちに関わる人々が互いに交流と連携の輪を拡げ、地域の活力や魅力について共感を生み、今まで受け継いだ歴史、芸術、文化といった地域資源を有効的に活用する機会を提供できました。
他	近畿地区大会ブース出展	「御覧あれ！生産量日本一奈良靴下」と題して奈良県の特産品を紹介する物販（靴下）ブース出展を行うことで奈良の名産品をアピールしました。
他	ASPAC堺高石大会ブース出展	5月28日に行われた堺高石ナイトにてアジアンフード（ヤンニョムチキン）を提供することで、来場者へ世界観を体感してもらうことができました。
他	第50回奈良ブロック大会記念式典	関係行政や各種団体、先輩諸兄姉の皆様への日頃の感謝と、今後も奈良県内9LOMが結束して明るい豊かな社会の実現に向け、JC運動に邁進していくことを発信する機会となりました。
他	中期ビジョン策定支援事業	JCI日本の説明会やワークショップにLOMと共に参加し、策定のサポートを行いました。県内の4LOMに意欲的にご参加いただきましたが、結果としては4LOM共に今回学んだ内容を参考に、2023年度での策定を目指すこととなりました。
他	会員資質向上セミナー～未来をつくるのは君だ～	理念共感拡大会議 櫛田議長のご講演により、理念やJC運動の意義といったものを学び、自分のものにすることができました。またブロック協議会各委員長も交え、各運動の振り返りと地域との関わり方に関するディスカッションを行ったことで、参加したメンバーが地域貢献に明確なビジョンを持ち、地域のリーダーとして行動を起こすことができる人財へと成長する契機となりました。
他	9LOMサミット	年当初に9LOM理事長、専務理事、ブロック役員が一堂に会し、意見交換を行いLOMの課題を抽出することで、ブロックとしての運動の礎としました。
他	会頭セミナー	2月の会頭訪問の際に、中島会頭にご講演いただき、本年度のJCI日本の方針や想いを拝聴したことで、JCI日本を身近に感じるとともにJCへの理解を深める機会となりました。
他	LOMに寄り添った支援体制の推進事業	「奈良ブロック行列のできる相談所」と題し、メンバーから悩みなどを募集し回答することで、今後のJC活動に意欲的に取り組めるよう支援を行いました。また、回答を考える過程で委員会メンバーの成長にもつながりました。
他	GianPocketの活用並びに推進事業	GianPocketの周知、説明を行うことで、県内各LOMよりGianPocketへ議案をアップロードしていただきました。
他	褒賞発表及び審査会	県内9LOMより昨年度の事業を発表していただき、外部審査員のご協力のもと審査を行いました。他LOMの運動を学ぶことで、メンバーの意識向上や事業構築の参考となりました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
大阪ブロック協議会	会長	大西 将人（茨木）

基本方針

大阪の再生、成長に向けて多様な人財が活躍し、持続的に成長する都市へと進化する地盤を築く、愛溢れる未来都市大阪の実現。

総括

本年度は、Impact Osaka～愛溢れる未来都市大阪の実現～をめざし組織改革、LOM支援の2つを軸として運動を展開してまいりました。ハイブリッド会議や子連れでの会議、企業や団体との様々なテーマにおける対談記事を発信し、組織改革のヒントや学びを提供させていただきました。LOM支援については、新型コロナウイルス感染症によって多くのメンバーの成長と発展の機会が失われました。本年は堺高石の地で開催されたASPACや高槻で開催された近畿地区大会を多くのLOMが成長と発展の機会として活かしていただき、逆出向事業やJCプログラムの推進事業により、多くのLOMにJC理念を浸透させることができたと考えております。

事業区分	事業名	事業内容
他	逆出向を活かしたJC理念浸透と拡大支援事業	2月～9月大阪ブロック協議会の理念共感拡大グランドデザインをもとに、各LOMが理念共感人財の拡大に向け主体的に取り組める体制を構築し、理念共感型の拡大手法を浸透させました。1.逆出向2.JCIプログラムの実施3.未来の大阪ブロック協議会への出向につなげました。
他	年間広報計画	各種広報ツールを戦略的に活用するブランディング。今までHP、各種SNSなど様々な媒体を用いて運動発信を行っていましたが、より社会からの理解と共感を得て、大阪ブロックの存在価値を高めていくための、明確なターゲットを設定し発信鮮度と質にこだわる広報を行いました。
公5	社会にインパクトを与え、イノベーションを起こす大阪ブロック大会八尾大会の開催	八尾市を中心とした地域に経済波及効果を与えると共に、多様な人財が輝ける機会を生み出すことを目的に実施しました。世代問わず幅広く参加いただき、関わるすべての方々のつながりの輪をもって、地域を活性させることで愛溢れる大阪を八尾の地で実現し地域全体にインパクトを与えました。
他	JCプログラム活用の推進及びトレーナー育成の推進	LOM調査により、支援LOMに対して課題に即したJCプログラムの提案と導入及び開催支援を実施しました。本年度は理念共感型のプログラムセミナー推進をしました。セミナーを開催し、委員会メンバーが内容を理解したうえで支援LOMへの案内を行いました。
公2	誰もが活躍できる健康で豊かな生活を実現する事業計画	大阪のまちの一人ひとりが自己や自己の周囲の人々の健康に関心を持ち、相互に想いを寄せ合えるために、定期的に健康状態を知ることの重要性と、知るためのツールとしてヘルステック分野における最新のテクノロジーについて、学んでいただきました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
兵庫ブロック協議会	会長	野々村 充教（神戸）

基本方針

ONE HYOGO

総括

本年度はONE HYOGOをスローガンに掲げ、兵庫のまちと県内24会員会議所が共に手を取り合い、発展に繋がる運動を展開しました。県内の魅力を融合し日本酒から食や地域の魅力を発信する「兵庫県＝日本酒県」というブランド化事業、LOMの問題点や事業を14回のLOM役員交流会で相互理解を深める事業、県全体に向けた「持続可能な兵庫のまちのビジョン」策定、初めて公益と共益を二日に分けたブロック大会明石大会、ICTを活用した一次産業における新たな障がい者雇用創出モデルの構築を行いました。新たな挑戦をした結果、多くの成果を残すことができました。今後の原動力となる運動ができた一年になったと確信しております。

事業区分	事業名	事業内容
公5	産官学が連携した事業構築を推進する業務	兵庫県下の市と連携し、一次産業を対象としたICT活用事業や、ICTを活用した短時間労働の実現を目指し、障がい者雇用を促進する運動を展開しました。
公5	第55回ブロック大会明石大会　第一次産業における雇用モデルブース「ココロあったマルシェ」開催計画	第55回ブロック大会明石大会において、誰もが活躍できる社会の実現を目差し、アバターを使用して障がい者雇用の新たな形を紹介しました。
他	まちの中期ビジョン策定する業務	兵庫県下の各地域の課題を抽出し、兵庫五国の魅力を融合させた兵庫県の中期ビジョンを描き、県行政に提出させていただきました。また、ブロック大会において、中期ビジョンを発表し、各LOMへの浸透を図りました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー全国大会予選大会の実施	兵庫県下各地域からチームを選出し、予選リーグ及び決勝トーナメントを実施しました。サッカーを通して、グッドルーザーの精神を学び、お互いを尊重する心をもったリーダー育成を行いました。
他	兵庫県知事と懇親会に関する業務	兵庫県の課題に関して、各LOMの理事長にご参加いただき、県政とわれわれが地域の課題に関しての考え方を共有することで、県行政と各地域とが連携する機会となりました。
公4	選挙における各種討論会の実施に関する業務	参議院選挙の討論会を兵庫県下の学生と共に設え、YouTubeにて配信することで若年層が選挙へ参画する意識を向上させることができました。
他	第1回アカデミー事業飛び出せ！JC学園の企画・実施	委員会メンバーを4つのグループに振り分け、模擬理事会を行いました。実際に事業構築の苦労や仲間との絆を学び、普段議案上程に関わらないメンバーも経験を積むことができました。
他	第2回アカデミー事業 ONE FOR ALL ALL FOR ONE HYOGOの企画・実施	第1回アカデミー事業においてベスト議案に選ばれた議案の内容を実現し、委員メンバーの想いを一つにすることができました。またキャンプを通じチームワークを育み、今後のJC活動に向けメンバー間の交流を図りました。
公5	兵庫の魅力を発信する事業の企画・実施	兵庫県下の日本酒の魅力を発信するために大学と提携し特設ページを開設しました。また、兵庫県下の酒蔵に酒コレというアプリへ登録をしてもらい、兵庫県の日本酒ブランドのファンを増やすことができました。
他	ASPAC（堺高石）におけるブース出店の企画・実施	ベトナムの料理であるバインミーを提供することで、参加したメンバーがアジア太平洋地域へ関心をもつきっかけとし、相互の友情を深めました。
公5	近畿地区大会（高槻）におけるブース出店の企画・実施	兵庫県の日本酒文化を広げるために日本酒引換券を封入したガチャガチャを行いました。また、日本酒に合う兵庫県の特産品もガチャガチャで配布し、これにより、兵庫県の日本酒の魅力を伝えることができました。
他	第55回ブロック大会明石大会共益事業計画	ブロック大会において、知事や開催地市長、行政関係者、歴代ブロック会長及び開催地LOMのOBをお招きし、記念式典を開催しました。また、フィナーレとして卒業生の想いを現役メンバーに伝達する卒業式を執り行いました。
公5	第55回ブロック大会明石大会公益事業計画	兵庫五国が協力し、お互いの魅力を融合させるフェスタ「ONE HYOGO CAMP」を開催しました。兵庫県の魅力が重なることで、新たな魅力が創出され、兵庫県産への消費意識が高まり、さらなる兵庫県の成長・飛躍へ繋がりました。
他	第55回ブロック大会明石大会褒賞授与式	例会5年、10年、15年、生涯皆出席会員賞では、LOMに貢献したメンバーを表彰しました。また、最優秀会員拡大事業賞では、受賞LOMが他LOMの会員拡大のモデルとなり、コロナ禍においても会員拡大の可能性を見出すことができました。
他	LOM役員交流会	ブロック役員団とLOMメンバーとが各LOMの強み弱みを分析するSWOT分析又は理念共感プログラムの研修をおこないました。ブロックとLOMとの交流を図ることで、LOMとブロックが連携して運動を行う契機を作ることができました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
和歌山ブロック協議会	会長	坂本 耕作（白浜・田辺）

基本方針

歴史と変革が調和した愛と希望溢れる和歌山の実現に向けた事業の展開。

総括

ブロック内LOMにおけるメンバー数の減少や経験の浅いメンバーが占める割合の増加による組織力の低下を解決するため、JCプログラムやブロックアカデミー事業を通じて、多くのメンバーにJCの理念を共有していただいたことで、持続的に地域を牽引することができる組織体制の構築につなげることができました。また、長期化しているコロナ禍により行政や各種団体が事業を中止又は延期している中で、率先して地域課題の解決に向けて真摯に取り組み、関係諸団体と連携して地域の子どもたちに向けた事業を実施したことで、メンバー同士の結束や我々の運動を地域住民に対してより力強く示し、共感していただくことができたと実感しています。

事業区分	事業名	事業内容
公1	第8回JCカップU-11少年少女サッカー大会和歌山大会事業	和歌山大会を開催し、子どもたちには勝つこと以上に相手を思いやるグッドルーザー精神やアフターマッチングミーティングを通じて多様な個性を認め合う気持ちを育む機会を提供することができました。
公4	第26回参議院議員選挙啓発推進事業	有権者が候補者の政策に直接触れることができる機会の創出として、気軽に視聴できる参議院議員選挙における立候補予定者のマニフェスト動画をYouTube上で配信し、若者世代に選挙に興味を持つ機会を提供することができました。
公1	第52回和歌山ブロック大会白浜・田辺大会記念事業	地域産業や伝統文化を体験できる職業体験ブースを設け、子どもたちに職業体験を通じて地元の産業・文化等の魅力を再認識していただき、持続可能な活気と魅力に満ち溢れた地域の創造につながりました。
他	理念推進者の人財育成事業	JCプログラムの開催（3回）を通じて、アカデミーメンバーを中心にJC運動の意義やJC理念について学び、愛と情熱をもって行動する人財を育成することができました。
他	第52回和歌山ブロック大会白浜・田辺大会記念式典	和歌山ブロック内のメンバーや多くの来賓にご出席いただき、お互いの知識や経験を共有して信頼関係が構築されたことで、ブロック協議会の力強い運動を対内外に向けて広く発信することができました。
他	LOMへの拡大支援及び情報共有事業	ブロック内LOMの拡大担当者と拡大手法等の情報共有やJCI日本の会員発掘会議の鈴木議長による会員拡大運動の戦略に関する勉強会を通じて、組織全体での会員拡大運動の意識が向上され、多様な人財を受け止められる組織への構築につながりました。
他	中期ビジョン策定支援事業	各LOMの中期ビジョン策定を支援するため、スタートアップ説明会や策定ワークショップを開催し、中期ビジョン策定の意義や手法を学ぶことで長期的に地域課題と向き合う意識が醸成されました。
他	ブロックアカデミー事業	JCの基礎知識を学ぶ講演会や事業計画書を作成するグループワークを通じて、参加者に深い学びを提供し、JCに対する高い意識が醸成され、能動的に行動できる人財への育成につながりました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
岡山ブロック協議会	会長	山本 竜義（津山）

基本方針

誰もが輝き愛溢れる岡山の創造。
共感を広げる会員拡大・成長につなぐ会員研修・未来を担う青少年の健全育成・愛溢れる岡山の創造。

総括

本年度は4議会委員会を設置し、ブロック協議会の運動、活動を通じてLOMの支援、LOM益につなげること、また日本青年会議所や中国地区協議会の運動を発信、展開していくこと、そして県内15LOMの絆をつなぐことを基盤とし、研修事業を2事業、交流事業、対外事業を4事業開催しました。特に過去2年間、新型コロナウイルスの影響により、LOMの垣根を越えた交流が減っていた中で、本年度はブロック協議会の運動、活動を通じて、交流はもとより成長の機会、経験の機会を多く提供することができました。

事業区分	事業名	事業内容
他	岡山ブロック協議会 2022年度 新会員研修会	第1部に日本JC公認プログラムである「VMVセミナー」を開催し、第2部には鎌田長明先輩をお呼びして、「JCの魅力と可能性」という題目で、これからを担うメンバーに向けて、青年会議所の輝く魅力と溢れる可能性について講演をしていただきました。
他	岡山ブロック協議会2022年度 ブロックアカデミー ～幸せを生み出す装置gian～	「議案」という事業の基盤を学習し理解を深めることで、若い会員が、より早い段階で主体的に運動・活動を起こせる人材育成につながりました。また、交流も兼ねて共に議案構築することで、多様な価値観を感じあい主体となれる人材育成の一助ともなりました。
他	第58回 岡山ブロック大会「式典」	大会テーマを「結志～愛する岡山を未来へ～」とし、県内各地15LOM会員が一堂に会することで、絆を深め、運動を共有し相互理解を深めることで気概を持って愛する地域を創造していただく機会となるべく本大会を開催しました。
他	岡山ブロック協議会 2022年度 会員交流事業 「チャンバラ合戦～万里一空の境地～」	会員交流としてチャンバラ合戦という男女差や運動神経の差に開きのない競技で15LOMが混同チームとなり、作戦を話し合ったり助け合いを通じてコミュニケーションを図り、世代やLOMを超えた多様な価値観を感じていただくことでパートナーシップの構築を図りました。
公1	2022年度 JCカップU-11 少年少女サッカー岡山大会	8人制で16チームのトーナメント形式でサッカー大会を開催しました。試合終了後、アフターマッチミーティングを行い、お互いのチームの良かった点を言い合い讃えあうことでグッドルーザーの精神を体感していただきました。
公5	第58回岡山ブロック大会「メインフォーラム」	岡山大学地域総合研究センター長の三村聡氏により、演題「地域の醸成は未来の担い手」として岡山県内で地方創生に取り組む事例などを紹介しながら、地域課題の解決に向けて、私たちが進むべき方向性を皆様で考える講演をしていただきました。
公1	2022年度 青少年育成事業 「わたしのスマホルール」	スマートフォンとの正しい関わり方を啓発するポスターを作成し、岡山県全小学校へ配布しました。また、よりスマートフォン利用についての理解を深めてもらう為に、なぜルール作りが必要なのかを子どもたちへ直接伝えるべく、出前事業を開催しました。
公5	岡山の魅力再発見!! 「VIVAフェスOKAYAMA」	岡山の魅力である鷲羽山ハイランドにて、体験ブースや名産ブースの出店やフルーツオカリナの演奏を聴いたりし、記憶に残るように参加者全員でサンバを踊り、最後には花火をあげ一般参加者にSNSで発信していただくことで岡山の魅力を再認識していただきました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
広島ブロック協議会	会長	山田 章夫（東広島）

基本方針

会員拡大と教育システム活用の推進、中期ビジョン策定の推進、持続可能な地球環境の維持、地域の質的価値向上。

総括

2022年度広島ブロック協議会は「Be the Light」のスローガンの基、計画した事業をすべて実施することができました。年初は新型コロナウイルスの影響があり、1月の新春会議は開催を危ぶまれましたが、臨機応変に開催方法を変更し実施することができました。このスタートの経験を活かし、様々な工夫を凝らしながら計画した事業すべてを実施することができました。これは主管を担ってくださった開催地LOMの多大なるご協力と、参加された会員の能動的な行動によるものだと思います。1年間という短い期間でしたが、LOMと連携しながら事業を実施でき、広島県内12LOM強いては県内各地を明るく照らすことができたと考えます。

事業区分	事業名	事業内容
他	新春会議	新年度のスタートに事業方針を共有するため、新春会議を1月29日に開催しました。新型コロナウイルスの影響により、会員が一堂に会す設えを避け、WEBと現地の同時開催にて行いました。基本方針説明、ゲストによるセミナー等の工夫を凝らしました。
他	広島ブロックゴルフ大会	会員同士の絆を深めることを目的に、4月30日、庄原カントリークラブにて広島ブロックゴルフ大会を開催しました。地域性の魅力をお伝えできるよう特産品を使用した屋台の設営などを行い、会員間の交流を図りました。
他	広島ブロックアカデミー	新入会員を対象とし、会員同士の交流と、地域をより輝かせるリーダーシップを育む事を目的とし、6月11日にブロックアカデミーを開催しました。JC運動プラットフォーム講演、尾道市内を散策するアクティブラーニングなどのセミナーを実施しました。
他	広島ブロック野球予選大会	スポーツを通じて、LOMの垣根を越えた会員同士の人間関係の構築を目的に各LOM対抗の野球大会を実施いたしました。
公1	U11全国少年少女サッカー大会広島予選大会	通常のサッカー大会と違い、「グッドルーザーの精神」を育むことを目的とし、お互いを思いやり、たたえ合えるような、地域の未来を担う人材育成に繋がるよう事業展開を行いました。試合後にミーティングを実施し、活発な意見交換を行いました。
他	広島ブロック大会 式典	27名の来賓にご出席いただき当協議会の運動の方針に沿った事業や、広島県内12LOMの事業の紹介を行いました。厳粛なセレモニーと開催であった府中市の地域性を活かした華やかな演出により参加者を飽きさせないよう工夫しました。
公5	広島ブロック大会 たからいち	3年ぶりに現地にて開催し、開催地であった府中市及び備後地域の魅力の発信を行いました。多くの人で賑わい、グルメ、ワークショップ、企業ブース等を通し、地域の魅力に直に触れることで、多く人に楽しんでいただけました。
公5	脱炭素社会実現にむけて推進するフォーラム「Z世代が想う地球の今」	グリーンエコノミー事業として、環境活動家 露木様を講師とし講演会を実施しました。県民一人ひとりが温暖化の原因を知り、現状の地球環境の問題を知ることで、何をするべきなのかを考えてもらうきっかけとなりました。
公5	質的価値向上に係る事業	県内のその地域にしかない価値を感じ、その価値を認識しどう活かすのかを考える機会を創出することを目的とし実施しました。県内12LOMから質的価値に関する情報を取材しまとめ、パネル展示を行い、資料を展示し市民の方へもご覧いただきました。
他	広島ブロック大会 卒業式	広島ブロック大会のファンクションの最後に、広島ブロック内の卒業予定者を送り出す卒業式を行いました。卒業生によるスピーチやアトラクションを行い、笑いあり涙ありの感動的な卒業式となりました。
他	拡大セミナー・拡大褒賞の実施	研修を通し、魅力ある団体の一員であるという自覚を持ち、その魅力を積極的に伝えることのできる人財となることを目的に講師を迎え講演会を実施しました。また会員拡大運動を共有する場、成功したLOMを褒賞する場として、褒賞を行いました。
他	中期ビジョン策定の推進	年間を通じ、LOMの中期ビジョン策定の推進を呼びかけ、JCI日本のビジョナリーシティ会議のご協力の元、講演を実施したLOMもありました。実施前は策定済みが5LOMであったのに対し、9月時点では策定予定LOMを含め、8LOMとなりました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
山口ブロック協議会	会長	松田 年通（山口）

基本方針

百折不撓　愛溢れる山口をつくる。

総括

本年度の山口ブロック協議会では、当初予定していた全ての事業を実施することができました。これは偏にコロナ禍3年目を迎え、置かれている状況の中のおいてどのようにすれば実施ができるかを各委員会で準備いただけたからこそだと考えます。また、一番の課題である、ブロック、地区、日本本会との距離感を縮めることに重点を置かせていただきました。各委員長が担当する事業において、本会や地区との連携をすることで、実は近しい距離にあることを知り、それを輩出LOMへお返しすることができました。日本本会、中国地区、山口ブロックに対して、各LOMからの協力をいただきやすくなる、きっかけの1年となったと考えます。

事業区分	事業名	事業内容
他	会員減少・歴浅増加へ立ち向かう ～JCの理念とは～	JCIセミナーの「JCI Achieve」をブロック協議会として実施しました。対象者を入会5年未満の会員とし、理念への理解や共感を図ることを目的としました。
公4	笑下村塾たかまつなな氏講演会 「笑える！政治教育ショー」	2022年度に行われた国政選挙での投票率向上を目的とし、㈱笑下村塾より、たかまつなな氏、きくりん氏を講師としてお招きし、政治、選挙に関して楽しくわかりやすくご講演をいただきました。
公1	U-11少年少女サッカー全国大会 予選大会	青少年に対し、地区大会の予選大会を開催すると共に、パラスポーツ体験、サッカー教室を同時開催し、フレンドリーシップ、スポーツマンシップ、インクルージョンの精神、グッドルーザーの精神を学ぶ機会を提供いたしました。
他	第58回山口ブロック球技大会	中国地区大会の予選として、山口大会を開催いたしました。（野球）
他	青年会議所運動・活動の検証と発信をする褒賞事業	山口ブロック内各地のLOMで実施された事業について、対内事業部門、対外事業部門の2部門を設け申請いただき、各LOM理事長の方々と審査をし、グランプリ、準グランプリを選定。褒賞の発表は山口大会式典にて行いました。
他	JC説明会 ～未来を切り開く魔法のカード～	第1部では、会員が改めてJCという組織の存在意義を認識するとともに、候補者に対して自分の言葉で語ることができるようになる講演会を実施いたしました。第2部では、拡大の重要性と危機感を再認識いただき、次年度に向け士気向上いたしました。
他	第59回山口大会	山口ブロック協議会の2022年度の集大成として、式典を開催いたしました。大会内では、褒賞事業の発表もあり、多くの会員が刺激を受け、これまで以上に山口ブロック協議会をはじめ所属LOMにおいて積極的に活動するJAYCEEとなる一助となりました。
他	理念へ共感しActive Citizenになろう	入会歴3年以内の会員を対象として、JCI Discoverを開催いたしました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
島根ブロック協議会	会長	山本 学（益田）

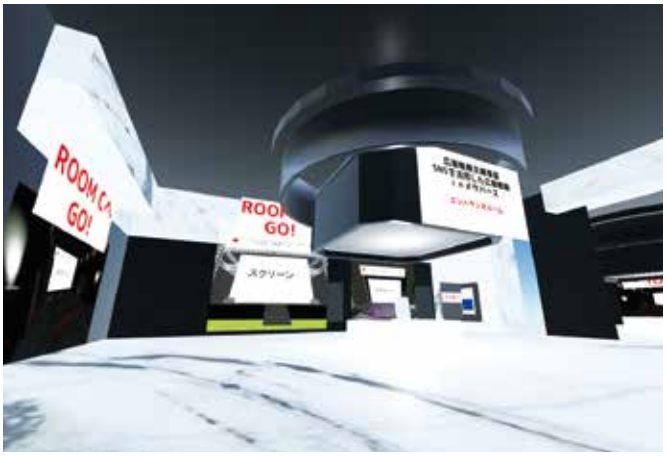
基本方針

一歩先を見据えた 愛溢れる島根の実現。

総括

2022年度島根ブロック協議会では、理念共感拡大グランドデザインを軸に運動を展開しました。JCの基礎知識、理念及びJCIアクションフレームワークの習得を目的としたブロックアカデミーを行い、JCプログラムの活用を推進しました。またJCの更なる価値を高め、世の中にJCを認知していただくための広報戦略支援を行いました。さらに時代に即した柔軟かつ開放的な人財とは何かを共有し、この先自分たちがどうあるべきかを、メンバー一人ひとりが考える機会を創出しました。1年を通じて、新たなことや新型コロナ以前に戻すことを試行錯誤しながら、県内のメンバーと共に取り組み、基本方針を実現できたと確信しております。

事業区分	事業名	事業内容
他	広報戦略支援事業「会員専用ページ」	各LOMの対外事業を実施前、実施後の順に共有できる会員専用ページをホームページ上に開設し、メンバー同士で情報交換を行える仕組みを作りました。
他	広報戦略支援事業 「SNSを活用した広報戦略inメタバース」	メタバース内にて、SNSの種類や特徴を学び、それぞれの年代ごとの利用率等をパワーポイントで説明、テーマごとに分かれより詳しい活用法の講演、質疑応答を行いました。
公1	第8回JCカップU-11 少年少女サッカー予選大会	サッカー予選大会を通じ、勝利を目指すことは重要ではありますが、勝っても謙虚に負けても相手を称え、次代を担う少年少女たちに勝ち負け以上に大切なグッドルーザーの精神に基づき、大会を運営しました。
他	ブロックアカデミー	入会3年未満のメンバーを対象とし、1泊2日の合宿形式でJCの基礎知識、理念を講演やセミナー、グループワークでの議案構築、模擬理事会行うことで習得し、JCの魅力や運動を伝えられる人財を育成しました。
他	JCプログラム活用推進事業「スピーチ」	JCI日本公認プログラム「スピーチ」を受講していただき、明確かつ的確に思考を伝える能力を向上と、個としての価値を高めると共に、JCプログラムの紹介を行い、導入、活用するきっかけを創出しました。
他	第48回島根ブロック大会 記念式典	現在、過去、未来への人の繋がりを創り、そのまちの質的価値に着目したまちの魅力を最大限に共有すると共に、ブロック協議会の存在意義を見出す記念式典を開催しました。
公5	第48回島根ブロック大会 記念事業 「令和、そしてZ世代～わかりあえる組織に～」	世代間の価値観の違いを学び、認識し、多様な人財が活躍できる環境を整える起点とするため、講師にインフィニティ代表取締役牛窪恵氏を招き、Z世代をはじめ各世代がどの様な時代背景を元に生まれ、違いがあるのかをエビデンスを基に講演を行っていただきました。



ブロック協議会名	役職名	担当者名
鳥取ブロック協議会	会長	万木 良平 (米子)

基本方針

2021年度に策定した拡大グランドデザインを踏襲・推進しながらLOMの為のブロック協議会及び運動の実現。

総括

本年度の鳥取ブロック協議会は防災、政治参画意識、会員拡大、会員交流を軸に運動を展開いたしました。防災について行政、社協との連携を図る事が難しく、事業の大成功とはいきませんでしたが、地域の課題を明確にすることができたことは今後に繋がっていくと思います。政治参画意識についてはYouTubeを利用した独自の動画を作成し地域に対して発信を行ったことはブロックとして初めての試みだった点からも、ブロック事業の可能性拡大になったと思います。会員拡大、会員交流において、各LOMからの動員についての課題はありましたが、事業に参加した会員の成長をはっきりと感じる事ができました。

事業区分	事業名	事業内容
公1	JCカップU-11少年少女サッカー 鳥取ブロック予選大会	青少年がグッドルーザー精神を身に着けることで相手を認め、尊重し合える人材を育成することを目的として開催しました。講演を受けるだけでなく、自分たちで考え、行動していったことで「覚える」のではなく「身に着ける」というところまで落としこめました。
他	ブロックアカデミー事業 輝く鳥取県の実現 ～Let's improve Tottori～	入会歴の浅い会員を対象に青年会議所の理念を理解し、理念と運動が連動することを学ぶ為に開催いたしました。新プログラムである「Porpose」やJCI松江OB天野先輩の講演、会員同士のディスカッション等会員の資質向上を図る事ができました。
他	Jayceeだらけのお見合い回転寿司	入会歴の浅い会員と経験豊富な会員のLOMの垣根を越えたディスカッションの場を設ける事で青年会議所活動についての悩み相談や、鳥取ブロック内の拡大状況をセミナーすることで今後の会員拡大に繋げていくための人材育成を図りました。
公4	Soul of Tottori	ブロック内全ての世代に、政治参画意識を持って貰う為、150年前の鳥取島根の合併を受け、鳥取県は無くなりましたが鳥取県内の住民の声により合併解消に向けた運動があったことについての動画を作成YouTubeにて発信しました。
他	防災ネットワーク構築事業	鳥取ブロック内の各市町村、社会福祉協議会との防災に関する連携及び活動状況を一堂に会する事で地域間格差を是正する事を目的に事業計画を行いましたが、地域毎の防災意識の差の明確化という問題提起迄しか行うことができませんでした。
他	鳥取ブロック交流会 ～見たい・聞きたい・感じたい～	JC活動に積極的に参加できていないメンバーを対象に事前アンケートを行い、その悩みや想いを他LOMメンバーと共有する場を設けることで、メンバーの多様性への理解も深めるための事業を行いました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
香川ブロック協議会	会長	中塚 亮太（坂出）

基本方針

無償の愛が幸せを生み出す装置となる持続可能な香川

総括

2022年度香川ブロック協議会では地域のより良い変化をもたらし続ける装置を確立するために、各地会員会議所理事長の皆様をはじめ、多くのメンバーとともに多面的な運動を展開させていただきました。また、組織は違えど、同じ志を持ち合わせたステークホルダーや、パートナーのご協力もあり無事全ての事業を実施することができました。一人ひとりの行動が香川県の課題を解決に導く新たな一歩が踏み出せたと感じています。我々が行う運動の根幹を一人でも多くの人に伝え、理念共感の輪を広げることにより5年10年100年と全ての運動が幸せを生み出す装置となる様歩みを止めることなく邁進してまいります。

事業区分	事業名	事業内容
公1	JCカップU-11少年少女サッカー大会香川予選大会	2022年開催のJCカップ四国地区大会参加チームの選考会を兼ねた大会を開催しました。また、少年期からスポーツを頑張ってきた大人が、そこで得た経験や成長を仕事や社会活動にどう活かしているか取材させていただき、スポーツを続けていくことで享受できるメリットを伝えました。
公2	地域に幸せを生み出し続けることのできる人財の発掘及び発信事業	青年会議所メンバーのみならず地域の発展に貢献し、誰かの為に幸せを創出している人財や企業を調査、発掘しメディアやマスメディアを通して幅広く発信することのできる事業を開催しました。全てのエントリー者、企業を対象に、事前選考を行い事業当日のファイナリストを選出しました。
公4	県民の未来を守る政治への当事者意識の醸成事業	子育て世代と地方議員が直接意見を交わすことができる場所を提供し、ダイレクトに声が行政に届く取り組みを行い、子育ての悩みを相談できるテーマを設け、行政側からも子育て世代にメリットになる情報を提供してもらいました。
公5	香川ブロック大会小豆島大会 四国の玄関口としての利点を活かした新トレンドビジネスの創出事業	多様な業種と連携し、ビジネスプランを作成し、それを販売する一連のモデルを提案しました。観光業の現状を講師にお話しいただき、今後の香川の消費と雇用の拡大の為に我々が作成したビジネスプランを紹介し、販売までを一連のモデルとして提案させていただき連携会社を通じ、そのビジネスプランを実際に販売しました。
公6	防災拠点としての連携促進と地域の特性を生かしたレジリエンスの向上事業	南海トラフが発災したと想定した復旧シナリオを活用した講習会および実動訓練を行いました。 ボランティアセンター解散までの想定シナリオを社会福祉協議会と相談、作成し参加者に紹介し想定されている被害や我々を含めた災害救助、復旧に関わる団体の動きを時系列で紹介しました。
他	理念共感拡大グランドデザイン推進事業	理念共感拡大グランドデザイン推進のための魅力的な講演セミナーを開催しました。2022年度JCI日本理念共感拡大会議議長の櫛田啓君に理念共感拡大について魅力的な講演形式によるセミナー事業を実施しました。
他	共通のプラットフォームを活用したブロックアカデミー事業	香川ブロック内のアカデミーメンバーにJC理念を共有、共感してもらい、一早く現状の課題を認識し、課題解決に向けて皆と力を合わせ、より良い変化を起こす活動を能動的に楽しめるセミナー事業を開催しました。
他	各LOMの活動エリアの行政が作る総合戦略について青年目線で策定及び検証事業	香川ブロックでビジョンを作成すると仮定して策定会議の内容をまとめたものを毎回分ワークショップとしてできるように資料をまとめて、各地会員会議所を対象にワークショップを行いました。
他	ホームページの拡充及び発信事業	香川ブロック協議会並びに6LOMの活動を発信し、メンバーには参画意識の向上、モチベーションアップを促し、対外にはJCとはどんな人がどの様な事をしている集団なのかを掲載し、香川ブロック協議会ホームページ及び、公式SNSの企画・運営をしました。
他	香川ブロック大会小豆島大会記念式典の企画・実施事業	次年度香川ブロック協議会会長及び香川ブロック大会主管LOMのお披露目。また、2022年度の運動の経過報告と今後の予定を発信しました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
愛媛ブロック協議会	会長	飛鷹　惣太郎（法皇）

基本方針

2022年度は、「8つの心が∞の愛を創造する愛媛」のスローガンのもと運動を行ってきました。8つの心は8LOMの事です。

総括

青年会議所の魅力のひとつは「人と人とのつながり」です。愛媛は8LOMでブロック協議会が構成されており、定期的に8LOM交流が行われ、団結力の高いブロック協議会です。2022年度は、「8つの心が∞の愛を創造する愛媛」をスローガンに掲げ、豊予海峡ルート実現に向けた県民意識向上、有事の際における災害プラットフォームの再構築、メンバー資質育成事業、メンバー活動の発表の場として愛媛ブロック版AWARDS愛媛事業、子供を産み育てやすい社会の実現に向けた事業、など人と人が多く関わる事業を行い、青年会議所に所属している喜びを改めて感じ、新しい愛を創造することができたと考えます。

事業区分	事業名	事業内容
他	愛媛ブロックアカデミーの開催 （メンバー育成 1回目） ONE IMPACT SEMINAR 事業構築編	JCの理念や活動における正しい理解の促進及び、自ら率先して理事や出向を希望するような意識の醸成を図ることを目標として事業を実施しました。結果として、会員のJC運動に対する理念を高めることができたと考えています。
他	愛媛ブロックアカデミーの開催 （メンバー育成 2回目）	中期ビジョンを策定することで現役メンバーの資質を向上させ組織運営できる力をつけること、メンバー全員で研鑽を積み、人材育成によって組織力を高めることを目標として事業を実施しました。結果として、LOMの組織力や中期ビジョンに対して見方が変わったと考えます。
他	LOMの会員拡大の支援事業	各LOMの会員拡大を担当する委員会（会議）のみに任せるだけではなく、会員一名につき一名の候補者を上げ、アプローチすることで年間を通して会員一人一人が責任感を持って会員の拡大に協力することができました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー全国大会 四国地区大会選出事業	愛媛県サッカー協会と連携し、 直近の大会成績をもとに愛媛サッカーチームに声をかけ、 四国地区大会の日程の都合がつき、JCカップに賛同いただけるチームを選出しました。
他	LOMの中期ビジョンの策定支援推進事業	各LOMの中期ビジョンについて調査し、支援を行いました。中期ビジョンの策定をする・しないに関わらず、各理事長に聞き取りを行い、策定する場合は方向性を、策定しない場合はその理由を確認しました。
他	第52回愛媛ブロック大会新居浜大会記念式典	ハイブリッド開催（現地＋YouTube配信）をしたことにより、多くの方に愛媛ブロック協議会の運動や各地LOMの活動状況を発信できました。
公5	愛媛ブロック大会記念事業 ～愛媛の魅力発信スピーチ・プレゼン大会 in NIIHAMA～	移住事業の意識向上に繋げるため、開会前には新居浜市移住促進ドラマ「ちょうどよい幸せ」を一部放映し、ドラマ視聴への誘導、移住事業への意識向上をはかりました。第一部ではドラマのPR枠と県内の愛媛県に移住をされてきた方に発信していただきました。第二部では県内各地の魅力の発信を各LOM選抜メンバーで行いました。
他	愛媛ブロック版AWARDS愛媛事業	6月のブロック大会にて対ハイブリッド形式で各LOM各事業のプレゼンを行い褒賞する部門を分けました。 それぞれ想いのこもった事業をプレゼンしていただきそれに対して投票する形式をとりました。
公5	子育て社会の実現に向けたアンケート事業	Facebook、Instagramを活用し、子育て社会の実現に向け、アンケートで県内の有権者の意見を集約し、参議院選候補者、県知事選候補者へ選挙前に届けました。子育て社会の実現に向けたアンケートの意見に対し、回答期限を決めて対応策等の考えを書面にていただくよう依頼し、ブロック協議会のHP・SNSで発信する形でアンケート協力者にフィードバックしました。
公4	豊予海峡ルート実現に向けた県民意識向上の推進事業PR	各地大会に参加し、ブース等を設けPRを行うことで豊予海峡ルートに関して知らない方に興味を持ってもらうことができました。実際にどこととどこが繋がる可能性があるのか、それによるメリット、デメリットそれらを伝えることでより興味を引くことができ、各地青年会議所メンバーとの関係性も構築することができました。
公4	豊予海峡ルート実現に向けた県民意識向上の推進事業	県内でも1・2を争う大型ショッピングモールで豊予海峡ルート実現に向けた県民意識向上の推進事業を行うことで幅広い年代の方へ周知を行うことができました。4日間という長丁場ではありましたが、多くの方に周知、意識調査を行うことができました。
他	災害プラットフォームの構築事業	今年度は県庁・県社協と連携を図り、他団体含めた防災の県内会議・初の試みとなる地域毎での防災会議を行いましたが、県だけでなく地域からの顔の見える関係性作りや情報の共有といった会議を行うことで、参加者の防災に対する考え方や情報共有の重要性を知ることができました。
他	愛媛ブロック版理念共感拡大グランドデザイン事業計画	会員数を増やすことは目的ではなく手段です。そして、私たちは共通の目的を追求する集合体であり、すべての会員に理念の浸透を図ることで、JC運動を最大化できる組織へと発展します。愛媛ブロック協議会、各LOMが「持続可能な地域を創る」ため、単年度を超えた中期計画を推進しました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
高知ブロック協議会	会長	立田 昌敬（宿毛）

基本方針

青年会議所の理念共感を拡げ、地域の未来に対する責任感を持った人材育成組織として、地域社会から認知される組織を目指しました。

総括

高知ブロック大会においては会場を高知競馬場とし、幅広い客層が楽しめる観光産業として生まれ変わろうとしている高知競馬場のこれまでの軌跡を紹介する講演会を開催しました。事業を通じ、関係各団体との信頼関係を結ぶことができ地域社会からの青年会議所の認知度は向上したと考えております。理念共感事業では高知県内各地会員会議所の次年度理事メンバーを対象としたセミナーを実施し、青年会議所の理念に基づいた運動が浸透する契機になりました。メンバー数が少なく予算も限られている中でしたが、地域にインパクトを与える事業、高知県内各地会員会議所に青年会議所の理念共感を拡げる事業ができたと考えております。

事業区分	事業名	事業内容
他	第65回高知ブロック大会記念式典	高知ブロック協議会の運動を内外に周知すると同時に、次年度への架け橋となる式典を開催しました。また、会場となった高知競馬場の観光産業としての可能性を周知する機会ともなりました。
公5	第65回高知ブロック大会記念事業	2000年代に経営難に喘いでいた高知競馬場が、売り上げを30倍にまで伸ばし、観光産業として生まれ変わろうとしている軌跡を紹介する講演をおこないました。ゲストには人気ゲームウマ娘の声優をお招きし、県内外から約2,000人の来場者が参加しました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー全国大会 四国地区予選大会参加チーム引率事業	高知県内のサッカー大会に参画し、その大会の優勝チームをJCカップU-11少年少女サッカー全国大会 四国地区予選大会に引率しました。
他	理念共感事業	共創グループ 理念共感拡大会議議長 櫛田啓君を講師にお招きし高知県内各地会員会議所の次年度理事メンバーを対象としたセミナーを実施しました。
他	2022年度卒業式事業	高知ブロック協議会卒業式を開催しました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
徳島ブロック協議会	会長	音瀬 直輝（徳島）

基本方針

地域住民から信頼を寄せられるJAYCEEとして、組織の発展を成し遂げ、地域の課題を解決するための理念に純粋な組織構築を目指す。

総括

2022年度の徳島ブロック協議会は、「Next Phase ～結果にこだわり、運動と変革を起こし続けよう～」を掲げ、2局3委員会にて活動し、9月4日にすべての事業を終えることができました。当初よりコロナ禍においてもすべての事業の中止延期を行わない方針を貫いたことで、JCの同志が相集い力を合わし、社会の変革期であろうと柔軟に対応し、時代の波に負けず幾多の困難も乗り越える姿をまちに示すことができたのではと考えます。また、アクションプランによって例年より早く事業構想そして構築ができたため、各事業担当の委員長が著しく成長するのを間近で感じることができました。この経験を糧に、さらなる運動と変革を起こし続けてまいります。

事業区分	事業名	事業内容
他	第49回徳島ブロック大会阿南大会記念式典	県内7LOMが一堂に会し、活動内容と次年度の体制を公表し、新たな一歩を踏み出す起点となる記念式典を開催しました。「七合七彩～再発見を喚起するネットワーク～」をテーマに、組織の方向性を示し、持続的な徳島ブロック大会の開催につながる式典となりました。
公5	第49回徳島ブロック大会阿南大会記念事業	「NFTとスペースデブリでビジネスと社会課題に新しいチャンスを」と題し、地域資源を磨くと同時に新たな魅力を創出させ、地域活性化の好循環につなげるため、宇宙とNETとのマッチングの可能性についてトークセッションを行い、ビジネスモデルを発表しました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー全国大会徳島予選大会事業	コロナ対策を徹底し、出場も8チームに絞ることで2年ぶりに開催ができました。初めて民間の会場を使用し、空調の効いた医務室や水道があり、氷も用意できたため、熱中症にもすぐに対処することができました。
公5	ドローンによる支援物資輸送実証実験事業	9月1日に、徳島県とドローンを用いた孤立集落への支援物資輸送実証実験を行いました。（福）徳島県社会福祉協議会と本年締結した災害時における連携協定も想定した事業として、いかに多くの県民を助けられるかという課題に効果があったと考えています。
他	アカデミー事業	LOMの持続的な発展のために理念の共感が行われ、LOMとして教育システムを再構築できるようなアカデミーを実施しました。LOMの異なるメンバーで2人1組のバディとなり、全5回6ヶ月に渡り、あらゆる人財の成長につながるアカデミー構築を行いました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
福岡ブロック協議会	会長	眞弓 祐太（大牟田）

基本方針

愛に満ち溢れる行動により幸せを生み出し続ける持続可能な福岡の実現

総括

「愛に満ち溢れる行動により幸せを生み出し続ける持続可能な福岡の実現」をスローガンに掲げ運動を展開しました。今年から、1LOM増え22LOMでのスタートとなりました。全国的に、LOMの消滅そして会員の減少が急速に進む中、福岡ブロック全体でも4年連続で会員数が純増予定となりました。また、今年も残念ながら年当初は新型コロナウイルス感染症の再拡大により会議がWebに変更になることもありましたが、全ての事業を予定通り行うことができました。福岡ブロック大会そして福岡ブロック協議会最大の運動の発信の場であるFUKUOKAコンファレンスをそれぞれ3年ぶりに通常開催できたことで、力強いさらなる一歩を踏み出したと確信しています。

事業区分	事業名	事業内容
他	第40期福岡ブロックアカデミー 第1回全体事業・開校式	アカデミーグループのスタートにあたり、「成長の機会を掴み取れ」をテーマに今後のJC活動・運動に積極的に取り組む意欲を向上させることを目的に事業を実施しました。講師をお招きした講演と、全体の機運を高めるために式典を開催しました。
他	第40期福岡ブロックアカデミー 第2回全体事業	第2回全体事業では「可能性」をテーマにメンバーが当事者意識をもつことで、今後の自身の可能性を広げる意識を高めることを目的に、麻生太郎先輩をお招きし、講演を行っていただきました。
他	第40期福岡ブロックアカデミー 第3回全体事業	第3回全体事業では「友情」をテーマに自分以外の誰かのために行動するJAYCEEへと成長できるきっかけをつかみ、生涯続く仲間の存在の大切さを学ぶことを目的に、2日間構成にて事業を開催しました。
他	第40期福岡ブロックアカデミー 第4回全体事業	第4回全体事業では「挑戦」をテーマにアカデミーメンバーに挑戦への意欲を向上させ、仲間と協力して目標に向けて挑戦できる人財に成長してもらうことを目的に、福岡ブロック内22LOMを訪問し、ドミノを完成させる事業を実施しました。
他	第40期福岡ブロックアカデミー 第5回全体事業・閉校式	第5回全体事業閉校式では「決意」をテーマに、今後のJC活動を自ら率先して行動し、情熱的な人財としての活躍を自己誓約することを目的とし、アカデミーメンバー全員が決意表明を行いました。
他	第50回福岡ブロック大会つくし大会 大会調印式	第3回会員会議所会議終了後に調印式を開催しました。厳粛な雰囲気のもと、主催である福岡ブロック協議会と主管であるJCIつくしをはじめとする22LOMのブロック大会開催に向けた意識昂揚を図りました。
他	第50回福岡ブロック大会つくし大会 成功祈願祭	福岡ブロック協議会と主管LOM、副主管LOMが想いを一つにし、大会が安全に成功することを願い、連帯感を醸成したことで、大会を成功に導きました。
他	第50回福岡ブロック大会つくし大会 大会式典	2022年度の大会式典はハイブリッド開催を行い、現地に出席が困難なメンバーへも運動の発信を行うことができました。また、服部福岡県知事をはじめ多くの方々からご祝辞をいただき、2023年度開催地のJCI柳川に友情の鍵の伝達式も執り行いました。
公5	第50回福岡ブロック大会つくし大会 広報渉外	TVや地域の広報誌の各種メディア、SNSやポスター等を用いて広報を行いました。また、開催地周辺にはのぼり旗を大会前から多数掲げることで、地域への周知と気運の向上を図りました。
公5	第50回福岡ブロック大会つくし大会 エクスカーション	筑紫地区の歴史や文化に触れてもらうことで筑紫地区を福岡県民の皆様へアピールし、筑紫地区の交流人口の増加につなげることを目的とした事業を実施しました。
公5	第50回福岡ブロック大会つくし大会 講演会「インバウンドビジネスでの福岡の価値向上」	各地青年会議所におけるアフターコロナの社会活動として、インバウンドビジネスでの地域活性化について、率先して取り組む事ができるように、会員の意欲を向上する事を目的とした講演を行いました。
公6	第50回福岡ブロック大会つくし大会 防災フォーラム	福岡県民の防災減災の意識向上と、過去の災害対応の検証とより良い災害対策の在り方を発信することを目的に、講師をお招きし、パネルディスカッションを行いました。また、LIVE配信を行うことで、現地に参加できない方々にも発信しました。
公1	第8回 JCカップ U-11少年少女サッカー大会 福岡県予選大会	次代を担う少年少女達に、多様性、参加の喜び、相互理解を深めていただくために、勝負に負けても相手を称えることができる心豊かな人財の育成を目的として開催しました。参加した子供たちには、グッドルーザー精神を養っていただくことができました。
公5	九州コンファレンス2022in糸島 ブース出展	九州地区内の方々に福岡の魅力を発信することを目的とし、福岡ブロック協議会のYouTubeチャンネルに登録していただいた来場者へ、福岡県産のフルーツを使用したかき氷を無料配布し、福岡県の魅力を広く発信することができました。
公5	FUKUOKAコンファレンス2022	福岡ブロック協議会の取り組みを多くの県民に認知していただき、運動を通して意識変革を図ることを目的とした、FUKUOKAコンファレンス2022～愛顔（えがお）応援プロジェクト～を、三井ショッピングパークららぽーと福岡にて実施しました。
他	FUKUOKAコンファレンス2022 福岡ブロックアワード	福岡ブロックアワードを実施し、福岡県内22LOMの運動を共有することで、今後各LOMのより良い事業構築に寄与することができました。
公4	FUKUOKAコンファレンスでの選挙における投票率向上を目指した事業	FUKUOKAコンファレンスにて選挙ブースを出展することで、選挙について知る機会を提供し、選挙を身近に感じていただくことで、選挙への参加意欲を醸成しました。
他	LOMがつくるまちの中期ビジョンセミナー	福岡県内22LOMのメンバーに中期ビジョン策定・改定の重要性を理解してもらうことを目的に、講師をお招きし、セミナーを開催しました。
他	2022年度会員拡大セミナー	組織の多様性をテーマに、JCI東京2017年度理事長、波多野麻美先輩をお招きし、ダイバーシティとは何なのか、多様性のある組織について女性目線だけではなく、広い視野で講演を行っていただきました。
他	2022年度会員拡大褒賞	会員拡大で大きな功績をあげられたLOMの栄誉を称え、各LOMの会員拡大へのさらなる意識昂揚を図るとともに、福岡ブロック内の会員拡大に対する勢いを次年度へつなぐことができました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
大分ブロック協議会	会長	仲 浩太郎（中津）

基本方針

Keep Changing! ～変わり続けよう！多様性あふれる大分の実現のために～

総括

会長として一番心掛けたことは、出向してくれたメンバーと多くの機会を提供し、一回り成長した姿でLOMにお返しすることでした。初出向や初役員も少なくなく、人材育成を主とする事業構築をお願いし続けた一年となりました。また、本年は第71回全国大会おおいた大会の開催ブロックとして様々な支援をさせていただきました。 全国大会を通じて県内会員の皆様に多くの学びと成長の機会を提供することに努めました。出向という貴重な学びの機会を、一番身近に感じることができるのはブロック協議会であると自覚しています。県内8LOMがさらに良い組織になるために、これからも成長と発展の機会を提供できる身近な存在であり続けていただきたいと思います。

事業区分	事 業 名	事 業 内 容
他	LOM横断型事業	メンバーのモチベーションを向上させるためのキーワードであるLOM間の交流をテーマに大分県下8LOMを横断する体験型の事業を構築しました。メンバーはこれまで出向でしか味わえなかった刺激や学びを疑似体験することができました。
公5	第55回大分ブロック大会in佐伯	大分ブロック大会では、大分の一体的な発展に向けたビジョンを共有し、力強い運動を率先して展開しました。参加者は地域課題に向けて率先的に手を挙げ、 行動を起こすことで未来へつながるまちづくりに向けて取り組むことができました。
他	OITA未来会議事事業	本年度会頭の中島土君に中期ビジョンについて県内メンバー向けに講演していただき、LOMや地域において中期的に未来を考える大切さ、ビジョンを定める必要性をお伝えする機会となりました。
他	ブロックアカデミー事業	大分県内の子ども食堂に対して廃材から制作した積み木を寄付し、子ども食堂のボランティアスタッフを体験するという内容でした。体験を通じてその実態に触れ、課題の捉え方や解決へ向けた考え方を学ぶとともに、メンバー間のつながりをつくりました。
他	子育て世代の声を政治に届ける運動	ベビーファースト運動をテーマに市議会議員と子育て世代の市民とのディスカッションを企画・実施しました。3つの自治体で開催し、市民の声を直接、市議に届けることで、市議への子育て支援への関心が高まりました。
公5	激論！OITAビジョンサミット事業	大分県の総合戦略を題材に、大分県の未来について、行政（大分県）、大学生、JCメンバーでワークショップを実施しました。大学生とJCメンバーによる生の声を行政に届けることができました。
他	おおいたで考えるベビーファ ーストな社会づくり	本会ベビーファ ースト委員会と連携しハーモニーランドで子供を産み育てやすい環境について考える事業を開催。（株）サンリオエンターテイメント小巻亜矢社長、（合）ごちナビ別府 工藤孝一会長、2022年度会頭中島土君をパネリストでお呼びし、「おおいたで考えるベビーファーストな社会づくり」をテーマにパネルディスカッションを行いました。
他	ブロックファースト	県内各8LOMのメンバーを対象として、JCI日本や九州地区協議会、大分ブロック協議会の基本理念や活動方針を収録配信にて発表しました。対面での開催を予定していましたが、大分県が「まん延防止等重点措置」の申請したため、手法を変更し収録配信としました。
他	ブロックファイナル	県内8LOMのメンバーを対象として、大分ブロックの今年度の活動報告を対面形式で実施しました。加えて、次年度の体制報告や会長予定者の挨拶を行い、次年度に向けての機運を高めました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
佐賀ブロック協議会	会長	馬渡 洋平（武雄）

基本方針

まちにより良い変化をもたらし愛が溢れる持続可能な佐賀の実現

総括

メンバー数が減少傾向にある中、アカデミー開校式並びに理念共感拡大セミナーには多くのメンバーに参加いただき、理念を通じた学びや気づきを提供することができました。コロナ禍ではありましたが佐賀ブロック大会をはじめ多くの運動を実地で開催することができました。また包括的連携協定を佐賀県社会福祉協議会と結び、様々な団体とのネットワークの構築・連携を深めることができ、県民一人ひとりが防災に対する知識と意識を高めることができました。また西九州短期大学とのフードロスの取組みを通じて、持続可能な地域を自らの手で創り出す機会を提供できました。この運動を通じて愛を前提とした持続可能な佐賀を実現できたものと確信します。

事業区分	事業名	事業内容
他	佐賀ブロックアカデミー2022開校式	アカデミー生に対しJCプロトコルとJCで得られるものは何かというテーマで会長講演を実施しました。 アカデミー生がJCの基礎的な知識や理念を学ぶことができ、運動を起こすことのできる人財としての学びや気づきを得ることができました。
他	第47回佐賀ブロック大会in鹿島 大会式典	愛をテーマにお互いに成長し持続可能な佐賀を実現するべく大会式典を開催いたしました。3年振りとなる現地開催にて行政、他団体、来賓、県内外から多くのJCメンバーに佐賀ブロック協議会の運動に対する理解を深めていただくことができました。
公5	これからのSDGs ～フードロス削減の現状と愛があふれるこれからのビジョン～	昨年、包括的連携を結んだ西九州短期大学の学生とフードロスに関するカリキュラムを実施し自らができるフードロスへの取組みを発信するとともに国際的な視点からSDGsの現状のこれからの取組みについて河野太郎氏より基調講演を実施しました。
公5	第47回佐賀ブロック大会 愛ある防災フォーラム及び愛ある防災フェスタ	県民一人ひとりが高い防災意識を持ち災害時に助け合える心を育む防災フォーラムを開催しました。災害時に地域で活躍する3団体の代表とのパネルディスカッションや屋外展示を通して、平時から顔の見える関係性が大切であることを県民に理解いただきました。
他	第2回佐賀ブロックアカデミー2022 会頭公式訪問	アカデミー生を含む県内全てのメンバーに対して、「ともに運動を起こそう～あなたの愛が未来を変える」と題し、中島会頭ご自身の経験談やJC運動についてご講演をいただきました。
他	佐賀ブロック協議会 理念共感拡大セミナー	JCに対して主体的に取り組みJC運動の最大化を図る取り組みとして、7月にJCI日本公認プログラムとなったPurposeを開催しました。メンバー一人ひとりがJCの理念を学ぶことにより実生活とのつながりやより良い変化が起きるということに気づく機会となりました。
公4	2022年佐賀県知事選挙公開討論会	佐賀県知事の任期が12月に控える中、選挙権年齢が引き下げられた高校生や大学生から見た佐賀の未来について、知事選挙が行われた場合を想定したアンケートを実施し、広く一般市民へ結果を周知するとともに、県政策管理課へ提言書を提出しました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
長崎ブロック協議会	会長	吉川 航平（島原）

基本方針

多様な人財が活躍する、愛が溢れた長崎の実現。

総括

今年度は「多様な人財が活躍する、愛が溢れた長崎の実現」を基本理念に掲げ、長崎県内各地青年会議所がそれぞれの地域で今以上に必要とされる組織へと進化していくとともに、各地域をさらに輝かせ、長崎県全体を輝かせることをビジョンに据え、運動構築や活動へと取り組みました。また、3年ぶりに実地での開催となった長崎コンファレンスは、多様性ある社会をテーマに据え開催いたしました。県内の多様なメンバーが協力し、大会を構築してゆく光景は、私たちが目指す社会が実現可能であることを確信できた素晴らしい機会となりました。結びに、今年度協議会に関わっていただいたすべての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

事業区分	事業名	事業内容
他	長崎コンファレンス2022 in島原 「開催日程・場所・大会理念・スローガン」	県内各LOM会員や県民の方に大会開催の周知を行うために、開催日や理念、スローガンを決定し、大会の開催意義を明確化することで大会に携わる方々の意識の統一を醸成することと県民の方々に関心を持っていただく機会となりました。
他	長崎コンファレンス2022 in島原 「大会式典」	長崎ブロック協議会が持続的に活動・運動を展開し、更に発展していくために、県内LOMをはじめとする諸先輩方、関係諸団体の皆様をお招きし、関係者の方へ感謝を伝え、運動への理解を深める大会式典を開催しました。
公5	長崎コンファレンス2022 in島原 「大会運営並びに告知活動」	現地開催として3年ぶりの長崎コンファレンスを実施しました。より多くの県民の方々が参加できるように、現地とWEBでのハイブリッド形式で開催し、コロナ禍でも開催できる大会運営を心掛け事業構築に努めました。
公4	選挙に行くのは誰のため？ 子育て世代と島原市長討論会！	若年層の政治参画意識を向上させるために、県内各地の子育て世代が抱える問題を島原市長に投げかけ、県民に政策や行政が捉えている問題点などに対してのアプローチを知っていただくことで政治参画意識の重要性を考えるセミナーを開催しました。
公5	違いは違いであって間違いではない！ ～身近なトコから始めるダイバーシティ＆インクルージョン～	障がい者を含めた多種多様な人財を受け入れる価値観への理解を深めるために、ダイバーシティ＆インクルージョンについての説明と、乙武洋匡氏と長崎大学のピーターバーニック氏によるインタビュー形式の講演を開催しました。
公6	あなたの存在が子どもたちの未来を守る！ 今日から実践、助け合い防災セミナー	妊産婦・乳幼児を持つ世帯に対して災害時に必要な配慮の理解を深めるために、妊産婦や子を持つ親として事前に備えておく準備、災害時の注意、避難所などで必要なこと、「受援力」についてのセミナーを開催することで防災・減災の意識が高まりました。
他	ベビーファースト運動	子どもをより産み育てやすい社会を目指し自治体に働きかけ、長崎県にベビーファ ースト運動に参画いただきました。「みんなで子育て長崎県」の活動宣言をいただき、活動を行うアクションプラン内容を掲げていただきました。
他	3月会員拡大セミナー	会員拡大活動に対しての会員一人ひとりの意識を醸成するために、JCI日本より2名の講師をお招きし、理念共感拡大グランドデザインに基づいた従来の量を求める拡大から質を求める会員拡大について、多様性を受入れる組織体制についてのセミナーを開催しました。
他	多様な人財が活躍できる組織改革セミナー ～誰もが輝ける時代に～	多様な人財が活躍する組織体制へと構築するために、なでしこ女子部会長井上有紀先輩をお招きし女性会員の必要性や活躍を阻む要因についてのセミナーを開催しました。又、部会長と当会の女性会員と女性活躍について活発なディスカッションを行いました。
他	リーダーが語るJC!長崎県下7LOM首脳会議 ～長崎サミット～	県内LOMの会員がJCの活動の中で理念を意識することの重要性や理解を深めるために、県内LOMの理事長7名にご登壇いただき、理事長がこれまでどのように考え、行動に移してきたのかを語っていただくことでJCの理念と活動・運動の理解を深める機会となりました。
他	行動化のための目標設定	「リーダーが語るJC!長崎県下7LOM首脳会議」の第2部として開催しました。JCの理念に理解を深めた会員一人ひとりがより良い人財になるために、ゴールツリーを基に自身の行動化の目標を設定することでこれからの活動・運動に励む機連となりました。
他	ブロックアカデミー事業 ～LOMの垣根を越えて絆を深める～	地域発展へと導くリーダーを育成するために、JC活動・運動の意義や目的の理解を深める第2部構成としたアカデミー事業を実施しました。第1部は基礎編として当会長によるセミナー、第2部は自ら事業構築を考え模擬会員会議所会議を体験してもらいました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
熊本ブロック協議会	会長	都登 祐樹（ひとよし球磨）

基本方針

「Take Action変革の起点となろう」愛溢れる持続可能な熊本の創造

総括

「Take Action変革の起点となろう」愛溢れる持続可能な熊本の創造をスローガンに掲げ、会員拡大・育成、防災、SDGsを軸とした持続可能性、熊本ブロック大会に関する様々な事業を実施いたしました。近年、県内各所で災害が発災している熊本ブロックだからこそ地域や個人、各地域のLOMの持続可能性を追求することに重きを置き活動したことで、地域住民の皆様と「持続可能な熊本」の実現にむけた取組が行えたことだけでなく、JCが起点となり多くの方々が連携する仕組みを構築できた1年となりました。これからも、時代に即した進化を続け、社会課題の解決に取り組む愛溢れる組織であり続けることを祈念いたします。

事業区分	事業名	事業内容
公1	第8回JCカップU-11 少年少女サッカー大会九州地区熊本県代表チーム選考	スポーツを通して次代を担う少年少女達に、多様性、参加の喜び、相互理解を深めていただくために、勝負に負けても相手を称えることができる心豊かな人財の育成を目的としたサッカー大会を開催しました。
公5	第55回熊本ブロック大会in阿蘇メイン事業『大阿蘇ファミリーマーケット』 ～HAPPINESS FOR ALL～	JCと地域住民が繋がり、共に地域の未来を創造し郷土愛を育むことをテーマに大阿蘇ファミリーマーケットを開催し、多くの地域住民に出店、ご来場いただきました。会場では地域活性化をテーマとした講演をおこない、会場全体で地域の未来を考える機会となりました。
公3	第55回熊本ブロック大会in阿蘇 「森のおくりもの～つみきでつなぐSDGs～」	阿蘇地域の魅力の1つである小国杉を活かして、端材を利用したつみき作り体験を開催しました。SDGsの達成目標でもある森を守る活動について学んでいただきながら、それぞれの地域性を活かしたSDGs実践を考える機会となりました。
他	第55回熊本ブロック大会in阿蘇 「アカデミー育成事業 星空のキャンプ」 ～ここから本当のJCが始まる～	アカデミーメンバーを対象に、JCの理念共感とLOMを超えた友情を育むことを目的としたアカデミー事業を開催いたしました。多くの学びや交流により、参加メンバーの意識変革につながる事業となりました。
他	第55回熊本ブロック大会in阿蘇 大会式典	県内関係各所、諸団体をお招きし、熊本ブロック協議会における運動や活動を発信し持続可能な大会式典を開催しました。
公6	地域強靭化連携ディスカッション ～協働熊本～	民間セクターが主体となる防災ネットワークの基盤を確立するモデル事業として展開並びに波及させ、 地域防災力向上を図ることを目的とし、県社協及び県内各地域の社協担当者と共に有事の際により細かな対応ができる仕組みづくりを行いました。
公5	SDGsアカデミー2022 in熊本	「SDGsを学ぶ」からSDGsを実践し様々なサスティナビリティを学ぶ事を目的とした事業を開催しました。九州地区全域のメンバー及び地域住民を対象とした事業であり、多くの参加者の学びとなる事業となりました。
他	2022年度熊本会議	新型コロナウィルスの感染状況を鑑みて、WEBにて2022年度の熊本ブロック協議会の運動・活動内容を県内各LOMのメンバーへ発信しました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
宮崎ブロック協議会	会長	関谷 祐作（宮崎）

基本方針

コロナ禍からの再建～光さす宮崎の創造～

総括

コロナ禍からの再建を目指し、1年間宮崎ブロック協議会役員一丸となって走り続けました。特にブロック内会員拡大に注力し、会員拡大を成し遂げるためには何が必要か、私たちがどんな組織に進化し、どんなリーダーでなければならないのかをブロック内メンバーに伝えて参りました。それぞれの事業や担いを通じて、LOMやブロックの枠を超えて個人の成長を掴みに行く役員の姿は、未来への光を感じました。
宮崎県内9LOMの抱える課題は様々でしたが、とことんLOM支援に徹することが重要だと学びました。ブロック協議会の役割と責任を昇華し、一番近い協議会として今後もLOM支援を行っていきます。

事業区分	事業名	事業内容
他	理念共感拡大セミナー事業	アカデミー会員を中心に、ブロック内のメンバーの誰もがJCIとはどんな組織か、またJCIの理念やミッション、ビジョンを学ぶ機会を提供することで、一人ひとりが目的を持ちJC活動に参画できるようにすることで青年会議所の魅力を体現し退会者の抑制及び会員拡大につなげました。
他	JCフェスタ 2022in 宮崎	JCフェスタが持続可能な大会となることを目指し、主催である宮崎ブロック協議会と主管であるJCI宮崎が協議する会議体を設営し、円滑な運営となるよう協力体制を構築しました。ファンクションとしては大会式典、ビジョナリーシティに関するフォーラム、防災・減災体験ブースを実施しました。
他	JCフェスタ 2022in 宮崎大会式典事業	盛大で厳粛な内容の式典を構築し、 実施することで参加した行政や民間団体の来賓やJCI日本役員をはじめとする来訪JCの方に宮崎ブロック協議会のJC運動の発信を行うとともに、メンバーに対してJC運動の意識醸成を高めました。また、次年度ブロック会長、次年度大会主管LOMの発表を行い、次年度の運動につなげることができました。
公5	JCフェスタ 2022in 宮崎 ビジョナリーシティ委員会実施フォーラム	「みやざきみらい会議～誰一人取り残さない社会をRe:VISIONしよう～」と題して、若者・女性・社会的少数者視点からの宮崎県の地域課題と、これからの宮崎県の未来像について考えるフォーラムを開催しました。
公6	JCフェスタ 2022in 宮崎 「楽しく防災を！」防災・減災体験イベント	一人でも多くの人たちが、常日頃からの防災・減災意識の向上を図ることを目的とし、キャンプ用品などを防災グッズとしても活用できることを知ってもらうために使用方法の説明や展示会を行いました。
公5	JCフェスタ 2022in 宮崎広報渉外事業	広く市民に参加いただく大会とするためにSNS公告とデジタルフライヤーを活用した広報活動を行いました。また、宮崎ブロック内各地会員会議所にキャラバンを行い、大会趣旨やファンクションの内容を理解してもらい、多くのメンバーを動員することができました。
他	逆出向によるLOM支援	少人数LOMへブロック役員が逆出向をすることで、周年事業・式典の構築方法や例会の運営方法を共有し、ブロック全体の底上げをするとともに、各LOMが「持続可能な組織」になることを目指した活動を行いました。
他	子育て世代の声を政治に届ける運動	「みんなで子育てについて考えようプロジェクト」 と題し、18歳未満の子供がいる保護者を対象に市議会議員と行政の教育担当者を交えてオンラインのディスカッションを行いました。
他	JC運動共有セミナー	事業構築編、Gian Pocket編についてご講演いただき、よい事業とはどういったものか改めて学び直し、次年度以降地域に「運動」を起こす足がかりとして事業構築編、また手段の一つとして、Gian Pocket編にて、Gian Pocketの更なる活用の推進を行いました。
他	独自のまちの中期ビジョン策定推進事業	県内9LOMにまちの中期ビジョン策定事業推進を行い、JCI日向が策定LOMとなり、60周年記念式典内で県内9LOMに向けて発表を行いました。

ブロック協議会名	役職名	担当者名
鹿児島ブロック協議会	会長	和田 真明 (川内)

基本方針

思いやりの心で　笑顔が溢れる鹿児島をつくる。

総括

2022年、鹿児島ブロック協議会は思いやりの心で笑顔が溢れる鹿児島をつくるために「For you」をスローガンに運動を展開してまいりました。コロナ禍での2年に渡る経験を活かし、鹿児島ブロック協議会史上初のハイブリッドによる第48回鹿児島ブロック大会in阿久根を開催しました。メインフォーラムでは食品ロスに対する意識を醸成するフォーラムを実施、他にも高校生模擬選挙の最終投票および表彰式やアカデミー会員によるSDGs啓発事業も同日開催しました。3年ぶりに現地に参加者を集めての開催であり、現地のメンバーからは多くの喜びの声を頂きました。本年を起点として来年以降さらなる飛躍を確信することができました。ありがとうございました。

事業区分	事業名	事業内容
他	災害に強い地域づくりの推進会議	災害発生時に迅速かつ適切に行動できるような仕組みをつくることを目的に県内各地会員会議所の防災担当者を集め災害マニュアルの説明を行い、県社協ボランティアセンター辻所長より「JCと社協の連携と協働にむけて」の講演を聞いていただく会議をZOOMにて開催しました。
他	鹿児島ブロック協議会アカデミースクール2022	ブロック内アカデミー会員向けの研修事業を開催しました。アカデミー会員を2グループに分けて実際に事業構築から実施、報告までを体験してもらう全5回の事業を行いました。研修を通じて即戦力として所属LOMで活躍できる人財の育成を行いました。
公4	各選挙における投票率向上を目指した事業「かごセレ～届け!未来ビジョン～」	学生を立候補者に見立てたオンライン模擬選挙を行いました。立候補者にマニフェスト動画を作成してもらいSNSで発信することで多くの人々に周知することができました。また、同世代の学生や親など周りを巻き込んだ政治参画意識向上を計ることができました。
公3	第48回鹿児島ブロック大会in阿久根メインフォーラム　脱炭素社会の実現に向けて～実現の鍵を握る、消費者の選択～	1部に鹿児島県庁の大小田様、2部では鹿屋市副市長の鈴木様に講師としてご講演いただきました。さらにトークディスカッションでは芸人のしずる様と仮屋様を含めて世界共通の社会課題である脱炭素社会についての認識を高め、身近で具体的なCO2削減の手法を発信しました。
他	第48回鹿児島ブロック大会in阿久根大会式典	主管地域の特色や魅力を発信し、ブロック大会のテーマと本年度のブロック協議会の運動の成果を効果的に伝えるために式典を開催しました。
公5	第48回鹿児島ブロック大会in阿久根	輝(ひかり)～笑顔と希望が溢れる未来への起点～をテーマに多くの皆様に楽しみながら大会の意義や目的に触れてもらい、理解を深め当事者意識を高めるとともに、誰もが様々な課題解決に積極的に取り組むことのできる起点となる大会を開催しました。
公3	食品ロス撲滅標語 『未来は僕らが変える!』	鹿児島県内の小学生を対象に、食品ロスについて考えてもらい食品ロス撲滅のための標語を募集する事業を開催しました。集まった標語をもとに食品ロスカルタを作成して県内の教育委員会に配布を行い、今後も食品ロスを授業で取り上げる際などに活用していただきます。

市の課題 高校生の視点で

議員団 人 屋久島へ思いつづる

ブロック協議会名	役職名	担当者名
沖縄ブロック協議会	会長	平良 寿成（島尻）

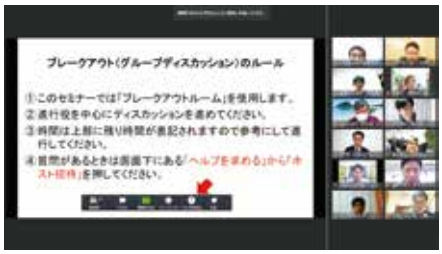
基本方針

個々の成長を地域の発展へと繋げるべく、青年会議所にある多くの機会を積極的に活用し、「誠心誠意」を志とした利他的な運動展開。

総括

「JCは楽しい」を伝えるアカデミー委員会、LOMの重要性を伝え、ビジョン策定のサポートをする道徳心醸成委員会、「誰もが笑顔になれる社会」を実現するため、地域の声を集めJCとしての意見を取り纏め沖縄県へ提言を行ったやまとなでしこ会議、そして、常に協議会の運営を支え、重要な選挙の公開討論会やメンバー向けのセミナーを開催した総務委員会の4委員会によってJC運動を展開して参りました。昨年から続く、コロナ禍の中で手法や時期の変更を余儀なくされる事もありましたが、各委員長を筆頭に、「できない」ではなく、「どうしたらできるのか」を常に考え行動してくれた1年間でありました。関わっていただいた全ての方に感謝申し上げます。

事業区分	事業名	事業内容
他	公益社団法人日本青年会議所沖縄地区沖縄ブロック協議会 VMVセミナー&VFセミナー	県内各地会議所メンバーを対象に、JCの歴史と活動を行っていくうえで大切な「目的」についてセミナーを開催しました。
他	2022年度アカデミー委員会開校式	入会3年未満の会員を対象とした、沖縄ブロック協議会アカデミー委員会のスタートとなるべく、アカデミー生同士の懇親を目的とした「開校式」を開催しました。
公5	公益社団法人日本青年会議所沖縄地区沖縄ブロック協議会 ゆんたく広場事前アンケート	ジェンダーギャップ指数ランキングにおいて、156カ国中120位と低い日本の現状を改善するため、まずは課題抽出の手法として県内の高校生以上の学生・社会人からアンケートのご協力をいただきました。
公5	公益社団法人日本青年会議所沖縄地区沖縄ブロック協議会 ゆんたく広場	事業前のアンケートをもとに男女で協力して経済活動、家庭環境を整えるための、現在の沖縄県の課題解決にどのような政策が必要かを、ゲストやパネリストの話を聞きながら参加者が考えるセミナーと講和を開催しました。
他	JCを知って・理解して・楽しもう! JCI公式プログラムセミナー合宿	アカデミー生を対象に会員として最も重要なJCの理念、目的、存在意義を理解し、社会参加の概念や地域のコミュニティーやニーズの分析を習得することにより、JC活動に能動的に取り組みリーダーとして成長することを目的としたJCI公式セミナーJCI Achieve、JCI Impactと合宿事業を開催しました。
他	公益社団法人日本青年会議所沖縄ブロック協議会 ELセミナー&ECセミナー	県内各地会員会議所メンバーを対象に、有効なリーダーシップとコミュニケーション能力を学ぶためEffective Leadership、Effective Communicationのセミナーを開催しました。
公4	第26回参議院議員選挙沖縄選挙区立候補予定者 WEB公開討論会	第26回参議院選挙に伴い、県民へ立候補者の政策を広く周知し政策本位での選択をいただくためのWEB公開討論会を開催しました。
他	2022年度沖縄地区大会 「JCI直前会頭 小嶋隆文氏 講演会」	JCI直前会頭の小嶋隆文氏をお招きし、沖縄ブロックの会員が世界を良くする一歩は地域を良くすることだと認識し、その地域を良くする愛に溢れたリーダー育成のための県内各地会員会議所メンバーを対象とした講演事業を行いました。
公4	沖縄県知事選挙に伴う公開討論会	2022年任期満了に伴い行われた沖縄県知事選挙の立候補予定者をお招きし、県民に各候補者の政策を広く周知するためWEB公開討論会を行いました。
他	2022年度アカデミーTHE FINAL	2023年度アカデミー卒業生として各LOMでJC運動を開始するにあたり、各事業を通し学び経験してきたことを振り返り、自信を持ってリーダーとしての自覚を意識付けし、集大成となる閉校式を開催しました。
公5	ゆんたく広場～みんなが笑顔になる社会へ～の提言	ゆんたく広場事業を通して得た県民の意見をもとに、ジェンダー平等に関する県民の意識改革、性別、年齢、障がいの有無に関係なく社会参加の促進、男性の育児・家事参加への環境整備を実現するために、沖縄県子ども生活福祉部 女性力・平和推進課へ提言しました。



付　録

諸大会開催・褒賞記録

事務局組織図

1）国内諸大会記録

大会名	日程	開催地	参加者数	参加者数 内訳
京都会議	1/20-1/23	京都	17,820	現地参加 4,887 WEB参加 12,933
サマーコンファレンス	7/16-7/17	横浜	12,270	現地参加 (対内6,449、一般86) WEB参加 5,735
全国大会	10/6-10/9	大分	11,917	現役 11,889 特別会員 28

2）国際会議参加記録

国際会議名	日程	開催地	首席代表	日本JC 参加者数	総参加者数
アフリカ・中東地域会議	6/15 - 6/18	ハマメット （チュニジア）	-	1	501
アジア・太平洋地域会議 （ASPAC）	5/26 - 5/29	堺高石（日本）	中島 土	7,770	9,867
アメリカ地域会議	5/18 - 5/21	キュラソー （ダッチカリビアン）	-	1	280
ヨーロッパ地域会議	6/8 - 6/11	ブルージュ （ベルギー）	中島 土	9	1,313
JCI世界会議	10/31-11/4	香港（香港）	中島 土	1,944	3,509

3）褒賞等

■国際青年会議所（JCI）褒賞受賞一覧

【JCI-ASPAC堺高石大会】

無し

【JCI世界会議香港大会】

グループC（個人賞）	故 白石 洸一郎（久留米JC）	ホアキン・ゴンザレス賞
JCI会頭特別賞	日本JC	JCIスローガン「Leading is Our Duty(リーダーであることは我々の責務)」を最も体現したNOM

公益社団法人 日本青年会議所
2021年度 褒賞受賞団体一覧

（2022年1月22日 京都会議「AWARDS JAPAN」）

【最優秀賞】「グランプリ」

地区名	ブロック名	LOM名	事業名
東北	岩手	盛岡	マリ共和国の農村に識字教室を建設するプロジェクト

「準グランプリ」

地区名	ブロック名	LOM名	事業名
関東地区	東京	東京	デジタルインバウンドの可能性

【優秀賞】

部門名	地区名	ブロック名	LOM名	事業名
LOM地域社会向上プログラム	東北	岩手	盛岡	マリ共和国の農村に識字教室を建設するプロジェクト
LOM長期型地域社会開発プログラム	近畿	大阪	東大阪	4月例会「スポーツのちから～F.C.大阪とスポーツ協働宣言～」
LOM経済開発プログラム	東海	愛知	名古屋	ICT社会を推進する事業
LOM個人能力開発プログラム	北陸信越	長野	長野	主権者教育事業「NAGANO 高校生政策コンテスト 2021」～きみのアイディアがまちを創る～
LOM拡大開発プログラム	関東	山梨	甲府	会員拡大事業
LOM国連SDGs開発目標プロジェクト	北陸信越	石川	金沢	えほんでつなぐプロジェクト
組織間協働プロジェクト	東海	愛知	名古屋	次代の国際人を育成する事業（3G-Project）
LOM平和プロジェクト	関東	神奈川	横浜	2021年度April True Project
組織改革実践プロジェクト	近畿	大阪	枚方	多子社会を創造するための事業
パートナー連携プロジェクト	北陸信越	石川	小松	新たなパートナーシップ構築事業「小松空港見学ツアー」
新型コロナウイルス対応実践プロジェクト	関東	東京	東京	デジタルインバウンドの可能性
環境問題改善プロジェクト	関東	東京	東京	共生政策推進運動・4月例会2050年へのバトン～カーボンニュートラルな世界へ～
ビジネス成長プロジェクト	近畿	大阪	枚方	持続可能なまちを創造するための事業
会員賞	東北	福島	福島	佐藤 卓宏 君

公益社団法人 日本青年会議所
2021年度会員拡大褒賞受賞団体一覧

（2022年1月22日 京都会議「AWARDS JAPAN」）

グランプリ【最優秀拡大LOM賞】

地区	ブロック	LOM名
九州	大分	一般社団法人大分青年会議所

【優秀拡大LOM賞 20名以下の部】

地区	ブロック	LOM名
北陸信越	石川	公益社団法人羽咋青年会議所

【優秀拡大LOM賞 30名以下の部】

地区	ブロック	LOM名
関東	神奈川	一般社団法人大和青年会議所

【優秀拡大LOM賞 50名以下の部】

地区	ブロック	LOM名
関東	埼玉	一般社団法人朝霞青年会議所

【優秀拡大LOM賞 75名以下の部】

地区	ブロック	LOM名
東北	宮城	一般社団法人泉青年会議所

【優秀拡大LOM賞 110名以下の部】

地区	ブロック	LOM名
九州	大分	一般社団法人大分青年会議所

【優秀拡大LOM賞 111名以上の部】

地区	ブロック	LOM名
関東	埼玉	公益社団法人埼玉中央青年会議所

【20代拡大達成LOM賞】

地区	ブロック	LOM名
関東	東京	一般社団法人八王子青年会議所

【女性拡大達成LOM賞】

地区	ブロック	LOM名
関東	東京	福生青年会議所

【拡大トレーナー賞】

地区	ブロック	LOM名
九州	大分	一般社団法人大分青年会議所 安部 良太郎 先輩

4）「JCI JAPAN TOYP 2022」受賞者一覧 ※TOYP大賞（旧人間力大賞）

	受賞者	活動内容	推薦
グランプリ 内閣総理大臣奨励賞･NHK会長賞･ オフィシャルスポンサー賞 『Emo Planning賞』	今井 咲希 氏	世界中でせざるを得ない売春によって広がるHIV感染に苦しむ女の子達を減らすことを目指している。問題解決の糸口として「情報へのアクセス」(性に関して正しい情報収集)と「社会的な自立」(経済自立)があると考え、現地での性教育活動、生理用布ナプキンの製作･販売や自転車タクシーの貸し出しの仕組みを作っている。	JCI新潟
準グランプリ 衆議院議長賞･全国知事会会長賞･ オフィシャルスポンサー賞 『Sun Detailing賞』	土屋 望生 氏	熊本県五木村（九州の内陸部で最も人口の少ない955人の自治体）にて、村民がご機嫌に日々を過ごすこと、やりたいことがやれている状況を目指し、株式会社日添、五木村複業協同組合、NPO法人いつきつなぎの3つの法人を介してまちづくりをしている。	NPO法人ETIC
準グランプリ 外務大臣奨励･参議院議長奨励賞	渡部カンコロンゴ清花 氏	紛争や迫害から逃れ日本に来た多様なスキル・経験を持つユニークな優秀で情熱のある難民たちと、企業をつなぐことで、誰もが活躍できる未来を作っている。	NPO法人 WELGee
総務大臣賞	川口 優太郎 氏	日本全国の企業を対象に、妊活・不妊治療を企業の福利厚生で支援するサービス『WanaB（ワナビー）』を提供している。	JCI船橋
文部科学大臣賞	青山 裕紀 氏	脳の健康維持の新しい概念である「ブレインヘルスケア」に着目し、医療AIソリューションや医療機器プログラムの開発･社会実装を行っている。	JCI横浜
厚生労働大臣賞	葦原 海 氏	障害者と接する機会が少ない、あるいはその分野に関心がない方にも日常の目線で見てもらえるように「映え、可愛い、楽しい」など、テーマをエンタメにしたSNSの発信をすることで、社会の多様性を伝えている。	JCI唐津
農林水産大臣奨励賞	西辻 一真 氏	日本全国の耕作放棄地の再生と農業人材の育成プラットフォームをつくり、それらをあわせて「自産自消ができる社会」と呼んで普及啓発活動をしている。	JCI京都
経済産業大臣奨励賞	矢野 浩一 氏	大阪府、布施エリア(東大阪市)にて空き家をリノベーションしたまちごとホテル「SEKAI HOTEL」を開発・運営。当該エリアの複数の空き家を客室として再利用するだけでなく、夕食会場･大浴場･朝食会場･その他アクティビティなどを、近隣商店と連携することで地域全体をホテル化している。	JCI高岡
環境大臣奨励賞	仁科 八起 氏	本来捨てられるサメを漁師から買い取り加工場で捌いたのちに自身の飲食店である『さめたろう』や、東京、大阪などの飲食店に卸売をしている。	JCI鹿児島
日本商工会議所会頭奨励賞	周東 孝一 氏	発酵ジンジャーエールという、イギリス生まれの伝統ノンアル飲料の日本初の本格的な醸造所を建設し、その製造･販売･普及を行っている。 製造の過程に、地域や社会の課題解決を組み込み、商品が売れれば売れるほど、課題が解決していき、それがまた実績・宣伝となり、ビジネスを加速させる、というビジネスモデルを提唱、実践している。	JCI春日部

【会頭特別賞】

受賞者名	推薦	受賞者名	推薦
藤原 麻里菜 氏	JCI東京	朝妻 久実 氏	JCI藤岡
田中 れいか 氏	一般社団法人HERS PROJECT	印度カリー子 氏	JCIさくら
高野 沙月 氏	JCI帯広	加藤 愛梨 氏	JCI藤岡
村田 玲子 氏	JCI小山	松井 健斗 氏	JCI名古屋
薄井 大地 氏	JCI横浜	西山 裕美 氏	JCI藤岡

5）会員会議所新設、名称変更及び退会一覧

1.会員会議所名称変更一覧

No.	認証番号	新名称	旧名称	ブロック	承認年月日	適用
1	492	飛驒	飛騨古川	岐阜	2022.10.7	2023.1.1
2	371	五泉阿賀	五泉	新潟	2022.11.19	2023.1.1
3	552	宇佐高田	宇佐	大分	2022.12.17	2023.1.1

2.会員会議所退会一覧

No.	認証番号	名称	ブロック	承認年月日	適用
1	606	牛深	熊本	2022.12.17	2022.12.31
2	677	東白川	福島	2022.12.17	2022.12.31
3	380	高島	滋賀	2022.12.17	2022.12.31
4	560	浦河	北海道	2022.12.17	2022.12.31
5	274	相生	兵庫	2022.12.17	2022.12.31

3.JCの数及び会員数

2022年 1月1日現在　684JC　25,629 名
2022年12月1日現在　684JC　28,998 名

【2022/12/31版】

2022 公益社団法人日本青年会議所　事務局組織図

会　頭　中島　土

専務理事　村尾　尚太郎

事務局アドバイザー　水野　秀一

事務局長　市川　直美

課長　矢田部裕子	課長　浜畑茂憲	局長　市川直美【兼務】	
	主任　今本直伸	主任　横関紀子	主任　伊藤陽二郎

	総務部門		経理部門	役員・広報部門		国際部門
	諸会議・セミナー	主要事業会計・会館	経理・会員管理	外部対応	LOMサービス	国際総務
	三井栞　阿部浩子★1　永島春香		愛澤悠季子	峯岸恭子	（※新人職員）	（※新人職員）
			派遣職員　1名/会員管理業務			業務契約職員　2名
事務局固有業務	■諸会議対応業務 ・当該年度諸会議・総会運営対応 ・候補者会議運営対応 ■出向者ｴﾝﾄﾘｰ対応業務（各種名簿作成含む） ■総務グループ支援業務 ・基本運営マニュアル作成 ・LOM発送対応支援 ・総合基本資料作成対応 ■セミナーサービス対応窓口 ・セミナー開催申込対応 ・トレーナー育成対応	■主要事業会計対応業務 ■会館管理業務 ・会館貸出対応 ・会館管理・修繕 ■JC事業賠償保険 ■什器備品メンテナンス	■本体会計対応業務 ■地区・ﾌﾞﾛｯｸ協議会会計対応業務 ■予算、決算業務 ■公益法人改革対応 ■内部、外部監査対応業務 ■内閣府・税務署など監査対応業務 ■会費請求業務他 ■会員データ管理業務 ■カード利用料還元業務 ■セミナー請求業務	■役員対応業務 ・外部団体対応窓口 ・省庁リエゾン窓口 ・公文書管理（日青会発文書） ・郵便受付記録（会頭、団体） ・歴代役員対応 ・役員登記、内閣府への届出 ・役員慶弔対応（訃報処理） ■広報対応 ・外部マスコミ対応窓口 ・機関誌作成支援 ■局内労務対応業務 ■資料作成業務 ・事務局マニュアル ・専務理事マニュアル ・事務局資料保管一覧作成 ■近隣渉外	■物品販売管理 ・会員必携品（ﾊﾞｯｼﾞ、ﾈｰﾑﾌﾟﾚｰﾄ） ・JCマーク入り物品 ■JCカード対応窓口（ｶｰﾄﾞ利用還元） ■賛助企業対応 ■提携企業対応 ■LOM問合せ窓口（電話・メール問合せ） ■出向者統一名刺対応	■JCIとの連絡調整支援業務 ・JCIへの申請、問合せ、報告対応 ・JCI主要事業の連絡調整支援 ・JCI役員来日関連の連絡調整支援 ・JCIセンター申請対応 ・JCI基金申請対応 ■NOM事務局業務 ・日本JC主催事業支援 ・各NOMとの連絡調整 ・日本JC輩出JCI役員支援 ■APDC事務局業務 ■国際会議への対応 ■POI（JCI歴代役員）の対応
委員会対応業務	■総務委員会（諸会議・国内総務） ■会頭選挙管理委員会 ■JC教育委員会	□財務運営会議（会館） □財政審査会議（事業費審査）	□財政審査会議（公益審査） ■内部会計監査人グループ	■規則審査会議（諸規則・コンプライアンス） ■JCブランドマネジメント会議 ■組織愛向上委員会	□財務運営会議（賛助・附帯）	■JCI関係委員会（国際総務） ■国際アカデミー委員会
	■理想共感拡大会議 ■会員発掘会議 ■組織改革委員会 ■LOM支援委員会 ■アワード委員会 ■運動プラットフォーム構築委員会	■新たな資本主義創造会議 ■サマーコンファレンス特別委員会 ■TOYP委員会	■ユニコーンビジネス委員会 ■スポーツの力委員会 ■ビジョナリーシティ会議 ■ベビーファースト委員会 ■インクルージョン推進委員会 ■国民の幸せを守る委員会 ■まちのレジリエンス確立委員会	■全国大会運営会議 ■渉外委員会	■グリーンエコノミー委員会 ■質的価値社会委員会 ■ウェルビーイング経営委員会	■グローバルネットワーク創造会議 ■アジアアライアンス構築委員会 ■コンベンション支援委員会 ■日ロパートナーシップ委員会 ■持続可能な国際協力委員会
主要事業JCI事業対応業務	■京都会議 ■サマーコンファレンス ■TOYP事業 ■褒賞			■全国大会		■国際アカデミー ■JCI ASPAC（JCIアワード含む） ■JCI 世界会議（JCIアワード、TOYP含む）
関連団体（OB関連）対応業務		■日本JCじゃがいもクラブ		■歴代会議 ■福の会		■POIの会 ■日本JCセネターズクラブ ■日本JC日中友好の会 ■（NPO）国境なき奉仕団 ■（一社）日本JCロシア友好の会

地区・ブロック問合せ窓口

【注釈】★1：再雇用契約（2022/1/1-2022/12/31）

2022年度 諸会議報告

総会

理事会

総会

第169回総会

日時：2022年 1月22日（土）11:30～13:00
場所：国立京都国際会館 Main Hall

報告依頼事項
（ 1 ）2022年度予算について
（ 2 ）サマーコンファレンス2022について
（ 3 ）第71回全国大会 おおいた大会について
（ 4 ）JCI ASPAC堺高石大会について
（ 5 ）JCI 世界会議について
（ 6 ）第35回国際アカデミーin小田原・箱根について
（ 7 ）会議・委員会出向者について
（ 8 ）JCI及びJCI APDC出向役員について
（ 9 ）内部会計監査人について
（ 10 ）JCI基金について

第170回総会

日時：2022年 3月26日（土）13:00～14:30
場所：パシフィコ横浜 メインホール

審議事項

（ 1 ）2021年度事業報告（案）承認の件
（ 2 ）2021年度決算（案）承認の件

報告依頼事項

（ 1 ）2022年度予算について
（ 2 ）2022年度会議・委員会出向者追加変更について
（ 3 ）2022年度年間公式スケジュール変更について
（ 4 ）JCI APDC（アジア太平洋開発協議会）中間報告について
（ 5 ）JCI ASPAC 堺高石大会について
（ 6 ）第35回国際アカデミー in 小田原／箱根について
（ 7 ）サマーコンファレンス2022について
（ 8 ）第71回全国大会 おおいた大会について
（ 9 ）JCI 世界会議 香港大会について
（ 10 ）理念共感拡大について
（ 11 ）まちのビジョン策定について

第171回総会

日時：2022年10月7日（金）14:30～16:30
場所：iichiko総合文化センター グランシアタ

審議事項

（ 1 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 理事 麻生 将豊 君 選任の件
（ 2 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 理事 酒井 光博 君 選任の件
（ 3 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 理事 小西 毅　君 選任の件
（ 4 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 理事 豊田 啓勤 君 選任の件
（ 5 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 理事 加藤 大将 君 選任の件
（ 6 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 理事 菅野 譲　君 選任の件
（ 7 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 理事 岩田 幸治 君 選任の件
（ 8 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 理事 高橋 隆太 君 選任の件
（ 9 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 理事 大川 浩嗣 君 選任の件
（ 10 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 理事 鍋田 昌吾 君 選任の件
（ 11 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 理事 堀内 和彦 君 選任の件
（ 12 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 理事 柿野 真吾 君 選任の件
（ 13 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 理事 山田 章夫 君 選任の件
（ 14 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 理事 山本 悠童 君 選任の件
（ 15 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 理事 安田 量寛 君 選任の件
（ 16 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 理事 伊藤 貴庸 君 選任の件
（ 17 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 理事 外口 真大 君 選任の件
（ 18 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 理事 佐々木 隆浩 君 選任の件
（ 19 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 理事 山岸 将幸 君 選任の件
（ 20 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 理事 小林 秀気 君 選任の件
（ 21 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 理事 谷口 雄紀 君 選任の件
（ 22 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 監事 岡部 栄一 氏 選任の件
（ 23 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 監事 竹田 哲之助 氏 選任の件
（ 24 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 監事 青木 孝太 君 選任の件
（ 25 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 監事 佐藤 友哉 君 選任の件
（ 26 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 監事 崔　成基 君 選任の件
（ 27 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 顧問 選任の件
（ 28 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 代表理事 麻生 将豊 君 選任の件
（ 29 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 業務執行理事選定の件

報告依頼事項

（ 1 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 直前会頭就任について
（ 2 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 基本理念・基本方針並びに事業計画について
（ 3 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 組織並びに委員数について
（ 4 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 ブロック会長選任について
（ 5 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 議長・委員長選任について
（ 6 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 内部会計監査人グループ代表選任について
（ 7 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 年間公式スケジュールについて
（ 8 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 スローガンについて
（ 9 ）公益社団法人日本青年会議所 2023年度 予算について

理事会

第1回理事会

日時：2022年 1月21日（金）
場所：国立京都国際会館 ROOM A

前回議事録の承認
（ 1 ） 第5回理事予定者会議議事録

審議事項
＜推進計画議案＞
（ 1 ）温室効果ガス排出削減推進修正計画（案）承認の件
（ 2 ）食品ロス削減推進計画（案）承認の件
（ 3 ）ウェルビーイング経営の推進計画（案）承認の件
（ 4 ）ベビーファースト運動推進修正計画（案）承認の件
（ 5 ）子育て世代の声を政治に届ける運動の推進計画（案）承認の件
（ 6 ）相互理解を実現する推進計画（案）承認の件
（ 7 ）共感による献血活動LOMを輝かせる推進計画（案）承認の件
（ 8 ）国家全体のレジリエンスを向上させるハードインフラ投資の推進事業計画（案）承認の件
＜京都会議関連議案＞
（ 9 ）2022年度京都会議修正事業計画並びに修正予算（案）承認の件
（ 10 ）2022年度京都会議「AWARDS JAPAN」修正事業計画並びに予算（案）承認の件
＜通常計画議案＞
（ 11 ）理念共感プロモーター育成プログラム事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 12 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラムのトレーナー育成事業修正計画並びに修正予算（案）承認の件
（ 13 ）ステークホルダー資本主義に関する社会実験事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 14 ）ビジネスの新潮流を乗りこなせ～新トレンドを掴んだリーダーたち～事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 15 ）JCカップU-11少年少女サッカー全国大会予選大会実施計画（案）承認の件
（ 16 ）JCカップU-11少年少女サッカー全国大会開催日程及びテーマ（案）承認の件
（ 17 ）愛する未来を描く地域ビジョン再建プロジェクト推進事業修正計画並びに修正予算（案）承認の件
（ 18 ）コンテンツを活用した民間外交アプリケーション「JCI GO」展開事業計画（案）承認の件
（ 19 ）アジア太平洋地域での経済交流推進事業計画（案）承認の件
（ 20 ）2022年度ロシアミッション学生交流事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 21 ）JCI JAPANグローバルユース国連大使育成事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 22 ）第35回国際アカデミーテーマ並びに募集計画（案）承認の件
（ 23 ）第35回国際アカデミーに伴うプレ国際アカデミー事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 24 ）会議委員会出向者（案）承認の件
（ 25 ）2022年度内部会計監査人グループ副代表・幹事・地区代表選任（案）承認の件
（ 26 ）会頭職務代行者指名（案）承認の件
（ 27 ）候補者並びに予定者会議審議事項承認（案）承認の件
第1回理事候補者会議　審議事項
（ 9 ）2022年度各グループ年間方針（案）・年間事業フレーム（案）承認の件
（ 10 ）2022年度各地区年間方針（案）・年間事業フレーム（案）承認の件
第3回理事予定者会議　審議事項
（ 1 ）2022年度会員数純増計画推進（案）承認の件
（ 2 ）質的価値社会推進事業計画（案）承認の件
（ 3 ）アニマルウェルフェアを含む新トレンドの推進計画（案）承認の件
（ 4 ）愛する未来を描く地域ビジョン再建プロジェクト推進事業計画（案）承認の件
（ 5 ）サマーコンファレンス2022開催テーマ並びにコンセプト（案）承認の件
第3回理事予定者会議　審議事項
（ 1 ）2022年度会員数純増計画推進（案）承認の件
（ 2 ）質的価値社会推進事業計画（案）承認の件
（ 3 ）アニマルウェルフェアを含む新トレンドの推進計画（案）承認の件
（ 4 ）愛する未来を描く地域ビジョン再建プロジェクト推進事業計画（案）承認の件
（ 5 ）サマーコンファレンス2022開催テーマ並びにコンセプト（案）承認の件
第4回理事予定者会議　審議事項
（ 1 ）理念共感拡大推進計画（案）承認の件
（ 2 ）JC運動を最大化するための組織改革推進計画（案）承認の件
（ 3 ）多様な人財が活躍できる環境整備推進計画（案）承認の件
（ 4 ）LOMの新設及び発展における支援推進計画（案）承認の件
（ 5 ）JC運動の価値の向上及びロールモデルとなる情報共有推進計画（案）承認の件
（ 6 ）GianPocket推進計画（案）承認の件
（ 7 ）地区ブロックアカデミー開催支援推進計画（案）承認の件
（ 8 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラム導入推進計画（案）承認の件
（ 9 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラムのトレーナー育成推進計画（案）承認の件
（ 10 ）ステークホルダー資本主義の推進計画（案）承認の件
（ 11 ）温室効果ガス排出削減推進計画（案）承認の件
（ 12 ）アスリート人材マッチングサービス推進事業推進計画（案）承認の件
（ 13 ）有事に備えた関係諸団体との連携による防災ネットワーク構築推進計画（案）承認の件
（ 14 ）JCブランドを高める広報戦略の推進計画（案）承認の件
（ 15 ）情報交換促進のための年間推進計画（案）承認の件
（ 16 ）2022年度京都会議「会員発掘公開アカデミー」事業計画（案）承認の件
（ 17 ）2022年度京都会議「地域再興→LOM再興～何もないまちこそ　やんちゃしようぜ～」事業計画（案）承認の件
（ 18 ）2022年度京都会議「ONE IMPACT SEMINAR」事業計画（案）承認の件

（ 19 ）2022年度京都会議「運動プラットフォーム構築スタートアップセミナー」事業計画（案）承認の件
（ 20 ）2022年度京都会議「森の循環から考える脱炭素と地域経済活性化セミナー」事業計画（案）承認の件
（ 21 ）2022年度京都会議「新トレンド発掘セミナー」事業計画（案）承認の件
（ 22 ）2022年度京都会議「BEYOND THE BORDER～ASPACでつながる世界との可能性～」事業計画（案）承認の件
（ 23 ）2022年度京都会議「Make progress～日本とロシアを愛するために～」事業計画（案）承認の件
（ 24 ）2022年度京都会議「ビジネスを通じた持続可能な国際協力」事業計画（案）承認の件
（ 25 ）2022年度京都会議「誰得?国際アカデミー」事業計画（案）承認の件
（ 26 ）2022年度京都会議「稼ぐ!JCセミナー」事業計画（案）承認の件

第5回理事予定者　審議事項
（ 1 ）理念共感拡大推進修正計画（案）承認の件
（ 2 ）ベビーファースト運動推進計画（案）承認の件
（ 3 ）国民一人ひとりが国のことを思う社会の創造を推進する事業計画（案）承認の件
（ 4 ）2022年度京都会議事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 5 ）2022年度京都会議広報計画（案）承認の件
（ 6 ）2022年度京都会議メインフォーラム「ビジョンが織りなす未来共創フォーラム」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 7 ）2022年度京都会議フォーラム「JCってなんだ!今こそ理念共感拡大の時」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 8 ）2022年度京都会議フォーラム「経済フォーラム」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 9 ）2022年度京都会議フォーラム「今、世界は揺らいでいる!1/3の幸せの形」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 10 ）2022年度京都会議「拡大塾～拡大は驚くほど変わっている～」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 11 ）2022年度京都会議「AWARDS JAPAN」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 12 ）2022年度京都会議「セミナーショーケース」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 13 ）2022年度京都会議「質的価値実践ワークショップ～質的価値に磨きをかけ質的価値社会を創出しよう～」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 14 ）2022年度京都会議「狙って広める運動のつくり方セミナー～ストーリーのある運動は自走する～」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 15 ）2022年度京都会議「多様な個性を理解しよう～多様性がイノベーションを生み出す～」事業計画（案）承認の件
（ 16 ）2022年度京都会議「ウェルトーク!あなたの会社は大丈夫??～幸せな会社の作り方～」事業計画（案）承認の件
（ 17 ）2022年度京都会議「ベビーファーストセミナー」事業計画（案）承認の件
（ 18 ）2022年度京都会議「インクルージョン推進セミナー」事業計画（案）承認の件
（ 19 ）2022年度京都会議「Everyone Politics～政治を全ての人に届ける～セミナー」事業計画（案）承認の件
（ 20 ）2022年度京都会議「未来を見据えたレジリエンス確立セミナー」事業計画（案）承認の件
（ 21 ）2022年度京都会議「JCI JAPAN TOYP 2022参加推進セミナー」事業計画（案）承認の件
（ 22 ） サマーコンファレンス2022「登録料」計画（案）承認の件
（ 23 ）第71回全国大会おおいた大会「テーマ」（案）承認の件
（ 24 ）全国大会運営会議に付託する事項（案）承認の件
（ 25 ）第71回全国大会おおいた大会「主管契約締結式」事業計画（案）承認の件
（ 26 ）2025年度第74回全国大会「主管立候補受付並びに審査日程」（案）承認の件
（ 27 ） 第71回全国大会おおいた大会「PR計画」並びに予算（案）承認の件
（ 28 ）運動プラットフォーム構築事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 29 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラム導入事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 30 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラムのトレーナー育成事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 31 ）外部団体「2030生物多様性枠組実現日本会議」設立に伴う委員就任（案）承認の件
（ 32 ）企業支援プラットフォーム構築事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 33 ）第6回価値デザインコンテスト～質的価値社会創出プロジェクト～募集計画並びに予算（案）承認の件
（ 34 ）アニマルウェルフェアフード推進オーナー制度「ラシクラブ」事業計画（案）承認の件
（ 35 ）JCI JAPAN TOYP 2022の価値を高める事業計画（案）承認の件
（ 36 ）JCI JAPAN TOYP 事業の募集企画・実施計画（案）承認の件
（ 37 ）姉妹LOMとの対話型民間交流の仕組みづくり及び姉妹LOM締結支援推進事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 38 ）日中経済交流推進事業計画（案）承認の件
（ 39 ）アジア太平洋地域でのカーボンニュートラル共同推進事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 40 ）在日ロシアコミュニティ交流事業計画（案）承認の件
（ 41 ）日ロ文化交流実践プロジェクトチーム「日ロパートナーズ」事業計画（案）承認の件
（ 42 ）SMILE by EDUCATION 2022事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 43 ）株式会社CAMPFIREとのパートナー契約（案）承認の件
（ 44 ）JC会館建替準備会議設置（案）承認の件
（ 45 ）外部アドバイザーパートナーシップ契約の締結計画並びに予算（案）承認の件
（ 46 ）組織の存在価値を向上させるWe Believeの作成、発刊（案）承認の件

報告・依頼事項
【共創グループ推進計画進捗報告】
（ 1 ）理念共感拡大推進計画について
（ 2 ）2022年度会員数純増計画推進について
（ 3 ）JC運動を最大化するための組織改革推進計画の報告について
（ 4 ）多様な人財が活躍できる環境整備推進計画の報告について
（ 5 ）LOMの新設及び発展における支援推進について
（ 6 ）JC運動の価値の向上及びロールモデルとなる情報共有推進計画について
（ 7 ）GianPocket推進計画について
（ 8 ）地区ブロックアカデミー開催支援推進計画について
（ 9 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラム導入推進計画の報告について（1月）
（ 10 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラムのトレーナー育成推進計画の報告について（1月）
【経済グループ推進計画進捗報告】
（ 11 ）ステークホルダー資本主義の推進について
（ 12 ）温室効果ガス排出削減推進報告について
（ 13 ）質的価値社会推進事業計画について
（ 14 ）アニマルウェルフェアを含む新トレンドの推進計画の進捗報告について
（ 15 ）アスリート人材マッチングサービス推進事業の進捗報告について

【社会グループ推進計画進捗報告】
（ 16 ）愛する未来を描く地域ビジョン再建プロジェクト推進事業 進捗状況について
（ 17 ）ベビーファースト運動推進計画の進捗報告について
（ 18 ）国民一人ひとりが国のことを思う社会の創造を推進する事業進捗状況について
（ 19 ）有事に備えた関係諸団体との連携による防災ネットワーク構築推進計画について
【総務グループ推進計画進捗報告】
（ 20 ）JCブランドを高める広報戦略の推進計画について
（ 21 ）情報交換促進のための推進状況について
【通常報告】
（ 22 ）JCI日本公認新プログラム導入推進計画について
（ 23 ）第33回及び第34回国際アカデミーリユニオン＠オンラインについて
（ 24 ）一般社団法人不動産オーナー経営学院 新規賛助契約について
（ 25 ）シャディ株式会社 新規賛助契約について
（ 26 ）株式会社Hosvice 新規賛助契約について
（ 27 ）「JCI JapanJCマークブランドガイドライン改訂のお知らせについて」について
（ 28 ）地区・ブロックの基本金及び付加金変更に関する情報提供について
（ 29 ）47ブロック公式訪問について
（ 30 ）2022年度会議・委員会における指名委員・兼務委員について
（ 31 ）2022年度公式スケジュールについて
（ 32 ）次回開催について 2022年2月19日（金）9:00～

第2回理事会

日時：2022年 2月19日（土）
場所：青年会議所会館

前回議事録の承認
（ 1 ）第1回理事会議事録

審議事項
＜推進計画議案＞
（ 1 ）宇宙の可能性を利活用する中小企業ビジネスの推進事業計画（案）承認の件
（ 2 ）情報交換促進のための年間推進修正計画（案）承認の件
＜JCI ASPAC堺高石大会関連議案＞
（ 3 ）JCI ASPAC堺高石大会対応計画並びに予算（案）承認の件
（ 4 ）JCI ASPAC堺高石大会 国際会議拠出金（案）承認の件
＜通常計画議案＞
（ 5 ）総会フォーラムⅠ「Leader's Actionフォーラム」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 6 ）総会フォーラムⅡ「ビジョンアップデートフォーラム」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 7 ）AWARDS JAPAN2022募集カテゴリー選定並びに募集方法（案）承認の件
（ 8 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラムのトレーナー育成事業修正計画並びに修正予算（案）承認の件
（ 9 ）サマーコンファレンス2022「ホームページ作成」計画並びに予算（案）承認の件
（ 10 ）JCI JAPAN TOYP 2022各種選考会開催計画並びに予算（案）承認の件
（ 11 ）CREATE THE NEXT ACTION ～SMILE by WATER in Cambodia～事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 12 ）CHANGE THE WORLD ～SMILE by WATER in Uganda～事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 13 ）組織の存在価値を向上させるWe Believeの作成、発刊修正（案）承認の件
（ 14 ）第170回総会開催並びに次第（案）承認の件

報告・依頼事項
【共創グループ推進計画進捗報告】
（ 1 ）理念共感拡大推進計画について
（ 2 ）2022年度会員数純増計画推進について
（ 3 ）JC運動を最大化するための組織改革推進計画の報告について
（ 4 ）多様な人財が活躍できる環境整備推進計画の報告について
（ 5 ）LOMの新設及び発展における支援推進について
（ 6 ）JC運動の価値の向上及びロールモデルとなる情報共有推進計画について
（ 7 ）GianPocket推進計画について
（ 8 ）地区ブロックアカデミー開催支援推進計画について
（ 9 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラム導入推進計画の報告について
（ 10 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラムのトレーナー育成推進計画の報告について（2月）
【経済グループ推進計画進捗報告】
（ 11 ）ステークホルダー資本主義の推進について
（ 12 ）温室効果ガス排出削減推進報告について
（ 13 ）食品ロス削減推進報告について
（ 14 ）質的価値社会推進事業計画について
（ 15 ）ウェルビーイング経営の推進報告について
（ 16 ）アニマルウェルフェアを含む新トレンドの推進計画の進捗報告について
（ 17 ）アスリート人材マッチングサービス推進事業の進捗報告について
【社会グループ推進計画進捗報告】
（ 18 ）愛する未来を描く地域ビジョン再建プロジェクト推進事業 進捗状況について
（ 19 ）ベビーファースト運動推進計画の進捗報告について
（ 20 ）子育て世代の声を政治に届ける運動推進計画の進捗報告について
（ 21 ）相互理解を実現する事業計画の進捗報告について
（ 22 ）共感による献血活動がLOMを輝かせる推進計画の進捗報告について
（ 23 ）国民一人ひとりが国のことを思う社会の創造を推進する事業進捗状況について
（ 24 ）国家全体のレジリエンスを向上させるハードインフラ投資の推進事業計画進捗状況について
（ 25 ）有事に備えた関係諸団体との連携による防災ネットワーク構築推進計画進捗状況について
【総務グループ推進計画進捗報告】
（ 26 ）JCブランドを高める広報戦略の推進計画の進捗報告について
（ 27 ）情報交換促進のための推進状況について
＜通常報告＞
（ 28 ）JCI AWARDS申請日程及びカテゴリーについて
（ 29 ）JCI日本公認新プログラム導入推進計画について
（ 30 ）三井不動産リアルティ株式会社との賃貸借契約一部変更について
（ 31 ）賛助企業によるLOMへの支援・連携について
（ 32 ）2022年度賛助企業（年初確定）について
（ 33 ）We Believe1月号アンケート結果について
（ 34 ）47ブロック会頭公式訪問について
（ 35 ）2022年度京都会議各フォーラム・オンライン配信セミナー開催結果について
（ 36 ）第169回総会開催報告について
（ 37 ）外部団体事業への後援・協賛名義使用及び役員就任について
（ 38 ）2022年度公式スケジュールについて
（ 39 ）次回開催について 2022年3月11日（金）9:00～

第3回理事会

日時：2022年 3月11日（金）
場所：青年会議所会館

前回議事録の承認
（ 1 ）第2回理事会議事録

審議事項
＜第170回総会審議案件＞
（ 1 ）2021年度 事業報告（案）承認の件
（ 2 ）2021年度 決算（案）承認の件
＜第170回総会報告案件＞
（ 3 ）2022年度 予算（案）承認の件
＜推進計画議案＞
（ 4 ）日中経済交流推進修正事業計画（案）承認の件
＜JCI ASPAC 堺高石大会関連議案＞
（ 5 ）JCI ASPACフォーラム「アジア太平洋自由と平和サミット」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 6 ）JCI ASPAC「ジャパンナイト」開催計画並びに予算（案）承認の件
＜通常計画議案＞
（ 7 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラムのトレーナー育成事業修正計画並びに修正予算（案）承認の件
（ 8 ）ビジネスの新潮流を乗りこなせ～新トレンドを掴んだリーダーたち～修正事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 9 ）ビジネスの新潮流を乗りこなせ「WIN8」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 10 ）第35回国際アカデミーテーマ並びに募集修正計画（案）承認の件
（ 11 ）JC会館建替準備会議設置修正（案）承認の件
（ 12 ）公益社団法人日本青年会議所2022年度年間公式スケジュール変更（案）承認の件
（ 13 ）会議・委員会出向者追加・変更（案）承認の件
（ 14 ）会頭選挙管理委員会委員指名（案）承認の件

報告・依頼事項
【共創グループ推進計画進捗報告】
（ 1 ）理念共感拡大推進計画について
（ 2 ）2022年度会員数純増計画推進について
（ 3 ）JC運動を最大化するための組織改革推進計画の報告について
（ 4 ）多様な人財が活躍できる環境整備推進計画の報告について
（ 5 ）LOMの新設及び発展における支援推進について
（ 6 ）JC運動の価値の向上及びロールモデルとなる情報共有推進計画について
（ 7 ）GianPocket推進計画について
（ 8 ）地区ブロックアカデミー開催支援推進計画について
（ 9 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラム導入推進計画の報告について（3月）
（ 10 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラムのトレーナー育成推進計画の報告について（3月）
【経済グループ推進計画進捗報告】
（ 11 ）ステークホルダー資本主義の推進について
（ 12 ）温室効果ガス排出削減推進報告について
（ 13 ）食品ロス削減推進報告について
（ 14 ）質的価値社会推進事業計画について
（ 15 ）ウェルビーイング経営の推進報告について
（ 16 ）アニマルウェルフェアを含む新トレンドの推進計画の進捗報告について
（ 17 ）アスリート人材マッチングサービス推進事業の進捗報告について
【社会グループ推進計画進捗報告】
（ 18 ）愛する未来を描く地域ビジョン再建プロジェクト推進事業 進捗状況について
（ 19 ）ベビーファースト運動推進計画の進捗報告について
（ 20 ）子育て世代の声を政治に届ける運動推進計画の進捗報告について
（ 21 ）相互理解を実現する事業計画の進捗報告について
（ 22 ）共感による献血活動がLOMを輝かせる推進計画の進捗報告について
（ 23 ）国民一人ひとりが国のことを思う社会の創造を推進する事業進捗状況について
（ 24 ）国家全体のレジリエンスを向上させるハードインフラ投資の推進事業計画進捗状況について
（ 25 ）宇宙の可能性を利活用する中小企業ビジネスの推進事業計画進捗状況について
（ 26 ）有事に備えた関係諸団体との連携による防災ネットワーク構築推進計画進捗状況について
【総務グループ推進計画進捗報告】
（ 27 ）JCブランドを高める広報戦略の推進計画進捗報告について
（ 28 ）情報交換促進のための推進状況について
＜通常報告＞
（ 29 ）JCI ASPAC 堺高石大会「JCI AWARDSジャッジ」のJCI日本からの選出、推薦について
（ 30 ）JCI日本公認新プログラム導入推進計画について
（ 31 ）寛仁親王妃信子殿下「一般社団法人女性の健康とメノポーズ協会名誉総裁就任」に基づく寄付について
（ 32 ）47ブロック公式訪問進捗状況について
（ 33 ）2022年度公式スケジュールについて
（ 34 ）次回開催について 2022年4月16日（土）9:00～

第4回理事会

日時：2022年 4月16日（土）
場所：青年会議所会館

前回議事録の承認
（ 1 ）第3回理事会議事録

審議事項
＜推進計画議案＞
（ 1 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラムのトレーナー育成事業修正計画並びに修正予算（案）承認の件
（ 2 ）温室効果ガス排出削減推進修正計画（案）承認の件
（ 3 ）ウェルビーイング経営の推進修正計画（案）承認の件
（ 4 ）愛する未来を描く地域ビジョン再建プロジェクト推進事業修正計画並びに予算（案）承認の件
（ 5 ）子育て世代の政治参画意識を高める運動の推進修正計画（案）承認の件
＜京都会議関連議案＞
（ 6 ）2022年度京都会議修正事業計画並びに補正予算（案）承認の件
［広報・フォーラム・現地開催セミナー］
（ 7 ）2022年度京都会議広報計画事業報告（案）承認の件
（ 8 ）2022年度京都会議メインフォーラム「ビジョンが織りなす未来共創フォーラム」事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 9 ）2022年度京都会議フォーラム「JCってなんだ！今こそ理念共感拡大の時」事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 10 ）2022年度京都会議フォーラム「経済フォーラム」事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 11 ）2022年度京都会議フォーラム「今、世界は揺らいでいる！1/3の幸せの形」事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 12 ）2022年度京都会議「拡大塾～拡大は驚くほど変わっている～」事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 13 ）2022年度京都会議「AWARDS JAPAN」修正事業計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 14 ）2022年度京都会議「AWARDS JAPAN」事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 15 ）2022年度京都会議「セミナーショーケース」事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 16 ）2022年度京都会議「質的価値実践ワークショップ～質的価値に磨きをかけ質的価値社会を創出しよう～」
修正事業計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 17 ）2022年度京都会議「質的価値実践ワークショップ～質的価値に磨きをかけ質的価値社会を創出しよう～」
事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 18 ）2022年度京都会議「狙って広める運動のつくり方セミナー ～ストーリーのある運動は自走する～」
事業報告並びに決算（案）承認の件
［オンライン配信セミナー］
（ 19 ）2022年度京都会議「会員発掘公開アカデミー」事業報告（案）承認の件
（ 20 ）2022年度京都会議「多様な個性を理解しよう～多様性がイノベーションを生み出す～」事業報告（案）承認の件
（ 21 ）2022年度京都会議「地域再興→LOM再興～何もないまちこそ やんちゃしようぜ～」事業報告（案）承認の件
（ 22 ）2022年度京都会議「ONE IMPACT SEMINAR」事業報告（案）承認の件
（ 23 ）2022年度京都会議「運動プラットフォーム構築スタートアップセミナー」事業報告（案）承認の件
（ 24 ）2022年度京都会議「森の循環から考える脱炭素と地域経済活性化セミナー」事業報告（案）承認の件
（ 25 ）2022年度京都会議「ウェルトーク！あなたの会社は大丈夫??～幸せな会社の作り方～」事業報告（案）承認の件
（ 26 ）2022年度京都会議「新トレンド発掘セミナー」事業報告（案）承認の件
（ 27 ）2022年度京都会議「ベビーファーストセミナー」事業報告（案）承認の件
（ 28 ）2022年度京都会議「インクルージョン推進セミナー」事業報告（案）承認の件
（ 29 ）2022年度京都会議「Everyone Politics～政治を全ての人に届ける～セミナー」事業報告（案）承認の件
（ 30 ）2022年度京都会議「未来を見据えたレジリエンス確立セミナー」事業報告（案）承認の件
（ 31 ）2022年度京都会議「JCI JAPAN TOYP 2022参加推進セミナー」事業報告（案）承認の件
（ 32 ）2022年度京都会議「BEYOND THE BORDER～ASPACでつながる世界との可能性～」事業報告（案）承認の件
（ 33 ）2022年度京都会議「Make progress～日本とロシアを愛するために～」事業報告（案）承認の件
（ 34 ）2022年度京都会議「ビジネスを通じた持続可能な国際協力」事業報告（案）承認の件
（ 35 ）2022年度京都会議「誰得？国際アカデミー」事業報告（案）承認の件
（ 36 ）2022年度京都会議「稼ぐ！JCセミナー」事業報告（案）承認の件
＜全国大会おおいた大会関連議案＞
（ 37 ）第71回全国大会おおいた大会「スケジュール」（案）承認の件
（ 38 ）第71回全国大会おおいた大会「主管契約締結式」事業報告（案）承認の件
（ 39 ）第71回全国大会おおいた大会「登録料」（案）承認の件
＜JCI ASPAC堺高石大会関連議案＞
（ 40 ）JCI ASPAC堺高石大会対応修正計画並びに予算（案）承認の件
（ 41 ）JCI ASPACフォーラム「アジア太平洋自由と平和サミット」修正事業計画並びに修正予算（案）承認の件
（ 42 ）JCI ASPACフォーラム「アジアグローバルソリューションサミット」修正事業計画並びに修正予算（案）承認の件
（ 43 ）JCI ASPACセミナー「グローバルネットワーカーが語るThink Globally,Act Locally」事業計画（案）承認の件
（ 44 ）第72回JCIアジア太平洋エリア会議（ASPAC）堺高石における議決権の会頭一任（案）承認の件
＜通常計画議案＞
（ 45 ）AWARDS JAPAN 2022 審査基準計画（案）承認の件
（ 46 ）「第5回日本アカデミー」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 47 ）ビジネスの新潮流を乗りこなせ～新トレンドを掴んだリーダーたち～修正事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 48 ）「ジェンダー茶レンジ」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 49 ）在日ロシアコミュニティとの交流事業報告（案）承認の件
（ 50 ）日ロ文化交流実践プロジェクトチーム「日ロパートナーズ」事業報告（案）承認の件
（ 51 ）コンストラクションマネジメント契約の締結計画（案）承認の件
（ 52 ）会頭選挙に関する指定事項（案）承認の件
（ 53 ）会議・委員会出向者追加・変更（案）承認の件

報告・依頼事項
【共創グループ推進計画進捗報告】
（ 1 ）理念共感拡大推進計画について
（ 2 ）2022年度会員数純増計画推進について
（ 3 ）JC運動を最大化するための組織改革推進計画の報告について

（ 4 ）多様な人財が活躍できる環境整備推進計画の報告について
（ 5 ）LOMの新設及び発展における支援推進について
（ 6 ）JC運動の価値の向上及びロールモデルとなる情報共有推進計画について
（ 7 ）GianPocket推進計画について
（ 8 ）地区ブロックアカデミー開催支援推進計画について
（ 9 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラム導入推進計画の報告について（4月）
（ 10 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラムのトレーナー育成推進計画の報告について（4月）
【経済グループ推進計画進捗報告】
（ 11 ）ステークホルダー資本主義の推進について
（ 12 ）温室効果ガス排出削減推進報告について
（ 13 ）食品ロス削減推進報告について
（ 14 ）質的価値社会推進事業計画について
（ 15 ）ウェルビーイング経営の推進報告について
（ 16 ）アニマルウェルフェアを含む新トレンドの推進計画の進捗報告について
（ 17 ）アスリート人材マッチングサービス推進事業の進捗報告について
【社会グループ推進計画進捗報告】
（ 18 ）愛する未来を描く地域ビジョン再建プロジェクト推進事業 進捗状況について
（ 19 ）ベビーファースト運動推進計画の進捗報告について
（ 20 ）子育て世代の声を政治に届ける運動推進計画の進捗報告について
（ 21 ）相互理解を実現する事業計画の進捗報告について
（ 22 ）共感による献血活動がLOMを輝かせる推進計画の進捗報告について
（ 23 ）国民一人ひとりが国のことを思う社会の創造を推進する事業進捗状況について
（ 24 ）国家全体のレジリエンスを向上させるハードインフラ投資の推進事業計画進捗状況について
（ 25 ）宇宙の可能性を利活用する中小企業ビジネスの推進事業計画進捗状況について
（ 26 ）有事に備えた関係諸団体との連携による防災ネットワーク構築推進計画進捗状況について
【国際グループ推進計画進捗報告】
（ 27 ）CREATE THE NEXT ACTION ～SMILE by WATER in Cambodia～
事業計画の進捗報告について
（ 28 ）CHANGE THE WORLD ～SMILE by WATER in Uganda～事業計画の進捗報告について
【総務グループ推進計画進捗報告】
（ 29 ）JCブランドを高める広報戦略の推進計画進捗報告について
（ 30 ）情報促進のための進捗状況について
＜通常報告＞
（ 31 ）JCI日本公認新プログラム導入推進計画について
（ 32 ）第71回全国大会おおいた大会「事前調査アンケート」について
（ 33 ）2025年度第74回全国大会主管予定立候補LOMについて
（ 34 ）株式会社和光の販売するJCグッズの価格改定について
（ 35 ）本会並びに地区協議会、ブロック協議会における本会名称使用に関する報告と状況について
（ 36 ）We Believe2-3月号アンケート結果について
（ 37 ）47ブロック公式訪問進捗状況について
（ 38 ）外部団体事業への後援・協賛名義使用及び役員就任について
（ 39 ）2022年度会頭選挙管理委員会について
（ 40 ）2022年度公式スケジュールについて
（ 41 ）次回開催について 2022年5月21日（土）9:00～ 青年会議所会館

第5回理事会

日時：2022年 5月21日（土）
場所：青年会議所会館

前回議事録の承認
（ 1 ）第4回理事会議事録

審議事項
＜推進計画議案＞
（ 1 ）LOMの新設及び発展における支援推進修正計画（案）承認の件
（ 2 ）愛する未来を描く地域ビジョン再建プロジェクト推進事業修正計画並びに予算（案）承認の件
（ 3 ）宇宙の可能性を利活用する中小企業ビジネスの推進修正計画（案）承認の件
（ 4 ）姉妹LOMとの対話型民間交流の仕組みづくり及び姉妹LOM締結支援推進事業計画並びに修正予算（案）承認の件
＜京都会議関連議案＞
（ 5 ）2022年度京都会議事業報告並びに決算（案）承認の件
＜JCI ASPAC堺高石大会関連議案＞
（ 6 ）JCI ASPACフォーラム「日本型Well-being経営が実装する働きがいのある会社を目指して」事業計画（案）承認の件
＜サマーコンファレンス2022関連議案＞
［本体・広報・オープニング・クロージング］
（ 7 ）サマーコンファレンス2022「登録料」修正計画（案）承認の件
（ 8 ）サマーコンファレンス2022「登録システム改修」計画並びに予算（案）承認の件
（ 9 ）サマーコンファレンス2022事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 10 ）サマーコンファレンス2022「広報」計画（案）承認の件
（ 11 ）サマーコンファレンス2022「オープニング～しくみの数だけ、幸せがある」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 12 ）サマーコンファレンス2022「クロージング～響け！愛のECHO」事業計画並びに予算（案）承認の件
［サマコンウィーク関連議案］
（ 13 ）サマコンウィーク2022「理念共感プロモーター育成セミナー」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 14 ）サマコンウィーク2022「組織改革のすすめ～異彩が輝く社会、常識の先に待つもの～」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 15 ）サマコンウィーク2022「理念共感型の会員拡大って何なんだ？～持続可能な組織へのための先行投資～」開催計画並びに予算（案）承認の件
（ 16 ）サマコンウィーク2022「GianPocketNEO進化版動画配信」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 17 ）サマコンウィーク2022「第5回日本アカデミー～より良い未来に向かって～」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 18 ）サマコンウィーク2022「JCプログラムセミナー」事業計画並びに予算（案）承認の件
［フォーラム関連議案］
（ 19 ）サマーコンファレンス2022フォーラム「100人100通りの個性輝くJC～あなたはカオスを愛せますか？～」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 20 ）サマーコンファレンス2022フォーラム「新しい資本主義実現フォーラム ～中小企業が変われば日本が変わる！～」
事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 21 ）サマーコンファレンス2022フォーラム「まちへインパクトをもたらす中期ビジョン」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 22 ）サマーコンファレンス2022フォーラム「Democracy for Tomorrow～幸せは“あなたの声”からはじまる～」事業計画並びに予算（案）承認の件
［セミナー関連議案］
（ 23 ）サマーコンファレンス2022「変革を恐れるな！」～集める組織から集まる組織へ～事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 24 ）サマーコンファレンス2022「JC運動を生みだせ！～持続可能に会員拡大ができる組織の在り方～」開催計画並びに予算（案）承認の件
（ 25 ）サマーコンファレンス2022「GianPocket アワード」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 26 ）サマーコンファレンス2022「第5回日本アカデミー～すべてのリーダーへより良い未来をあなたとともに～」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 27 ）サマーコンファレンス2022「新プログラム公開セミナー」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 28 ）サマーコンファレンス2022「UNESCOと産官学と共創する「しくみ」構築セミナー」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 29 ）サマーコンファレンス2022「ダ埼玉からの脱却～さいたま市が住みたい街になった秘訣を探る～」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 30 ）サマーコンファレンス2022「ぼくらが導くカーボンニュートラル～2050年に向けてLet's Take Action!～」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 31 ）サマーコンファレンス2022「第6回価値デザインコンテスト～質的価値社会創出プロジェクト～」開催計画並びに予算（案）承認の件
（ 32 ）サマーコンファレンス2022「幸せを指標の一つとして持続可能な豊かさの実現へ」～次代の経営Well-being～事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 33 ）サマーコンファレンス2022「ビジネスの新潮流を乗りこなせ『NEXTトレンド・ピッチ』」事業計画（案）承認の件
（ 34 ）サマーコンファレンス2022「WORLD PEACE SUMMIT～世界をつなぐメッセージ～」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 35 ）サマーコンファレンス2022「青年会議所会館建替についての説明会」事業計画並びに予算（案）承認の件
＜全国大会おおいた大会関連議案＞
（ 36 ）第71回全国大会おおいた大会「大会事務局開設」計画並びに予算（案）承認の件
＜通常計画議案＞
（ 37 ）理念共感プロモーター育成プログラム事業修正計画並びに予算（案）承認の件
（ 38 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラムのトレーナー育成事業修正計画並びに修正予算（案）承認の件
（ 39 ）ビジネスの新潮流を乗りこなせ～新トレンドを掴んだリーダーたち～修正事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 40 ）外部団体「令和国民会議（令和臨調）設立に伴う発起人就任（案）承認の件
（ 41 ）JCI JAPAN TOYP事業の実施計画並びに予算（案）承認の件
（ 42 ）2022年度ロシアミッション学生交流補正事業計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 43 ）2022年度ロシアミッション学生交流事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 44 ）第35回国際アカデミーに伴うプレ国際アカデミー修正事業計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 45 ）コンストラクションマネジメント契約に係る2022年度個別契約締結計画並びに予算（案）承認の件

報告・依頼事項
【共創グループ推進計画進捗報告】
（ 1 ）理念共感拡大推進計画について
（ 2 ）2022年度会員数純増計画推進について
（ 3 ）JC運動を最大化するための組織改革推進計画の報告について
（ 4 ）多様な人財が活躍できる環境整備推進計画の報告について
（ 5 ）LOMの新設及び発展における支援推進について
（ 6 ）JC運動の価値の向上及びロールモデルとなる情報共有推進計画について
（ 7 ）GianPocket推進計画について
（ 8 ）地区ブロックアカデミー開催支援推進計画について
（ 9 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラム導入推進計画の報告について（5月）
（ 10 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラムのトレーナー育成推進計画の報告について（5月）

（ 11 ）JCI日本公認新プログラム導入推進計画について
【経済グループ推進計画進捗報告】
（ 12 ）ステークホルダー資本主義の推進について
（ 13 ）温室効果ガス排出削減推進報告について
（ 14 ）食品ロス削減推進報告について
（ 15 ）質的価値社会推進事業について
（ 16 ）ウェルビーイング経営の推進報告について
（ 17 ）アニマルウェルフェアを含む新トレンドの推進計画の進捗報告について
（ 18 ）アスリート人材マッチングサービス推進事業の進捗報告について
【社会グループ推進計画進捗報告】
（ 19 ）愛する未来を描く地域ビジョン再建プロジェクト推進事業進捗状況について
（ 20 ）ベビーファースト運動推進計画の進捗報告について
（ 21 ）子育て世代の声を政治に届ける運動推進計画の進捗報告について
（ 22 ）相互理解を実現する事業計画の進捗報告について
（ 23 ）共感による献血活動がLOMを輝かせる推進計画の進捗報告について
（ 24 ）国民一人ひとりが国のことを思う社会の創造を推進する事業進捗状況について
（ 25 ）国家全体のレジリエンスを向上させるハードインフラ投資の推進事業計画進捗状況について
（ 26 ）宇宙の可能性を利活用する中小企業ビジネスの推進事業計画進捗状況について
（ 27 ）有事に備えた関係諸団体との連携による防災ネットワーク構築推進計画進捗状況について
【国際グループ推進計画進捗報告】
（ 28 ）CREATE THE NEXT ACTION～SMILE by WATER in Cambodia～事業計画の進捗報告について
（ 29 ）CHANGE THE WORLD～SMILE by WATER in Uganda～事業計画の進捗報告について
【総務グループ推進計画進捗報告】
（ 30 ）JCブランドを高める広報戦略の推進計画進捗報告について
（ 31 ）情報交換促進のための推進状況について
＜通常報告＞
（ 32 ）第71回全国大会おおいた大会「大会成功祈願」について
（ 33 ）第71回全国大会おおいた大会「登録ガイド」について
（ 34 ）第71回全国大会おおいた大会「県市表敬訪問」計画について
（ 35 ）第71回全国大会おおいた大会「インフォメーション」計画について
（ 36 ）第71回全国大会おおいた大会「エクスカーション」について
（ 37 ）災害対策本部設置報告について
（ 38 ）JCカード2021年度分LOM還元について
（ 39 ）三井住友トラストクラブ株式会社（ダイナースクラブ）パートナーシップ契約の料率変更について
（ 40 ）青年会議所会館電気需給業者変更について
（ 41 ）Webelieve4月号アンケート結果について
（ 42 ）47ブロック会頭公式訪問進捗状況について
（ 43 ）第170回総会開催報告について
（ 44 ）2022年度京都会議外部監査について
（ 45 ）2022年度公式スケジュールについて
（ 46 ）次回開催について 2022年6月25日（土）9:00～

第6回理事会

日時：2022年 6月25日（土）
場所：青年会議所会館

前回議事録の承認
（ 1 ）第5回理事会議事録

審議事項
＜サマーコンファレンス2022関連議案＞
［本体・広報］
（ 1 ）サマーコンファレンス2022修正事業計画並びに修正予算（案）承認の件
（ 2 ）サマーコンファレンス2022「広報」修正計画（案）承認の件
［セミナー関連議案］
（ 3 ）サマーコンファレンス2022「JC運動を生みだせ！～持続可能に会員拡大ができる組織の在り方～」開催計画並びに修正予算（案）承認の件
（ 4 ）サマーコンファレンス2022「UNESCOと産官学と共創する「しくみ」構築セミナー」事業計画並びに修正予算（案）承認の件
（ 5 ）サマーコンファレンス2022「ダ埼玉からの脱却～さいたま市が住みたい街になった秘訣を探る～」事業計画並びに修正予算（案）承認の件
（ 6 ）サマーコンファレンス2022「ビジネスの新潮流を乗りこなせ『NEXTトレンド・ピッチ』」修正事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 7 ）サマーコンファレンス2022「社会を動かすベビーファーストセミナー」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 8 ）サマーコンファレンス2022「個人も組織も成長するダイバーシティ～女性が活躍できる組織を目指して～」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 9 ）サマーコンファレンス2022「スペースレジリエンスフォーラム」事業計画並びに予算（案）承認の件
＜通常計画議案＞
（ 10 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラムのトレーナー育成事業修正計画並びに修正予算（案）承認の件
（ 11 ）ビジネスの新潮流を乗りこなせ～新トレンドを掴んだリーダーたち～修正事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 12 ）JCカップU-11少年少女サッカー全国大会実施計画並びに予算（案）承認の件
（ 13 ）総会フォーラムⅠ「Leader's Actionフォーラム」事業計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 14 ）総会フォーラムⅡ「ビジョンアップデートフォーラム」事業計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 15 ）JCI JAPAN TOYP事業の実施修正計画並びに修正予算（案）承認の件
（ 16 ）JCI JAPANグローバルユース国連大使育成事業計画並びに修正予算（案）承認の件
（ 17 ）中国地区岡山ブロック協議会 運営規程の一部変更（案）承認の件

報告・依頼事項
【共創グループ推進計画進捗報告】
（ 1 ）理念共感拡大推進計画について
（ 2 ）2022年度会員数純増計画推進について
（ 3 ）JC運動を最大化するための組織改革推進計画の報告について
（ 4 ）多様な人財が活躍できる環境整備推進計画の報告について
（ 5 ）LOMの新設及び発展における支援推進について
（ 6 ）JC運動の価値の向上及びロールモデルとなる情報共有推進計画について
（ 7 ）GianPocket推進計画について
（ 8 ）地区ブロックアカデミー開催支援推進計画について
（ 9 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラム導入推進計画の報告について（6月）
（ 10 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラムのトレーナー育成推進計画の報告について（6月）
【経済グループ推進計画進捗報告】
（ 11 ）ステークホルダー資本主義の推進について
（ 12 ）温室効果ガス排出削減推進報告について
（ 13 ）食品ロス削減推進報告について
（ 14 ）質的価値社会推進事業計画について
（ 15 ）ウェルビーイング経営の推進報告について
（ 16 ）アニマルウェルフェアを含む新トレンドの推進計画の進捗報告について
（ 17 ）アスリート人材マッチングサービス推進事業の進捗報告について
【社会グループ推進計画進捗報告】
（ 18 ）愛する未来を描く地域ビジョン再建プロジェクト推進事業 進捗状況について
（ 19 ）ベビーファースト運動推進計画の進捗報告について
（ 20 ）子育て世代の声を政治に届ける運動推進計画の進捗報告について
（ 21 ）「相互理解を実現する事業計画の進捗報告について
（ 22 ）共感による献血活動がLOMを輝かせる推進計画の進捗報告について
（ 23 ）国民一人ひとりが国のことを思う社会の創造を推進する事業進捗状況について
（ 24 ）国家全体のレジリエンスを向上させるハードインフラ投資の推進事業計画進捗状況について
（ 25 ）宇宙の可能性を利活用する中小企業ビジネスの推進事業計画進捗状況について
（ 26 ）有事に備えた関係諸団体との連携による防災ネットワーク構築推進計画進捗状況について
【国際グループ推進計画進捗報告】
（ 27 ）CREATE THE NEXT ACTION～SMILE by WATER in Cambodia～事業計画の進捗報告について
（ 28 ）CHANGE THE WORLD～SMILE by WATER in Uganda～事業計画の進捗報告について
【総務グループ推進計画進捗報告】
（ 29 ）JCブランドを高める広報戦略の推進計画進捗報告について
（ 30 ）情報交換促進のための推進状況について
＜通常報告＞
（ 31 ）第71回全国大会おおいた大会「登録ガイド」について
（ 32 ）第71回全国大会おおいた大会「運輸」について
（ 33 ）第71回全国大会おおいた大会「宿泊」計画について
（ 34 ）第71回全国大会おおいた大会「事前調査アンケート」について
（ 35 ）第71回全国大会おおいた大会「大会概要説明」構成・演出について
（ 36 ）2025年度第74回全国大会主管立候補LOMについて
（ 37 ）第71回全国大会おおいた大会「記念事業」について
（ 38 ）We believe5月号アンケート結果について
（ 39 ）47ブロック会頭公式訪問について
（ 40 ）外部団体事業への後援・協賛名義使用及び役員就任について

(41) 業務執行理事による業務執行状況報告について
(42) 会頭立候補者推薦書(選管書式NO.3)の取り扱いについて
(43) 2022-2023 JCI APDC出向役員について
(44) 2022年度公式スケジュール
(45) 次回開催について 2022年7月15日(金)13:00～

第7回理事会

日時:2022年 7月15日(金)
場所:パシフィコ横浜

前回議事録の承認
（ 1 ）第6回理事会議事録

審議事項
＜推進計画議案＞
（ 1 ）LOMの新設及び発展における支援推進修正計画(案)承認の件
（ 2 ）食品ロス削減推進修正計画(案)承認の件
＜サマーコンファレンス2022関連議案＞
[本体議案]
（ 3 ）サマーコンファレンス2022修正事業計画並びに修正予算(案)承認の件
[フォーラム関連議案]
（ 4 ）サマーコンファレンス2022フォーラム「新しい資本主義実現フォーラム ～中小企業が変われば日本が変わる!～」
修正事業計画並びに予算(案)承認の件
（ 5 ）サマーコンファレンス2022フォーラム「まちへインパクトをもたらす中期ビジョン」修正事業計画並びに予算(案)承認の件
[セミナー関連議案]
（ 6 ）サマーコンファレンス2022「JC運動を生みだせ!～持続可能に会員拡大ができる組織の在り方～」修正事業計画並びに予算(案)承認の件
（ 7 ）サマーコンファレンス2022「GianPocketアワード」修正事業計画並びに予算(案)承認の件
（ 8 ）サマーコンファレンス2022「WORLD PEACE SUMMIT～世界をつなぐメッセージ～」修正事業計画並びに予算(案)承認の件
（ 9 ）サマーコンファレンス2022「青年会議所会館建替についての説明会」修正事業計画並びに予算(案)承認の件
＜第71回全国大会おおいた大会関連議案＞
（ 10 ）第71回全国大会おおいた大会事業(開催)計画並びに予算(案)承認の件
（ 11 ）第71回全国大会おおいた大会「スケジュール」修正(案)承認の件
（ 12 ）第71回全国大会おおいた大会「大会ガイド構成」(案)承認の件
（ 13 ）第71回全国大会おおいた大会「PR」修正計画並びに予算(案)承認の件
（ 14 ）第71回全国大会おおいた大会メインフォーラム「ビジョナリージャパン～日本を変えるのはあなたのまちへの愛～」事業計画(案)承認の件
（ 15 ）第71回全国大会おおいた大会フォーラム「あなたならできる～自分を信じた先にあるもの～」事業計画(案)承認の件
（ 16 ）第71回全国大会おおいた大会拡大セミナー「自然と人が集まる組織へ」事業計画並びに予算(案)承認の件
（ 17 ）第71回全国大会おおいた大会「2023年度スタートアップセッション」事業計画並びに予算(案)承認の件
＜JCI ASPAC堺高石大会関連議案＞
（ 18 ）JCI ASPAC堺高石大会対応事業報告並びに決算(案) 承認の件
（ 19 ）JCI ASPAC堺高石大会 国際会議拠出金事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 20 ）JCI ASPACフォーラム「日本型Well-being経営が実装する働きがいのある会社を目指して」事業報告(案)承認の件
（ 21 ）JCI ASPACフォーラム「アジア太平洋自由と平和サミット」事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 22 ）JCI ASPACフォーラム「アジアグローバルソリューションサミット」事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 23 ）JCI ASPACセミナー「グローバルネットワーカーが語るThink Globally, Act Locally」事業報告(案)承認の件
＜JCI世界会議香港大会関連議案＞
（ 24 ）JCI世界会議香港大会事業計画並びに予算(案)承認の件
＜通常計画議案＞
（ 25 ）総会フォーラムⅠ「Leader' Actionフォーラム」事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 26 ）総会フォーラムⅡ「ビジョンアップデートフォーラム」事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 27 ）理念共感プロモーター(第2期)育成プログラム事業計画並びに予算(案)承認の件
（ 28 ）JCI日本におけるグループウェアシステム導入計画並びに予算(案)承認の件
（ 29 ）「第5回日本アカデミー」修正計画並びに補正予算(案)承認の件
（ 30 ）「理念共感型新プログラム」JCI日本公認プログラム認定(案)承認の件
（ 31 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラムのトレーナー育成事業修正計画並びに修正予算(案)承認の件
（ 32 ）ステークホルダー資本主義に関する社会実験事業計画並びに補正予算(案)承認の件
（ 33 ）カーボンニュートラルアドバイザー育成研修事業計画並びに予算(案)承認の件
（ 34 ）国民としての意思創造プログラムを構築する事業計画(案)承認の件
（ 35 ）JCI JAPANウクライナ支援プロジェクト「Next Generations×Love Draem&happiness」事業計画並びに予算(案)承認の件
（ 36 ）JCI JAPANグローバルユース国連大使育成事業計画並びに修正予算(案)承認の件
（ 37 ）CHANGE THE WORLD ～SMILE by WATER in Uganda～ 修正事業計画並びに修正予算(案)承認の件
（ 38 ）第35回国際アカデミー事業計画並びに予算(案)承認の件
（ 39 ）四国地区高知ブロック協議会 運営規程の一部変更(案)承認の件
（ 40 ）第171回総会開催並びに次第(案)承認の件

報告・依頼事項
【共創グループ推進計画進捗報告】
（ 1 ）理念共感拡大推進計画について
（ 2 ）2022年度会員数純増計画推進について
（ 3 ）JC運動を最大化するための組織改革推進計画の報告について
（ 4 ）多様な人財が活躍できる環境整備推進計画の報告について
（ 5 ）LOMの新設及び発展における支援推進について
（ 6 ）JC運動の価値の向上及びロールモデルとなる情報共有推進計画について
（ 7 ）Gian Pocket推進計画について
（ 8 ）地区ブロックアカデミー開催支援推進計画について
（ 9 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラム導入推進計画の報告について(7月)
（ 10 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラムのトレーナー育成推進計画の報告(7月)
【経済グループ推進計画進捗報告】
（ 11 ）ステークホルダー資本主義の推進について
（ 12 ）温室効果ガス排出削減推進報告について
（ 13 ）食品ロス削減推進報告について
（ 14 ）質的価値社会推進事業報告について
（ 15 ）ウェルビーイング経営の推進報告について

（ 16 ）アニマルウェルフェアを含む新トレンドの推進計画の進捗報告について
（ 17 ）アスリート人材マッチングサービス推進事業の進捗報告について
【社会グループ推進計画進捗報告】
（ 18 ）愛する未来を描く地域ビジョン再建プロジェクト推進事業 進捗状況について
（ 19 ）ベビーファースト運動推進計画の進捗報告について
（ 20 ）子育て世代の声を政治に届ける運動の推進計画の進捗報告について
（ 21 ）相互理解を実現する事業計画の進捗報告について
（ 22 ）共感による献血活動がLOMを輝かせる推進計画の進捗報告について
（ 23 ）国民一人ひとりが国のことを思う社会の創造を推進する事業進捗状況について
（ 24 ）国家全体のレジリエンスを向上させるハードインフラ投資の推進事業計画進捗状況について
（ 25 ）宇宙の可能性を利活用する中小企業ビジネスの推進事業計画進捗状況について
（ 26 ）有事に備えた関係諸団体との連携による防災ネットワーク構築推進計画進捗状況について
【国際グループ推進計画進捗報告】
（ 27 ）CREATE THE NEXT ACTION～SMILE by WATER in Cambodia～事業計画の進捗報告について
（ 28 ）CHANGE THE WORLD～SMILE by WATER in Uganda～事業計画の進捗報告について
【総務グループ推進計画進捗報告】
（ 29 ）JCブランドを高める広報戦略の推進計画進捗報告について
（ 30 ）情報交換促進のための推進状況について
＜通常報告＞
（ 31 ）第71回全国大会おおいた大会「大会式典」構成・演出について
（ 32 ）第71回全国大会おおいた大会ウェルカムおおいた構成・演出について
（ 33 ）第71回全国大会おおいた大会「開会宣言」構成・演出について
（ 34 ）アジア太平洋地域NOMとの合同常任理事会開催報告について
（ 35 ）JC会館建替準備会議開催報告について
（ 36 ）We believe6月号アンケート結果について
（ 37 ）47ブロック会頭公式訪問について
（ 38 ）外部団体事業への後援・協賛名義使用及び役員就任について
（ 39 ）公益社団法人日本青年会議所70周年特別事業・記念植樹事業報告について
（ 40 ）2022年度公式スケジュールについて
（ 41 ）2023年度会頭立候補者の資格認定並びに会頭当選者決定について
（ 42 ）次回開催について 2022年9月17日(土)9時～

第8回理事会

日時：2022年 9月17日（土）
場所：青年会議所会館

前回議事録の承認
（ 1 ）第7回理事会議事録

審議事項
＜第71回全国大会おおいた大会関連議案＞
（ 1 ）第71回全国大会おおいた大会 事業（開催）計画並びに予算修正（案）承認の件
（ 2 ）第71回全国大会おおいた大会「スケジュール」修正（案）承認の件
（ 3 ）第71回全国大会おおいた大会メインフォーラム「ビジョナリージャパン～日本を変えるのはあなたのまちへの愛～」
事業修正計画並びに修正予算（案）承認の件
（ 4 ）第71回全国大会おおいた大会フォーラム「あなたならできる～自分を信じた先にあるもの～」事業修正計画並びに修正予算（案）承認の件
（ 5 ）第71回全国大会おおいた大会拡大セミナー「自然と人が集まる組織へ」事業修正計画並びに予（案）承認の件
（ 6 ）第71回全国大会おおいた大会「2023年度スタートアップセッション」事業修正計画並びに修正予算（案）承認の件
＜JCI世界会議香港大会関連議案＞
（ 7 ）JCI世界会議香港大会事業修正計画並びに予算（案）承認の件
（ 8 ）第2回世界青年サミットThe World Youth Summit～Peace is not built in a day～事業計画（案）承認の件
（ 9 ）JCI世界会議ジャパンフォーラム「第2回アジアグローバルソリューションサミット」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 10 ）JCI世界会議ジャパンフォーラム「COTEN流"歴史思考"で世界を俯瞰せよ」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 11 ）JCI世界会議ジャパンフォーラム「Spread around the world～支援のカタチ」事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 12 ）JCI世界会議「ジャパンナイト」事業計画並びに予算（案）承認の件
＜サマーコンファレンス2022関連議案＞
［広報・オープニング・クロージング］
（ 13 ）サマーコンファレンス2022「ホームページ作成」事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 14 ）サマーコンファレンス2022「オープニング～しくみの数だけ、幸せがある」事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 15 ）サマーコンファレンス2022「クロージング～響け！愛のECHO」事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
［サマコンウィーク関連議案］
（ 16 ）サマコンウィーク2022「理念共感プロモーター育成セミナー」事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 17 ）サマコンウィーク2022「組織改革のすすめ～異彩が輝く社会、常識の先に待つもの～」事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 18 ）サマコンウィーク2022「理念共感型の会員拡大って何なんだ？～持続可能な組織へのための先行投資～」事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 19 ）サマコンウィーク2022「GianPocketNEO進化版動画配信」事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 20 ）サマコンウィーク2022「第5回日本アカデミー～より良い未来に向かって～」事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 21 ）サマコンウィーク2022「JCプログラムセミナー」事業報告並びに決算（案）承認の件
［フォーラム関連議案］
（ 22 ）サマーコンファレンス2022フォーラム「100人100通りの個性輝くJC～あなたはカオスを愛せますか？～」
事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 23 ）サマーコンファレンス2022フォーラム「100人100通りの個性輝くJC～あなたはカオスを愛せますか？～」
事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 24 ）サマーコンファレンス2022フォーラム「新しい資本主義実現フォーラム～中小企業が変われば日本が変わる！～」
事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 25 ） サマーコンファレンス2022フォーラム「新しい資本主義実現フォーラム～中小企業が変われば日本が変わる！～」
事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 26 ）サマーコンファレンス2022フォーラム「ビジョンは掲げて終わりじゃない！～JCが本当に必要とされる組織か否かの差はどこに？～」
事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 27 ）サマーコンファレンス2022フォーラム「ビジョンは掲げて終わりじゃない～本当に必要とされる組織か否かの差はどこに？～」
事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 28 ）サマーコンファレンス2022フォーラム「Democracy for Tomorrow～幸せは"あなたの声"からはじまる～」
事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 29 ）サマーコンファレンス2022フォーラム「Democracy for Tomorrow～幸せは"あなたの声"からはじまる～」
事業報告並びに決算（案）承認の件
［セミナー関連議案］
（ 30 ）サマーコンファレンス2022「変革を恐れるな！」～集める組織から集まる組織へ～事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 31 ）サマーコンファレンス2022「変革を恐れるな！」～集める組織から集まる組織へ～事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 32 ）サマーコンファレンス2022「JC運動を生みだせ！～持続可能に会員拡大ができる組織の在り方～」事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 33 ）サマーコンファレンス2022「JC運動を生みだせ！～持続可能に会員拡大ができる組織の在り方～」事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 34 ）サマーコンファレンス2022「GianPocketアワード」事業修正計画及び補正予算（案）承認の件
（ 35 ）サマーコンファレンス2022「GianPocketアワード」事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 36 ）サマーコンファレンス2022「第5回日本アカデミー～より良い未来に向かって～」事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 37 ）サマーコンファレンス2022「第5回日本アカデミー～より良い未来に向かって～」事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 38 ）サマーコンファレンス2022「新プログラム公開セミナー」修正事業計画並びに修正予算（案）承認の件
（ 39 ）サマーコンファレンス2022「新プログラム公開セミナー」事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 40 ）サマーコンファレンス2022「UNESCOと産官学と共創する「しくみ」構築セミナー」事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 41 ）サマーコンファレンス2022「UNESCOと産官学と共創する「しくみ」構築セミナー」事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 42 ）サマーコンファレンス2022「ダ埼玉からの脱却～さいたま市が住みたい街になった秘訣を探る～」事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 43 ）サマーコンファレンス2022「ダ埼玉からの脱却～さいたま市が住みたい街になった秘訣を探る～」事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 44 ）サマーコンファレンス2022「ぼくらが導くカーボンニュートラル ～2050年に向けてLet's Take Action!～」
事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 45 ）サマーコンファレンス2022「ぼくらが導くカーボンニュートラル～2050年に向けてLet's Take Action!～」
事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 46 ）サマーコンファレンス2022「第6回価値デザインコンテスト～質的価値社会創出プロジェクト～」事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 47 ）サマーコンファレンス2022「第6回価値デザインコンテスト～質的価値社会創出プロジェクト～」事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 48 ）サマーコンファレンス2022「幸せを指標の一つとして持続可能な豊かさの実現へ」～次代の経営Wellbeing～
事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 49 ）サマーコンファレンス2022「幸せを指標の一つとして持続可能な豊かさの実現へ」～次代の経営Wellbeing～
事業報告並びに決算（案）承認の件

（ 50 ）サマーコンファレンス2022「ビジネスの新潮流を乗りこなせ『NEXTトレンド・ピッチ』」事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 51 ）サマーコンファレンス2022「ビジネスの新潮流を乗りこなせ『NEXTトレンド・ピッチ』」事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 52 ）サマーコンファレンス2022「社会を動かすベビーファーストセミナー」事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 53 ）サマーコンファレンス2022「社会を動かすベビーファーストセミナー」事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 54 ）サマーコンファレンス2022「個人も組織も成長するダイバーシティ～女性が活躍できる組織を目指して～」
事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 55 ）サマーコンファレンス2022「個人も組織も成長するダイバーシティ～女性が活躍できる組織を目指して～」
事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 56 ）サマーコンファレンス2022「スペースレジリエンスフォーラム」事業修正報告並びに補正予算（案）承認の件
（ 57 ）サマーコンファレンス2022「スペースレジリエンスフォーラム」事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 58 ）サマーコンファレンス2022「WORLD PEACE SUMMIT～世界をつなぐメッセージ～」事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 59 ）サマーコンファレンス2022「WORLD PEACE SUMMIT～世界をつなぐメッセージ～」事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 60 ）サマーコンファレンス2022「青年会議所会館建替についての説明会」事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 61 ）サマーコンファレンス2022「青年会議所会館建替についての説明会」事業報告並びに決算（案）承認の件
＜通常計画議案＞
（ 62 ）理念共感プロモーター育成プログラム事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 63 ）理念共感プロモーター育成プログラム事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 64 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラムのトレーナー育成事業修正計画並びに修正予算（案）承認の件
（ 65 ）第6回価値デザインコンテスト～質的価値社会創出プロジェクト～募集報告並びに決算（案）承認の件
（ 66 ）ビジネスの新潮流を乗りこなせ「WIN8」事業報告（案）承認の件
（ 67 ）JCカップU-11少年少女サッカー全国大会実施事業修正計画並びに修正予算（案）承認の件
（ 68 ）2025年度第74回全国大会「主管LOM決定方法」（案）承認の件
（ 69 ）JCI JAPAN TOYP募集企画・実施計画事業報告（案）承認の件
（ 70 ）JCI JAPAN TOYP 2022各種選考会開催報告並びに決算（案）承認の件
（ 71 ）JCI JAPAN TOYP事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 72 ）JCI JAPANウクライナ支援プロジェクト「Next Generations×Love Dream&Happiness」事業修正計画並びに予算（案）承認の件
（ 73 ）第35回国際アカデミー事業修正計画並びに修正予算（案）承認の件
（ 74 ）JCグッズ新商品の販売計画（案）承認の件
（ 75 ）公益社団法人日本青年会議所 新設規程及び細則の策定（案）承認の件
（ 76 ）公益社団法人日本青年会議所 会員資格規則一部改正（案）承認の件
（ 77 ）第171回総会開催並びに修正次第（案）承認の件
（ 78 ）2023年度理事選任（案）承認の件
（ 79 ）2023年度監事選任（案）承認の件
（ 80 ）2023年度顧問選任（案）承認の件
（ 81 ）2023年度代表理事選定（案）承認の件
（ 82 ）2023年度業務執行理事選定（案）承認の件
（ 83 ）2023年度基本理念・基本方針並びに事業計画（案）承認の件
（ 84 ）2023年度組織並びに委員数（案）承認の件
（ 85 ）2023年度ブロック会長選任（案）承認の件
（ 86 ）2023年度議長・委員長選任（案）承認の件
（ 87 ）2023年度内部会計監査人グループ代表選任（案）承認の件
（ 88 ）2023年度年間公式スケジュール（案）承認の件
（ 89 ）2023年度スローガン（案）承認の件
（ 90 ）2023年度予算（案）承認の件

報告・依頼事項
【共創グループ推進計画進捗報告】
（ 1 ）理念共感拡大推進計画について
（ 2 ）2022年度会員数純増計画推進について
（ 3 ）JC運動を最大化するための組織改革推進計画の報告について
（ 4 ）多様な人財が活躍できる環境整備推進計画の報告について
（ 5 ）LOMの新設及び発展における支援推進について
（ 6 ）JC運動の価値の向上及びロールモデルとなる情報共有推進計画について
（ 7 ）GianPocket推進計画について
（ 8 ）JCI世界会議香港大会「JCI AWARDSジャッジ」のJCI日本からの選出、推薦について
（ 9 ）地区ブロックアカデミー開催支援推進計画について
（ 10 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラム導入推進計画の報告について（9月）
（ 11 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラムのトレーナー育成推進計画の報告について（9月）
【経済グループ推進計画進捗報告】
（ 12 ）ステークホルダー資本主義の推進について
（ 13 ）温室効果ガス排出削減推進報告について
（ 14 ）食品ロス削減推進報告について
（ 15 ）質的価値社会推進事業計画について
（ 16 ）ウェルビーイング経営の推進報告について
（ 17 ）アニマルウェルフェアを含む新トレンドの推進計画について
（ 18 ）アスリート人材マッチングサービス推進事業の進捗報告について
【社会グループ推進計画進捗報告】
（ 19 ）愛する未来を描く地域ビジョン再建プロジェクト推進事業進捗状況について
（ 20 ）ベビーファースト運動推進計画の進捗報告について
（ 21 ）子育て世代の声を政治に届ける運動の推進計画の進捗報告について
（ 22 ）相互理解を実現する事業計画の進捗報告について
（ 23 ）共感による献血活動がLOMを輝かせる推進計画の進捗報告について
（ 24 ）国民一人ひとりが国のことを思う社会の創造を推進する事業進捗状況について
（ 25 ）国家全体のレジリエンスを向上させるハードインフラ投資の推進事業計画進捗状況について
（ 26 ）宇宙の可能性を利活用する中小企業ビジネスの推進事業計画進捗状況について
（ 27 ）有事に備えた関係諸団体との連携による防災ネットワーク構築推進計画進捗状況について

【国際グループ推進計画進捗報告】
(28) CREATE THE NEXT ACTION～SMILE by WATER in Cambodia～事業計画の進捗報告について
(29) CHANGE THE WORLD～SMILE by WATER in Uganda～事業計画の進捗報告について
【総務グループ推進計画進捗報告】
(30) JCブランドを高める広報戦略の推進計画進捗報告について
(31) 情報交換促進のための推進状況について
＜通常報告＞
(32) 第71回全国大会おおいた大会「大会式典」構成・演出について
(33) 第71回全国大会おおいた大会ウェルカムおおいた構成・演出について
(34) 第71回全国大会おおいた大会「運輸」計画について
(35) 第71回全国大会おおいた大会「開会宣言」構成・演出について
(36) 2025年度第74回全国大会「主管立候補LOM現地調査報告会開催」について
(37) 第71回全国大会おおいた大会「登録状況」について
(38) 第71回全国大会おおいた大会「大会ガイド詳細」について
(39) 第73回全国大会福岡大会「進捗状況」について
(40) 第72回全国大会東京大会「進捗状況」について
(41) 令和4年8月大雨災害による災害対策本部設置報告について
(42) 第35回国際アカデミーリユニオン計画について
(43) JC会館建替準備会議開催報告について
(44) 2023年度役員・出向者統一名刺について
(45) 三井住友トラストクラブ株式会社(ダイナースクラブ)パートナーシップ契約の追加覚書について
(46) 2022年度 支援団体認定状況について
(47) We believe7-8月号アンケート結果について
(48) 47ブロック会頭公式訪問進捗状況について
(49) 公益社団法人日本青年会議所2023年度直前会頭就任について
(50) 外部団体事業への後援・協賛名義使用及び役員就任について
(51) 2022年度公式スケジュールについて
(52) 次回開催について 2022年10月7日(金)9:00～

第9回理事会

日時:2022年10月7日(金)
場所:ホテル日航大分 オアシスタワー

前回議事録の承認
（ 1 ）第8回理事会議事録

審議事項
＜第71回全国大会おおいた大会関連議案＞
（ 1 ）第71回全国大会おおいた大会 事業修正計画並びに修正予算(案)承認の件
（ 2 ）第71回全国大会おおいた大会「スケジュール」修正(案)承認の件
（ 3 ）第71回全国大会おおいた大会メインフォーラム「ビジョナリージャパン～日本を変えるのはあなたのまちへの愛～」事業修正計画並びに修正予算(案)承認の件
＜JCI世界会議香港大会関連議案＞
（ 4 ）JCI世界会議香港大会事業修正計画並びに修正予算(案)承認の件
（ 5 ）第2回世界青年サミット The World Youth Summit ～Peace is not built in a day～事業修正計画並びに予算(案)承認の件
（ 6 ）JCI世界会議「ジャパンナイト」事業修正計画並びに修正予算(案)承認の件
＜JCI ASPAC堺高石大会関連議案＞
（ 7 ）JCI ASPAC「ジャパンナイト」開催報告並びに決算(案)承認の件
＜通常計画議案＞
（ 8 ）JAYCEE育成カリキュラムガイドラインの策定(案)承認の件
（ 9 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラムのトレーナー育成事業修正計画並びに修正予算(案)承認の件
（ 10 ）ビジネスの新潮流を乗りこなせ～新トレンドを掴んだリーダーたち～事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 11 ）国民としての意思創造プログラムを構築する事業修正計画(案)承認の件
（ 12 ）コンストラクションマネジメント契約に係る2022年度個別契約締結修正計画並びに修正予算(案)承認の件
（ 13 ）株式会社CITV新規賛助契約締結(案)承認の件
（ 14 ）四国地区香川ブロック協議会 運営規程の一部変更(案)承認の件
（ 15 ）一般社団法人飛騨古川青年会議所 名称変更(案)承認の件
（ 16 ）内部会計監査人規則一部改正(案)承認の件
（ 17 ）2025年度第74回全国大会「主管LOM決定」(案)承認の件

報告・依頼事項
【共創グループ推進計画進捗報告】
（ 1 ）理念共感拡大推進計画について
（ 2 ）2022年度会員数純増計画推進(案)について
（ 3 ）JC運動を最大化するための組織改革推進計画の報告について
（ 4 ）多様な人財が活躍できる環境整備推進計画の報告について
（ 5 ）LOMの新設及び発展における支援推進について
（ 6 ）JC運動の価値の向上及びロールモデルとなる情報共有推進計画について
（ 7 ）Gianpocket推進計画について
（ 8 ）地区ブロックアカデミー開催支援推進計画について
（ 9 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラム導入推進計画の報告について(10月)
（ 10 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラムのトレーナー育成推進計画の報告について(10月)
【経済グループ推進計画進捗報告】
（ 11 ）ステークホルダー資本主義の推進について
（ 12 ）温室効果ガス排出削減推進報告について
（ 13 ）食品ロス削減推進報告について
（ 14 ）質的価値社会推進事業計画について
（ 15 ）ウェルビーイング経営の推進報告について
（ 16 ）アニマルウェルフェアを含む新トレンドの推進計画について
（ 17 ）アスリート人材マッチングサービス推進事業の進捗報告について
【社会グループ推進計画進捗報告】
（ 18 ）愛する未来を描く地域ビジョン再建プロジェクト推進事業 進捗状況について
（ 19 ）ベビーファースト運動推進計画の進捗報告について
（ 20 ）子育て世代の声を政治に届ける運動推進計画の進捗報告について
（ 21 ）相互理解を実現する事業計画の進捗報告について
（ 22 ）共感による献血活動がLOMを輝かせる推進計画の進捗報告について
（ 23 ）国民一人ひとりが国のことを思う社会の創造を推進する事業進捗状況について
（ 24 ）国家全体のレジリエンスを向上させるハードインフラ投資の推進事業計画進捗状況について
（ 25 ）宇宙の可能性を利活用する中小企業ビジネスの推進事業計画進捗状況について
（ 26 ）有事に備えた関係諸団体との連携による防災ネットワーク構築推進計画について
【国際グループ推進計画進捗報告】
（ 27 ）CREATE THE NEXT ACTION～SMILE by WATER in Cambodia～事業計画の進捗報告について
（ 28 ）CHAGE THE WORLD ～SMILE by WATER in Uganda～事業計画の進捗報告について
【総務グループ推進計画進捗報告】
（ 29 ）JCブランドを高める広報戦略の推進計画進捗報告について
（ 30 ）情報交換促進のための推進状況について
＜通常報告＞
（ 31 ）第71回全国大会おおいた大会「県市表敬訪問」計画について
（ 32 ）第71回全国大会おおいた大会「インターナショナルナイト」について
（ 33 ）第36回国際アカデミー開催地決定報告について
（ 34 ）JC会館建替準備会議開催報告について
（ 35 ）公益社団法人日本青年会議所 アニュアルレポートの取り纏め及び作成について
（ 36 ）JCI役員立候補について
（ 37 ）2022年度公式スケジュール
（ 38 ）次回開催について2022年11月19日(土)9:00～

第1回臨時理事会

日時：2022年10月24日（月）
場所：WEB

審議事項
（ 1 ）第77回JCI世界会議香港大会における議決権の会頭一任（案）承認の件

第10回理事会

日時：2022年11月19日（土）
場所：青年会議所会館

前回議事録の承認
（ 1 ）第9回理事会議事録

審議事項
＜推進計画議案＞
（ 1 ）理念共感拡大推進計画事業報告（案）承認の件
（ 2 ）2022年度会員数純増計画推進報告（案）承認の件
（ 3 ）JC運動を最大化するための組織改革推進事業報告（案）承認の件
（ 4 ）多様な人財が活躍できる環境整備推進事業報告（案）承認の件
（ 5 ）LOMの新設及び発展における支援推進事業報告（案）承認の件
（ 6 ）ウェルビーイング経営の推進報告（案）承認の件
（ 7 ）アニマルウェルフェアを含む新トレンドの推進事業報告（案）承認の件
（ 8 ）アスリート人材マッチングサービス推進報告（案）承認の件
（ 9 ）愛する未来を描く地域ビジョン再建プロジェクト推進事業修正計画並びに修正予算（案）承認の件
（ 10 ）共感による献血活動がLOMを輝かせる推進事業報告（案）承認の件
（ 11 ）宇宙の可能性を利活用する中小企業ビジネスの推進事業計画推進報告（案）承認の件
（ 12 ）有事に備えた関係諸団体との連携による防災ネットワーク構築推進報告（案）承認の件
＜サマーコンファレンス2022関連議案＞
（ 13 ）サマーコンファレンス2022事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 14 ）サマーコンファレンス2022事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 15 ）サマーコンファレンス2022「広報」事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 16 ）サマーコンファレンス2022「オープニング～しくみの数だけ、幸せがある」事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 17 ）サマーコンファレンス2022「クロージング～響け！愛のECHO」事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 18 ）サマーコンファレンス2022「登録システム改修」事業報告並びに決算（案）承認の件
＜第71回全国大会おおいた大会関連議案＞
（ 19 ）第71回全国大会おおいた大会 事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 20 ）第71回全国大会おおいた大会「PR」修正計画並びに補正予算（案）承認の件
＜通常計画議案＞
（ 21 ）第5回日本アカデミー事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 22 ）運動プラットフォーム構築事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 23 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラムのトレーナー育成事業修正計画並びに修正予算（案）承認の件
（ 24 ）ステークホルダー資本主義に関する社会実験事業計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 25 ）ステークホルダー資本主義に関する社会実験事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 26 ）アニマルウェルフェアフード推進オーナー制度「ラシクラブ」事業報告（案）承認の件
（ 27 ）JCカップU-11少年少女サッカー全国大会予選大会実施事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 28 ）JCカップU-11少年少女サッカー全国大会実施事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 29 ）災害対策本部設置報告（案）承認の件
（ 30 ）日中経済交流推進事業報告（案）承認の件
（ 31 ）JCI JAPAN ウクライナ支援プロジェクト「Next Generations × Love Dream&Happiness」修正事業計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 32 ）第35回国際アカデミーテーマ並びに募集計画報告（案）承認の件
（ 33 ）第35回国際アカデミーに伴うプレ国際アカデミー事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 34 ）第35回国際アカデミー事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 35 ）公益社団法人日本青年会議所 日本JCバッジ使用に関する規程変更（案）承認の件
（ 36 ）一般社団法人五泉青年会議所 名称変更（案）承認の件

報告・依頼事項
【社会グループ推進計画進捗報告】
（ 1 ）愛する未来を描く地域ビジョン再建プロジェクト推進事業 進捗状況について
（ 2 ）ベビーファースト運動推進計画の進捗報告について
（ 3 ）子育て世代の声を政治に届ける運動推進計画の進捗報告について
（ 4 ）相互理解を実現する事業計画の進捗報告について
（ 5 ）国民一人ひとりが国のことを思う社会の創造を推進する事業進捗状況について
（ 6 ）国家全体のレジリエンスを向上させるハードインフラ投資の推進事業計画進捗状況について
【国際グループ推進計画進捗報告】
（ 7 ）CREATE THE NEXT ACTION～SMILE by WATER in Cambodia～事業計画の進捗報告について
（ 8 ）CHANGE THE WORLD～SMILE by WATER in Uganda～事業計画の進捗報告について
【総務グループ推進計画進捗報告】
（ 9 ）JCブランドを高める広報戦略の推進計画進捗報告について
（ 10 ）情報交換促進のための推進状況について
＜通常報告＞
（ 11 ）サマーコンファレンス2022外部監査について
（ 12 ）2020-2024 JCI JAPAN Strategic Plan検証報告について
（ 13 ）東海地区協議会他災害対策本部設置報告について
（ 14 ）JC会館建替準備会議開催報告について
（ 15 ）クラウドファンディング推進報告について
（ 16 ）青年会議所会館電気需給業者変更について
（ 17 ）SMILE by WATER運動支援に関する支援金額について
（ 18 ）新潟エナジー運動支援協力金LOM還元報告について
（ 19 ）We Believe9、10月号アンケート結果について
（ 20 ）47ブロック公式訪問について
（ 21 ）第171回総会開催報告について
（ 22 ）外部団体事業への後援・協賛名義使用及び役員就任について
（ 23 ）2022年度公式スケジュール
（ 24 ）次回開催について 2022年12月17日（土）9:00～

第11回理事会

日時:2022年12月17日(土)
場所:三井住友銀行東館ライジング・スクエア

前回議事録の承認
（ 1 ）第10回理事会議事録

審議事項
＜推進計画議案＞
（ 1 ）JC運動の価値の向上及びロールモデルとなる情報共有推進報告(案)承認の件
（ 2 ）GianPocket推進報告(案)承認の件
（ 3 ）地区ブロックアカデミー開催支援推進報告(案)承認の件
（ 4 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラム導入推進計画事業報告(案)承認の件
（ 5 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラムのトレーナー育成推進計画事業報告(案)承認の件
（ 6 ）ステークホルダー資本主義の推進報告(案)承認の件
（ 7 ）温室効果ガス排出削減推進報告(案)承認の件
（ 8 ）食品ロス削減推進報告(案)承認の件
（ 9 ）質的価値社会推進事業報告(案)承認の件
（ 10 ）愛する未来を描く地域ビジョン再建プロジェクト推進事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 11 ）ベビーファースト運動推進報告(案)承認の件
（ 12 ）子育て世代の声を政治に届ける運動の推進事業報告(案)承認の件
（ 13 ）相互理解を実現する推進報告(案)承認の件
（ 14 ）国民一人ひとりが国のことを思う社会の創造を推進する報告(案)承認の件
（ 15 ）国家全体のレジリエンスを向上させるハードインフラ投資の推進事業報告(案)承認の件
（ 16 ）姉妹LOMとの対話型民間交流の仕組みづくり及び姉妹LOM締結支援推進事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 17 ）アジア太平洋地域での経済交流推進事業報告(案)承認の件
（ 18 ）JCブランドを高める広報戦略の推進報告(案)承認の件
（ 19 ）情報交換促進のための推進報告(案)承認の件
＜第71回全国大会おおいた大会関連議案＞
（ 20 ）第71回全国大会おおいた大会「大会事業」(開催)報告並びに決算(案)承認の件
（ 21 ）第71回全国大会おおいた大会「PR」事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 22 ）第71回全国大会おおいた大会「大会事務局開設」事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 23 ）第71回全国大会おおいた大会メインフォーラム「ビジョナリージャパン～日本を変えるのはあなたのまちへの愛～」事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 24 ）第71回全国大会おおいた大会フォーラム「あなたならできる～自分を信じた先にあるもの～」事業計画並びに補正予算(案)承認の件
（ 25 ）第71回全国大会おおいた大会フォーラム「あなたならできる～自分を信じた先にあるもの～」事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 26 ）第71回全国大会おおいた大会拡大セミナー「自然と人が集まる組織へ」事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 27 ）第71回全国大会おおいた大会「2023年度スタートアップセッション」事業報告並びに決算(案)承認の件
＜JCI世界会議香港大会関連議案＞
（ 28 ）JCI世界会議香港大会事業修正計画並びに補正予算(案)承認の件
（ 29 ）JCI世界会議香港大会事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 30 ）第2回世界青年サミットThe World Youth Summit ～Peace is not built in a day～事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 31 ）JCI世界会議ジャパンフォーラム「第2回アジアグローバルソリューションサミット」事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 32 ）JCI世界会議ジャパンフォーラム「COTEN流"歴史思考"で世界を俯瞰せよ」事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 33 ）JCI世界会議ジャパンフォーラム「Spread around the world～支援のカタチ」事業修正計画並びに補正予算(案)承認の件
（ 34 ）JCI世界会議ジャパンフォーラム「Spread around the world～支援のカタチ」事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 35 ）JCI世界会議「ジャパンナイト」事業修正計画並びに補正予算(案)承認の件
（ 36 ）JCI世界会議「ジャパンナイト」開催報告並びに決算(案)承認の件
＜通常計画議案＞
（ 37 ）理念共感プロモーター(第2期)育成プログラム事業計画並びに補正予算(案)承認の件
（ 38 ）理念共感プロモーター(第2期)育成プログラム事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 39 ）JAYCEE育成カリキュラムガイドラインの策定報告(案)承認の件
（ 40 ）JCIミッション並びにJCIビジョンの改定に伴う日本語意訳の変更(案)承認の件
（ 41 ）JCI日本におけるグループウェアシステム導入事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 42 ）AWARDS JAPAN 2022募集カテゴリー選定並びに募集方法報告(案)承認の件
（ 43 ）AWARDS JAPAN 2022審査基準計画報告(案)承認の件
（ 44 ）運動プラットフォーム構築事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 45 ）「理念共感型新プログラム」JCI日本公認プログラム認定報告(案)承認の件
（ 46 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラム導入事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 47 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラムのトレーナー育成事業修正計画並びに補正予算(案)承認の件
（ 48 ）JCIコース及びJCI日本公認プログラムのトレーナー育成事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 49 ）カーボンニュートラルアドバイザー育成研修事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 50 ）企業支援プラットフォーム構築事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 51 ）JCカップU-11少年少女サッカー全国大会予選大会事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 52 ）JCカップU-11少年少女サッカー全国大会実施事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 53 ）2024年度第73回全国大会福岡大会「開催日程」(案)承認の件
（ 54 ）「ジェンダー茶レンジ」事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 55 ）国民としての意思創造プログラムを構築する事業報告(案)承認の件
（ 56 ）東北・北陸信越地区協議会災害対策本部設置報告(案)承認の件
（ 57 ）東海地区協議会災害対策本部設置報告(案)承認の件
（ 58 ）JCI JAPAN TOYP 2022の価値を高める事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 59 ）JCI JAPAN TOYP 2022事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 60 ）コンテンツを活用した民間外交アプリケーション「JCI GO」展開事業報告(案)承認の件
（ 61 ）JCI JAPANウクライナ支援プロジェクト「Next Generations × Love Dream&Happiness」事業修正計画並びに補正予算(案)承認の件
（ 62 ）JCI JAPANウクライナ支援プロジェクト「Next Generations × Love Dream&Happiness」事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 63 ）SMILE by EDUCATION 2022事業報告並びに決算(案)承認の件
（ 64 ）CREATE THE NEXT ACTION ～SMILE by WATER in Cambodia～事業報告並びに決算(案)承認の件

（ 65 ）JCI JAPANグローバルユース国連大使育成事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
（ 66 ）JCI JAPANグローバルユース国連大使育成事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 67 ）CHANGE THE WORLD～SMILE by WATER in Uganda～事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 68 ）第35回国際アカデミー事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 69 ）コンストラクションマネジメント契約に係る2022年度個別契約締結報告並びに決算（案）承認の件
（ 70 ）JC会館建替準備会議設置報告（案）承認の件
（ 71 ）青年会議所会館建替に関する基本計画（案）承認の件
（ 72 ）青年会議所会館建替に関する総会審議事項の理事会付託（案）承認の件
（ 73 ）公益社団法人日本青年会議所青年会議所会館解体及び建設管理・運営等事業規則制定（案）承認の件
（ 74 ）第172回総会開催並びに次第（案）承認の件
（ 75 ）JCグッズ新商品の販売修正計画（案）承認の件
（ 76 ）公益社団法人日本青年会議所2022年度各種積立預金の積立額および取崩額（案）承認の件
（ 77 ）公益社団法人日本青年会議所2023年度資金調達および設備投資の見込み（案）承認の件
（ 78 ）外部アドバイザーパートナーシップ契約の事業報告並びに決算（案）承認の件
（ 79 ）公益社団法人宇佐青年会議所 名称変更（案）承認の件
（ 80 ）組織の存在価値を向上させるWe Believeの作成、発刊事業報告（案）承認の件
（ 81 ）公益社団法人日本青年会議所2022年度アワード事業計画並びに予算（案）承認の件
（ 82 ）2023年度予算書（案）承認の件

報告・依頼事項
【共創グループ推進計画進捗報告】
（ 1 ）理念共感拡大推進計画について
（ 2 ）2022年度会員数純増計画推進について
（ 3 ）JC運動を最大化するための組織改革推進計画の報告について
（ 4 ）多様な人財が活躍できる環境整備推進計画の報告について
（ 5 ）LOMの新設及び発展における支援推進について
【社会グループ推進計画進捗報告】
（ 6 ）有事に備えた関係諸団体との連携による防災ネットワーク構築推進事業計画進捗状況について
＜通常報告＞
（ 7 ）第71回全国大会おおいた大会 外部監査について
（ 8 ）姉妹JC締結について
（ 9 ）アジア太平洋地域NOMとの合同常任理事会開催報告について
（ 10 ）JCIウクライナ及びJCIアメリカとの合同常任理事会開催報告について
（ 11 ）賛助企業・提携企業の拡大・連携報告について
（ 12 ）中長期財政戦略の研究について
（ 13 ）新潟エナジー株式会社との運動支援に関する契約解消について
（ 14 ）各地の会員会議の法人格移行状況について
（ 15 ）LOMの退会について
（ 16 ）業務執行理事による業務執行状況報告について
（ 17 ）JCI役員並びにJCI出向者について
（ 18 ）2022年度公式スケジュールについて

第2回臨時理事会

日時：2022年12月27日（火）
場所：WEB

審議事項
（ 1 ）ステークホルダー資本主義の推進修正報告（案）承認の件
（ 2 ）公益社団法人日本青年会議所2022年度アワード事業報告並びに決算（案）承認の件

まちにより良い変化をもたらし
愛が溢れる国をつくる

私たちは JC 運動を応援しています。

【賛助企業名】

Diners Club INTERNATIONAL
銀座 山形屋 TOKYO SINCE 1907
MJS
Asahi アサヒ飲料
アチーブメント株式会社
NISSOKEN 日創研
ひとのときを、想う。JT
Otsuka
AD FACTORY
アスエネ
OWNDAYS
Shaddy
Hosvice
REIBS Real Estate Investment Business School
CiTV

益々高まる青年会議所運動。未来を担う子どもたちの育成から、より良い国づくり、まちづくりのための提言、地球市民としての国際交流まで明るく豊かな社会の実現を理想とする青年会議所運動を賛助企業として支援しています。

2022 年 12 月現在

公益社団法人日本青年会議所　2022年度　事業報告書　Junior Chamber International Japan Annual Report 2022

■2022年 12 月 31 日発行　■発行：公益社団法人日本青年会議所　〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-14-3　電話 03−3234−5601

本誌記載の記事、写真の無断転載および複写を禁じます。公益社団法人日本青年会議所